本書の見方

このたびは、マツダ車をお買いあげいただき、ありがとうございます。

本書は、安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、お車の正しい取り扱いや簡単なお手入れ方法について説明しています。ご使用前に必ずお読みください。

発行元　マツダ株式会社
〒 730–8670　広島県安芸郡府中町新地 3–1

・お車をゆずられるときは、次のオーナーのために、本書をお車につけておいてください。
・お車の仕様変更などにより、本書の内容の一部がお車と一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

・グレードの仕様により異なる装備については「グレード/仕様別装備」をつけています。
・参照ページは、参照している項目の先頭ページを示すため、該当する説明が参照ページ以降に記載されている場合があります。
・マツダ販売店で取り付けられた装備品は、付属の取扱説明書をご覧ください。
・お車の保証および点検、整備要領については、別冊の「メンテナンスノート」をご覧ください。
・本書は別冊の「メンテナンスノート」とともに、いつもお車に保管してください。

©2025 マツダ株式会社
発行 2026 年 7 月 (3 版)

本書の見方

安全にお車を使用していただくために守っていただきたいことを、次の表示で区分して記載しています。これらは重要ですので、必ず読んでお守りください。

⚠ 警告

取り扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を負う可能性のあるもの

⚠ 注意

取り扱いを誤った場合、傷害を負ったりお車の損傷につながったりする可能性のあるもの

知識

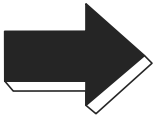
知っておくと便利なこと

イラストで表現している内容の禁止を意味しています。



イラスト内の矢印は、次の意味を示しています。

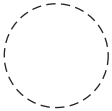
・1 番目の操作を示しています。



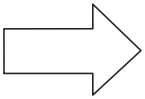
・2 番目の操作を示しています。



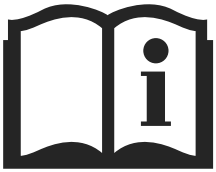
・部品の位置を示しています。



・状態の移り変わりを示しています。



お車に表示されている次のマークは「詳しい説明を本書に記載しています。」を示しています。必ず本書の説明を読んでご使用ください。



MEMO

目次

各部の名称 1

はじめにお読みください 2

乗員/歩行者を保護する装備 3

開閉する 4

運転する 5

車内を快適にする装備 6

その他装備 7

いざというときの対処法 8

点検整備する/お手入れする 9

仕様 10

さくいん 11

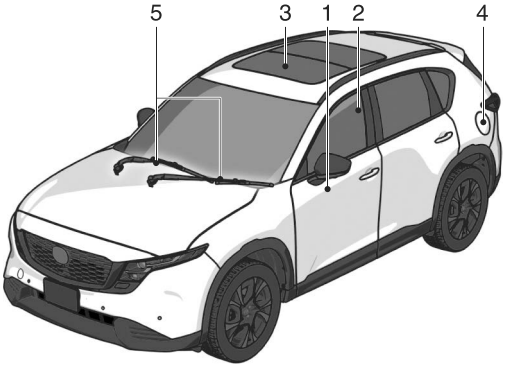
1 各部の名称

エクステリア.....1-2
フロント.....1-2
リア.....1-3

インテリア.....1-4
運転席周辺..... 1-4
ハンドル周辺.....1-5
インストルメントパネル周辺 1-6
シフトパネル周辺..... 1-7
室内リア.....1-8

エクステリア

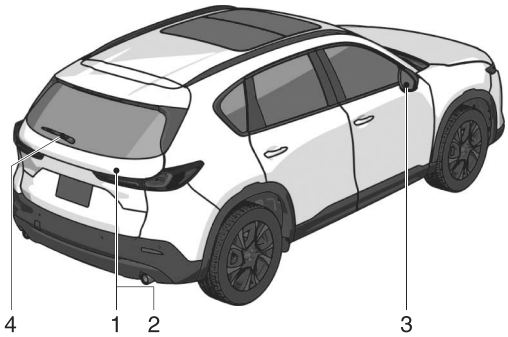
フロント



① ドアの使いかた.....4-12 ページ
② パワーウインドーの使いかた..... 4-29 ページ
③ パノラマサンルーフの使いかた.....4-33 ページ
④ 給油のしかた.....5-75 ページ
⑤ ワイパーブレードゴムを交換する..... 9-7 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

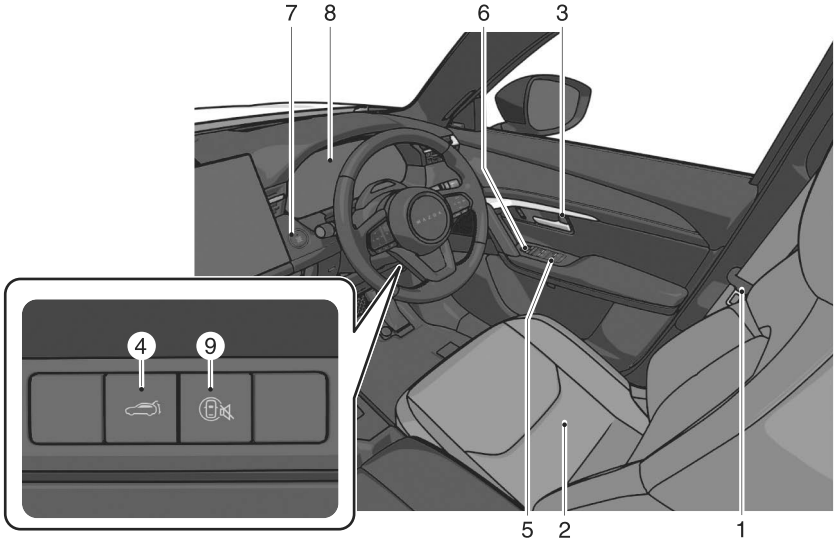
リア



① リアゲートの使いかた..... 4-18 ページ
② パワーリアゲートの使いかた..... 4-21 ページ
③ ドアミラーの使いかた..... 5-9 ページ
④ ワイパーブレードゴムを交換する..... 9-7 ページ

インテリア

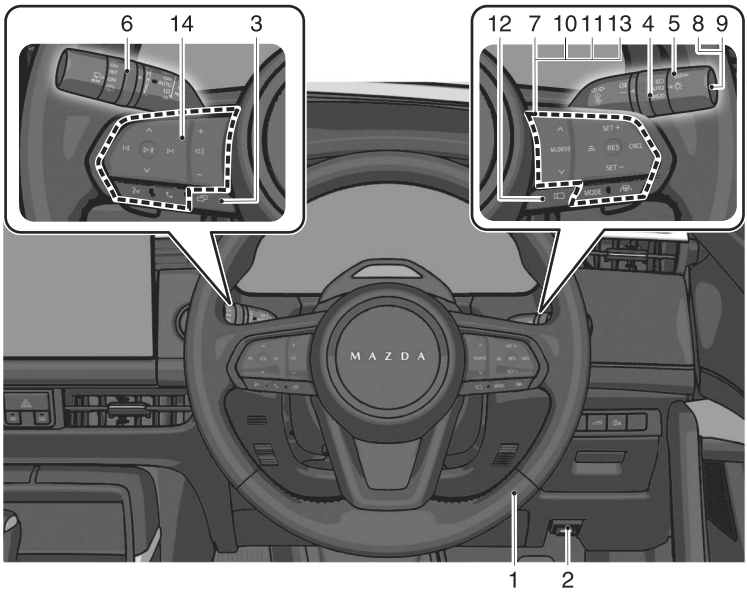
運転席周辺



① シートベルトの使いかた.....3-15 ページ
② フロントシートの使いかた.....3-19 ページ
③ ドアの使いかた.....4-12 ページ
④ パワーリアゲートの使いかた.....4-21 ページ
⑤ パワーウインドーの使いかた.....4-29 ページ
⑥ ドアミラーの使いかた.....5-9 ページ
⑦ プッシュボタンスタートの使いかた.....5-15 ページ
⑧ メーターについて.....5-21 ページ
⑨ i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた.....5-81 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

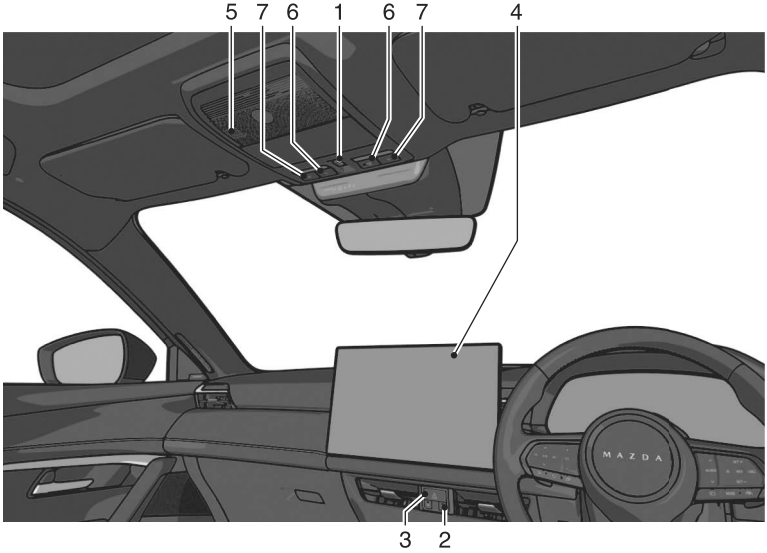
ハンドル周辺



① ハンドル調節のしかた..... 3-33 ページ
② ボンネットの使いかた..... 4-27 ページ
③ メーターの使いかた..... 5-22 ページ
④ ランプスイッチの使いかた..... 5-51 ページ
⑤ 方向指示器の使いかた..... 5-56 ページ
⑥ フロントワイパー/ウォッシャースイッチの使いかた..... 5-59 ページ
⑦ マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) の使いかた..... 5-71 ページ
⑧ ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) の使いかた..... 5-98 ページ
⑨ アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) の使いかた..... 5-102 ページ
⑩ マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) の使いかた..... 5-138 ページ
⑪ クルージング & トラフィック・サポート (CTS) の使いかた..... 5-148 ページ
⑫ 360° ビュー・モニターの使いかた..... 5-204 ページ
⑬ クルーズコントロールの使いかた..... 5-228 ページ
⑭ マツダコネクトの使いかた..... 7-8 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

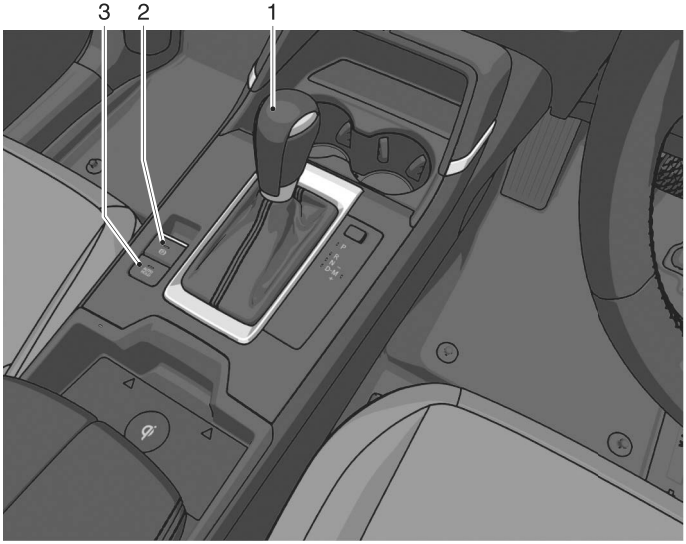
インストルメントパネル周辺



① パノラマサンルーフの使いかた.....4-33 ページ
② リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかた.....5-63 ページ
③ 非常点滅表示灯の使いかた.....5-64 ページ
④ マツダコネクトについて.....7-4 ページ
⑤ マツダエマージェンシーコールの使いかた.....7-15 ページ
⑥ ルームランプの使いかた.....7-23 ページ
⑦ マップランプの使いかた.....7-25 ページ

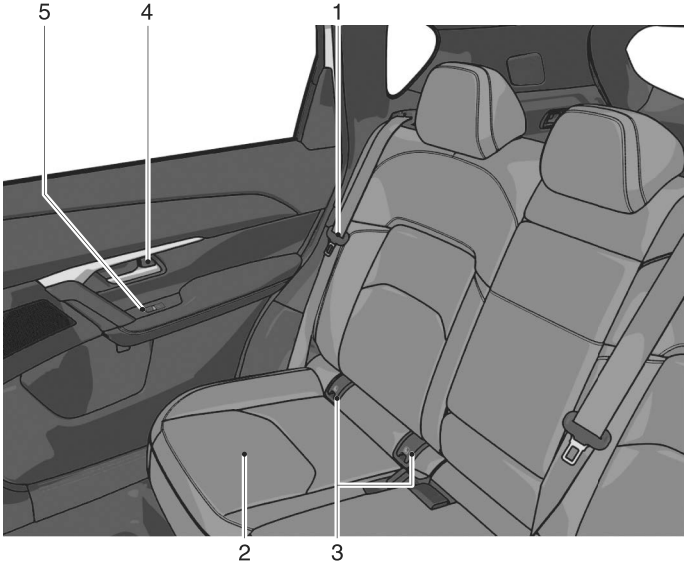
グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

シフトパネル周辺



① セレクトレバーの使いかた.....5-35 ページ
② 電動パーキングブレーキ (EPB) の使いかた.....5-43 ページ
③ オートホールドの使いかた.....5-48 ページ

室内リア



① シートベルトの使いかた.....3-15 ページ
② リアシートの使いかた..... 3-27 ページ
③ チャイルドシートの取り付けについて..... 3-41 ページ
④ ドアの使いかた.....4-12 ページ
⑤ パワーウインドーの使いかた..... 4-29 ページ

グレードや仕様などにより、取り付け位置および装備が異なります。

2 はじめにお読みください

守っていただきたいこと..... 2-2
駐停車時に守っていただきたいこと.....2-2

ソフトウェア更新..... 2-2
ソフトウェア更新について .....
..... 2-2
ソフトウェア更新の警告･注意 2-3
ソフトウェアを更新する.....2-3

車に記録されるデータ..... 2-5
EDR (イベントデータレコーダー)について.....2-5
車両データを記録するコンピューターについて..... 2-6
ドライバーの画像などを記録するコンピューターについて.....2-6
データの取り扱いについて .....
..... 2-6

オープンソースソフトウェア情報 2-6
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ..... 2-6
i-ACTIVSENSE ドメインユニット(ADU)..... 2-6
ビューカメラ.....2-7
センターディスプレイ..... 2-7

守っていただきたいこと

駐停車時に守っていただきたいこと

⚠ 警告

お子さまだけを車内に残さない。
炎天下の車内は高温になり、命に関わる可能性があります。
お子さまのいたずらなどで、装置の作動、車の発進など思わぬ事故につながる可能性があります。

⚠ 注意

高温になると車両火災につながる物を車内に放置しないでください。
炎天下の車内は高温になる可能性があります。

車は燃えやすい物のない場所に停めてください。

ガレージの中や積雪した場所など、換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。
排気管や排気音に異常を感じたときは点検を受けてください。
一酸化炭素中毒になる危険性があります。

エンジンをかけたまま車内で寝ないでください。
意図せず車が動くなどの危険性があります。

ソフトウェア更新

ソフトウェア更新について

コネクティッドサービスの契約状態にかかわらず、車載通信機の通信回線または Wi-Fi で、コントロールユニットのソフトウェアを更新できます。
対象の更新作業がある場合は、マツダコネクトの画面にソフトウェア更新情報が表示されます。
この作業の実施に伴う通信料は、車両の初度登録日から 10 年後の月末までの間に限り無料です。ただし、Wi-Fi を使用した場合の通信料は、お客様のご負担となります。

知識

コネクティッドサービス一時停止モードにしている場合でも、ソフトウェア更新を行なうことができます。

ソフトウェア更新は、マツダ販売店でも行なうことができます。マツダ販売店でソフトウェア更新を行なう場合は、マツダ販売店にご相談ください。

Wi-Fi の設定方法については、マツダコネクト取扱書を参照してください。

新しいソフトウェア更新情報を 7 日ごとに自動で取得します。

知識

また、マツダコネクトのメンテナンス画面を表示することで、ソフトウェア更新情報を取得することができます。

キャンペーン通知は対象車両に順次配信されるため、お車によって配信時期が異なる場合があります。

マツダおよびマツダの委託先は、次のような情報を、ソフトウェア更新の実施、ソフトウェア更新の対象判定・配信管理、更新状況の確認・不具合是正、法令・リコール対応履歴の管理の目的で取得・利用することがあります。

・車体番号(VIN)
・搭載 ECU のハードウェア・ソフトウェア部品番号
・製造シリアル番号

ソフトウェア更新の警告・注意

⚠ 警告

停車中にソフトウェアを更新する。
走行中に操作すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

アップデート中は、後部座席リマインダーとドアオープンアラームは作動しません。
車両を降車する際は、後部座席とドアの開口部をよく確認してください。

ソフトウェアを更新する

ソフトウェア更新は、キャンペーン通知 (キャンペーン内容説明)、キャンペーン承諾、ダウンロード承諾、ダウンロード、インストール、有効化承諾、有効化の順で実施されます。

知識

ソフトウェア更新を行なうためには、正しい時刻情報の取得が必要になります。
ソフトウェア更新を実施するときは、電波状況がよいところで実施してください。

インストールが完了した後、車両の電源を OFF にし、再度車両の電源を ON にすることで最新のソフトウェアが有効になります。
有効化を行なうために車両の電源を OFF にすると、一定時間車両の電源を ON にすることができません。

ソフトウェアの更新中 (ダウンロード/インストール) 中も通常通りマツダコネクトをご使用いただけます。

知識

各種アプリケーション画面を表示していても、バックグラウンドで動作します。

ソフトウェアの更新中 (ダウンロード/インストール) に車両の電源を OFF にするとソフトウェア更新を中断します。
次に車両の電源を ON にすると、自動的にソフトウェア更新を再開します。

ダウンロードやインストール中にソフトウェア更新を中止することができます。

サーバー側で中止の判断をした場合や車両の状況によりソフトウェアの更新が中止する場合があります。
ソフトウェア更新が中断または中止した場合は、マツダコネクト画面に表示される案内表示にしたがって対処してください。

ソフトウェアの更新状況は、マツダコネクトの画面の“ソフトウェア更新履歴”から確認することができます。

キャンペーンの内容によっては、ソフトウェア更新に時間がかかる場合があります。

ソフトウェアダウンロードを自動で開始することができます。
マツダコネクトホーム画面の ⚙ で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ソフトウェア更新プログラムの有効化は、ソフトウェア更新プログラムのダウンロードおよびインストールが完了した後、セレクトレバーが P の位置にあるときに実行可能な状態になります。

ポップアップ表示されたメッセージをタップして更新する

1. マツダコネクトの画面に表示されたソフトウェア更新情報をタップする。
2. キャンペーン通知の内容を確認する。
3. キャンペーンを承諾する。
4. ソフトウェア更新プログラムのダウンロードを承諾する。
   ソフトウェア更新プログラムのダウンロードおよびインストールが実行されます。
5. セレクトレバーが P の位置にあることを確認する。
6. ソフトウェア更新プログラムの有効化を承諾する。
7. マツダコネクトの画面にしたがって車両の電源を OFF にする。
   ソフトウェア更新プログラムの有効化が開始されます。

知識

マツダコネクトの画面に表示されるソフトウェア更新情報のポップアップ表示は、一定時間経過すると非表示になります。
非表示になったソフトウェア更新情報は、一定期間経過すると再度ポップアップ表示されます。

マツダコネクトの画面に表示されるソフトウェア更新情報のポップアップ表示をタップしなかった場合は、ソフトウェア更新情報は通知情報に移動します。
通知情報は、マツダコネクト画面の 🔔 を選択、または画面上端からスワイプすると表示されます。

知識

また、マツダコネクトホーム画面の ⋮⋮ →“車両メンテナンス”でも確認できます。

通知情報から更新する

1. マツダコネクトホーム画面の ⋮⋮ →“車両メンテナンス”を選択する。
2. メンテナンス画面の“通知情報“を選択する。
3. キャンペーン通知の内容を確認する。
4. キャンペーンを承諾する。
5. ソフトウェア更新プログラムのダウンロードを承諾する。
   ソフトウェア更新プログラムのダウンロードおよびインストールが実行されます。
6. セレクトレバーが P の位置にあることを確認する。
7. ソフトウェア更新プログラムの有効化を承諾する。
8. マツダコネクトの画面にしたがって車両の電源を OFF にする。
   ソフトウェア更新プログラムの有効化が開始されます。

ソフトウェア更新履歴

ソフトウェア更新履歴は、実施したキャンペーンの履歴を最大 20 件表示します。
ソフトウェア更新が完了しているキャンペーンやお客様が任意で中止したキャンペーン、車両の状況により中止したキャンペーンなどを確認することができます。

1. マツダコネクトホーム画面の ⋮⋮ →“車両メンテナンス”を選択する。
2. メンテナンス画面の"ソフトウェア更新履歴"を選択する。

車に記録されるデータ

EDR (イベントデータレコーダー) について

衝突時のデータを記録する EDR を装備しています。
EDR は次のような情報を記録します。

・車速
・運転席乗員のシートベルト装着有無
・助手席乗員のシートベルト装着有無
・エアバッグ作動に関する情報 (加速度波形など)
・エアバッグシステムの故障診断情報

個人情報 (氏名・性別・年齢・衝突場所) は記録しません。

車両データを記録するコンピューターについて

車両の制御や操作、走行環境に関するデータを記録するコンピューターを装備しています。
このコンピューターは次のような情報を記録します。

・エンジンの回転数や車速など、車両の状態
・アクセル/ブレーキなどの運転状態・車両走行時の環境情報
・車載されるコンピューターの故障診断の情報
・その他、車載されるコンピューターの制御に関する情報
・i-ACTIVSENSE の作動に関するデータ (位置情報を含む*1)

記録される情報はお車のグレードや装備により異なります。
個人情報 (氏名・性別・年齢) は記録しません。
*1 i-ACTIVSENSE 作動時に記録された位置情報やカメラ画像は、マツダ販売店にて、消去することが可能です。
また、ドライバーモニターのカメラ画像を記録する機能を停止することも可能です。
ただし、機能を停止するとシステム作動時のカメラ画像は残りません。

ドライバーの画像などを記録するコンピューターについて

ドライバーの異常検知時の情報を記録するコンピューターを装備しています。
このコンピューターは次のような情報を記録します。

・車両に搭載されているカメラで撮影した静止画像
・i-ACTIVSENSE の作動に関するデータ

記録される情報はお車のグレードや装備により異なります。
音声は記録しません。

データの取り扱いについて

マツダおよびマツダの委託先は、EDR、車両データを記録するコンピューター、ドライバーの画像などを記録するコンピューターに記録されたデータを、車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。
なお、取得したデータは次の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

・お車の使用者の同意 (リースは貸借主の同意) がある場合
・警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・統計的な処理を行なうなどの使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

オープンソースソフトウェア情報

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ

この製品は、フリー/オープンソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
http://car.panasonic.jp/oss/o01llm6f

i-ACTIVSENSE ドメインユニット (ADU)

この製品は、フリー/オープンソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
https://www.denso.com/global/en/opensource/adu/mazda/

ビューカメラ

この製品は、フリー/オープンソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
car.panasonic.jp/oss/n09pkdt3/

センターディスプレイ

この製品は、フリー/オープンソースを含みます。ライセンスおよびソースコードについての情報は、次の Web サイトから入手することができます。
https://www.alpine.com/m/oss/download/

MEMO

3 乗員/歩行者を保護する装備

SRS エアバッグシステム.....3-2
SRS エアバッグシステムについて 3-2
SRS エアバッグシステム使用上の警告･注意..... 3-4
SRS エアバッグシステムの作動について.....3-9

シートベルト.....3-12
シートベルトについて..... 3-12
シートベルト使用上の警告･注意 3-12
シートベルトの使いかた.....3-15

フロントシート.....3-18
フロントシート使用上の警告･注意.....3-18
フロントシートの使いかた 3-19
ドライビングポジションメモリー機能について.....3-22
ドライビングポジションメモリー機能使用上の警告･注意..... 3-22
ドライビングポジションメモリー機能の使いかた.....3-23

リアシート.....3-25
リアシート使用上の警告･注意 3-25
リアシートの使いかた..... 3-27
アームレスト使用上の警告･注意 3-30
アームレストの使いかた.....3-30

ヘッドレスト.....3-30
ヘッドレストについて..... 3-30
ヘッドレスト使用上の警告･注意 3-31
ヘッドレストの使いかた.....3-31

ハンドル.....3-32
ハンドル使用上の警告･注意 3-32
ハンドル調節のしかた..... 3-33

お子さま専用シート.....3-33
お子さま専用シートについて 3-33
お子さま専用シート使用上の警告･注意.....3-34
お子さま専用シートの種類について.....3-36
シート位置別お子さま専用シート選択の目安表.....3-39
チャイルドシートの取り付けについて..... 3-41

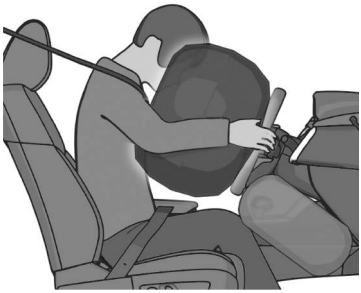
SRS エアバッグシステム

SRS エアバッグシステムについて

エアバッグは、車両の電源が ON のとき車両前方または側方から強い衝撃を受けると瞬間的に膨らみ、運転者および同乗者の頭部や胸部などへの衝撃をやわらげます。
SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助することで乗員を保護する装置であり、シートベルトに代わるものではありません。
エアバッグは 5 種類あります。

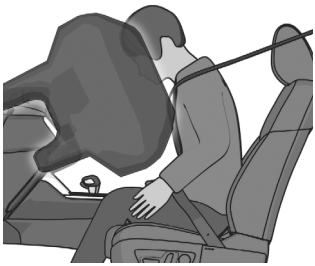
運転席エアバッグ

運転席エアバッグはハンドルの中央に格納されています。



助手席エアバッグ

助手席エアバッグはインストルメントパネルに格納されています。助手席に同乗者がいなくても運転席エアバッグと同時に膨らみます。



運転席ニーエアバッグ

ニーエアバッグはインストルメントパネルの下に格納されています。



サイドエアバッグ

サイドエアバッグはフロントシート背もたれの外側部分に格納されています。乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らみます。



カーテンエアバッグ

カーテンエアバッグはフロントピラー、ルーフサイド部、リアピラーに格納されています。

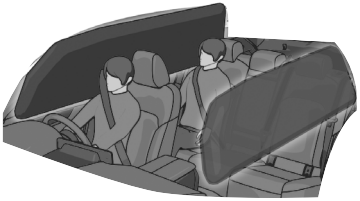
側面衝突時

乗員の有無に関係なく衝撃を受けた側のカーテンエアバッグが膨らみます。



横転時

車両の横転時に両側のカーテンエアバッグが膨らみます。



SRS エアバッグシステム使用上の警告･注意

お車に乗る前に

⚠ 警告

運転者はもちろん､同乗者も必ずシートベルトを着用する。
SRS エアバッグシステムはシートベルトと併用することで効果を発揮します。シートベルトを着用していないと､重大な傷害につながるおそれがあります。

シートに座ったときは

⚠ 警告

ハンドル中央部に手を置いたり､顔や体を近づけたりしない。
エアバッグが作動したときに､強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



シートの前端に座ったり､インストルメントパネルにもたれかかったり､手や顔を近づけない。
エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け重大な傷害につながるおそれがあります。



お子さまを乗せるときは

⚠ 警告

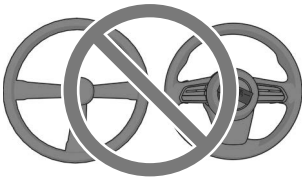
お子さまはできるだけリアシートに座らせ必ずシートベルトを着用させる。
シートベルトが首や顔などにあたるなどして、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートをお使いください。お子さまがエアバッグの前に立っていたり、正しい姿勢で座っていなかったりすると、エアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、お子さまの命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあり危険です。



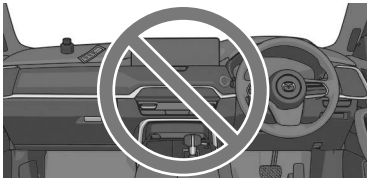
こんなことにも注意

⚠ 警告

ハンドルを交換しない。また、パッド部にステッカーなどを貼り付けたりしない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。



インストルメントパネル上下部にステッカーを貼り付けたり、芳香剤、アクセサリー用品、手荷物などの物を置いたりしない。また、ルームミラーにワイドミラーを取り付けない。
エアバッグが正常に作動しなくなったり、エアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



車両前部にグリルガードなどを装着しない。
SRS エアバッグシステムに影響をおよぼすため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

サスペンションの改造をしない。
車高やサスペンションの硬さが変わると、衝撃を正しく検知できないため、エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

SRS エアバッグシステムの部品や配線を修理したり、電気テスターを使って、SRS エアバッグシステムの回路診断をしたりしない。
正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスや廃車について

⚠ 警告

事故後は必ずマツダ販売店で点検を受ける。
エアバッグが作動しない程度の事故であっても、事故の衝撃でシステム本来の機能を損なっているおそれがあるため、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

次のような作業が必要なときは、必ずマツダ販売店に相談する。
次の作業を行なうとエアバッグが正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし、取り付け、分解、修理
- ハンドルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- インストルメントパネルまたは周辺部品の取りはずし、取り付け、分解、修理
- フロントシートの交換、取りはずし、取り付け、分解、修理
- 車両前部または側部の修理
- フロントピラー、サイドピラー、リアピラー、ルーフサイド部の修理
- 室内の電装品の取りはずし、取り付け

車を廃車にする場合は、必ずマツダ販売店に相談する。
不意にエアバッグが作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

サイドエアバッグについて

⚠ 警告

フロントシート背もたれの外側部分に手、足、顔を近づけた姿勢で座らない。
フロントシートに座ったときは、フロントドアにもたれかかったり、窓から腕を出したりしないでください。また、リアシートに座ったときはフロントシートの背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告



フロントシートにシートカバーを使用しない。
シートカバーを使用するとサイドエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

フロントドアやフロントシート付近にカップホルダーなどのアクセサリー用品を取り付けない。
サイドエアバッグが膨らむときにこれらの物が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

フロントシートの下に荷物などを置かない。
フロントシートの下部にあるサイドエアバッグの配線が損傷し、万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

カーテンエアバッグについて

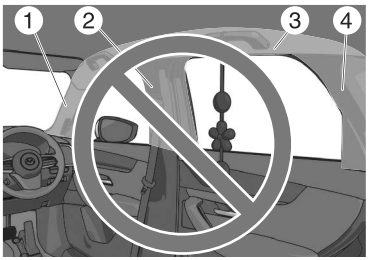
⚠ 警告

ドアにもたれかかったり、フロントピラー、リアピラー、ルーフサイド部などに近づいたりしないようにして座る。
カーテンエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。



フロント窓ガラス、リア窓ガラス、フロントピラー、サイドピラー、リアピラー、ルーフサイド部、アシストグリップなどカーテンエアバッグ展開部周辺にアクセサリー、ハンズフリーマイクなどを取り付けたりしない。
カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告



1 フロントピラー
2 サイドピラー
3 ルーフサイド部
4 リアピラー

アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。
服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エアバッグが作動した直後は、しばらくの間エアバッグ取り付け部をさわらないでください。エアバッグが作動すると高温になるため、やけどをするおそれがあります。

ドアを閉じるときは窓ガラスが割れるほど強く閉めないでください。サイドおよびカーテンエアバッグが作動するおそれがあります。

エアバッグの作動について

⚠ 注意

エアバッグは瞬時に膨らむため、エアバッグとの接触により打撲やすり傷など、けがをするおそれがあります。

エアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。エアバッグ作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。

エアバッグは一度膨らむと再使用できません。マツダ販売店で交換してください。

助手席エアバッグが膨らむときにフロントガラスが破損することがあります。

SRS エアバッグシステムの作動について

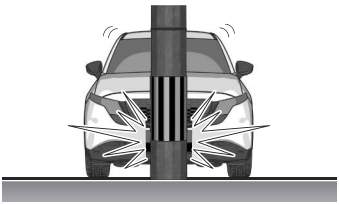
運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグは正面衝突において、サイド/カーテンエアバッグは側面衝突において、強い衝撃を受けたときに作動します。
車両に衝撃を受けても、エアバッグが必ずしも作動するとは限りません。

エアバッグが作動しにくいとき

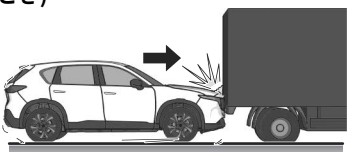
次のようなときには、衝撃の大きさによって作動しないことがあります。

運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグ

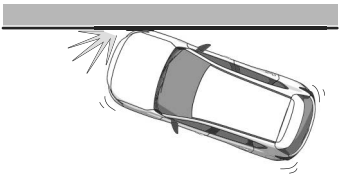
(立木や電柱に衝突したとき)



(トラックの下などに潜り込んだとき)

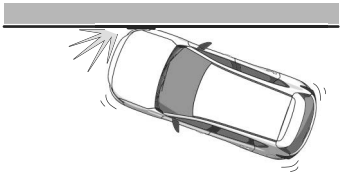


(斜め前方に衝突したとき)

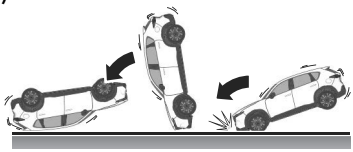


サイド/カーテンエアバッグ

(斜め前方に衝突したとき)



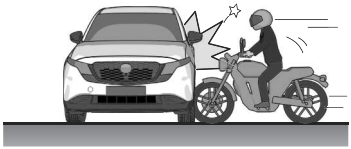
(前方または後方に回転したとき)



(車両の側面 (運転者または助手席同乗者付近) から立木や電柱に衝突したとき)



(2 輪車が側面に衝突したとき)



エアバッグが作動しないとき

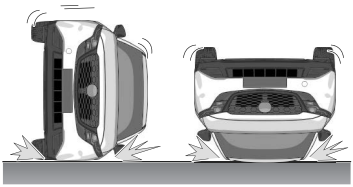
次のようなときには作動しません。

運転席/助手席エアバッグ、運転席ニーエアバッグ

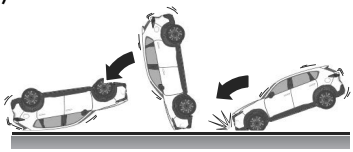
(後ろ方向から衝突されたとき)



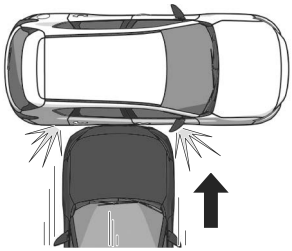
(横転や転覆したとき)



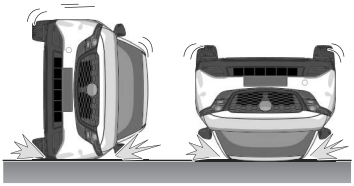
(前方または後方に回転したとき)



(横方向から衝突されたとき)



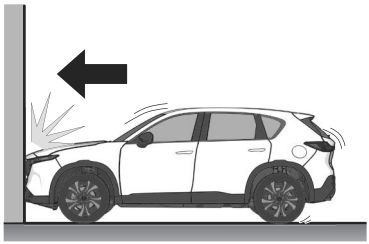
サイドエアバッグ
(横転や転覆したとき)



サイド/カーテンエアバッグ
(後ろ方向から衝突されたとき)



(正面衝突したとき)



シートベルト

シートベルトについて

シートベルトは、事故や突然の停止時に重傷を負う可能性を減らすのに役立ちます。
シートベルトには 3 つ機構があります。

ELR (緊急時固定) 機構

全席のシートベルトに装備されています。
シートベルトは体の動きにあわせて伸縮しますが、強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロックされ体を固定します。

プリテンショナー機構

運転席、助手席、リアシート左右席のシートベルトに装備されています。
車両前方または側方から強い衝撃を受けたり、横転したりすると、シートベルトを引き込み、シートベルトの効果をより高める装置です。
衝突が検出されると、プリテンショナーはエアバッグと同時に展開します。
シートベルトリトラクター (巻き取り装置) は、エアバッグが膨張するときにシートベルトのたるみを素早く取り除きます。

ロードリミッター機構

運転席、助手席、リアシート左右席のシートベルトに装備されています。
車両前方から強い衝撃を受けたときなど、シートベルトに一定以上の荷重がかからないように作動する装置です。シートベルトにかかる荷重を規定値に保つことで、乗員の胸に加わる力を減少させます。
プリテンショナーが作動していない場合でも、ロードリミッター機構は専門の修理業者がチェックする必要があります (マツダ認定修理業者をおすすめします)。

知識

- プリテンショナー機構は、車両前方または側方から強い衝撃を受けたとき作動しますが、衝撃が弱いと作動しません。
- プリテンショナー機構の作動により、白煙が見えることがありますが、火災ではありません。また、人体への影響はありません。ただし、皮膚などの弱い方はまれに刺激を受けることがあります。プリテンショナー機構作動時の残留物 (カス) が目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く洗い流してください。

シートベルト使用上の警告・注意

警告

シートベルトは全員が正しく着用する。
着用しないと体が拘束されないため、急ブレーキ時や衝突時に車内の物に打ちつけられたり、車外に放りだされたりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

1 つのシートベルトを同時に 2 人以上で使用しない。
2 人以上で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 警告

クリップなどでシートベルトにたるみをつけない。
万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

ベルトがねじれた状態で使用しない。
ねじれがあると、万一の場合衝撃力が分散できず局部的に強い力を受けるため、重大な事故につながるおそれがあります。

肩ベルトを肩の中央にかけて着用する。腕の下に通して着用しない。
ベルトが肩に十分かかっていないと急ブレーキ時や衝突時に、体が前方に投げ出され、重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれは倒しすぎない。
急ブレーキ時や衝突時に、体がシートベルトの下にすべり込み、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

腰部ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる。
シートベルトが腰骨からずれていると、急ブレーキ時や衝突時に、腹部に強い圧迫を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

妊娠中の女性や疾患のあるかたもシートベルトを着用する。
ただし、急ブレーキ時や衝突時、局部的に強い力を受けるおそれがあるため医師に相談し、注意事項を確認してください。腰部ベルトは腹部を避けて腰骨のできるだけ低い位置に密着させてください。また、肩ベルトは肩に十分かかるようにし、腹部を避けて胸部に密着させてください。



シートベルトのバックルの中に異物を入れない。
異物が入るとプレートがバックルに完全にはまらず、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

⚠ 警告

お子さまはできるだけリアシートに座らせ、必ずシートベルトを着用させる。
お子さまを抱いたり、ひざの上に乗せたりすると、急ブレーキ時や衝突時に十分に支えることができず、お子さまが投げ出されたり押しつぶされ、重大な傷害につながるおそれがあります。



シートベルトが首や顔などにあたるなどして、腰骨に正しく着用できないお子さまには、別売りのベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用する。
シートベルトは成人サイズの方の乗員による着用を目的としています。
ベビーシート、チャイルドシート、ジュニアシートを使用しないと、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

メンテナンスについて

⚠ 警告

シートベルトを分解･改造･交換しない。
万一の場合、シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

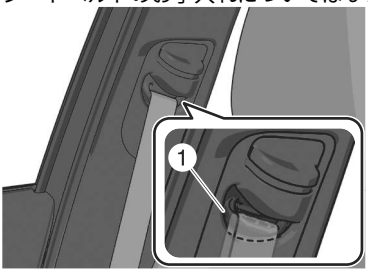
事故などにあったときは、必ずマツダ販売店で点検を受ける。
プリテンショナー付きシートベルトおよびロードリミッター付きシートベルトは、一度作動すると再使用できません。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

車を廃車される場合は、必ずマツダ販売店に相談する。
プリテンショナー機構が不意に作動し、重大な傷害につながるおそれがあります。

プリテンショナー機構の部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナー機構の回路診断をしたりしない。
正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートベルトやリングが汚れると、ベルトの巻き取りが悪くなるので汚れを取ってください。
シートベルトのお手入れについては 9-26 ページを参照してください。

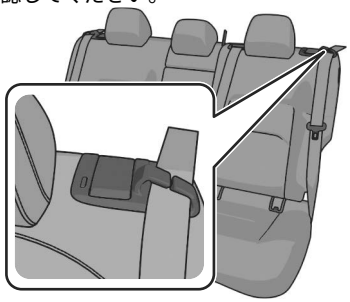


1 リング

シートベルトの使いかた

シートベルトを着用するとき

リアシートのシートベルトは、着用する前にシートベルトがシートベルトガイドに正しく通っていることと、ねじれていないことを確認してください。



1. 上体を起こし、シートに深く腰かける。
2. プレートを持って、ベルトをゆっくり引き出す。



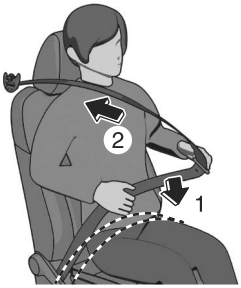
知識

ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを巻き取らせてからゆっくり引き出してください。それでも引き出せないときは、一度ベルトを強く引っ張ってからベルトをゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。

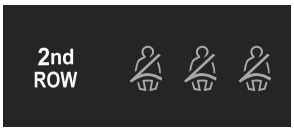
3. ベルトにねじれがないかを確認する。
4. プレートをバックルにカチッと音がするまで差し込む。



5. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に密着させ、肩に十分かける。ベルトが首、あご、顔などにあたらないようにしてください。

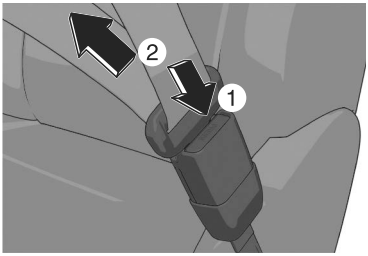


シートベルト表示灯 (リアシート) (緑)



車両の電源が ON のとき、リアシートのシートベルトを着用するとしばらくの間点灯し、その後消灯します。

シートベルトをはずすとき

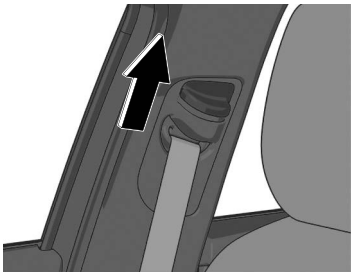


ベルトにねじれがないかを確認しながら、ゆっくりと巻き取らせる。

シートベルトの高さ調節

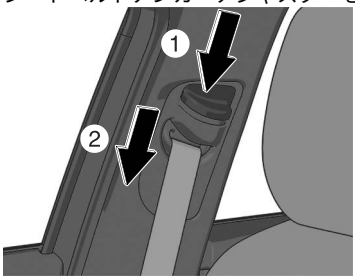
シートベルトが首にあたったり、肩からはずれたりしてしまうときには、ベルトの高さを調節してください。

高くするとき



低くするとき

1. シートベルトアンカーアジャスターをつかみ、ノブを押して下げる。



2. シートベルトアンカーアジャスターが確実にロックされていることを確認する。

フロントシート

フロントシート使用上の警告･注意

⚠ 警告

シート各部の調節は､必ず走行前に行なう。
走行中に行なうと､必要以上にシートが動いて姿勢が不安定になり､思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートが損傷した場合は必ずマツダ販売店で点検を受ける。
エアバッグが作動しない程度の事故であっても､事故の衝撃でシート内部のエアバッグシステムの部品が本来の機能を損なっているおそれがあるため､万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり､重大な傷害につながるおそれがあります。衝突後やシートクッションが破れたり､ウレタンまで達するほどの損傷の場合は､必ずマツダ販売店で点検を受けてください。

背もたれは倒しすぎない。
急ブレーキ時や衝突時に､体がシートベルトの下にすべり込み､シートベルトの効果が十分発揮できないため､重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれと背中の間にクッションなどを入れない。
正しい運転姿勢がとれないばかりか､衝突時にシートベルトなど拘束装置の効果が十分に発揮できないため､重大な傷害につながるおそれがあります。

シートの下に物を置かない。
物がはさまってシートが固定されず､思わぬ事故につながるおそれがあります。

操作後は確実にロックされていることを確認する。
走行中シートが不意に動くと姿勢が不安定になるため､思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

シートを操作するときは､シートの動く部品周辺やサイドトリムなどに手や指を置かないでください。手や指を置いているとけがをするおそれがあります。

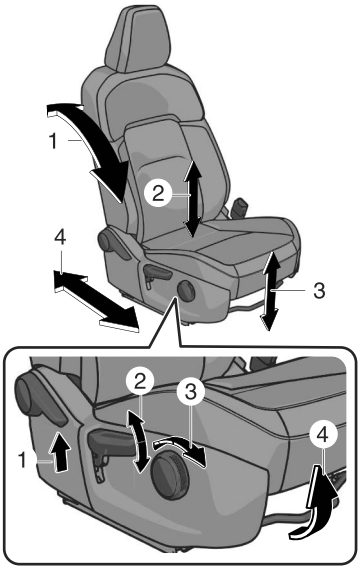
(マニュアルシート)
シートを前後に動かすときや､後ろに倒した背もたれをもとにもどすときは､必ず背もたれを押さえながら操作してください。背もたれを押さえずに操作すると､シートが急に動き､けがをするおそれがあります。

車室内を清掃したり､シートの下に落としたものを拾ったりするためにシートの下に手を入れるときは､けがをしないように注意してください。シートレールやシートフレーム､シート下周辺の可動部､および周辺部品にあたり､けがをするおそれがあります。

フロントシートの使いかた

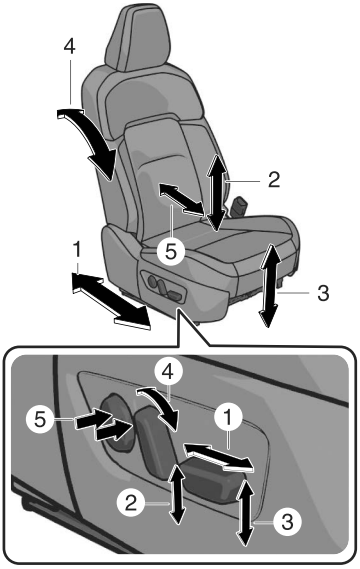
運転席

マニュアルシート



1 角度調節
2 シート全体高さ調節
3 シート前端高さ調節
4 前後調節

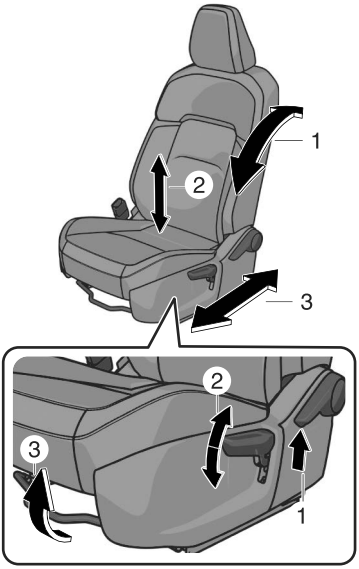
パワーシート



1 前後調節
2 シート全体高さ調節
3 シート前端高さ調節
4 角度調節
5 張り出し調節 (ランバーサポート)

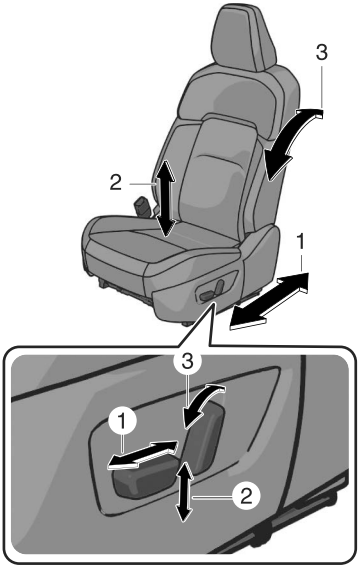
助手席

マニュアルシート



1 角度調節
2 シート全体高さ調節
3 前後調節

パワーシート



1 前後調節
2 シート全体高さ調節
3 角度調節

ドライビングポジションメモリー機能について

お好みのドライビングポジションを記憶させることができます。

・運転席シート位置 (角度、前後位置、全体高さ、前端高さ)
・アクティブ・ドライビング・ディスプレイ (表示位置、表示情報)
・ドアミラー角度

ドライビングポジションメモリー機能使用上の警告・注意

⚠ 注意

ドライビングポジションメモリー機能でシートが自動的に動いているときは、シートの下やその周辺に手、指、足などを近づけないでください。手、指、足などをはさんで、けがをするおそれがあります。

次のような場合、ドライビングポジションの調節を中止します。

- 運転席のシート調節スイッチ/ドアミラー/アクティブ・ドライビング・ディスプレイを操作して位置を調節したとき
- キーの施錠スイッチまたは、解錠スイッチを操作したとき
- 車両が走行状態になったとき
- セレクトレバーを P 以外の位置にしたとき

⚠ 注意

➢ シート作動時に一定以上の負荷を検知し、安全機能が作動したとき

ドライビングポジションメモリー機能の使いかた

ドライビングポジションを車両とキーに記憶させることができます。
ドライビングポジションの設定画面で操作します。

ドライビングポジションメモリーの設定画面を開く

1. 車両の電源を ON にする。
2. マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの をタップする。
3. “Position Memory”をタップする。
   設定画面が開きます。

記憶させるとき

1. 次のドライビングポジションをお好みの位置に調節する。
   ・運転席シート
   ・アクティブ・ドライビング・ディスプレイ
   ・ドアミラー
2. “ポジションメモリー 1”または“ポジションメモリー 2”のうち記憶させたい方の をタップする。
   マツダコネクトの画面にしたがって、操作してください。

再登録するとき

“ポジションメモリー 1”または“ポジションメモリー 2”のうち記憶させたい方の をタップする。
マツダコネクトの画面にしたがって、操作してください。

知識

(ドライバー・パーソナライゼーション・システム装備車)
自動ドライビングポジションガイドを使用して登録することもできます。
→6-23 ページ「ドライバー・パーソナライゼーション・システムについて」

記憶させたドライビングポジションにするとき

1. ドライビングポジションメモリーの設定画面を開く。
2. “ポジションメモリー 1”または“ポジションメモリー 2”のうち呼び出したい位置が記憶されている方をタップする。
   記憶させたドライビングポジションへの調節が終了すると音が鳴り、メッセージが表示されます。

知識

正しく記憶されなかった場合、記憶が完了していないことをお知らせする音が鳴ります。

ドアミラー角度の変更が少ない場合、正しく記憶されないことがあります。

ドアミラー角度が可動域の限界近くに調節されている場合は、ドアミラー角度が正しく記憶されないことがあります。

記憶させたドライビングポジションに調節済みのときは、音が鳴りません。

記憶させたドライビングポジションを消去するとき

“ポジションメモリー 1”または“ポジションメモリー 2”のうち消去したい方の をタップする。
マツダコネクトの画面にしたがって、操作してください。

キーに連動させるとき

1. “ポジションメモリーのキー連動”の をタップする。
2. “キーの追加登録”をタップする (すでに他のキーが登録されている場合)。
3. “登録する”をタップする。
4. 5 秒以内にキーの解錠ボタンを押す。
   登録が完了すると音が鳴り、メッセージが表示されます。

記憶させたドライビングポジションにするとき

1. 次のいずれかの方法で運転席ドアを解錠する。

   ・解錠用タッチセンサーの感知エリアに触れる。
   ・キーの解錠スイッチを押す。
2. 解錠してから一定時間以内に運転席ドアを開けると、次のドライビングポジションの調節が開始される。

   ・運転席シート
   ・アクティブ・ドライビング・ディスプレイ
   ・ドアミラー

   記憶させたドライビングポジションへの調節が終了すると、音が鳴ります。

キーの連動を解除するとき

1. “ポジションメモリーのキー連動”の をタップする。
2. “キー連動の解除”をタップする。
3. 5 秒以内にキーの施錠ボタンを押す
   キーの連動を解除したことをお知らせするメッセージが表示されます。

リアシート

リアシート使用上の警告･注意

⚠警告

倒した背もたれの上や荷室内に人を乗せて走行しない。
シートベルトが着用できないため､急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

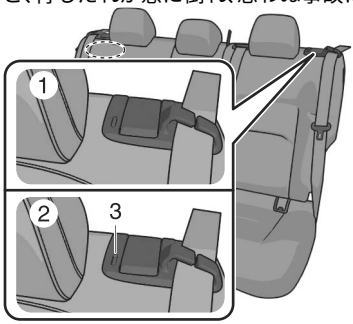
背もたれを倒した車内でお子さまを遊ばせない。
お子さまがラゲッジルーム内に入り､背もたれがもどった場合､ラゲッジルーム内に閉じ込められるため思わぬ事故につながるおそれがあります。

背もたれを倒して荷物を運ぶときは､荷物を確実に固定する。
固定しないで走行すると､急ブレーキ時や衝突時に荷物が動き運転操作のさまたげになるため､思わぬ事故につながるおそれがあります。

荷物を運ぶときは､シート背もたれの高さを越えないようにする。
後方､側面の視界が悪くなるため危険です。

背もたれをもとにもどすときは､シートベルトが､はさまれていないこととねじれていないことを確認する。
シートベルトが､背もたれにはさまれていたり､ねじれていたりしている状態で使用すると､万一の場合シートベルトの効果が十分発揮できないため重大な傷害につながるおそれがあります。

背もたれをもとにもどすときは確実にロックし､赤色の表示が見えないことを確認する。
赤色の表示が見えているときは､背もたれがロックされていません。ロックしないまま走行すると､背もたれが急に倒れ､思わぬ事故につながるおそれがあります。



1 ロック
2 アンロック
3 赤色の表示

ベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けた後に､リモートハンドルを操作しない。
ベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けた後にリモートハンドルを操作すると､背もたれが急に倒れ､思わぬ事故につながるおそれがあります。リモートハンドルを操作するときはベビーシートやチャイルドシートを取りはずしてください。

⚠ 警告

リモートハンドルを操作するときは、リアシートに人が乗っていたりアームレストに物が置かれたままになっていないか十分確認する。
確認せずにリモートハンドルを操作すると背もたれが急に倒れ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

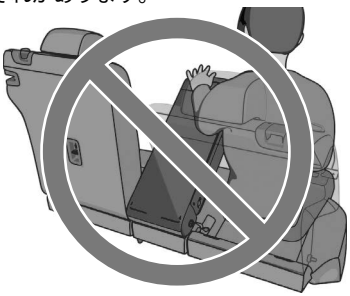
背もたれを倒すときは、必ず背もたれを手で支えながら操作してください。背もたれを手で支えずに操作すると、背もたれが急に動き、けがをするおそれがあります。

背もたれを倒す前にフロントシートの位置を確認してください。
フロントシートの位置によっては、リアシートの背もたれがフロントシートにあたって、フロントシートやシートバックポケットが損傷、破損したり、背もたれを倒すことができなくなったりする場合があります。また、必要に応じてリアシート左右席のヘッドレストは、位置を下げる、または取りはずしてください。

リモートハンドルを操作するときは、次の点を守ってください。

- 下り坂では背もたれが倒れるスピードが速くなることがあります。
- 上り坂では背もたれが倒れないことがあります。リモートハンドルで背もたれが倒れないときは、手で倒してください。

(左側の背もたれを倒すときは)
中央席が倒れている状態で、リモートハンドルを操作するときは注意してください。右席の人が中央席に手などを置いていると、シートの背もたれやシートの部品で手などをはさみ、けがをするおそれがあります。

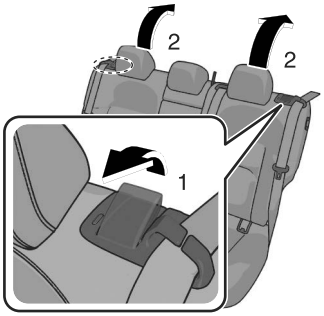


リアシートの使いかた

背もたれを角度調整するとき

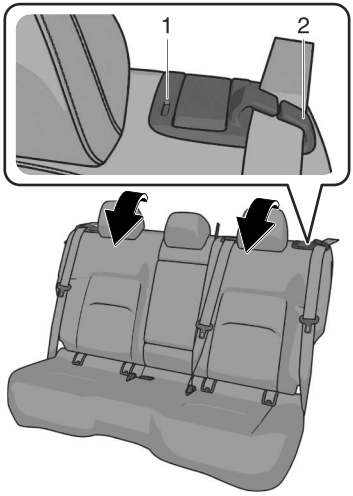
1. レバーを引き上げたまま背もたれを後方に倒す。
2. レバーをもどしロックさせる。
   赤色の表示が見えないことを確認してください。

リアシートは左右別々に調節することができます。



背もたれを起こすとき

1. シートベルトが､シートベルトガイドに正しく通っていることとねじれていないことを確認する。
2. レバーを引き上げたまま、シートベルトがはさまらないようにして背もたれを起こす。



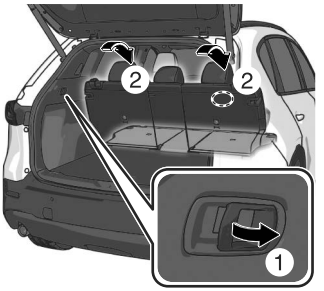
1 赤色の表示
2 シートベルトガイド

3. レバーをもどし、背もたれを後ろに倒してロックさせる。
4. 赤色の表示が見えないことを確認する。

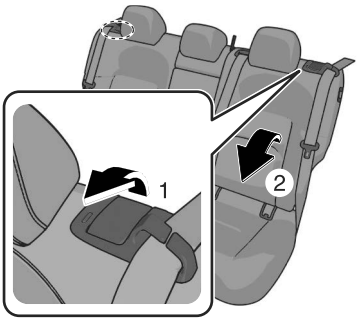
背もたれを倒すとき

(リモートハンドルを使うとき)

1. リアゲートを開け、倒したい背もたれ側にあるリモートハンドルを矢印の方向へ操作します。
   左側の背もたれを倒すときは外側のリモートハンドルを操作してください。
2.

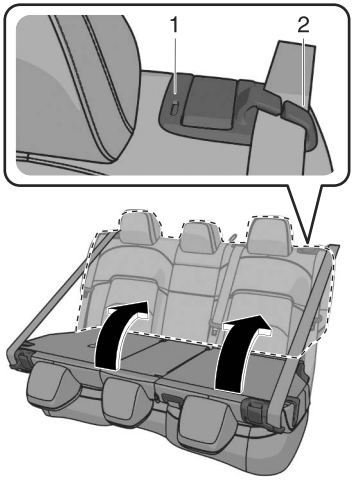


(レバーを使うとき)



背もたれを起こすとき

1. シートベルトが､シートベルトガイドに正しく通っていることとねじれていないことを確認する。
2. シートベルトがはさまらないようにして背もたれを起こす。



1 赤色の表示
2 シートベルトガイド

3. 背もたれを後ろに押しつけロックさせる。
4. 赤色の表示が見えないことを確認する。

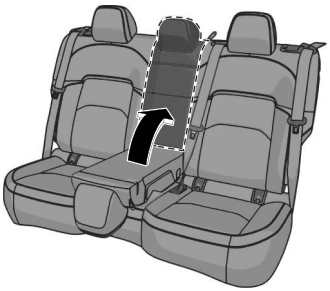
中央席のみを倒すとき

1. 中央席のヘッドレストをいちばん下の位置に下げる。
2.



中央席を起こすとき

1.



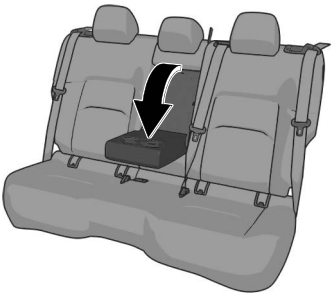
2. 中央席を後ろに押しつけロックさせる。

アームレスト使用上の警告･注意

⚠ 警告

アームレストの取り付け部周辺に､手や指を置かない。
シートとアームレストの間に手や指がはさまり､けがをするおそれがあります。

アームレストの使いかた



ヘッドレスト

ヘッドレストについて

すべてのシートには､ヘッドレストが装備されています。
ヘッドレストは､万一のときに､むち打ち症や他のけがから乗員を保護します。

ヘッドレスト使用上の警告･注意

⚠ 警告

高さを調節しないままで走行しない。
高さを調節しないまま走行すると､急ブレーキ時や衝突時､頭部への衝撃を防ぐことができなくなり､重大な傷害につながるおそれがあります。

ヘッドレストをはずした状態で走行しない。
取りはずした状態のまま走行すると､急ブレーキ時や衝突時､頭部への衝撃を防ぐことができなくなり､重大な傷害につながるおそれがあります。

取り付けた後は､ヘッドレストが抜け出さないことを確認する。
ヘッドレストが抜け出すと万一の場合､思わぬけがをするおそれがあります。ヘッドレストを引き上げて､抜け出さないことを確認してください。

⚠ 注意

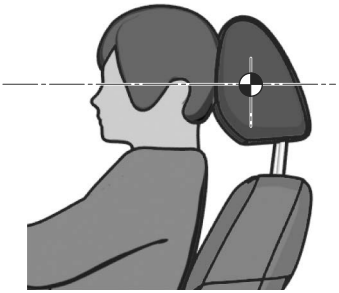
ヘッドレストを取り付けるときは､ヘッドレストの前後の向きを間違えないようにしてください。前後の向きを間違えて取り付けると､衝突時などにヘッドレストがはずれ､けがをするおそれがあります。

ヘッドレストは､各シート専用です。他のシートのヘッドレストと入れ替えないでください。入れ替えると､衝突時などにヘッドレストの効果が十分に発揮できず､けがをするおそれがあります。

ヘッドレストの使いかた

ヘッドレストを調節するとき

ヘッドレストの中央が､耳の上部と同じ高さになるように調節してください。



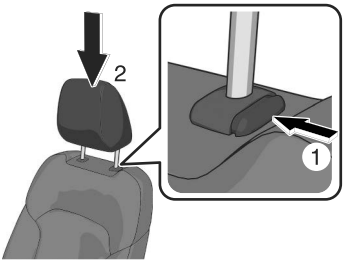
高くするとき

ヘッドレストを引き上げる。

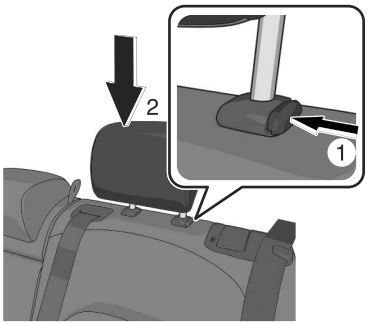
低くするとき

ロックノブを押したままヘッドレストを下げる。

フロントシート



リアシート (中央席/左右席)



ヘッドレストを脱着するとき

ヘッドレストを取りはずすとき

ロックノブを押しながらヘッドレストを引き上げる。

ヘッドレストを取り付けるとき

ロックノブを押しながらヘッドレストを差し込む。

ハンドル

ハンドル使用上の警告･注意

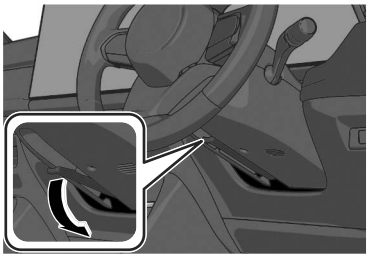
⚠ 警告

調節は必ず車両を停止した状態で行なう。
走行中に調節すると、運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

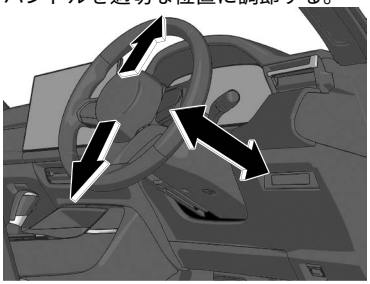
調節後は、ハンドルを上下にゆさぶり、確実に固定されていることを確認する。
走行中ハンドルが不意に動くと運転姿勢が不安定になるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ハンドル調節のしかた

1.



2. ハンドルを適切な位置に調節する。



3. レバーを引き上げてハンドルを固定する。

お子さま専用シート

お子さま専用シートについて

シートベルトが首や顔などにあたったり、腰骨に正しく着用できなかったりするお子さまを乗せるときは、お子さま専用シートをお使いください。
車両に固定するお子さま専用シートには、シートベルト固定タイプ、または ISOFIX 対応タイプの 2 種類があります。
シートベルト固定タイプのベビーシート、チャイルドシートは、リアシートのシートベルトを使用してシートに固定します。
また ISOFIX 対応タイプのチャイルドシートは、リアシート左右席に装備されているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。
お子さま専用シートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずお子さま専用シートに付属の取扱説明書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。

知識

ISO は International Organization for Standardization (国際標準化機構) の略です。

お子さま専用シート使用上の警告･注意

⚠ 警告

お子さまの首や顔などにシートベルトがあたったり､腰骨に正しく着用できない場合は､お子さまの年齢や体の大きさに合ったお子さま専用シートを使う。
お子さま専用シートを使用しないと､急ブレーキ時や衝突時にお子さまが投げ出されたり押しつぶされ､重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さま専用シートを取り付けるときは､商品に付属している取扱説明書に従う。
正しく取り付けられていないと､急ブレーキ時や衝突時に､重大な傷害につながるおそれがあります。

助手席には絶対にベビーシートやチャイルドシートを後ろ向きに取り付けない。
エアバッグの作動可能な助手席には､後向き幼児拘束装置を絶対に使用しないでください。幼児が死亡したり､重傷を負ったりする可能性があります。やむをえず助手席にチャイルドシートを取り付けるときは､必ず前向きに取り付け､シートを最後部まで移動させてください。
助手席エアバッグ装備車には図のような警告ラベルが貼付されています。
警告ラベル



この警告ラベルは､助手席に後ろ向きチャイルドシートを取り付けてはいけないということを示しています。



シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

⚠ 警告

お子さま専用シートを取り付けるときは､必ず選択の目安表を確認する。
誤った取り付けをすると正しく固定されず､急ブレーキや衝突時に､重大な傷害につながるおそれがあります。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

⚠ 警告

チャイルドシートを取り付けるときは、ロアアンカレッジ周辺に異物がないこと、シートベルトなどをはさみ込んでいないことなどを確認する。
異物やシートベルトなどをはさみ込むとチャイルドシートが固定されず、急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

トップテザーアンカレッジは、チャイルドシートを固定するため以外のことには使用しない。
チャイルドシートの固定以外のことに使用すると、アンカレッジ部が曲がったり、損傷したりして、テザーストラップが正しくかけられなくなりチャイルドシートが固定されません。急ブレーキ時や衝突時に、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さま専用シートの種類について

UN-R44 規則に適合するお子さま専用シートは、お子さまの体重によって次の 5 グループに分類されます。

知識

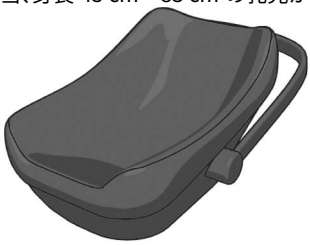
UN-R は United Nations Regulation (国連規則) の略です。

UN-R 44 および UN-R 129 規則は、お子さま専用シートに関する国連規則です。

グループ	体重	サイズ等級/器具 (CRF)
0	10kg まで	ISO/L1
		ISO/L2
		ISO/R1
0+	13kg まで	ISO/R1
		ISO/R2
		ISO/R3
I	9～18kg	ISO/R2
		ISO/R3
		ISO/F2
		ISO/F2X
		ISO/F3
II	15～25kg	—
III	22～36kg	—

本書では、3 種類のお子さま専用シートについて説明します。
取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

ベビーシート
UN-R 44 規則のグループ 0、0+に相当、身長 45 cm～83 cm の乳児が使用目安です。



チャイルドシート
UN-R 44 規則のグループ I に相当、身長 76 cm～105 cm の幼児が使用目安です。

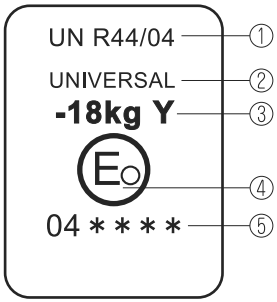


ジュニアシート
UN-R 44 規則のグループ II、III に相当、身長 100 cm～150 cm の学童が使用目安です。



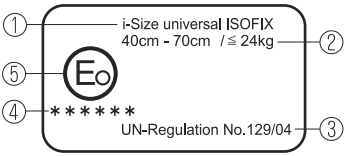
1 ブースターシート*1
*1　ジュニアシートの一種で、背もたれのない製品をブースターシートと呼びます。
ブースターシートを取り付けるシートは、必ずそのシートのヘッドレストを 取り付けてください。
お子さま専用シートは UN-R44 規則および UN-R129 規則に適合したものをお選びください。これらの規則に適合しているお子さま専用シートには、次のマークがついています。

UN-R 44



1 法規番号
2 チャイルドシートのカテゴリー (UNIVERSAL は汎用品の認可であることを表します。)
3 対象となるお子さまの体重範囲
4 当該装置を認可した国番号
5 当該装置認可番号

UN-R 129



1 チャイルドシートのカテゴリー (universal は汎用品の認可であることを表します。)
2 対象となるお子さまの身長/体重範囲
3 法規番号
4 当該装置認可番号
5 当該装置を認可した国番号

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

お子さま専用シートは次の表を目安に選択してください。
詳しくはお子さま専用シート製造業者または販売業者にご相談ください。

シート位置別お子さま専用シート選択の目安表

シート位置	着座位置			
	助手席	第 2 列左	第 2 列中央	第 2 列右
汎用ベルト式に適する着席位置	UF	U	U	U
アイサイズ着席位置	X	i-U	X	i-U
適する最大の後向き装具 (R1)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R2)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R2X)	X	IL	X	IL
適する最大の後向き装具 (R3)	X	IL	X	IL
適する最大の前向き装具 (F2)	X	IUF	X	IUF
適する最大の前向き装具 (F2X)	X	IUF	X	IUF
適する最大の前向き装具 (F3)	X	IUF	X	IUF
適する最大の横向き装具 (L1)	X	X	X	X
適する最大の横向き装具 (L2)	X	X	X	X
適する最大のブースター装具 (B2)	X	IUF	X	IUF
適する最大のブースター装具 (B3)	X	IUF	X	IUF
サポートレッグ付装具に適した着席位置 (有/無)	有*1	有	無	有
ロアアンカレッジを備えるがトップテザーのない着席位置 (有/無)	無	無	無	無

上表の記号について:
U ＝全質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。

UF ＝全質量グループでの使用を認可された前向き「汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。
L ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーのお子さま専用シートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
IUF ＝この質量グループでの使用を認可された「汎用」カテゴリー前向き ISOFIX チャイルドシートに適しています。
IL ＝「特定車両」、「限定」または「準汎用」カテゴリーの ISOFIX チャイルドシートに適しています。対応するお子さま専用シートについてはマツダ販売店にご相談ください。
i-U ＝前向きおよび後向きの i-Size「汎用」チャイルドシートに適しています。
i-UF ＝前向き i-Size「汎用」チャイルドシートのみに適しています。
有＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できる席です。
無＝装具を使用して、チャイルドシートを固定できない、または装具がない席です。
X ＝お子さま専用シートを取り付けることはできません。
*1　前向きお子さま専用シートのみ取り付けることができます。

知識

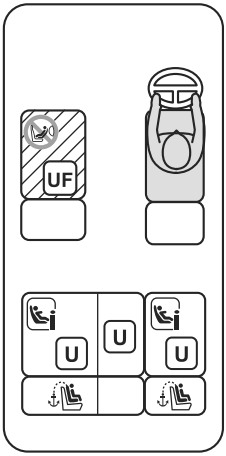
助手席にお子さま専用シートを取り付けるときは、シート位置をできるだけ後ろに調節してください。また、助手席が高さ調節できる場合は、シートベルトでお子さま専用シートがしっかり固定できるようにシートクッションの高さをいちばん高い位置に調節してください。
→3-19 ページ「フロントシートの使いかた」

助手席にお子さま専用シートを取り付けにくいときやお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できないときは、次の操作をしてお子さま専用シートがシートベルトでしっかり固定できるようにシートを調節してください。

・シートを前方または後方に動かす。
・シートの背もたれを前後に動かす。
・シートを上または下に動かす。

お子さま専用シートをリアシートに取り付けるときは、前席にあたらないように、前席のシート位置を調節してください。

テザーストラップを使用するときは、必ず、ヘッドレストを取りはずしてください。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。



U ：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）に適しています。

UF ：シートベルトで固定するお子さま専用シート（ユニバーサルタイプ）の前向きに取り付けるタイプに適しています。

：ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

：i-Size および ISOFIX 対応お子さま専用シートに適しています。

：前向きお子さま専用シートに適しています。

：後ろ向きのお子さま専用シートを取り付けないでください。

：お子さま専用シートを取り付けることはできません。

：トップテザーアンカレッジが装備されている座席です。

チャイルドシートの取り付けについて

シートベルトを使用するとき

お子さま専用シートを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。また、シート位置別お子さま専用シート選択の目安表も参照ください。
→3-39 ページ「シート位置別お子さま専用シート選択の目安表」

ISOFIX 対応チャイルドシート固定ロアアンカレッジ&トップテザーアンカレッジ

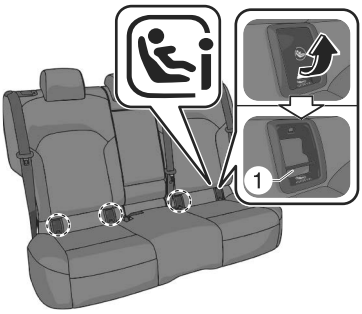
リアシートの左右席には、チャイルドシートを固定するためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジが装備されています。
このロアアンカレッジには、道路運送車両の保安基準に適合したチャイルドシート (チャイルドシート固定ロアアンカレッジ) のみを取り付けることができます。詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

知識

チャイルドシート固定ロアアンカレッジ対応のチャイルドシートはチャイルドシート固定ロアアンカレッジで固定し、この車のシートベルトでは固定しないでください。

1. チャイルドシートとフロントシートが干渉しないようにフロントシートを調節します。
   リアシートをリクライニングしている場合は、もとにもどしてください。
   →3-19 ページ「フロントシートの使いかた」
2. フロントおよびリアシートが確実に固定されていることを確認します。

3. チャイルドシート固定ロアアンカレッジのカバーを取りはずし、ロアアンカレッジの位置を確認します。

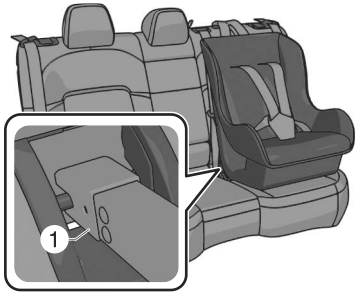


1 ロアアンカレッジ

知識

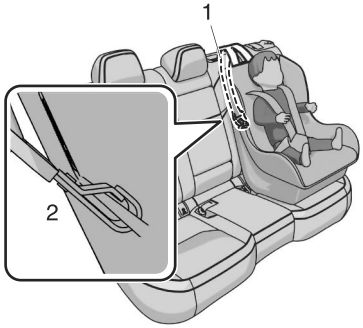
取りはずしたカバーはなくさないように保管してください。

4. ヘッドレストを取りはずします。ただし、ブースターシートを取り付けるときは、ヘッドレストを取りはずさないでください。
5. チャイルドシートのコネクターをロアアンカレッジに取り付けます。



1 コネクター

6. トップテザーアンカレッジの位置を確認し、チャイルドシートのテザーストラップを図のようにトップテザーアンカレッジにかけます。
   確実にトップテザーアンカレッジに固定されていることを確認してください。



   1 テザーストラップ
   2 トップテザーアンカレッジ
7. テザーストラップがたるまないように調節します。

知識

テザーストラップを取り付けるときは、商品に付属している取扱説明書に従ってください。

8. チャイルドシートを前後左右にゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認します。

MEMO

4 開閉する

キー.....4-4
キーについて.....4-4
キー使用上の警告･注意..... 4-4
キーの使いかた.....4-6
キーの便利な使いかた..... 4-8

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム 4-9
アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムについて*.....4-9
アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムの使いかた..... 4-10

ドア.....4-11
ドア使用上の警告･注意..... 4-11
ドアの使いかた.....4-12
ドアの便利な使いかた..... 4-16

リアゲート.....4-16
リアゲート使用上の警告･注意 4-16
リアゲートの使いかた..... 4-18
パワーリアゲートについて*..... 4-19
パワーリアゲート使用上の警告･注意.....4-19
パワーリアゲートの使いかた 4-21
パワーリアゲートの便利な使いかた.....4-25

ボンネット.....4-26
ボンネット使用上の警告･注意 4-26
ボンネットの使いかた..... 4-27

ウインドー.....4-28
パワーウインドーについて 4-28
パワーウインドー使用上の警告･注意.....4-29
パワーウインドーの使いかた 4-29
パワーウインドーの便利な使いかた.....4-31

パノラマサンルーフ.....4-32
パノラマサンルーフについて*..... 4-32
パノラマサンルーフ使用上の警告･注意.....4-32
パノラマサンルーフの使いかた 4-33

盗難防止システム.....4-35
イモビライザーシステムについて 4-35
イモビライザーシステム使用上の警告･注意.....4-35
イモビライザーシステムの使いかた.....4-35
バーグラアラームシステムについて*..... 4-35
バーグラアラームシステム使用上の警告･注意..... 4-36
バーグラアラームシステムの使いかた.....4-36

*グレード/仕様別装備

リアシートアラート.....4-38
リアシートアラートについて 4-38
リアシートアラート使用上の警告･注意.....4-38
リアシートアラートの使いかた 4-38

MEMO

キー

キーについて

キーのスイッチを押すと、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートを施錠/解錠できます。
キーは必ず運転者が携帯してください。

キーナンバープレート

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーをもとに、マツダ販売店で補助キーを作ることができます。

・車両以外の安全な場所にキーナンバープレートを保管してください。
・お客さま以外の方にキーナンバーを知られないようにしてください。



キー使用上の警告・注意

⚠ 警告

車から離れるときは、お子さまとキーを車内に残さない。
お子さまのいたずらにより、装置の作動、車の発進、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。

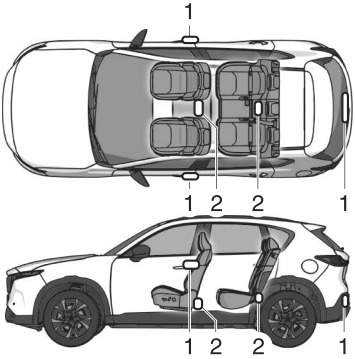
次にある以外の医療用機器を使用している方は、キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する
電波がペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、アドバンストキーレス機能およびキーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

- 植え込み型心臓ペースメーカー
- 植え込み型除細動器

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の医療用機器を使用している方は、車内・車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。
電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

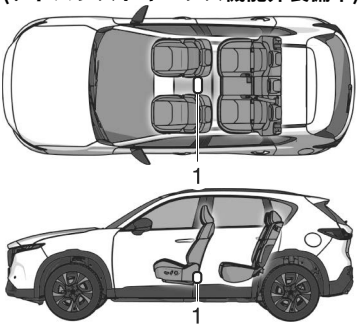
⚠ 警告

(アドバンストキーレス機能装備車)



1 車外のアンテナ
2 車内のアンテナ

(アドバンストキーレス機能非装備車)



1 車内のアンテナ

⚠ 注意

キーは、微弱な電波を使用しています。次のようなときはキーが正常に作動しないことがあります。

- 携帯電話などの通信機器と一緒に携帯しているとき
- 金属製のものに接したり、覆われたりしているとき
- パソコンなどの電化製品の近くに置いたとき
- 純正品以外の電子機器を取り付けたとき

⚠ 注意

➢ 近くに電波を発する設備があるとき

キーは強い電波を受信すると、それに反応して電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くに置かないでください。

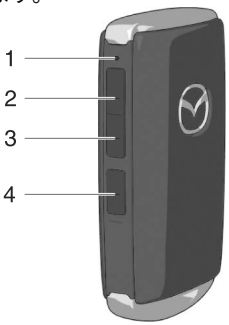
キーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

➢ 強い衝撃を与えたり、ぬらしたりしないでください。
➢ 分解しないでください。
➢ 重い物を上に置かないでください。
➢ 直射日光があたる場所や高温になるところに放置しないでください。
➢ 磁石や金属などの磁気を帯びた製品を近づけないでください。
➢ システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。

航空機内ではキーを操作しないでください。
キーを航空機内へ持ち込むことは可能ですが、操作すると航空機の運航に支障をおよぼすおそれがあります。
また、かばんやポケットなどで保管する場合は、キーのスイッチが容易に押されないように注意してください。

キーの使いかた

スイッチを押すと作動表示灯が点灯します。



1 作動表示灯
2 ロックスイッチ
3 アンロックスイッチ
4 リアゲート開閉スイッチ (HOLD)*

ロックスイッチ

次の条件をすべて満たしているとき、ロックスイッチを押す。

・車両の電源が OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき

ドア、リアゲート、およびフューエルリッドが施錠し非常点滅表示灯が 1 回作動してチャイムが 1 回鳴ります。

知識

キーの操作により、ヘッドランプが点灯/消灯します。
→5-53 ページ「ランプスイッチの便利な使いかた」

アンロックスイッチ

車両の電源が OFF のとき、アンロックスイッチを押す。
ドア、リアゲート、およびフューエルリッドが解錠し非常点滅表示灯が 2 回作動しチャイムが 2 回鳴ります。

リアゲート開閉スイッチ*

開けるとき

次の条件をすべて満たしているとき、キーのリアゲート開閉スイッチを約 1 秒以上押す。

・車両の電源が OFF のとき
・すべてのドア、リアゲートが解錠されているとき

非常点滅表示灯が 2 回点滅し、チャイムが鳴った後、リアゲートが全開します。

閉めるとき

車両の電源が OFF のとき、リアゲート開閉スイッチを約 1 秒以上押す。
非常点滅表示灯が 2 回点滅し、チャイムが鳴った後、リアゲートが全閉します。

知識

すべてのドア、リアゲートが解錠されていない状態でもリアゲートを開けることができるように、マツダコネクトで設定できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

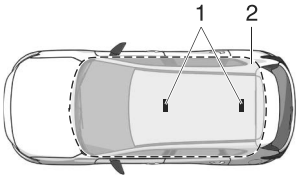
リアゲートが自動開閉中にリアゲート開閉スイッチを押すと、チャイムが鳴ってリアゲートが止まります。リアゲート開閉スイッチを再び押すと、リアゲートは反対方向へ動きます。

機能の作動範囲

キーを携帯して作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

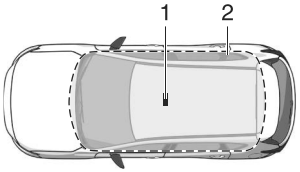
エンジンの始動

(アドバンストキーレス機能装備車)



1 車内のアンテナ
2 作動範囲

(アドバンストキーレス機能非装備車)



1 車内のアンテナ
2 作動範囲

知識

次のような場合は、キーの作動範囲が狭くなったり、作動しなくなったりすることがあります。

・電池が消耗しているとき
・強い電波、ノイズを受けているとき
・省電力モードのとき

次のような場所にキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。

・インストルメントパネルの周辺
・グローブボックスや小物入れなど

荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
車外からでも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。

キーの便利な使いかた

チャイム機能

ドア、リアゲート、フューエルリッドを施錠/解錠したことを確認するチャイムの音量をマツダコネクトで設定できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

オートリロック機能

アンロックスイッチを押して解錠した後、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合は、自動的に施錠されます。

・いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
・車両の電源を OFF 以外にする。

知識

自動的に施錠されるまでの時間を変更できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

節電機能

キーの節電機能を ON にすることで、キーを取り出すことなく操作できる機能 (エンジンの始動、ドア、リアゲート、フューエルリッドの施錠/解錠、リアゲートを開ける) が OFF となり、キーの電池消耗を抑えることができます。
節電機能が ON の状態でも、キーのスイッチ操作は有効です。ただし、キーの作動表示灯は点灯/点滅しません。

節電機能を ON にするとき

1. キーのロックスイッチを 3 秒以内に 4 回押す。
   キーの作動表示灯が点灯します。
2. キーの作動表示灯が消灯するまで、ロックスイッチを押し続ける。
   非常点滅表示灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動し、節電機能が ON になります。

節電機能を OFF にするとき

1. キーのロックスイッチを 3 秒以内に 4 回押す。
   キーの作動表示灯が点灯します。
2. キーの作動表示灯が消灯するまで、ロックスイッチを押し続ける。
   非常点滅表示灯とチャイムがそれぞれ 1 回作動し、節電機能が OFF になります。

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムについて*

アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステムには、キーを取り出すことなく次のことができる機能があります。

・エンジンを始動する。
・ドア、フューエルリッド、リアゲートを施錠/解錠する。
・リアゲートを開ける。

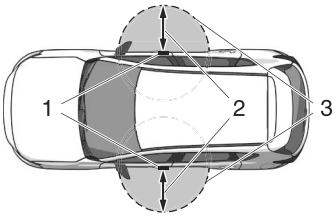
知識

キーの節電機能が ON になっている場合、アドバンストキーレスエントリー＆プッシュボタンスタートシステムは作動しません。アドバンストキーレスエントリー＆プッシュボタンスタートシステムが作動しない場合は、キーの節電機能が ON になっていないか確認してください。節電機能が ON になっているときは、キーの作動表示灯が点灯/点滅しません。節電機能が ON になっているときは節電機能を OFF にしてください。
→4-8 ページ「キーの便利な使いかた」

アドバンストキーレスエントリー＆プッシュボタンスタートシステムの使いかた

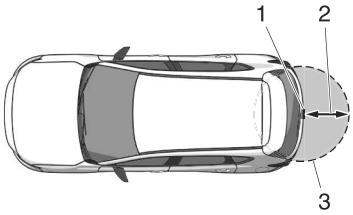
キーを携帯して作動範囲に入り、所定の操作をしたときのみ作動します。

タッチセンサーによる施錠/解錠



1 車外のアンテナ
2 80 cm
3 作動範囲

電磁式リアゲートオープナーによる解錠/ロックスイッチによる施錠



1 車外のアンテナ
2 80 cm
3 作動範囲

知識

次のような場合は、キーの作動範囲が狭くなったり、作動しなくなったりすることがあります。

・電池が消耗しているとき
・強い電波、ノイズを受けているとき
・節電機能が ON のとき

知識

・窓ガラス、ドアハンドル、リアゲートに近づきすぎたとき

次のような場所にキーを置くと、エンジンの始動ができない場合があります。

・インストルメントパネルの周辺
・グローブボックスや小物入れなど

次のような場所にキーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては、キーが車内にあってもドアが施錠される場合があります。

・インストルメントパネルの周辺
・グローブボックスや小物入れなど
・携帯電話などの通信機器の近く

荷室は作動範囲外ですが、エンジンの始動が可能になることがあります。
車外からでも、ドアや窓ガラスに近づきすぎた場合は、エンジンの始動が可能になることがありますが、エンジンの始動は必ず運転席で行なってください。

ドア

ドア使用上の警告・注意

⚠ 警告

ドアを閉めた後は、確実にドアが閉まっていることを確認する。
半ドアのまま走行すると、不意にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認する。
ドアを急に開けると、後続車や歩行者がぶつかるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまにドアの開閉をさせない。
手、足、首などをはさみ、重大な傷害につながるおそれがあります。

半ドア警告灯/警告表示が点灯/表示したまま走行しない。
走行中にドアが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

ドアを開閉するときは、強風や傾斜など周囲の状況を確認して開閉してください。指をはさんだり、ドアが通行人にあたったりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ドアの使いかた

5 つの方法でドアを施錠/解錠することができます。
施錠するときはキーの閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してください。

キーで施錠/解錠する

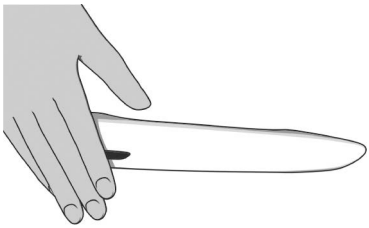
キーでの施錠/解錠方法については「キーの使いかた」の項目を参照してください。
→4-6 ページ「キーの使いかた」

タッチセンサーで施錠/解錠する (アドバンストキーレス機能装備車)

施錠

次の条件をすべて満たしているとき、施錠用タッチセンサーの感知エリアに触れる。

・車両の電源が OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき
・キーがタッチセンサーの作動範囲内にあるとき

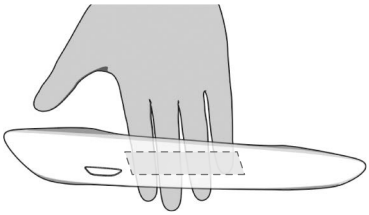


非常点滅表示灯とチャイムが 1 回作動し、すべてのドア、リアゲートおよびフューエルリッドが施錠されます。

解錠

次の条件をすべて満たしているとき、解錠用タッチセンサーの感知エリアに触れる。

・車両の電源が OFF のとき
・運転席ドアが施錠されているとき
・施錠してから 3 秒以上経っているとき
・キーがタッチセンサーの作動範囲内にあるとき



非常点滅表示灯とチャイムが 2 回作動し、すべてのドア、リアゲートおよびフューエルリッドが解錠されます。

知識

次のようなときは、システムが正常に作動しないことがあります。

知識

・施錠用タッチセンサーの感知エリアと解錠用タッチセンサーの感知エリアに、同時に触れたとき



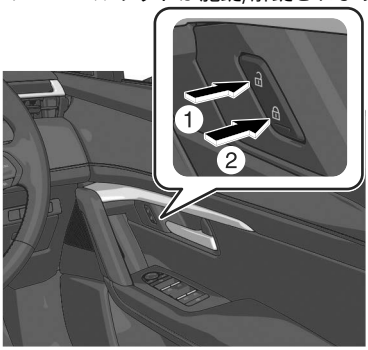
・手袋を着用してタッチセンサーの感知エリアに触れたとき
・タッチセンサーの感知エリアに、水、氷、雪、汚れなどの異物が付着しているとき

キーが作動範囲内にある状態で、洗車や雨などでフロントドアの外側ドアハンドルに水がかかると、システムが作動することがあります。

ロックスイッチで施錠/解錠する

運転席ドアにあるロックスイッチ

すべてのドア、リアゲートおよびフューエルリッドが施錠/解錠されます。



1 解錠
2 施錠

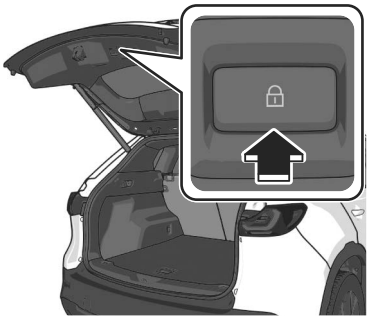
知識

ロックスイッチを押して施錠が行なわれた後、キーが車内にある状態でリアゲートが最後に閉まると、リアゲートは施錠されません。

リアゲートにあるロックスイッチ (アドバンストキーレス機能装備車)

パワーリアゲート装備車
→4-21 ページ「パワーリアゲートの使いかた」
パワーリアゲート非装備車
次の条件をすべて満たしてドアロックスイッチを押し、リアゲートを閉めます。

・キーを携帯しているとき
・車両の電源が OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき



すべてのドア、リアゲートおよびフューエルリッドが施錠されます。
施錠が行なわれると、非常点滅表示灯とチャイムが 1 回作動します。

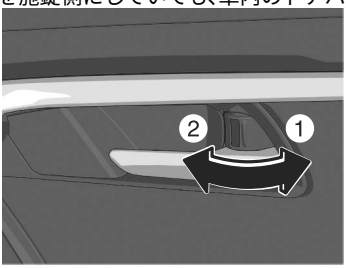
知識

キーの閉じ込みを防止するために、キーを持っていることを確認してから施錠してください。

ロックスイッチを押して施錠が行なわれた後、キーが車内にある状態でリアゲートが閉まると、リアゲートが解錠されます。

ドアロックノブで施錠/解錠する

ドアロックノブを操作したドアのみ施錠/解錠します。
フロントドアは、ドアロックノブを施錠側にしていても、車内のドアハンドルを引くとドアが開きます。



1 解錠
2 施錠

車外からロックノブを使って施錠するとき

ドアを開けた状態でロックノブを施錠側にした後、ドアを閉めると施錠できます。

知識

次の場合はキー閉じ込めを防止するため、解錠されます。

・車両の電源が ACC または ON のときに、いずれかのドアまたはリアゲートが開いている状態で、運転席ドアのロックノブを施錠側にする。
・キーが車内に残っている。

車速感応式オートドアロック機能で施錠する

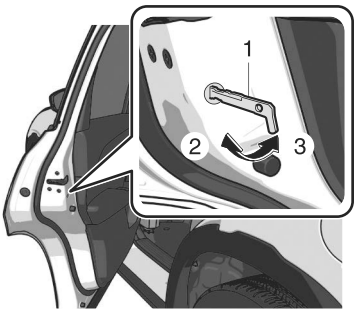
・車速が 20 km/h を超えると、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートが施錠されます。
・車両の電源が ON の状態でセレクトレバーを P の位置にすると、すべてのドア、フューエルリッド、リアゲートが自動的に解錠されます。
この機能が作動しないように設定できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

チャイルドプルーフを使用する

お子さまをリアシートに乗せているとき、いたずらなどで不意にドアが開くことを防止できます。

1. リアドアを開く。
2. 補助キーを取り出す。
→8-12 ページ「補助キーを使って解錠する」
3. チャイルドプルーフを施錠側にする。
リアドアを閉めると、車内のドアハンドルで開くことができなくなります。
チャイルドプルーフを使用しないときは、チャイルドプルーフを解錠側にしてください。



1 補助キー
2 施錠
3 解錠

衝撃感知ドアロック解除システム

事故などで強い衝撃を受けたときに、すべてのドア、リアゲートを自動的に解錠するシステムです。自動的に解錠することで、車外から乗員を救出できるようにします。
車両の電源が ON のときに、強い衝撃を受けると、約 6 秒後にすべてのドア、リアゲートが自動的に解錠します。ただし、衝撃の加わりかたや強さ、事故の状況によってはドアおよびリアゲートが自動的に解錠されないことがあります。

ドアの便利な使いかた

エリア離脱式オートロック機能

タッチセンサーの作動範囲から出ると、自動的に施錠されるよう設定できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。
キーを携帯して、すべてのドア、リアゲートを閉めると、チャイムが 1 回鳴ります。
そのまま作動範囲から出ると、自動的に施錠されます (作動範囲から出なくても、約 30 秒後に自動的に施錠されます)。

知識

次のようなときは施錠されません。

・車内に別のキーがあるとき
・運転席ドアが既に施錠されているとき

オートリロック機能

タッチセンサーの感知エリアに触れるまたはキーで解錠した後に、約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合は、オートリロック機能により自動的に施錠されます。

・いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
・車両の電源を OFF 以外にする。

自動的に施錠されるまでの時間を変更できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

リアゲート

リアゲート使用上の警告･注意

⚠ 警告

ラゲッジルーム内に人を乗せない。
急ブレーキ時や衝突時に重大な傷害につながるおそれがあります。

リアゲートは必ず閉めてから走行する。
走行中にリアゲートが開くと、荷物などが落ちて思わぬ事故につながるおそれがあります。また開けたまま走行すると、車内に排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

荷物を積むときはそのまま置いたり積み重ねたりせず、確実に固定する。
走行中に荷物が移動したりくずれたりしてけがや思わぬ事故につながるおそれがあります。また、シート背もたれの高さを越えないようにしてください。後方、側面の視界が悪くなるため危険です。

⚠ 警告

リアゲートを閉めた後は、リアゲートが確実に閉まっていることを確認する。
全閉していない状態で走行すると、人や物が車外に転落するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアゲート開警告表示が表示したまま走行しない。
走行中にリアゲートが開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

リアゲートを開ける前に、リアゲートから雪や氷などの付着物を取り除いてください。リアゲートを開けたときに、雪や氷などの重みでリアゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。

強風時にリアゲートを開閉するときは、風にあおられないよう注意して開閉してください。リアゲートが急に閉まり、けがをするおそれがあります。

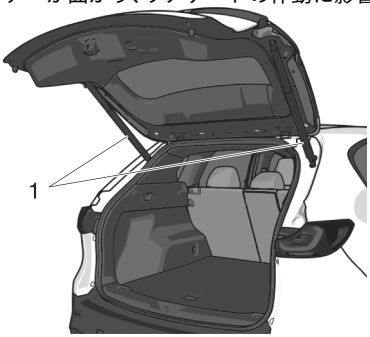
リアゲートを開けるときは全開にして、リアゲートが止まることを確認してください。リアゲートを途中で止めると、振動や突風などでリアゲートが閉まり、けがをするおそれがあります。

傾斜地ではリアゲートの位置に注意してください。傾斜が急な場所ではリアゲートが全開位置から下がってきて、手や頭がはさまれるなど、けがをするおそれがあります。

ラゲッジルームの荷物を出し入れするときは、エンジンを止めてください。排気熱によりやけどをするおそれがあります。

リアゲートを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

リアゲートのダンパーステーに手をかけるなどして過度の力を加えないでください。ダンパーステーが曲がり、リアゲートの作動に影響をおよぼすおそれがあります。



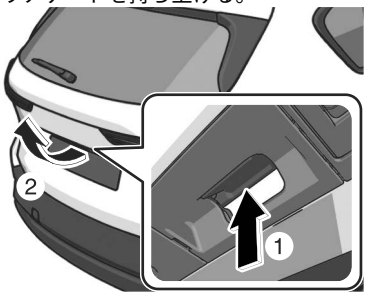
1 ダンパーステー

リアゲートのダンパーステーを改造または交換しないでください。衝突などで変形または破損した場合や、異常を感じた場合はマツダ販売店へご相談ください。

リアゲートの使いかた

リアゲートを開けるとき

1. 車両を停止する。
2. ドアを解錠する。
3. 電磁式リアゲートオープナーを押す。
4. リアゲートを持ち上げる。

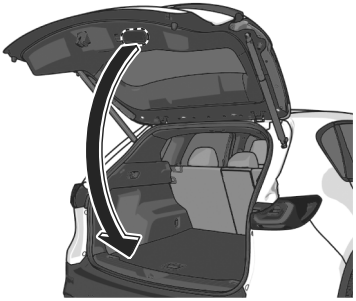


知識

(アドバンストキーレス機能装備車)
キーを携帯した状態で電磁式リアゲートオープナーを押すと、ドアとリアゲートが施錠されていてもリアゲートを開けることができます。

リアゲートを閉めるとき

1. リアゲートリセスを使用して、リアゲートをゆっくりと下げる。
2. リアゲートを押さえつけるように閉める。



パワーリアゲートについて*

キーのスイッチまたは車両の各種スイッチを操作することにより、リアゲートが自動で開閉します。
自動開閉中のリアゲートを、半開以上の位置で止めることができます。
半開以下の場合は、自動的に閉まります。

ハンズフリー機能*

荷物を持つなどして両手がふさがっている際に、キック動作でリアゲートを開閉することができます。
→4-21 ページ「パワーリアゲートの使いかた」

リアゲートイージークロージャー

イージークロージャーは、リアゲートが閉まるのを補助する装置です。
リアゲートを半ドア位置まで閉めると、自動的に全閉位置まで閉まります。

知識

リアゲートの開閉を短期間に繰り返すと、イージークロージャーが作動しないことがあります。約 2 秒待ってから閉めなおしてください。

はさみ込み防止機能

人や障害物を感知して、リアゲートにはさみ込まれることを防止します。
リアゲートの自動開閉中に人や障害物などのはさみ込みを感知すると、ブザーが鳴ってリアゲートが反対方向へ動いた後、停止します。

知識

リアゲートイージークロージャー作動中は、はさみ込み防止機能は作動しません。

パワーリアゲート使用上の警告・注意

警告

リアゲートを自動で開閉するときは、リアゲート付近の安全を必ず確認する。
安全確認を怠ると、リアゲートが開くときにリアゲートと障害物の間にはさまったり、リアゲートが閉まるときに車両にはさまれたりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

リアゲートを自動で開閉するときは、リアゲートから目を離さない。
障害物などがあると、はさみ込み防止機能により全閉しないことがあります。全閉していない状態で走行すると、人や物が車外に転落するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

お子さまにスイッチの操作をさせない。
お子さまが誤って操作してリアゲートが不意に開閉すると、お子さまや同乗者の手や頭がはさまれるなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 警告

リアゲートを閉める前に、リアゲート付近に人や障害物がないことを必ず確認する。
はさみ込み防止機能は、万一のときに人や障害物を感知してリアゲートにはさまれることを防ぐためのものです。また、はさまれかたや形状によっては、はさみ込みを感知できない領域があります。特にお子さまには十分気をつけてください。指などをはさむとけがをするおそれがあります。

⚠ 注意

リアゲートを閉めるときは、ストライカー付近に異物がないことを確認してください。異物をはさみ込むと、リアゲートが正常に閉まらなくなるおそれがあります。



1 ストライカー

リアゲートに、この車両専用のアクセサリー用品以外を取り付けないでください。リアゲートが自動で開閉できず、故障につながるおそれがあります。

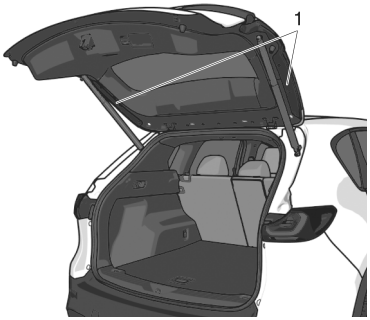
リアゲートの開閉が自動から手動に切り替わる際、リアゲートの位置によってはリアゲートが不意に開閉し、けがをするおそれがあります。

リアゲートを閉めるときは、指などをはさまないように注意してください。半ドア位置まで閉めると自動的に全閉位置まで閉まるため、指などをはさむとけがをするおそれがあります。

リアゲートを閉めるときは、無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、システムの故障の原因になります。

リアゲートの両端にはセンサーがついています。センサーを鋭利なもので傷つけないようにしてください。センサーが切断されると、リアゲートを自動で開閉できなくなります。また、自動で閉めているときにセンサーが切断されると、リアゲートは停止します。

⚠ 注意



1 センサー

(ハンズフリー機能装備車)

- リアバンパーを塗装したり、リアバンパーに付加部品を取り付けたりしないでください。ハンズフリーセンサーが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- リアゲート付近でお客さま自身がキーを携帯しているとき、またはリアゲート付近にキーを携帯した人がいるときは、次のようなことをしないでください。ハンズフリーセンサーが作動して意図せずリアゲートが開閉し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  意図しない作動を防ぐためには、キーを作動範囲外に置くか、マツダコネクトを使用してハンズフリー機能を OFF にしてください。
  - キーを携帯していない人が、キック動作をする。
  - リアゲートが開いている状態で、荷室に腰かけて足を揺らす。
  - リアバンパー付近で、ボディーカバーの着脱や雪かきなどの作業をする。
  - リアバンパーの下に落ちている物を拾う。
  - 高圧洗車機を使用するなどして、リアバンパーに水をかける。
  - ショッピングカートなどをリアバンパーに近づける。
  - 動物やボールなど、動く物をリアバンパーに近づける。

パワーリアゲートの使いかた

知識

次のような場合は、リアゲートが自動で開閉しないことがあります。

・坂道などの傾斜地に停車しているとき
・風が強いとき

知識

・リアゲートに雪が積もっているとき

リアゲートが開いた状態でバッテリーの接続を断つと、リアゲートが自動で開閉しなくなります。自動で開閉する機能を復帰させるには、リアゲートを手動で全閉してください。

リアゲートを自動で開けるとき、積雪などにより重みを感知すると、ブザーが鳴って反対方向に動いた後、停止します。

リアゲートが自動で開閉しているときに、セレクトレバーを別の位置にして車両を動かすと、ブザーが鳴り閉まります。

次の操作を行なうと、非常点滅灯が 2 回作動してブザーが鳴り、リアゲートが自動で全開/全閉します。

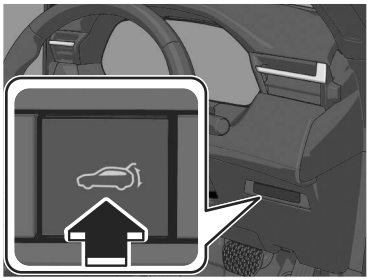
キーのリアゲート開閉スイッチ (HOLD) で開閉するとき

キーのリアゲート開閉スイッチでの操作方法については「キーの使いかた」の項目を参照してください。
→4-6 ページ「キーの使いかた」

パワーリアゲートスイッチで開閉するとき

次の条件をすべて満たしているときに、パワーリアゲートスイッチを 1 秒以上押す。

・車両の電源が ON 以外のとき、または、車両の電源が ON でセレクトレバーが P の位置にあるとき
・すべてのドアが解錠されているとき (開けるとき)



電磁式リアゲートオープナーで開けるとき

次の条件をすべて満たしているときに、電磁式リアゲートオープナーを押す。

・車両の電源が ON 以外のとき、または、車両の電源が ON でセレクトレバーが P の位置にあるとき
・すべてのドアが解錠されているとき

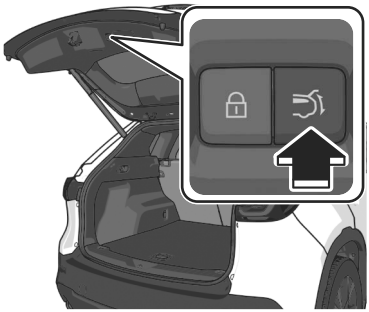
知識

キーを携帯して電磁式リアゲートオープナーを押すと、施錠されている状態でもリアゲートを開けることができます。

パワーリアゲートクローズスイッチで閉めるとき

次の条件をすべて満たしているとき、パワーリアゲートクローズスイッチを押す。

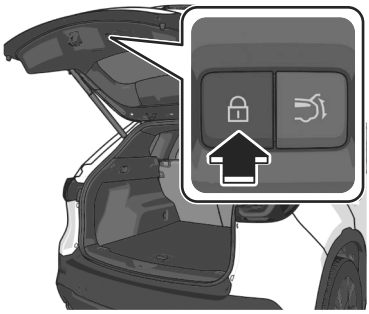
・車両の電源が ON 以外のとき、または、車両の電源が ON でセレクトレバーが P の位置にあるとき



リアゲートにあるロックスイッチで閉めるとき*1

次の条件をすべて満たしているとき、リアゲートのロックスイッチを押す。

・キーを携帯しているとき
・車両の電源が OFF のとき
・すべてのドアが閉まっているとき
・リアゲートが自動開閉中ではないとき



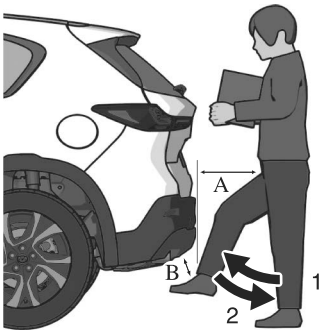
すべてのドア、フューエルリッドが施錠され、非常点滅灯とチャイムが 1 回作動します。
その後、リアゲートが自動で全閉します。

ハンズフリー機能で開閉するとき*1

停車時に次の条件をすべて満たしているとき、キック動作をする。

・キーを携帯しているとき
・ハンズフリー機能が ON のとき

・車両の電源が ON 以外のとき、または、車両の電源が ON でセレクトレバーが P の位置にあるとき



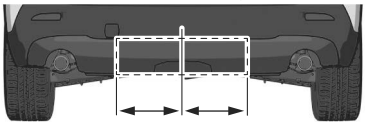
A : 約 30 cm～50 cm
B : 約 10 cm

⚠ 注意

- サンダルなどの足が露出している靴を履いてキック動作をしないでください。熱くなっている排気管に足が触れると、やけどをするおそれがあります。
- 坂道や凍結した路面など、足場が不安定な状態でキック動作をしないでください。転んでけがをするおそれがあります。

知識

・ハンズフリーセンサーは、リアバンパー中央から左右に約 30cm ずつの範囲を感知します。



・次のようなときは、ハンズフリーセンサーが正常に作動しないことがあります。

・感知範囲内に足を入れたままのとき
・感知範囲内で足を左右に動かしたとき
・キック動作が早すぎるとき、または遅すぎるとき
・キック動作時に、足がリアバンパーに触れたとき
・ゴム長靴など、電気を通しにくい靴を履いているとき
・車両の近くに、強い電波を発生する設備があるとき
・ハンズフリーセンサーの感知範囲が汚れているとき

・ハンズフリーセンサーの感知範囲が汚れているときは、きれいな布でふいてください。キーを作動範囲外に置くか、マツダコネクトを使用してハンズフリー機能を OFF にしてから行なってください。
・条件を満たしているのにハンズフリーセンサーによる操作ができない場合は、マツダ販売店にご相談ください。

ハンズフリー機能 ON/OFF 切り替え

ハンズフリー機能の ON/OFF を切り替えることができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。
意図しない作動を防ぎたいときは、機能を OFF にしてください。

リアゲートを止めるとき

次のいずれかの操作をすると、リアゲートの自動開閉が止まります。

・キーのリアゲート開閉スイッチを押す。
・パワーリアゲートスイッチを押す。
・電磁式リアゲートオープナーを押す。
・パワーリアゲートクローズスイッチを押す。
・リアゲートにあるロックスイッチを押す。
・キック動作をする。

知識

半開以下の場合は、リアゲートを止めることができません。リアゲート自体の重量によって、閉じる方向に動きます。
キック動作でリアゲートを止める際は、キーを持っていなくてもリアゲートの自動開閉を止めることができます。

リアゲートを再度動かすとき

次のいずれかの操作をすると、リアゲートは停止前に動いていた方向とは逆の方向に動きます。

・キーのリアゲート開閉スイッチを 1 秒以上押す。
・パワーリアゲートスイッチを約 1 秒以上押す。
・電磁式リアゲートオープナーを押す。
・パワーリアゲートクローズスイッチを押す。

リアゲートにあるロックスイッチを押すと、リアゲートは自動で全閉します。

パワーリアゲートの便利な使いかた

お客さまの車庫の高さなどにあわせて、リアゲートの全開位置を変えることができます。

全開位置を変更するとき

1. リアゲートをお好みの位置で止める。
   半分よりも開いた止まる位置で設定することができます。
2. パワーリアゲートクローズスイッチを 3 秒以上押す。
   ブザーが 2 回鳴り、変更が完了したことをお知らせします。

設定した全開位置をリセットするとき

1. リアゲートを開ける。
2. パワーリアゲートクローズスイッチを 7 秒以上押す。
   ブザーが 3 回鳴り、リセットが完了したことをお知らせします。

知識

スイッチを押し始めてから 3 秒後にブザーが 2 回鳴りますが、これはリアゲートの全開位置の変更をお知らせするためのブザーです。リセットを完了させるためには、7 秒間スイッチを押し続けてください。

ボンネット

ボンネット使用上の警告・注意

警告

ボンネットが確実に閉まっていることを確認する。
走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

半ドア警告表示が表示したまま走行しない。
走行中にボンネットが開くと視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

注意

エンジンカバーを開けたまま、ボンネットを閉めたりボンネットを全開位置にしたりしないでください。エンジンカバーが破損して、けがをするおそれがあります。
エンジンカバーの開閉については、「点検項目と点検箇所」を参照してください。
→9-4 ページ

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さえつけないでください。ボンネットがへこむおそれがあります。

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。万一、手などをはさむと、けがをするおそれがあります。

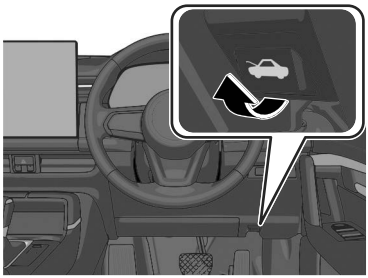
エンジンルームを点検したときは、工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れると、エンジンを損傷したり、火災につながったりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ステーを動かすときは、パット部を持ってください。エンジンの排気熱によりやけどをするおそれがあります。

ボンネットの使いかた

ボンネットを開けるとき

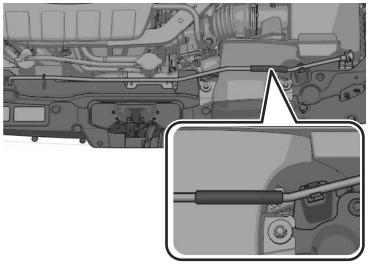
1. ボンネットオープナーを引く。
   ボンネットが少し浮き上がります。



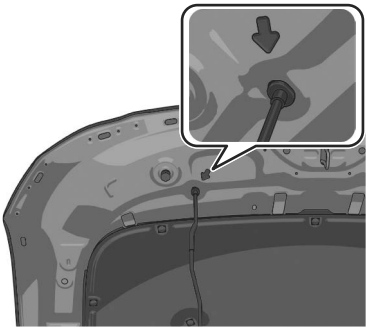
2. ボンネットのすき間に手を入れ、レバーを矢印の方向に倒したままボンネットを持ち上げる。



3. ボンネットを維持したままパッド部を持ってステーを起こす。

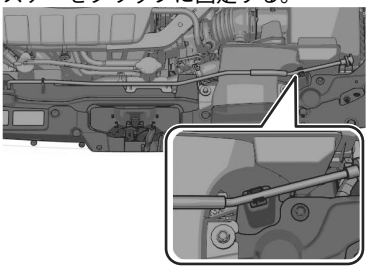


4. 矢印で示す、ボンネットのステー穴位置にステーをあわせてボンネットを下ろす。



ボンネットを閉めるとき

1. エンジンルームに工具などが残されていないことを確認する。
2. ボンネットを手で支えながら、パッド部を持って、ステーをはずす。
3. ステーをクリップに固定する。



4. ボンネットをゆっくり下ろし、約 20 cm の高さから手を離して閉める。

ウインドー

パワーウインドーについて

パワーウインドーには、2 つの機能があります。

自動開閉機構

パワーウインドースイッチを操作し続けなくても、窓ガラスを全開/全閉できます。

知識

窓ガラスが全閉していない状態でパワーウインドースイッチを何度も操作すると、自動開閉機構が作動しなくなることがあります。
→8-29 ページ「自動開閉機構を復帰する」

はさみ込み防止機構

窓ガラスが閉まる途中に、窓ガラスと窓枠との間に異物のはさみ込みを感知すると、窓ガラスが停止し、少し開きます。

知識

次のようなときも、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
→8-29 ページ「はさみ込み防止機構を解除する」

・窓ガラスが閉まる途中に強い衝撃を感知したとき
・極低温下で窓ガラスを閉めたとき

パワーウインドー使用上の警告･注意

警告

窓ガラスを閉めるときは、同乗者の手や顔などをはさまないように注意する。
特にお子さまには十分気をつけてください。万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにパワーウインドースイッチを操作させない。
万一、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまが同乗しているときは、パワーウインドーロックスイッチをロックの位置にしておく。
お子さまが誤ってパワーウインドースイッチを操作したとき、手や顔などをはさむと重大な傷害につながるおそれがあります。

ウインドーが完全に閉じる直前、またはパワーウインドースイッチ引き続けている間は、ウインドーをさえぎるものがないことを確認する。
はさみ込み防止機構ではウインドーが完全に閉じるのを防止できない場合があります。指を挟むと重大な傷害につながるおそれがあります。

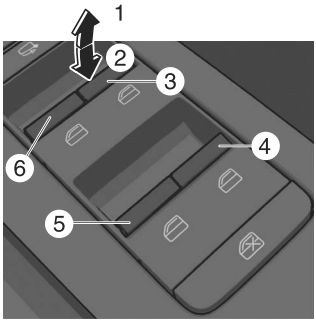
窓から手や顔を出させない。
走行中にお子さまが窓から手や顔を出さないよう注意してください。車外の物にあたったり、急ブレーキを踏んだりしたとき、重大な傷害につながるおそれがあります。

パワーウインドーの使いかた

ウインドーの開閉

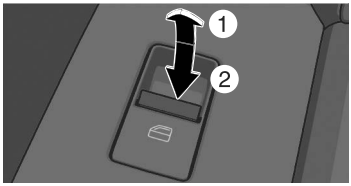
1. 車両の電源を ON にする。
2. パワーウインドースイッチを操作する。
   ウインドーを自動的に全開にするには、パワーウインドースイッチを完全に押し下げてからスイッチから手を離す。
   ウインドーを自動的に全閉にするには、パワーウインドースイッチを完全に引き上げてからスイッチから手を離す。
   窓ガラスの開閉を途中で止めるときは、スイッチを逆方向に軽く操作してください。

運転席



1 閉める
2 開ける
3 運転席側スイッチ
4 後席右側スイッチ
5 後席左側スイッチ
6 助手席側スイッチ

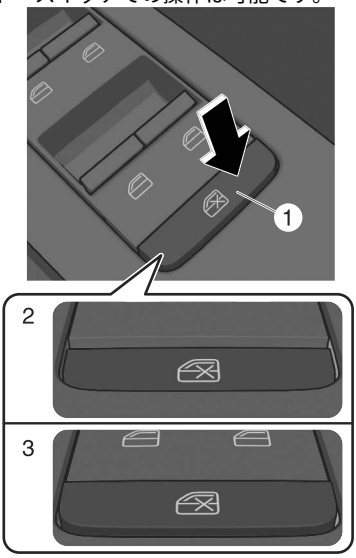
助手席/後席



1 閉める
2 開ける

助手席/後席のウインドー操作をロックする

運転席ドアにあるパワーウインドーロックスイッチをロックの位置にすると助手席と後席のパワーウインドースイッチでの開閉操作をロックできます。
運転席ドアにあるパワーウインドースイッチでの操作は可能です。



1 パワーウインドーロックスイッチ
2 ロック位置
3 アンロック位置

知識

パワーウインドースイッチを長時間操作し続けると、窓ガラスを開閉できなくなることがあります。
窓ガラスを開閉できないときは、しばらく待ってから再度スイッチを操作してください。

パワーウインドーの便利な使いかた

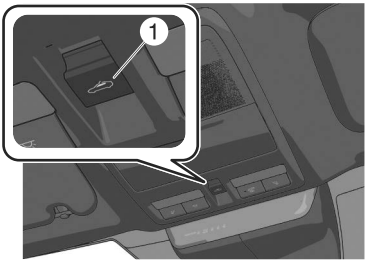
キー OFF 後作動機能

車両の電源を ACC または OFF にした後でも、約 40 秒間は全席の窓ガラスを開閉できます。

パノラマサンルーフ

パノラマサンルーフについて*

前席頭上のチルト/スライドスイッチを操作するとパノラマサンルーフの開閉ができます。



1 チルト/スライドスイッチ

はさみ込み防止機構

パノラマサンルーフを自動で閉めているときに異物のはさみ込みを感知すると、自動的にパノラマサンルーフが停止し、途中まで開きます。

知識

パノラマサンルーフの初期設定をしていないときは、はさみ込み防止機構は作動しません。
→8-29 ページ「パノラマサンルーフの初期設定をする」

パノラマサンルーフ使用上の警告・注意

警告

パノラマサンルーフを閉めるときは、同乗者の手や頭などをはさまないように注意する。
万一、手や頭をはさむと、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにチルト/スライドスイッチの操作をさせない。
万一、手や頭をはさむと、重大な傷害につながるおそれがあります。

走行中は、開口部から手や頭などを出さない。
走行中に車外のものにあたったり、急ブレーキをかけたときに重大な傷害につながるおそれがあります。

走行中は、乗員を立ち上がらせて、開口部から体の一部を伸ばしたりしない。
パノラマサンルーフから頭、腕、または体の他の部分を伸ばすのは危険です。走行中に頭や腕が何かにぶつかり、死傷事故につながるおそれがあります。

 *グレード/仕様別装備

⚠警告

パノラマサンルーフが完全に閉じる直前は、パノラマサンルーフをさえぎるものがないことを確認する。
はさみ込み防止機構ではパノラマサンルーフが完全に閉じるのを防止できない場合があります。
指を挟むと重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠注意

パノラマサンルーフの開口部に腰をかけたり、重い荷物を載せないでください。パノラマサンルーフが破損するおそれがあります。

凍結時や降雪時には無理に開閉しないでください。故障につながるおそれがあります。

パノラマサンルーフの使いかた

サンシェードの操作

1. 車両の電源を ON にする。
2. チルト/スライドスイッチを後方に引く。
   サンシェードが開きます。



3. チルト/スライドスイッチを前方に押す。
   サンシェードが閉まります。



途中で止めるときは、開閉方向と逆向きにスイッチを操作してください。

チルト操作

1. チルト/スライドスイッチを上方に押す。
   サンシェードが少し開き、パノラマサンルーフの前側ガラスパネルの後部が上に開きます。



2. チルト/スライドスイッチを前方に押す。
   パノラマサンルーフとサンシェードが閉まります。



途中で止めるときは、開閉方向と逆向きにスイッチを操作してください。

スライド操作

1. サンシェードを開く。
2. チルト/スライドスイッチを後方に引く。
   パノラマサンルーフが開きます。



3. チルト/スライドスイッチを前側に押す。
パノラマサンルーフが閉まります。



途中で止めるには、開閉方向と逆向きにスイッチを操作してください。

盗難防止システム

イモビライザーシステムについて

イモビライザーシステムは、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できないようにする車両盗難防止装置です。
イモビライザーシステムやキーに問題がある場合は、マツダ販売店にご相談ください。

イモビライザーシステム使用上の警告・注意

⚠ 注意

イモビライザーシステムやキーの故障を防ぐために次のことをお守りください。

- システムを改造したり、付加部品を取り付けたりしないでください。
- キーに強い衝撃を与えたり、ぬらしたりしないでください。
- キーに磁気を帯びた製品を近づけないでください。
- キーをインストルメントパネルやボンネットの上など直射日光があたる場所や高温になるところに放置しないでください。

イモビライザーシステムの使いかた

システムの作動

車両の電源を ON から ACC または OFF にすると、システムが作動してセキュリティ表示灯が点滅します。

システムの解除

車両の電源を ON にすると、システムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

バーグラアラームシステムについて*

バーグラアラームシステムは車両や車内の貴重品が盗難にあわないように警戒状態にする車両盗難警報装置です。
不正な侵入をしようとすると、ホーンや非常点滅表示灯で周囲に異常を知らせます。
システムは、正しく設定されていないと作動しません。車から離れるときは、設定手順に従って正しく設定してください。

バーグラアラームシステムに異常が見られる場合はマツダ販売店にご相談ください。

バーグラアラームシステム使用上の警告･注意

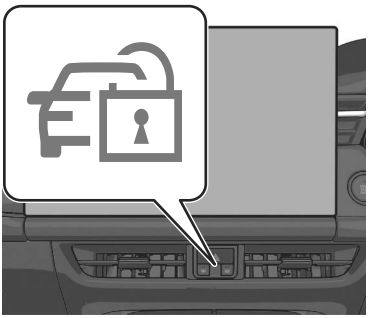
⚠ 注意

バーグラアラームシステムの故障を防ぐため､システムを改造したり､付加部品を取り付けたりしないでください。

バーグラアラームシステムの使いかた

バーグラアラームシステムを設定する

1. 窓ガラスとパノラマサンルーフを確実に閉めます。
2. 車両の電源を OFF にします。
3. すべてのドアとボンネット､リアゲートが閉まっていることを確認します。
4. ドアを施錠します。
   非常点滅表示灯が 1 回点滅します。
   セキュリティ表示灯が 20 秒間､毎秒 2 回点滅します。



5. 20 秒後に警戒状態へ設定されます。

知識

すべてのドア､ボンネット､リアゲートを閉めた状態で､キーのアンロックスイッチを押して解錠した後､約 30 秒以内に次のいずれの操作も行なわなかった場合､自動的に施錠され､バーグラアラームシステムが再設定されます。

・いずれかのドアまたはリアゲートを開ける。
・車両の電源を OFF 以外にする。

キーのロックスイッチを押した後､20 秒以内に次の操作をした場合､警戒状態へは設定されません。
再度設定するには､最初から操作を行なってください。

・いずれかのドアを解錠する。
・いずれかのドアを開ける。
・ボンネットを開ける。

知識

・車両の電源を ON にする。

警戒中にキーのロックスイッチでドアを施錠すると、警戒状態であることを示す非常点滅表示灯が 1 回点滅します。

警報の作動条件

次のいずれかを行なうと、約 30 秒間ホーンが鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

・補助キー、ドアロックスイッチ、ロックノブのいずれかで解錠する。
・ドア、ボンネット、リアゲートのいずれかを無理に開ける。
・ボンネットを開ける。
・プッシュボタンスタートを使わずに車両の電源を ON にする。

ドアまたはリアゲートがキーのアンロックスイッチまたはタッチセンサーで解錠されるまでホーンが鳴り、非常点滅表示灯が点滅します。

知識

バーグラアラームシステム作動中はリアゲートが開きません。

警戒状態のままで 12V バッテリーがあがった場合は、12V バッテリーを充電、または交換するときにホーンが鳴り、非常点滅表示灯が点滅することがあります。

警報を停止する

作動中の警報は次のいずれかの操作で停止します。

・キーのアンロックスイッチを押す。
・プッシュボタンスタートを操作してエンジンを始動する。
・タッチセンサーの感知エリアに触れる。
・キーを携帯して電磁式リアゲートオープナーを押す。

警戒状態が解除されると、非常点滅表示灯が 2 回点滅します。

バーグラアラームシステムを解除する

次のいずれかの操作で警戒状態が解除されます。

・キーのアンロックスイッチを押す。
・プッシュボタンスタートを操作してエンジンを始動する。
・タッチセンサーの感知エリアに触れる。

警戒状態が解除されると、非常点滅表示灯が 2 回点滅します。

リアシートアラート

リアシートアラートについて

リアシートアラートは、リアシートに乗員が取り残されたり、荷物を置き忘れたりしていないかの確認を運転者に促すシステムです。
リアシートアラートはリアドアの開閉操作履歴により、リアシートに乗員や荷物を載せている可能性があるとシステムが判断します。そのため、リアシートに乗員や荷物を載せていても起動しないなど、実際の車両の状況とは異なる動作をすることがあります。

リアシートアラート使用上の警告・注意

⚠ 警告

システムを過信しない
リアシートアラートは乗員や荷物をセンサーで検知するシステムではありません。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
お車を離れるときは、必ず目視にてリアシートの状況を確認してください。

リアシートアラートの使いかた

次のいずれかの操作を行なうと、メーターにシステムが起動したことをお知らせするメッセージが表示されます。
メッセージが表示されることを確認してください。
しばらくするとメッセージは消えます。
リアシートアラートが不要なときは、メッセージに従ってシステムを一時的に停止することができます。

・リアドアを開けて、エンジンを始動する。
・リアドアを開閉した後、約 10 分以内にエンジンを始動する。
・エンジンを始動した後、リアドアを開ける。
・システムが起動中に電源ポジションを ON にする。

システムが起動中に電源ポジションを OFF にすると、メーターのメッセージと警報音でリアシートに乗員や荷物がある可能性をお知らせします。しばらくするとメッセージは消えます。
メーターのメッセージが消えた後に運転席ドアを開閉すると、メーターのメッセージと警報音でリアシートに乗員や荷物がある可能性を再度お知らせします。

起動中のシステムを解除するときは、次のいずれかの操作を行ないます。

・電源ポジションを ACC または OFF にして、リアドアを開ける。
・再度電源ポジションを ON にして、エンジン始動前にリアドアを開ける。
・リアドアを開けて、電源ポジションを ACC または OFF にする。
・メーターのメッセージに従ってシステムを一時的に停止する。

知識

リアシートアラートはリアドアの開閉操作履歴により、リアシートに乗員や荷物を載せた可能性があると判断します。そのため、使いかたによってはリアシートに乗員や荷物を載せていても起動しない場合や、載せていなくても起動する場合があります。システムは、解除されるまで起動を継続します。

リアシートに乗員や荷物を載せていても起動しない場合の例

・リアドアを短時間で開閉した
・コネクティッドサービスのリモートエンジンスタート*を使用した
・バッテリーの充電量が低下した
・バッテリーの接続を断った

リアシートに乗員や荷物を載せていなくても起動する場合の例

・リアドアを短時間で開閉した
・リアドアを開閉したが、何も載せなかった
・エンジンを始動しているときに乗員や荷物を降ろした

リアシートアラートを一時的に停止するとき

メーターにリアシートアラートに関するメッセージが表示されているときは、運転者の操作によってシステムを一時的に停止することができます。
メーターに表示されているメッセージに従って操作してください。 メーターに“画面切り替えスイッチの長押しで リアシート アラートを 一時的に停止します”のメッセージが表示されているとき、画面切り替えスイッチを 2 秒以上押します。
一時停止するとチャイムが鳴り、完了したことをお知らせするメッセージが表示されます。しばらくするとメッセージは消えます。

知識

電源ポジションを OFF にすると、一時停止は解除されます。

リアシートアラートを OFF にする

マツダコネクトでリアシートアラートを OFF に設定することができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

次のいずれかの場合、電源ポジションを ON にすると警告灯が 2 回点灯し、システムが停止していることをお知らせします。しばらくすると警告灯は消灯します。

・リアシートアラートを OFF しているとき
・リアシートアラートを一時的に停止しているとき
・コネクティッドサービスによるリモートエンジンスタート*を使用したとき

知識

・バッテリー充電量が低下しているとき

5 運転する

ミラー.....5-8
ドアミラー使用上の警告･注意 5-8
ドアミラーの使いかた..... 5-9
ドアミラーの便利な使いかた 5-10
ルームミラー使用上の警告･注意 5-11
ルームミラーの使いかた.....5-11
ルームミラーの便利な使いかた 5-12

プッシュボタンスタート..... 5-13
プッシュボタンスタートについて 5-13
プッシュボタンスタート使用上の警告･注意.....5-13
プッシュボタンスタートの使いかた.....5-15

M ハイブリッド..... 5-16
M ハイブリッドについて.....5-16
M ハイブリッド使用上の警告･注意.....5-16
M ハイブリッドの使いかた 5-18

i-stop.....5-19
i-stop について..... 5-19
i-stop の使いかた.....5-19

メーター.....5-21
メーターについて..... 5-21
メーターの使いかた.....5-22
スピードメーターについて 5-24
タコメーターについて..... 5-25
オドメーター/トリップメーターについて.....5-25
水温計について.....5-26
燃料計について.....5-26
パネルライトコントロールについて..... 5-27
パネルライトコントロールの使いかた..... 5-27
外気温表示について.....5-28
走行可能距離表示について 5-28
平均燃費表示について..... 5-29
平均燃費表示の使いかた.....5-29
瞬間燃費表示について..... 5-29
i-ACTIVSENSE 表示について 5-30
メッセージ表示について.....5-30

インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)..... 5-30
インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM) について..... 5-30
インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM) ランプ.....5-31

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ..... 5-32
アクティブ･ドライビング･ディスプレイについて.....5-32
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ使用上の警告･注意.....5-32
アクティブ･ドライビング･ディスプレイの便利な使いかた.....5-33

セレクトレバー.....5-33
セレクトレバー使用上の警告・注意.....5-33
セレクトレバーの使いかた 5-35

ステアリングシフトスイッチ.... 5-39
ステアリングシフトスイッチ使用上の警告・注意.....5-39
ステアリングシフトスイッチの使いかた.....5-39

電動パーキングブレーキ (EPB).....5-42
電動パーキングブレーキ (EPB) について..... 5-42
電動パーキングブレーキ (EPB) 使用上の警告・注意.....5-42
電動パーキングブレーキ (EPB) の使いかた.....5-43
電動パーキングブレーキ (EPB) の便利な使いかた.....5-44

ブレーキ・オーバーライド・システム 5-46
ブレーキ・オーバーライド・システムについて.....5-46
ブレーキ・オーバーライド・システム使用上の警告・注意..... 5-46
ブレーキ・オーバーライド・システムの便利な使いかた..... 5-46

オートホールド.....5-46
オートホールドについて.....5-46
オートホールド使用上の警告・注意.....5-47
オートホールドの使いかた 5-48

ヒル・ローンチ・アシスト (HLA).....5-49
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA) について..... 5-49
ヒル・ローンチ・アシスト (HLA) 使用上の警告・注意..... 5-50

エマージェンシーシグナルシステム (ESS)..... 5-50
エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について.....5-50

ランプスイッチ.....5-50
ランプスイッチについて.....5-50
ランプスイッチ使用上の警告・注意.....5-51
ランプスイッチの使いかた 5-51
ランプスイッチの便利な使いかた 5-53
リアフォグランプスイッチの使いかた*.....5-55

方向指示器.....5-56
方向指示器の使いかた..... 5-56

ワイパー/ウォッシャースイッチ 5-57
フロントワイパー/ウォッシャースイッチについて..... 5-57
フロントワイパー/ウォッシャースイッチ使用上の警告・注意 5-57
フロントワイパー/ウォッシャースイッチの使いかた.....5-59
リアワイパー/ウォッシャースイッチの使いかた.....5-61

 *グレード/仕様別装備

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ..... 5-62
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチについて.....5-62
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ使用上の警告・注意.....5-62
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかた 5-63
ミラーの曇り取りについて* 5-63
ミラーの曇り取りの使いかた 5-64
ウインドーワイパーデアイサーについて*..... 5-64
ウインドーワイパーデアイサーの使いかた.....5-64

非常点滅表示灯.....5-64
非常点滅表示灯について.....5-64
非常点滅表示灯の使いかた 5-64

ホーン..... 5-65
ホーンの使いかた.....5-65

アンチロックブレーキシステム (ABS)..... 5-65
アンチロックブレーキシステム (ABS) について.....5-65
アンチロックブレーキシステム (ABS) 使用上の警告・注意.....5-65

トラクションコントロールシステム (TCS)..... 5-66
トラクションコントロールシステム (TCS) について..... 5-66
トラクションコントロールシステム (TCS) 使用上の警告・注意 5-66
トラクションコントロールシステム (TCS) の使いかた.....5-66

ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC).....5-67
ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) について 5-67
ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) 使用上の警告・注意.....5-67
ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) の使いかた 5-67

トレーラー・スタビリティ・コントロール (TSC)..... 5-68
トレーラー・スタビリティ・コントロール (TSC) について.....5-68
トレーラー・スタビリティ・コントロール (TSC) 使用上の警告・注意 5-68
トレーラー・スタビリティ・コントロール (TSC) の使いかた.....5-68

アクティブドライビングサウンド 5-68
アクティブドライビングサウンドについて.....5-68

ヒルディセントコントロール.... 5-68
ヒルディセントコントロールについて*.....5-68
ヒルディセントコントロール使用上の警告・注意.....5-69

ヒルディセントコントロールの使いかた..... 5-69

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive)..... 5-70
マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive)について 5-70
マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive)使用上の警告･注意.....5-71
マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive)の使いかた 5-71

i-ACTIV AWD.....5-72
i-ACTIV AWD について..... 5-72
i-ACTIV AWD 使用上の警告･注意 5-73

パワーステアリング.....5-73
パワーステアリングについて 5-73

給油..... 5-73
給油時の警告･注意.....5-73
給油のしかた.....5-75

i-ACTIVSENSE.....5-76
i-ACTIVSENSE について..... 5-76
i-ACTIVSENSE 使用上の警告･注意.....5-76
アクティブセーフティ技術について..... 5-76
プリクラッシュセーフティ技術について..... 5-77
警報･リスク回避支援表示について..... 5-78
i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた..... 5-81

フロントカメラヘッド..... 5-82
フロントカメラヘッドについて 5-82

レーダーセンサー.....5-85
レーダーセンサーについて 5-85

超音波センサー.....5-91
超音波センサーについて.....5-91

ビューカメラ.....5-94
ビューカメラについて..... 5-94

ドライバー･モニタリングカメラ 5-96
ドライバー･モニタリングカメラについて*.....5-96

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)..... 5-97
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) について*.....5-97
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) 使用上の警告･注意 5-97
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) の使いかた..... 5-98

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).....5-99
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) について*.....5-99
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 使用上の警告･注意... 5-101

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) の使いかた.....5-102

車線逸脱警報システム..... 5-104
車線逸脱警報システムについて 5-104
車線逸脱警報システム使用上の警告･注意..... 5-104
車線逸脱警報システムの使いかた 5-104

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM).....5-107
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) について.....5-107
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 使用上の警告･注意 5-107
ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の使いかた..... 5-108

交通標識認識システム (TSR)...5-117
交通標識認識システム (TSR) について.....5-117
交通標識認識システム (TSR) 使用上の警告･注意..... 5-117
交通標識認識システム (TSR) の使いかた..... 5-117
交通標識認識システム (TSR) の便利な使いかた..... 5-119

ドライバー･アテンション･アラート (DAA)..... 5-120
ドライバー･アテンション･アラート (DAA) について.....5-120
ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 使用上の警告･注意 5-120
ドライバー･アテンション･アラート (DAA) の使いかた.....5-121

ドライバー･モニタリング.....5-122
ドライバー･モニタリングについて*..... 5-122
ドライバー･モニタリング使用上の警告･注意.....5-124
ドライバー･モニタリングの使いかた.....5-124

前側方接近車両検知 (FCTA).... 5-129
前側方接近車両検知 (FCTA) について*..... 5-129
前側方接近車両検知 (FCTA) 使用上の警告･注意..... 5-129
前側方接近車両検知 (FCTA) の使いかた..... 5-129

後側方接近車両検知 (RCTA)....5-133
後側方接近車両検知 (RCTA) について.....5-133
後側方接近車両検知 (RCTA) 使用上の警告･注意..... 5-133
後側方接近車両検知 (RCTA) の使いかた..... 5-133

後方歩行者警報..... 5-135
後方歩行者警報について.....5-135
後方歩行者警報使用上の警告･注意.....5-135
後方歩行者警報の使いかた 5-135

発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機).....5-136
発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機) について..... 5-136

発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機) の使いかた....5-136

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)..... 5-137
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) について 5-137
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 使用上の警告･注意.....5-137
マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) の使いかた 5-138

クルージング & トラフィック･サポート (CTS)..... 5-145
クルージング & トラフィック･サポート (CTS) について..... 5-145
クルージング & トラフィック･サポート (CTS) 使用上の警告･注意 5-146
クルージング & トラフィック･サポート (CTS) の使いかた.....5-148

緊急時車線維持支援 (ELK).....5-167
緊急時車線維持支援 (ELK) について.....5-167
緊急時車線維持支援 (ELK) 使用上の警告･注意.....5-168
緊急時車線維持支援 (ELK) の使いかた.....5-169

プロアクティブ･ドライビング･アシスト (PDA).....5-176
プロアクティブ･ドライビング･アシスト (PDA) について.....5-176
プロアクティブ･ドライビング･アシスト (PDA) 使用上の警告･注意 5-177
プロアクティブ･ドライビング･アシスト (PDA) の使いかた.... 5-178

スマート･ブレーキ･サポート (SBS)..... 5-181
スマート･ブレーキ･サポート (SBS) について..... 5-181
スマート･ブレーキ･サポート (SBS) 使用上の警告･注意....5-184
スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の使いかた.....5-184

AT 誤発進抑制制御..... 5-192
AT 誤発進抑制制御について 5-192
AT 誤発進抑制制御使用上の警告･注意.....5-194
AT 誤発進抑制制御の使いかた 5-194

360° ビュー･モニター..... 5-198
360° ビュー･モニターについて 5-198
360° ビュー･モニター使用上の警告･注意..... 5-202
360° ビュー･モニターの使いかた 5-204
360° ビュー･モニターの便利な使いかた..... 5-219

ドライバー異常時対応システム (DEA)..... 5-220
ドライバー異常時対応システム (DEA) について*.....5-220
ドライバー異常時対応システム (DEA) 使用上の警告･注意... 5-221

ドライバー異常時対応システム (DEA) の使いかた.....5-222

衝突二次被害軽減システム..... 5-226
衝突二次被害軽減システムについて.....5-226
衝突二次被害軽減システム使用上の警告・注意.....5-226
衝突二次被害軽減システムの使いかた.....5-226

クルーズコントロール..... 5-227
クルーズコントロールについて 5-227
クルーズコントロール使用上の警告・注意..... 5-227
クルーズコントロールの使いかた 5-228

パーキングセンサー..... 5-230
パーキングセンサーについて 5-230
パーキングセンサー使用上の警告・注意..... 5-230
パーキングセンサーの使いかた 5-230

積雪、寒冷時の運転.....5-235
スノータイヤについて.....5-235
タイヤチェーンについて.....5-235

ミラー

ドアミラー使用上の警告･注意

⚠ 警告

車線変更する前に､必ず肩越しに目視確認する
実際の距離を考慮せずに車線変更することは危険です。重大な事故に遭う可能性があります。 凸面鏡に見えるものは､見た目よりも近くにあります。

運転を開始する前に､必ずドアミラーを運転位置にもどす
ドアミラーを格納したまま運転するのは危険です。後方視界が制限され､思わぬ事故につながるおそれがあります。

調節は走行前に行なう。
走行中に調節すると､前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

(電動格納ドアミラー装備車)
ドアミラーの格納/展開作動中は､ドアミラーに触れない。
格納/展開作動中にドアミラーに触れるのは危険です。手がはさまれてけがをしたり､ドアミラーが破損するおそれがあります。

(電動格納ドアミラー装備車)
スイッチを使用して､ドアミラーの位置を設定する。
ドアミラーの位置を手動で設定するのは危険です。ドアミラーが所定の位置にロックされず､視認性をさまたげるおそれがあります。

(電動格納ドアミラー装備車)
電動格納ドアミラーは､車両を安全な場所に駐車して操作する。
走行中に電動格納ドアミラーを操作するのは危険です。風圧でドアミラーが損傷し､運転位置にもどすことができず､後方を視認することができなくなります。

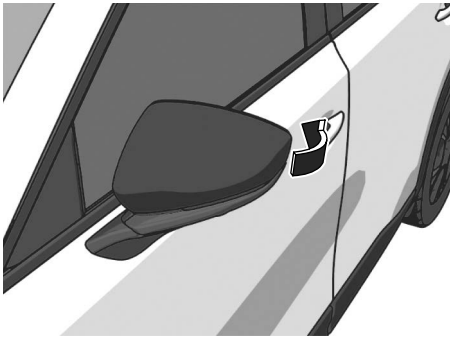
⚠ 注意

(電動格納ドアミラー装備車)
ドアミラーの格納/展開を行なうときは､格納スイッチで操作してください。手動で操作すると､ドアミラーが固定されず後方確認ができなくなることがあります。

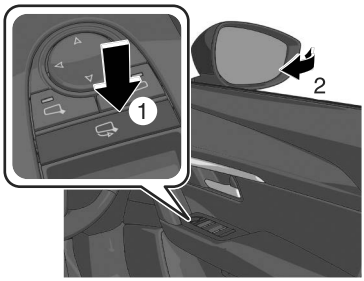
ドアミラーの使いかた

ドアミラーの展開/格納

電動格納ドアミラー非装備車
ドアミラー本体を手で倒して格納します。
走行前には、ドアミラー本体を手で持ち、ロックするところまでもどします。

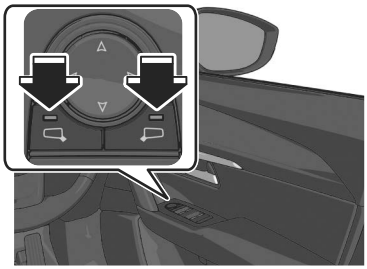


電動格納ドアミラー装備車
1. 車両の電源を ACC または ON にする。
2. 格納スイッチを押す。
   ドアミラーが格納されます。格納スイッチをもう一度押すとドアミラーが展開されます。

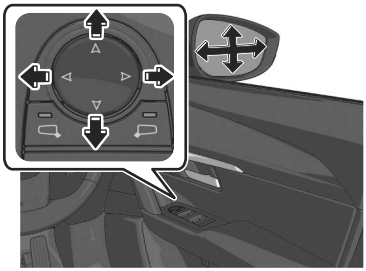


ドアミラーの角度調節

1. 車両の電源を ACC または ON にする。
2. 調節するドアミラー側の選択スイッチを押す。
   表示灯が点灯します。



3. 調節スイッチを操作して、ドアミラーの角度を調節する。



4. 調節したドアミラー側の選択スイッチを押す。
   表示灯が消灯します。

ドアミラーの便利な使いかた

ドライバー・パーソナライゼーション・システム*

ドライバー・パーソナライゼーション・システムに、ドアミラーの角度を記憶させることができます。
→6-23 ページ「ドライバー・パーソナライゼーション・システムについて」

自動格納機能*

車両の電源が OFF のときにドアを施錠/解錠すると、ドアミラーが自動的に格納/展開されます。
ドアミラーが格納されているときに、車両の電源を ON またはエンジンを始動すると、ドアミラーが自動的に展開されます。
センターディスプレイで自動格納機能の ON/OFF を切り替えることができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

格納スイッチを押してドアミラーを格納した場合は、自動的に展開しません。格納スイッチを押して、ドアミラーを展開してください。

車両電源 OFF 後作動機能

車両の電源を ON から OFF にした後でも、約 40 秒間はドアミラーの角度調節や格納/展開をすることができます。

リバース連動ドアミラー機能*

車両後退時に、ドアミラーを自動的に下向きにすることができます。後退を終えると、ドアミラーはもとの角度にもどります。
1. 下向きにしたいドアミラー側の選択スイッチを押す。
   選択スイッチの表示灯を点灯させます。
2. セレクトレバーを R の位置にする。
   選択スイッチを押した側のドアミラーが下向きになります。

知識

次のいずれかの条件を満たすと、ドアミラーがもとの角度にもどります。

・車両の電源を ON 以外にしたとき
・セレクトレバーを R の位置以外にしたとき
・選択スイッチをもう一度押したとき

ルームミラー使用上の警告･注意

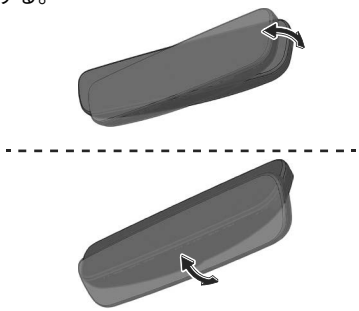
警告

シートバックより高い位置に荷物を積み重ねない。
シートバックより高く積まれた荷物は危険です。ルームミラーの視界がさまたげられ、車線変更時に他の車両と衝突するおそれがあります。

調節は走行前に行なう。
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

ルームミラーの使いかた

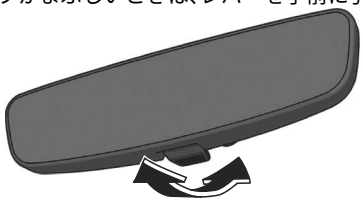
ルームミラー本体を動かし調節する。



ルームミラーの便利な使いかた

防眩機能

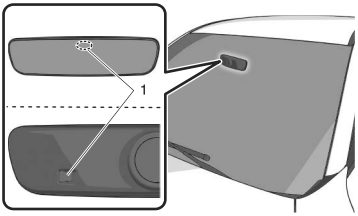
後続車のヘッドランプの眩しさを防ぎます。
マニュアルタイプ
通常はレバーを押した状態にしてください。
夜間などに後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前に引いてください。



オートタイプ
車両の電源が ON でセレクトレバーが R の位置以外のときに、自動で作動します。

知識

センサーをステッカーやカバーなどで覆わないでください。センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。

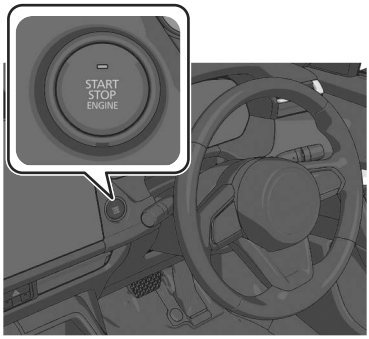


1 センサー

プッシュボタンスタート

プッシュボタンスタートについて

プッシュボタンスタートを押すと、エンジンの始動/停止、車両の電源 (OFF/ACC/ON) を切り替えることができます。



車両の電源

OFF

すべての電装品が使用できない状態です。

ACC

オーディオなど一部の電装品が使用できる状態です。

ON

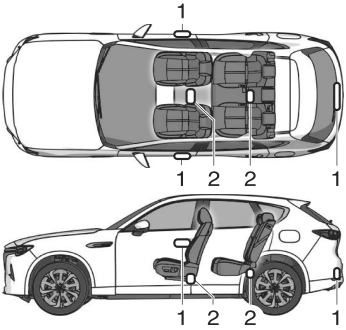
すべての電装品が使用できる状態です。

プッシュボタンスタート使用上の警告･注意

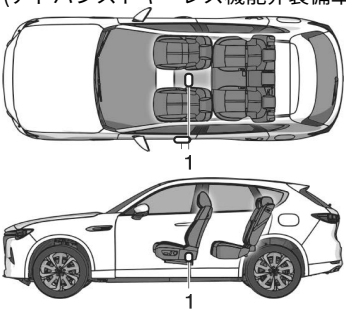
⚠ 警告

植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の医療用機器を使用している方は車内･車外のアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。
電波により、医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。
(アドバンストキーレス機能装備車)

⚠ 警告



1 車外アンテナ
2 車内アンテナ
(アドバンストキーレス機能非装備車)



1 車内アンテナ

次にある以外の医療用機器を使用している方は、キーの電波の影響を医師や医療用電気機器製造業者などに確認する。
電波が悪影響をおよぼすおそれがあります。

- 植え込み型心臓ペースメーカー
- 植え込み型除細動器

プッシュボタンスタートシステム機能、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることもできます。
ペースメーカーなどの医療用機器に悪影響をおよぼすおそれがあるため、キーを取り出すことなくエンジンの始動ができる機能を停止させることができます。 また、アドバンストキーレス機能を作動させないようにすることができます。
詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

緊急時以外は、走行中にエンジンを停止しない。
走行中にエンジンを止めると、ブレーキの効きが悪くなり、ハンドルも重くなるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠注意

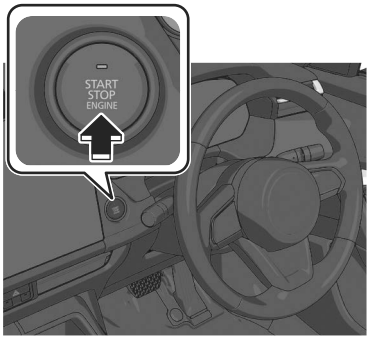
プッシュボタンスタートに異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

車から離れるときは、車両の電源が OFF になっていることを確認してください。

プッシュボタンスタートの使いかた

車両の状態や運転者の操作によって、エンジンの始動/停止、車両の電源を切り替えます。

エンジンを始動する

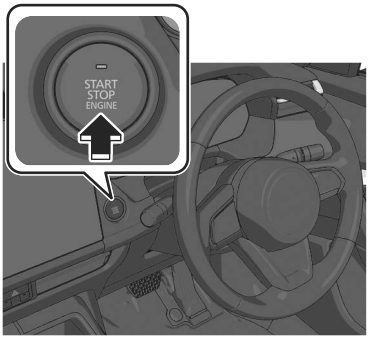
1. パーキングブレーキがかかっていることを確認する。
2. セレクトレバーが P の位置にあることを確認する。
3. ブレーキペダルを踏む。
   メーター内の KEY 表示灯とプッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯します。
4. 

5. エンジンが始動し、メーター内の KEY 表示灯が消灯します。
6. メーター内の READY 表示灯READYが点灯します。

エンジンを停止する

1. 車両を停車する。
2. セレクトレバーを P の位置にする。

3.



4. エンジンが停止し、車両の電源が OFF になります。

知識

セレクトレバーが P 以外の位置のときに、エンジンを停止するとオート P (パーキングロック) 機能が作動し、車両の電源が OFF になります。安全のためセレクトレバーを P の位置にして、車両の電源を OFF にしてください。

車両の電源を切り替える

ブレーキペダルを踏まずに、プッシュボタンスタートを押す。
プッシュボタンスタートを押すごとに、ACC、ON、OFF の順に車両の電源が切り替わります。

知識

車両の電源を ACC (セレクトレバーが P の位置になっていること) の状態で放置すると、約 25 分で車両の電源が OFF になります。

M ハイブリッド

M ハイブリッドについて

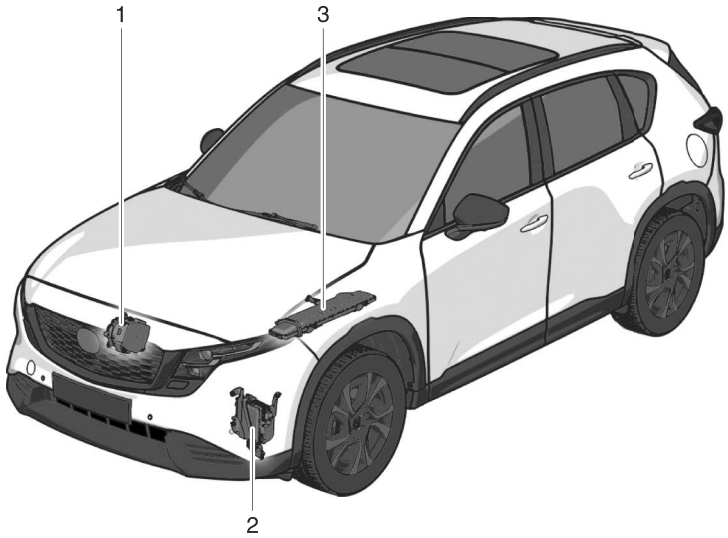
M ハイブリッドは、車両の走行状況に応じてインテグレーテッド・スタータ・ジェネレータ (ISG) によるエンジンのアシストや回生ブレーキによる充電を行ない、走りの性能と燃費を向上させるシステムです。M ハイブリッド用バッテリーは、車両が走行中に充電されるため、車外からの充電は不要です。

M ハイブリッド使用上の警告・注意

⚠ 警告

高温部位、高電流部位に触れない。
次の部位は高温で高電流が流れているため、触れるとやけどや感電のおそれがあります。

⚠ 警告



1 インテグレーテッド･スタータ･ジェネレータ (ISG)
2 DC-DC コンバーター
3 M ハイブリッド用バッテリー

やけどや感電のおそれがあるため､必ず次のことを守る。

- 端子部位､配線､M ハイブリッド用バッテリーを固定しているブラケット､コネクターの取りはずしおよび分解などは絶対に行なわないでください。
- 炎天下のときや走行後は､M ハイブリッド用バッテリーが高温になるため､絶対にさわらないでください。
- M ハイブリッド用バッテリーが濡れているときは特に危険なため､絶対にさわらないでください。

M ハイブリッド用バッテリーを安全に取り扱うために､次のことを必ず守る。

- M ハイブリッド用バッテリーを取りはずさない。
- M ハイブリッド用バッテリーを転売､譲渡､改造しない。
- M ハイブリッド用バッテリーを装備された車両以外で使用しない。

適切に取り扱わないと次のようなことが起こり､重大な傷害につながる。

- 放置または不法投棄された M ハイブリッド用バッテリーに触れてしまい感電事故が発生する。
- 装備された車両以外で M ハイブリッド用バッテリーを使用し (改造などを含む)､感電事故､発熱･発煙･発火･爆発事故､電解液漏出事故などが発生する。

⚠ 警告

M ハイブリッド用バッテリーを適切に処理する。
M ハイブリッド用バッテリーを放置または不法投棄するなど、適切に回収し廃棄しないと、第三者が M ハイブリッド用バッテリーに触れる感電事故を引き起こし、重大な傷害につながるおそれがあります。

高電流部位に絶対さわらない。
M ハイブリッド関連部品には、絶対にさわらないでください。やけどや感電など重大な傷害につながるおそれがあります。

車室内および車室外にはみ出している電気配線には絶対に触らない。
感電ややけどなど重大な傷害につながるおそれがあります。

電解液が付着している、電解液が漏れている場合は絶対にさわらない。
M ハイブリッド用バッテリーの電解液が目や皮膚に触れると失明や皮膚障害のおそれがあります。万が一、電解液が目に付着した場合はこすらずに、15 分以上水で目を洗った後、ただちに医師の診察を受けてください。また、電解液が肌に付着した場合は石鹸と水で触れた部分をしっかりと洗ってください。体に異常を感じたときはすみやかに医師の診察を受けてください。

M ハイブリッド用バッテリーの電解液が漏れている場合は、車両に近づかない。
M ハイブリッド用バッテリーが破損しても、M ハイブリッド用バッテリー内部の構造により大量の電解液が流出することありませんが、万が一、電解液が流出すると蒸気が発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒につながるおそれがあります。

火気や高温のものを絶対に近づけない。
M ハイブリッド用バッテリーの電解液に引火するおそれがあります。万が一、車両火災が発生したときは、消火器 (ABC、BC または C タイプ) を使用して消火してください。水で消火するときは、消火栓など大量の放水が可能な場合にのみ行なってください。少量の放水は火災の拡大のおそれがあります。

⚠ 注意

次の状態のときに運転席ドアを開けると、運転者が車両から離れると車両が判断し、運転者に危険を知らせる警報音が吹鳴して警告表示が表示されます。

- エンジンがかかっているとき
- セレクトレバーが P、N の位置以外のとき

M ハイブリッドに異常があるときは、警告表示が表示されます。

M ハイブリッドの使いかた

M ハイブリッドは、車両の走行状況に応じてインテグレーテッド・スタータ・ジェネレータ (ISG) によるエンジンアシストと、回生ブレーキによる充電を自動で切り替えます。
M ハイブリッドの作動状態は、車両作動状態に表示されます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⁝⁝ をタップした後、次に表示される“アプリ一覧”内の  をタップして確認する、またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

車両を長時間放置すると少しずつ自然放電するため、2〜3 か月に一度を目安に約 30 分間の運転を行なってください。万が一、M ハイブリッド用バッテリーが完全に放電し、M ハイブリッドが起動できないときは、マツダ販売店に連絡してください。

M ハイブリッド用バッテリーの交換、廃棄について

M ハイブリッド用バッテリーの取り扱いには、専門的な知識と技術が必要です。
M ハイブリッド用バッテリーによる事故を防止するため、M ハイブリッド用バッテリーの回収を行なっています。車両を廃車にするとき、M ハイブリッド用バッテリーを交換するとき、M ハイブリッド用バッテリーを廃棄するときなどは、マツダ販売店にご相談ください。M ハイブリッド用バッテリーが確実に回収できるようご協力ください。

M ハイブリッドの故障について

衝突事故など車両に一定以上の衝撃が加わったときなどは、M ハイブリッドが停止します。この場合、充電警告灯が点灯し、M ハイブリッドが起動できないときがあります。ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

i-stop

i-stop について

i-stop (アイ・ストップ) は、燃費向上・排気ガスの低減・アイドリング騒音低下のため、自動でエンジンを停止・再始動させる機能です。

i-stop の使いかた

i-stop を作動可能な状態にする

次の条件をすべて満たすと、i-stop が作動可能な状態になります。

・エンジン暖機後
・エンジンを始動し、一度走行した後
・すべてのドア、リアゲート、ボンネットが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・曇り取りスイッチ  が OFF の状態のとき
・車内の温度とエアコンの設定温度がほぼ一致しているとき
・外気温が低すぎない、または高すぎないとき
・気圧が低くないとき (標高が高いところを走行していないとき)
・ハンドルがほぼ直進状態のとき (直進状態にしていてもハンドルに力をかけているとアイドリングストップしない場合があります)
・急な坂道ではないとき
・急停車ではないとき
・セレクトレバーが D または M の位置 (2 速固定モード以外) のとき
・オートマチックトランスミッションフルードが十分に暖まっているとき
・オートマチックトランスミッションフルードの温度が異常に高くないとき
・M ハイブリッド用バッテリーの温度と充電状態が良好であるとき
・インテグレーテッド・スタータ・ジェネレータ (ISG)、回生ブレーキの状態が良好であるとき

i-stop を作動させる

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)/クルージング & トラフィック･サポート (CTS) を使用していないとき

1. 車両を減速させる。
   車速が一定速度以下になると i-stop が作動し i-stop 表示灯 (緑) i-stop が点灯します。
   オートホールドが作動しているときは、ブレーキペダルから足を離しても i-stop の作動が継続します。
2. 車両を発進させる。
   エンジンが再始動します。

MRCC/CTS を使用しているとき

1. MRCC/CTS により車速が一定速度以下になると i-stop が作動し i-stop 表示灯 (緑) i-stopが点灯します。
2. アクセルペダルを踏むまたはステアリングスイッチの RES スイッチを押す。
   エンジンが再始動します。

MRCC/CTS を使用していないとき

1. 停車する。
   i-stop が作動し、i-stop 表示灯 (緑) i-stopが点灯します。
   オートホールドが作動しているときは、ブレーキペダルから足を離しても i-stop の作動が継続します。
2. 車両を発進させる。
   エンジンが再始動します。

MRCC/CTS を使用しているとき

1. MRCC/CTS により停車すると i-stop が作動し i-stop 表示灯 (緑) i-stopが点灯します。
2. アクセルペダルを踏むまたはステアリングスイッチの RES スイッチを押す。
   エンジンが再始動します。

知識

i-stop が作動してから 2 分以上経過するとエンジンが再始動します。

12 V バッテリー端子をはずすと、12 V バッテリー端子接続後すぐにはアイドリングストップしないことがあります。また、12 V バッテリーを交換したときは、i-stop の機能を確認する必要があるため、マツダ販売店にご相談ください。

i-stop の作動を停止する

次の 2 つの方法で i-stop の作動を停止することが出来ます。

方法 1

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⋮⋮ → → “Dynamics” を選択し i-stop OFF をタップする。

方法 2

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの → “Dynamics” を選択し i-stop OFF をタップする。

知識

i-stop を停止した状態でエンジンを停止したときは、次にエンジンを始動すると i-stop は作動可能な状態にもどります。

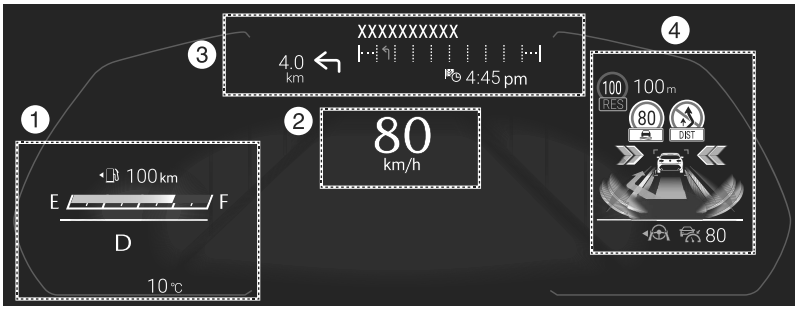
メーター

メーターについて

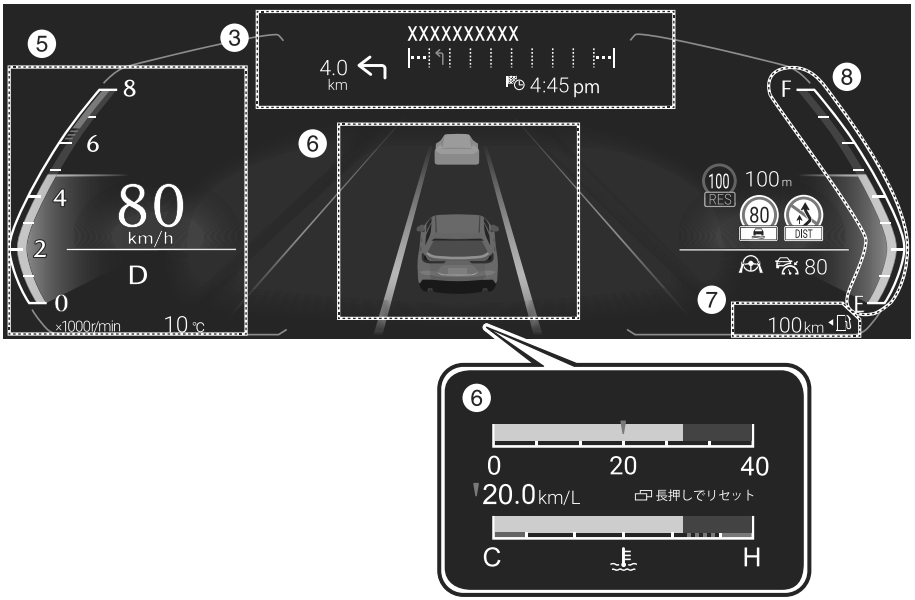
画面表示で車両の情報をお知らせします。表示内容は基本画面とその他の画面で異なります。

スイッチ操作で表示が切り替わります。

基本画面

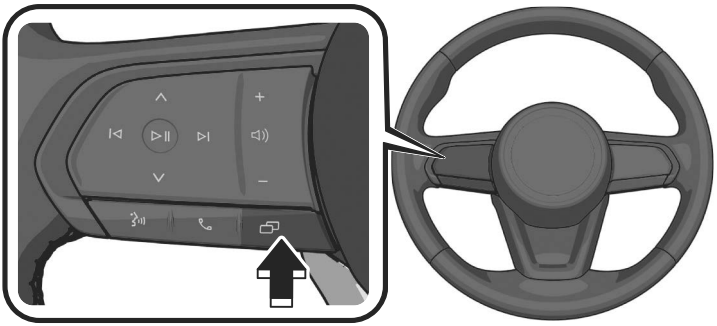


基本画面以外

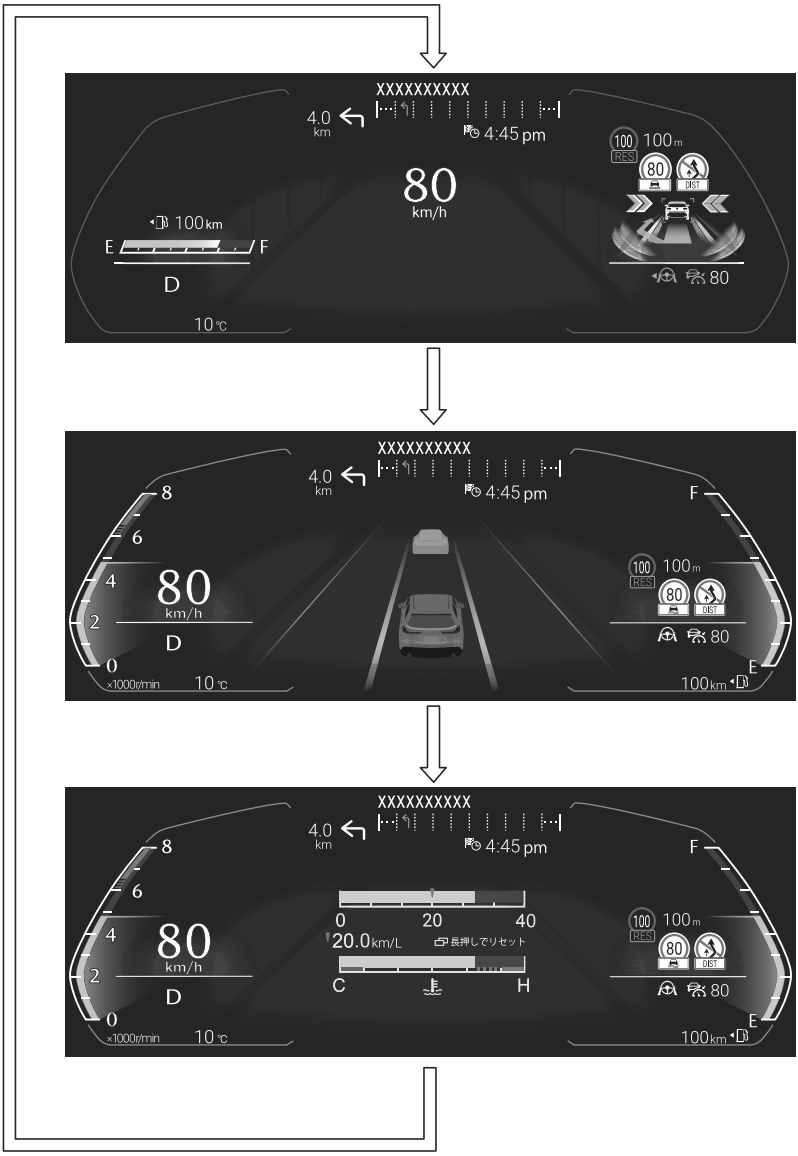


1 走行可能距離/燃料計/シフトポジション表示/外気温表示
2 スピードメーター
3 ナビゲーション情報を表示するエリア
4 i-ACTIVSENSE 情報
5 スピードメーター/タコメーター/シフトポジション表示/外気温表示
6 i-ACTIVSENSE 情報/燃費表示/水温計
7 走行可能距離表示
8 燃料計

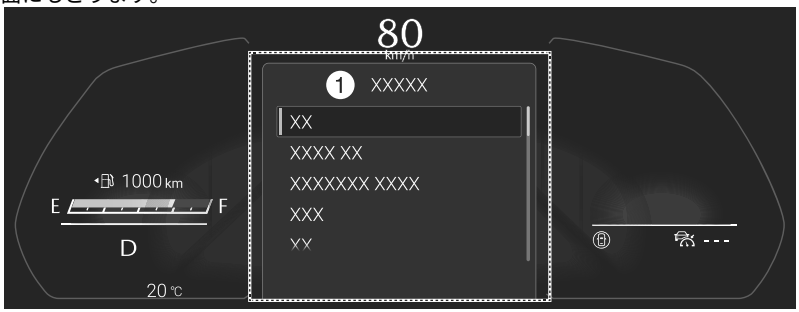
メーターの使いかた



スイッチを押すごとに表示が切り替わります。

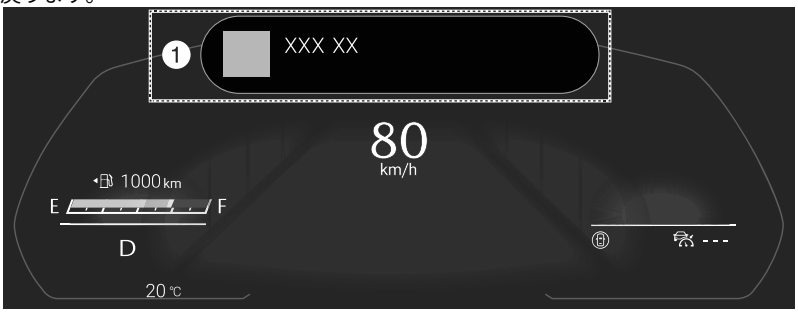


を操作すると“ソース一覧”を表示します。 を操作する、または操作しない時間が続くともとの画面にもどります。



1 ソース一覧

を操作すると音楽情報を表示します。 を操作する、または操作しない時間が続くともとの画面に戻ります。



1 音楽情報

電話の着信があると自動で画面が切り替わります。



1 着信中

スピードメーターについて

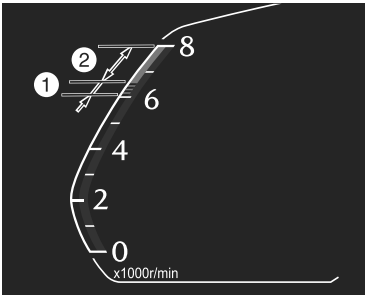
走行速度を km/h で示します。

タコメーターについて

1分間あたりのエンジン回転数を示します。

⚠ 注意

指針がレッドゾーン (許容回転数以上を示す) に入らないように運転してください。エンジンの故障につながるおそれがあります。



1 ストライプゾーン*1
2 レッドゾーン*1

*1　仕様により範囲が異なります。

知識

ストライプゾーンはレッドゾーンに入らないようにするために、早めの変速を促すゾーンです。

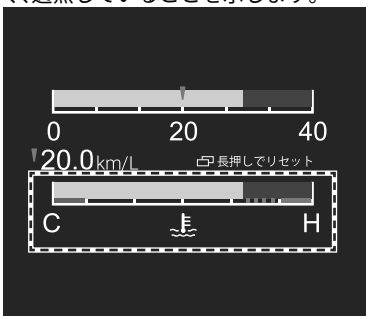
オドメーター/トリップメーターについて

マツダコネクト画面に表示します。

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⋮⋮ → をタップする。

水温計について

エンジン冷却水の温度を示します。青いゲージはエンジン冷却水の温度が低いことを示し、赤いゲージはエンジン冷却水の温度が高く、過熱していることを示します。



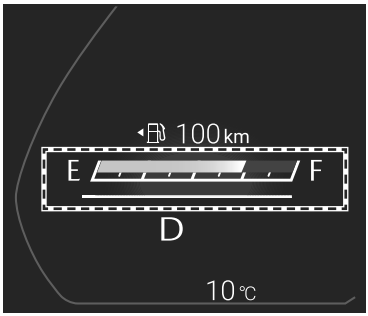
⚠ 注意

水温計の指針が赤いゲージを示すときは、オーバーヒートのおそれがあります。エンジンに負担をかけないように、ゆっくり走行してください。
→ 8-20 ページ「オーバーヒートを処置する」

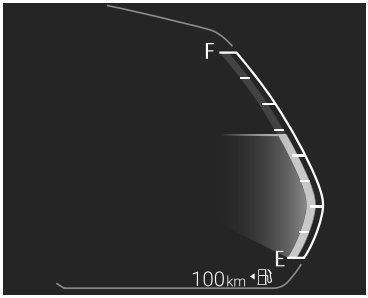
燃料計について

燃料の残量を示します。
燃料が満タンのときは F (Full) を示し、少なくなるにつれ E (Empty) に移行します。

基本画面



基本画面以外



知識

給油後は、指針が安定するまでしばらく時間がかかる場合があります。また、坂道やカーブなどでは、タンク内の燃料が移動するため、指針が移動することがあります。

の矢印は給油口が助手席側にあることを示します。

パネルライトコントロールについて

車両の電源が ON で車幅灯が点灯しているときにパネルライトは減光されます。ただし、昼間にライトを点けたときなど、ライトセンサーが車両の周辺が明るいと感知した場合、パネルライトは減光されません。

知識

夕方や薄暗い場所で車両の電源を ON にすると、ライトセンサーが周辺の明るさを感知するまでの数秒間パネルライトが減光され、明るさを感知した後に減光が解除される場合があります。

パネルライトコントロールの使いかた

パネルライトを明るくする

次の方法でメーターの明るさを変更できます。

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの → "画面表示" → "メーター”で明るさを調整する、またはマツダ販売店にご相談ください。

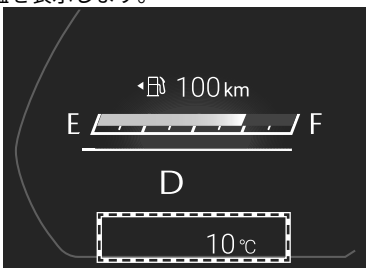
パネルライトを暗くする

車両の電源が ON でメーターが減光しているときに、次の操作で減光を解除できます。メーターなどが見えにくい場合は減光を解除し明るさを調整してください。

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの → "画面表示" → "減光解除”で明るさを調整する、またはマツダ販売店にご相談ください。

外気温表示について

車両の電源が ON のとき、外気温を表示します。

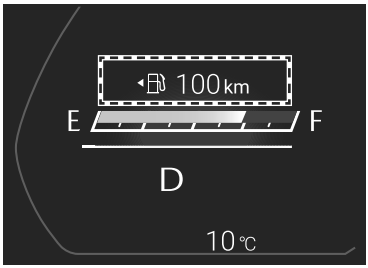


知識

外気温表示の数値は周囲や車両の状況により、実際の外気温と異なることがあります。

走行可能距離表示について

現在の燃料残量と燃費から走行可能距離を算出して表示します。
走行可能距離が 50 km 以上の場合、走行可能距離表示は 10 km 単位で減少し、50 km 未満の場合は 1 km 単位で減少します。

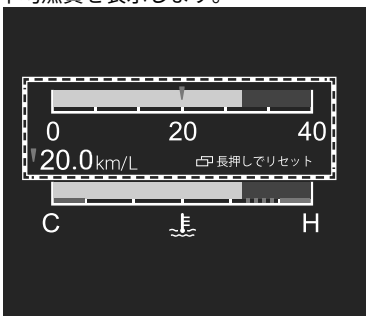


知識

走行可能距離はあくまで目安の数値であって、実際に走行できる距離とは異なります。燃料計を確認しながら走行してください。

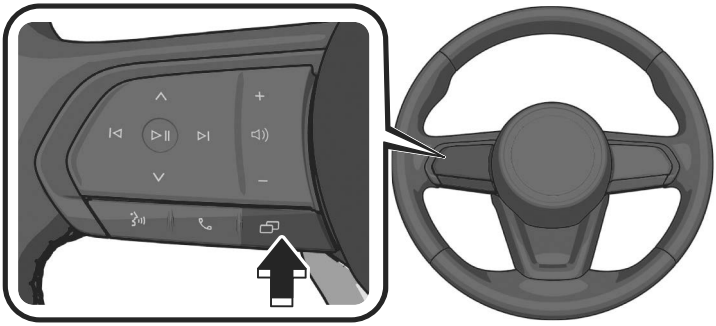
平均燃費表示について

お車を購入されたとき、または過去のデータをリセットしたときからの累積走行距離と累積消費燃料から、平均燃費を算出して表示します。
瞬間燃費ゲージ上にも赤矢印で平均燃費を表示します。



平均燃費表示の使いかた

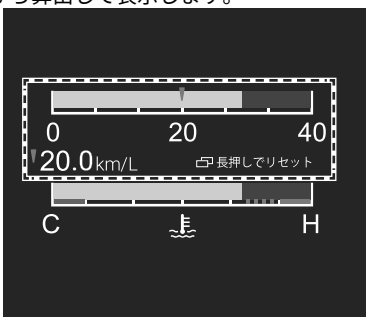
表示されている平均燃費のデータをリセットするには、スイッチを 2 秒以上押します。



データをリセットすると、平均燃費を再算出して表示するまで“- - - km/L”を表示します。

瞬間燃費表示について

走行中の瞬間燃費を、消費燃料から算出して表示します。



知識

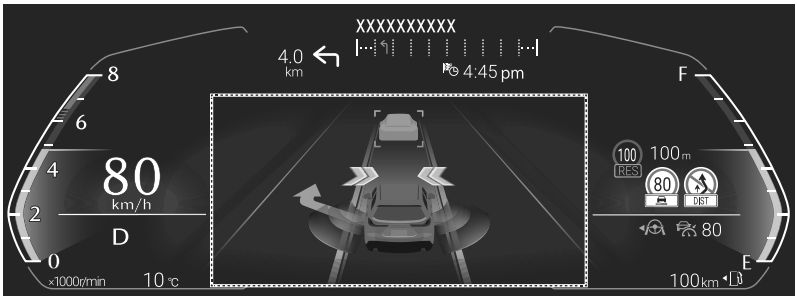
時速が約 5 km/h 以下になると 0 位置を表示します。

ゲージ上の赤矢印は、平均燃費を示します。

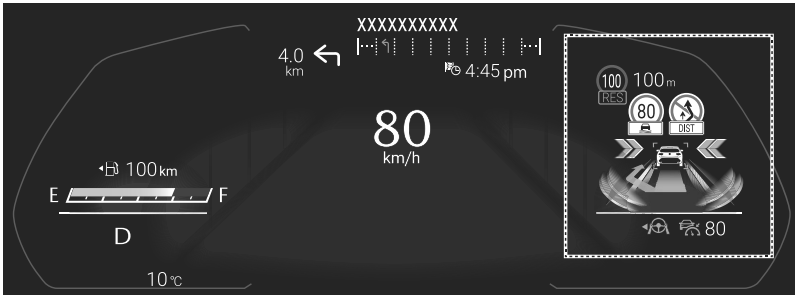
i-ACTIVSENSE 表示について

システムの作動状態を表示します。

i-ACTIVSENSE 画面



i-ACTIVSENSE 画面以外



メッセージ表示について

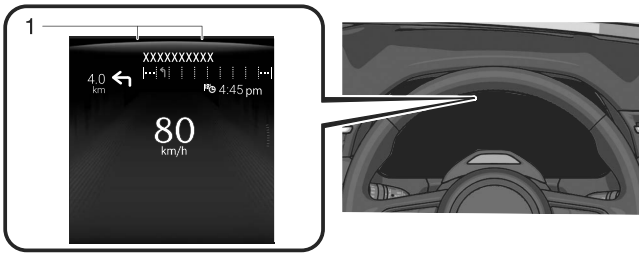
システムの作動状態や故障･異常状態などを知らせるメッセージが表示されます。
ディスプレイの指示に従ってください。

インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)

インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM) について

i-DM は、気持ちのよい運転ができるようになる運転技術の習得/向上をサポートするシステムです。
走行中の運転操作 (アクセル、ブレーキ、ハンドル) の状態を診断し、ランプの色で運転者に運転操作の状況をお知らせします。

インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM) ランプ



1 グリーンランプ/ブルーランプ/ホワイトランプ

グリーンランプ

やさしい運転を示します。
ゆっくりとした運転操作で、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。

ブルーランプ

しなやかな運転を示します。
特に次の走行タイプのような運転者にとって爽快で気持ちのよい運転のときに点灯します。
走行タイプ 1
適度な加速度変化がありながら、なめらかな運転操作で車と乗員が一体となって動く、安定した走行です。
走行タイプ 2
加速および旋回を継続しているときに、加速度を一定に維持しており、乗員の体の揺れが小さく、安定した走行です。

ホワイトランプ

体が揺れる運転を示します。
やや急な運転操作により、乗員の体の揺れが大きく、不安定な走行です。

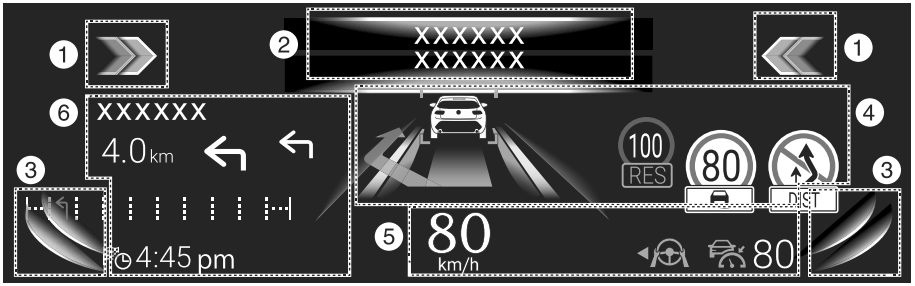
知識

マツダコネクトで i-DM ランプの表示/非表示の変更、i-DM の作動状況をセンターディスプレイに表示させることができます。
マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⋮⋮ → をタップする、またはマツダ販売店にご相談ください。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ

アクティブ･ドライビング･ディスプレイについて

アクティブ･ドライビング･ディスプレイは車両の情報やナビゲーション情報を表示します。



1 前側方接近車両検知 (FCTA) 警報を表示するエリア
2 警告ガイダンスを表示するエリア
3 ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 警報を表示するエリア
4 i-ACTIVSENSE 情報を表示するエリア
5 車速と設定した車速を表示するエリア
6 ナビゲーション情報を表示するエリア

知識

アクティブ･ドライビング･ディスプレイの特性上、偏光サングラスを着用すると視認性が低下します。

12 V バッテリーを脱着したとき、または 12 V バッテリーの電圧が低下しているときは、調節した位置がずれることがあります。

気象条件 (雨、雪、光、温度など) によっては、表示が見づらかったり、一時的に影響を受けたりする場合があります。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ使用上の警告･注意

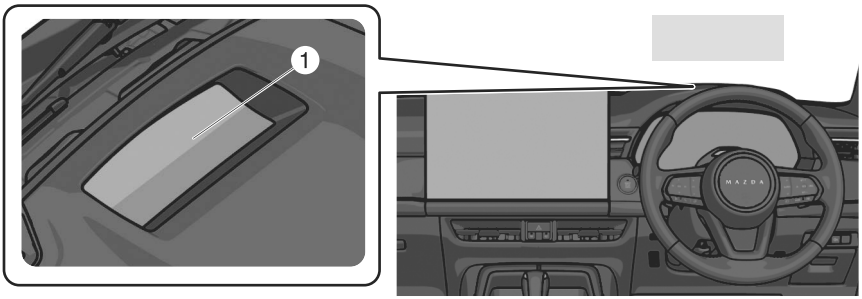
警告

ディスプレイの明るさや位置の調節は必ず車両を停止した状態で行なう。
走行中に調節すると、前方不注意で思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

アクティブ･ドライビング･ディスプレイの防塵シート付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が防塵シートにかかると装置の故障の原因となります。

表示のさまたげとなりますので、アクティブ･ドライビング･ディスプレイの防塵シート上にものを置いたり、シールを貼ったりしないでください。



1 防塵シート

アクティブ･ドライビング･ディスプレイの便利な使いかた

センターディスプレイで、アクティブ･ドライビング･ディスプレイの設定 (表示位置、輝度、表示情報など) を変更することができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

📖 知識

アクティブ･ドライビング･ディスプレイの設定 (表示位置、輝度、表示情報) を記憶させ、記憶させた位置にセットすることができます。
→3-23 ページ「ドライビングポジションメモリー機能の使いかた」

セレクトレバー

セレクトレバー使用上の警告･注意

⚠ 警告

アクセルペダルを踏んだままセレクトレバーを操作しない。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあります。ブレーキペダルをしっかりと踏み、車が完全に止まった状態でセレクトレバー操作を行なってください。

⚠ 警告

停車後、再発進するときはセレクトレバーの位置に思い違いがないよう確認する。
意に反して車が動き出すと、思わぬ事故につながるおそれがあります。停車後、アクセルペダルを踏み込む前にセレクトレバーの位置をシフトインジケーターで確認してください。

坂道などで、セレクトレバーを前進位置に入れたまま後退したり、後退位置に入れたまま前進したりしない。
エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして思わぬ事故につながるおそれがあります。車両を動かしたい方向に応じて、適切にセレクトレバーの位置を切り替えてください。

駐車するときは、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、エンジンをかけたままにしない。
パーキングブレーキをかけただけや、セレクトレバーを P に入れただけで駐車していると、意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。駐車するときは、セレクトレバーを P に入れ、パーキングブレーキをかけ、エンジンを止めてください。

⚠ 注意

後退時は体を後ろにひねった姿勢になります。ブレーキペダルを確実に踏めるよう注意してください。

走行中にセレクトレバーを N に入れないでください。エンジンブレーキが全く効かないため思わぬ事故につながるおそれがあります。
また、トランスミッションの故障につながります。

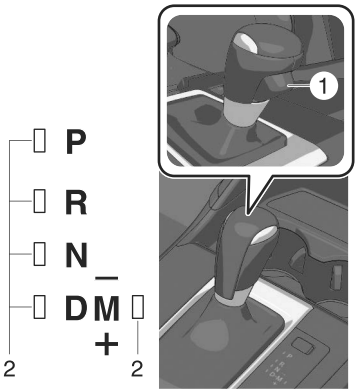
セレクトレバーを P に入れるときは、車を完全に止めてから行なってください。車が完全に止まる前にセレクトレバーを P に入れると、トランスミッションに無理な力がかかり故障につながるおそれがあります。

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でセレクトレバーを前進位置にして、アクセルを踏みながら停車したりしないでください。トランスミッションが過熱し、故障につながるおそれがあります。

セレクトレバーの使いかた

セレクトレバーを操作する

1. エンジンを始動する。
2. セレクトレバーを操作する。
   メーターに表示されるシフトポジションと同じ位置のシフトインジケーターが点灯します。



1 セレクトレバーボタン
2 シフトインジケーター
メーターにシフトポジションが表示されます。



セレクトレバーの操作	操作条件
P の位置から R の位置にする。	ブレーキペダルを踏んだ状態で、セレクトレバーボタンを押して操作する。
R の位置から N の位置にする。	セレクトレバーボタンを押さずそのまま操作する。
N の位置から D の位置にする。	
D の位置から M の位置にする。	
M の位置から D の位置にする。	
D の位置から N の位置にする。	

セレクトレバーの操作	操作条件
N の位置から R の位置にする。	セレクトレバーボタンを押して操作する。
R の位置から P の位置にする。	

シフトポジション制限

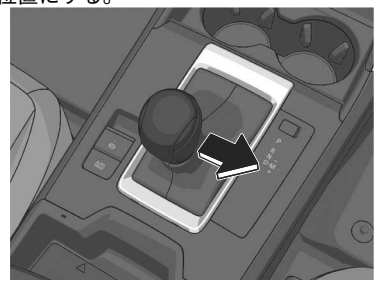
セレクトレバーが N の位置で停車しているときに、次の状態でセレクトレバーを N の位置から R または D の位置にすると、シフトポジションは N のままパーキングブレーキが作動します。

・ブレーキペダルを踏んでいない
・アクセルペダルを踏んでいる

アクセルペダルから足を放して、ブレーキペダルを踏んでください。シフトポジションが N から R または D に切り替わります。

マニュアルモードを使用する

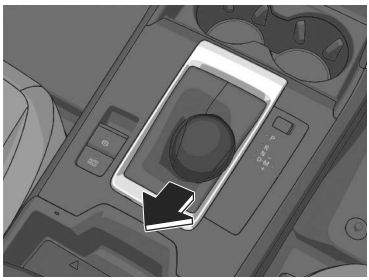
セレクトレバーを D から M の位置にする。



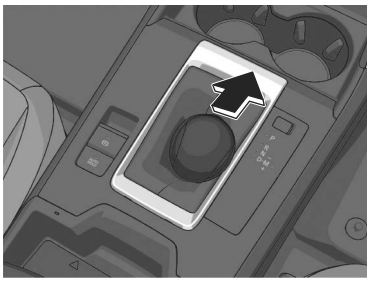
マニュアルモードになり、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。
メーターにマニュアルモード表示とギヤ位置が表示されます。



シフトアップする



シフトダウンする



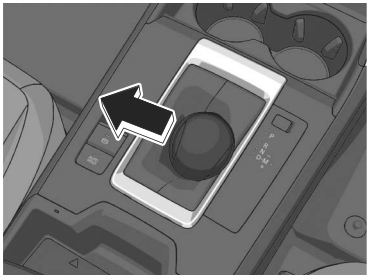
知識

オートマチックトランスミッションフルード (ATF) の温度が高温のときは、マニュアルモードになりません。また、マニュアルモードにしているときに ATF の温度が高温になると、マニュアルモードが解除されることがあります。

マニュアルモードでも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとキックダウンしますが、トラクションコントロールシステム (TCS) を OFF、またはオフロード・トラクション・アシストを ON にしているときは、キックダウンしません。ただし、エンジン回転が高い状態で連続走行したときには、エンジン保護のため自動的にシフトアップする場合があります。

マニュアルモードを解除する

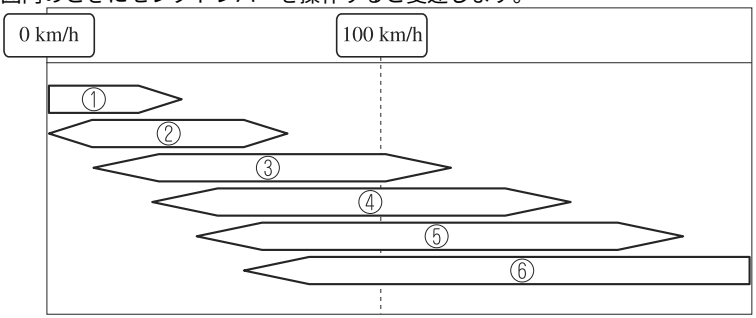
セレクトレバーを M から D の位置にする。



マニュアルモードが解除されます。

シフトチェンジ (変速) 制限速度

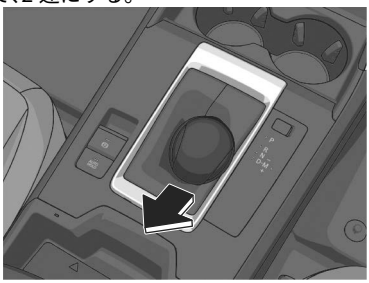
制限速度範囲内のときにセレクトレバーを操作すると変速します。



速度によりシフトダウンできないときは、メーターに表示されるギヤ位置が 2 回点滅します。

2 速固定モードを使用する

セレクトレバーを D から M の位置にする。
車速を 10 km/h 以下にする。
セレクトレバーを+側に操作して、2 速にする。



2 速固定モードになります。

知識

2 速固定モードを使用しているときは、2 速のまま停車します。

2 速固定モードを解除する

セレクトレバーを操作して 2 速以外にする。
2 速固定モードが解除されます。

ステアリングシフトスイッチ

ステアリングシフトスイッチ使用上の警告・注意

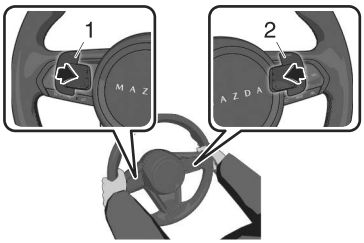
警告

急激なエンジンブレーキの使用 (シフトダウン) は避ける。
高速走行中、またはぬれた路面や積雪路、凍結路を走行しているときに急激なエンジンブレーキ (シフトダウン) をすると、タイヤがスリップし、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ステアリングシフトスイッチの使いかた

ダイレクトモードを使用する

セレクトレバーが D の位置のときに、ステアリングシフトスイッチのアップスイッチ (+/OFF) またはダウンスイッチ (−) を手前に引く。

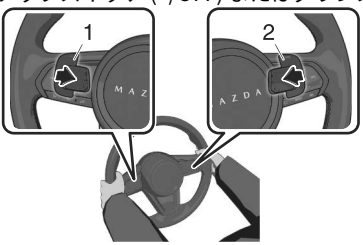


1 ダウンスイッチ (−)
2 アップスイッチ (+/OFF)
ダイレクトモードになり、一時的にギヤ位置を手動で切り替えることができます。
メーターにダイレクトモード表示とギヤ位置が表示されます。



シフトアップ/シフトダウンする

ステアリングシフトスイッチのアップスイッチ (+/OFF) またはダウンスイッチ (−) を手前に引く。



1 ダウンスイッチ (−)
2 アップスイッチ (+/OFF)
シフトアップ/シフトダウンします。

知識

オートマチックトランスミッションフルード (ATF) の温度が高温のときは、ダイレクトモードになりません。また、ダイレクトモードにしているときに ATF の温度が高温になると、ダイレクトモードが解除されることがあります。

停車中は、ダウンスイッチ (−) を手前に引いてもダイレクトモードにできません。

ダイレクトモードでも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとキックダウンしますが、トラクションコントロールシステム (TCS)を OFF にしているときは、キックダウンしません。ただし、エンジン回転が高い状態で連続走行したときには、エンジン保護のため自動的にシフトアップする場合があります。

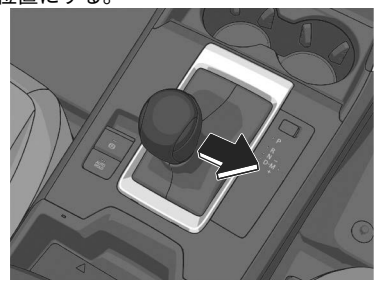
ダイレクトモードを解除する

次の操作を行なうと、ダイレクトモードを解除できます。

・アップスイッチ (+/OFF) を一定時間以上手前に引く。
・一定時間以上走行する (操作時の走行状態により時間は異なります)。
・停車する。
・低速で走行する。

マニュアルモードを使用する

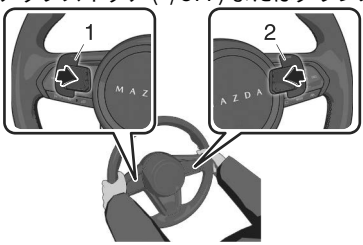
セレクトレバーを D から M の位置にする。



マニュアルモードになり、ギヤ位置を手動で切り替えることができます。

シフトアップ/シフトダウンする

ステアリングシフトスイッチのアップスイッチ (+/OFF) またはダウンスイッチ (−) を手前に引く。



1 ダウンスイッチ (−)
2 アップスイッチ (+/OFF)
シフトアップ/シフトダウンします。

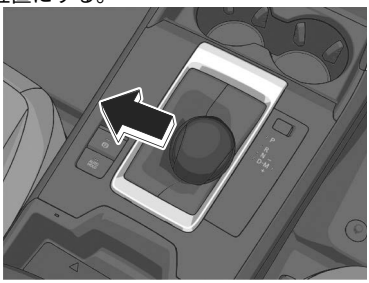
知識

ATF の温度が高温のときは、マニュアルモードになりません。また、マニュアルモードにしているときに ATF の温度が高温になると、マニュアルモードが解除されることがあります。

マニュアルモードでも、アクセルペダルをいっぱいに踏み込むとキックダウンしますが、TCS を OFF、またはオフロード・トラクション・アシストを ON にしているときは、キックダウンしません。ただし、エンジン回転が高い状態で連続走行したときには、エンジン保護のため自動的にシフトアップする場合があります。

マニュアルモードを解除する

セレクトレバーを M から D の位置にする。



マニュアルモードが解除されます。

シフトチェンジ (変速) 制限速度

→5-35 ページ 「セレクトレバーの使いかた」

電動パーキングブレーキ (EPB)

電動パーキングブレーキ (EPB) について

EPB は、モーターでパーキングブレーキをかける装置です。

知識

車両の電源が OFF または ACC のときにパーキングブレーキがかかっている場合は、メーター内の EPB 表示灯 (P) PARK およびスイッチの表示灯が一定時間点灯することがあります。

電動パーキングブレーキ (EPB) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

パーキングブレーキをかけたまま走行しない。
パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱しブレーキシステムが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。走行するときはパーキングブレーキを解除し、メーター内の EPB 表示灯 (P) PARK が消灯していることを確認してください。

車から離れるときは、パーキングブレーキをかける。
意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車から離れるときはパーキングブレーキをかけ、メーター内の EPB 表示灯 (P) PARK が点灯していることを確認してください。

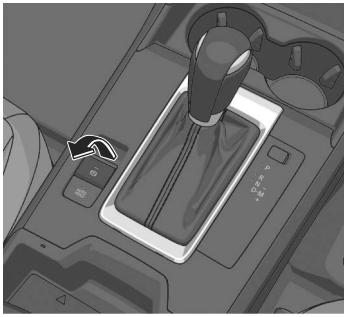
⚠ 注意

意図せず車両が動き出すおそれがあるので、ブレーキペダルをしっかり踏んでシフト操作をしてください。ブレーキペダルの踏みかたが浅いと、シフト連動解除が作動しないことがあります。

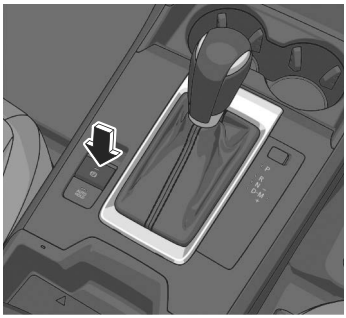
エンジン作動中でパーキングブレーキがかかっているときに、アクセルペダルに足などがあたると、パーキングブレーキが自動で解除され、意図せず車両が動き出すおそれがあります。ただちに発進しない場合は、セレクトレバーを P または N の位置にしてください。

電動パーキングブレーキ (EPB) の使いかた

パーキングブレーキを手動でかける

1. ブレーキペダルを踏む。
2. 
3. パーキングブレーキがかかり、メーター内の EPB 表示灯(Ⓟ)PARKと EPB スイッチの表示灯が点灯します。

パーキングブレーキを手動で解除する

1. 車両の電源が ON のときにブレーキペダルを踏む。
2. 
3. パーキングブレーキが解除され、メーター内の EPB 表示灯(Ⓟ)PARKと EPB スイッチの表示灯が消灯します。

知識

車両の電源が OFF のときに、パーキングブレーキを解除したい場合は、パーキングブレーキの自動作動を停止する必要があります。寒冷時などパーキングブレーキの凍結が考えられる場合は、パーキングブレーキの自動作動を停止してください。

メーター内の充電警告灯が点灯しているときは、車両の電源を OFF にした後、パーキングブレーキをかけることができません。車両の電源を OFF にする前に、手動でパーキングブレーキをかけてください。

パーキングブレーキを自動でかける

車両の電源を ON から ACC/OFF にする。

パーキングブレーキがかかり、メーター内の EPB 表示灯(Ⓟ) PARK と EPB スイッチの表示灯が点灯します。

知識

車両の電源を OFF にした後もパーキングブレーキを解除したままにしたい場合は、パーキングブレーキの自動作動を停止する必要があります。

パーキングブレーキを自動で解除する

シフト連動解除

次の条件をすべて満たしているときに、セレクトレバーを P から P 以外の位置にする。

・エンジン作動中のとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・ブレーキペダルを踏んでいるとき

パーキングブレーキが解除され、メーター内の EPB 表示灯(Ⓟ) PARK と EPB スイッチの表示灯が消灯します。

アクセル連動解除

次の条件をすべて満たしているときに、アクセルペダルを踏む。

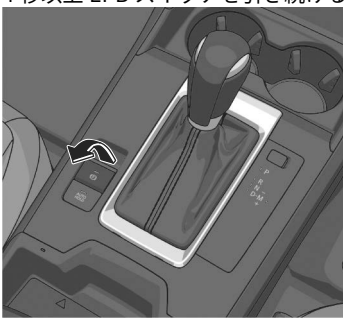
・エンジン作動中のとき
・運転席ドアが閉まっているとき
・運転席シートベルトを着用しているとき
・セレクトレバーが D/R の位置のとき

パーキングブレーキが解除されメーター内の EPB 表示灯(Ⓟ) PARK と EPB スイッチの表示灯が消灯します。

電動パーキングブレーキ (EPB) の便利な使いかた

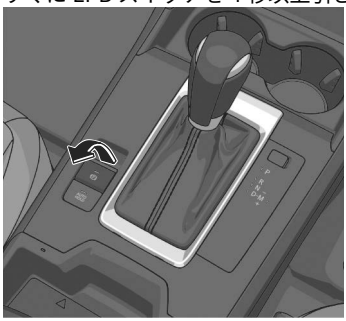
シフト連動解除の有効/無効を切り替える

1. 車両の電源を ON にする (エンジンを始動しない)。
2. パーキングブレーキがかかっていることを確認する (EPB 表示灯 (Ⓟ) PARK 点灯)。
3. 4 秒以上 EPB スイッチを引き続ける。



4. 一度 EPB スイッチから手を離す。

5. すぐに EPB スイッチを 4 秒以上引き続ける。



シフト連動解除を有効にすると、チャイムが 2 回鳴り、EPB スイッチの表示灯が速い点滅に変わり、一定時間点滅します。
シフト連動解除を無効にすると、チャイムが 1 回鳴り、EPB スイッチの表示灯が遅い点滅に変わり、一定時間点滅します。

パーキングブレーキの自動作動を停止する

パーキングブレーキの自動作動は、車両の電源を ON にすると自動作動する状態にもどります。パーキングブレーキの自動作動を停止して駐車するときは、セレクトレバーを P の位置にしてタイヤに輪止めをしてください。次のどちらかの操作をすると、車両の電源を ON から OFF にしたときのパーキングブレーキの自動作動を停止できます。

操作方法 1

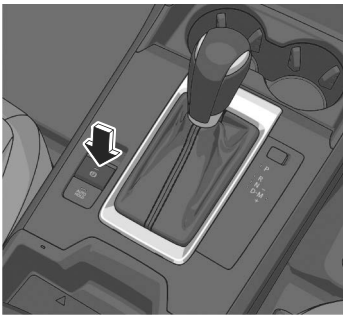
1. 車両の電源を ON にする。
2. パーキングブレーキを手動で解除する。
3. オートホールドを OFF にする。
4. チャイムが鳴るまで、EPB スイッチを押し続ける。



5. EPB スイッチから手を離す。
6. チャイムが鳴ってからすぐに、車両の電源を OFF にする。
   パーキングブレーキの自動作動を停止すると、チャイムが 1 回鳴り、EPB スイッチの表示灯が、消灯から速い点滅に変わり、一定時間後に消灯します。

操作方法 2

1. 車両の電源を ON にする。
2. パーキングブレーキを手動で解除する。
3. オートホールドを OFF にする。
4. EPB スイッチを押した状態で、ブレーキペダルを踏まずに車両の電源を OFF にする。



パーキングブレーキの自動作動を停止すると、チャイムが 1 回鳴り、EPB スイッチの表示灯が、消灯から速い点滅に変わり、一定時間後に消灯します。

知識

急勾配のときは、自動作動を停止できない場合があります。

ブレーキ･オーバーライド･システム

ブレーキ･オーバーライド･システムについて

ブレーキ･オーバーライド･システムは、ブレーキペダルとアクセルペダルを同時に踏み込んだときに、安全のためにブレーキを優先するシステムです。ブレーキ･オーバーライド･システムが作動するとメーター内のブレーキ･オーバーライド警告灯 が点灯します。

ブレーキ･オーバーライド･システム使用上の警告･注意

注意

ブレーキペダルに足を乗せたまま走行しないでください。ブレーキオーバーライドシステムが正しく作動しない場合があります。

ブレーキ･オーバーライド･システムの便利な使いかた

ブレーキ･オーバーライド･システムの警告を作動しないように変更できます。

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

オートホールド

オートホールドについて

オートホールドは、車両が停車しているときにブレーキペダルから足を離しても、ブレーキをかけて車両の停車状態を保持する機能です。信号待ちなどの停車時に運転者の負担を軽減します。

オートホールド使用上の警告･注意

⚠ 警告

オートホールドは､あくまでも停車時のブレーキ操作を補助する機能です。
機能を過信してブレーキ操作を怠ると､意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。道路状況や周囲の状況に応じて､適切にブレーキを操作してください。積載やけん引の状態によって､車両が意図せず動き出す可能性がありますので､ご注意ください。

停車中､急な坂道ではブレーキペダルから足を離さない。
オートホールド機能による停車保持ができない可能性があるため､意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

凍結路､積雪路および未舗装路などのすべりやすい路面では､オートホールドの使用をひかえる。
オートホールド機能による停車保持が作動していても､車両が動き出し､思わぬ事故につながるおそれがあります。必要に応じてアクセルやブレーキ､ハンドルを適切に操作してください。

次のような場合は､ただちにブレーキペダルを踏み込む。
オートホールド機能が強制解除されるため､意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
マルチインフォメーションディスプレイに「ブレーキペダルを踏んでください停止保持を継続できません」とメッセージが表示され､同時にブザーが鳴ったとき。

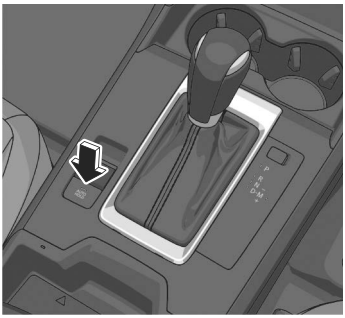
駐車するとき､および車両から離れるときは､パーキングブレーキをかける。
オートホールド機能が強制解除されるため､意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。
意図せず車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。駐車するとき､および車両から離れるときは､セレクトレバーを P の位置にして､パーキングブレーキをかけてください。

⚠ 注意

車両が発進する前にアクセル操作をやめた場合､ブレーキが解除される場合があります。ブレーキペダルをしっかり踏み込む､または発進するまでアクセルペダルを踏み込んでください。

オートホールドの使いかた

オートホールドを作動可能な状態にする



オートホールドが作動可能な状態になり、オートホールドスタンバイ表示灯が点灯します。

オートホールドを使用する

1. 車両を停車する。
   次のすべての条件を満たすと、オートホールドが作動し、メーター内のオートホールド作動表示灯HOLDが点灯します。
   - ・エンジンが作動しているとき
   - ・運転席シートベルトを着用しているとき
   - ・運転席ドアが閉まっているとき
   - ・パーキングブレーキを解除しているとき
2. 車両を発進させる。
   ブレーキの保持が解除され、メーター内のオートホールド作動表示灯HOLDが消灯します。

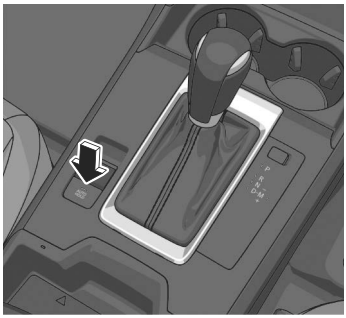
知識

オートホールドが作動した状態で約 10 分以上経過すると、パーキングブレーキが自動でかかります。パーキングブレーキを解除すると、再度オートホールドが作動します。

オートホールドが作動しているときに、車両の電源を OFF にすると、自動的にパーキングブレーキがかかり、オートホールドが OFF になります。

車両前上がりの状態、または平坦路でセレクトレバーを R の位置にすると、オートホールドが解除されます。必要に応じてブレーキを操作してください。

オートホールドの作動を停止する

1. オートホールドが作動している状態で､ブレーキペダルを踏む。
2. 
3. オートホールドの作動が停止し､オートホールドスタンバイ表示灯が消灯します。

知識

走行中は､オートホールドスイッチを押すと､オートホールドを停止できます。

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA)

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) について

HLA は､坂道などでブレーキペダルから足を離したときに､車両の後退または前進を防止する装置です。

知識

緩勾配の坂道や積載状態によって HLA が作動しないことがあります。

パーキングブレーキがかかっているときや､車両が完全に停車していないときは HLA は作動しません。

TCS/DSC 作動表示灯が点灯しているときは､HLA が作動しないことがあります。

トラクションコントロールシステム (TCS)を解除しても HLA は解除されません。

ヒル･ローンチ･アシスト (HLA) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

HLA を過信しない。
HLA は、あくまで発進するときの補助機能です。HLA が作動する時間は限られています (約 2 秒間) ので、アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると、車両が動き出して思わぬ事故につながるおそれがあるため危険です。発進時は周囲の安全を確認してください。積載やけん引の状態によって、車両が意図せず動き出す可能性がありますのでご注意ください。

エマージェンシーシグナルシステム (ESS)

エマージェンシーシグナルシステム (ESS) について

ESS は、急ブレーキをかけると、すべての方向指示灯を高速で点滅させ、後続車に注意を促すシステムです。ESS は、急ブレーキをかけたときの車速が 55 km/h 以上のときに作動します。

知識

すべての方向指示灯が高速点滅中に停車したときは、すべての方向指示灯は通常の周期で点滅します。ブレーキペダルから足を離すと方向指示灯が消灯します。

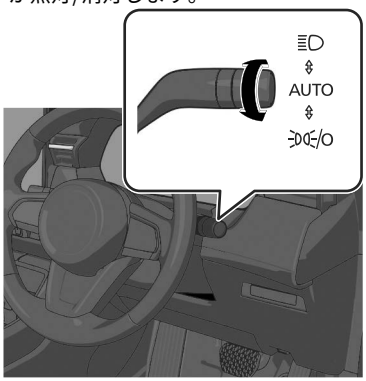
アンチロックブレーキシステム (ABS) 作動時は、ESS が作動しやすくなります。そのため、すべりやすい路面でブレーキをかけると ESS が作動することがあります。

非常点滅表示灯を使用しているときは、ESS が作動しません。

ランプスイッチ

ランプスイッチについて

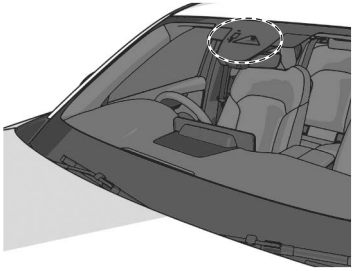
スイッチを操作すると、各ランプが点灯/消灯します。



ランプスイッチ使用上の警告･注意

⚠ 注意

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてライトセンサーを覆わないでください。
センサーが周囲の明るさを正確に感知できなくなります。



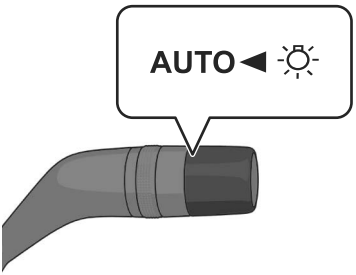
ランプスイッチの使いかた

知識

対向車がまぶしくないヘッドランプを採用しています。そのため､海外のような一時的な右側通行で使用するときでも､ヘッドランプの光軸を調整する必要はありません。

オートライトを使用する

ランプスイッチが AUTO の位置にあることを確認する。



明るいときはデイタイムランニングランプ､尾灯､番号灯が自動で点灯し､暗くなるとヘッドランプ､車幅灯､尾灯､番号灯が自動で点灯します。デイタイムランニングランプ点灯時には、尾灯、番号灯も同時に点灯します。
車幅灯､尾灯､番号灯が点灯すると､メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

知識

昼間でも周囲が暗い状態が数分間続くとライトセンサーが夜間と判断し、周囲が明るくなってもランプがすぐには消灯しない場合があります。

ヘッドランプを点灯させるタイミングを変更することができます。

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⚙ で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

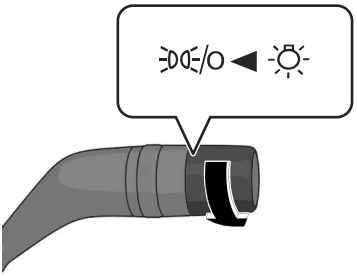
デイタイムランニングランプが点灯しないように設定できます。

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⚙ で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

車幅灯、尾灯、番号灯のみを使用する

車両の電源が ON のとき

停車時にランプスイッチを 5 秒以内に手前へ 2 回まわす。



車幅灯、尾灯、番号灯が点灯し、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。
車両を発進させると、デイタイムランニングランプまたはヘッドランプが点灯します。

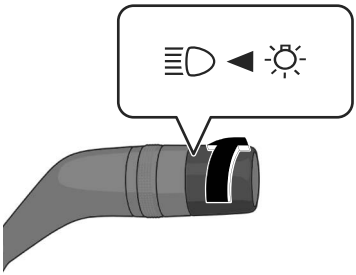
車両の電源が OFF のとき

停車時にランプスイッチを手前へ 1 回まわす。
車幅灯、尾灯、番号灯が点灯し、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

知識

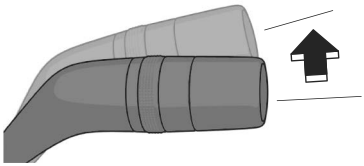
車両の電源が OFF のときに、ランプを点灯したままにしないでください。12 V バッテリーがあがるおそれがあります。

ヘッドランプを使用する



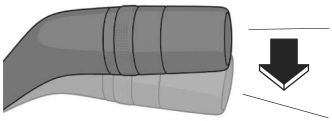
ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯し、メーター内の車幅灯表示灯が点灯します。

ヘッドランプを上向き (ハイビーム) に切り替える



ヘッドランプが上向き (ハイビーム) に切り替わり、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。
レバーをもとに位置にもどすと、下向き (ロービーム) に切り替わります。

パッシングをする



レバーを操作している間、ヘッドランプが上向き (ハイビーム) が点灯し、メーター内のヘッドランプ上向き表示灯が点灯します。

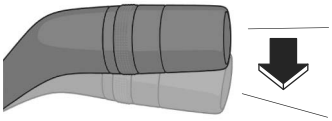
ランプスイッチの便利な使いかた

カミング･ホーム･ライト

車両の電源を OFF にした後に、しばらくの間ヘッドランプを点灯させることができます。

カミング･ホーム･ライトを使用する

1. 車両の電源を ACC または OFF にする。
2.



ヘッドランプが点灯し、次のいずれかの状態になると消灯します。

・車を降りて、すべてのドアが閉まってから一定時間が経過したとき
・ヘッドランプが点灯してから 3 分間経過したとき
・ヘッドランプが点灯してからランプスイッチを操作したとき

知識

ヘッドランプが消灯するまでの時間を変更することができます。

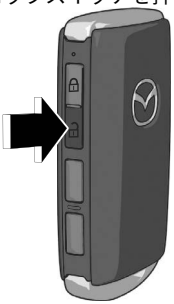
マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⚙ で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

リービング・ホーム・ライト

キーの操作で、離れた車のランプを点灯させることができます。

リービング・ホーム・ライトを使用する

車両の電源が OFF のときに、キーのアンロックスイッチを押す。



車両がキー操作信号を受信すると、ヘッドランプ、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
次のいずれかの状態になると消灯します。

・ランプが点灯してから 30 秒間経過したとき
・キーのロックスイッチを押したとき



知識

リービング･ホーム･ライトが作動しないように設定できます。

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⚙ で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

リアフォグランプスイッチの使いかた*

スイッチを操作すると、リアフォグランプが点灯/消灯します。

リアフォグランプを使用する

ヘッドランプが点灯しているときに、リアフォグランプスイッチをの位置にする。

フォグランプスイッチは自動での位置にもどります。

リアフォグランプが点灯し、メーター内のリアフォグランプ表示灯  が点灯します。

知識

ヘッドランプが消灯しても、車幅灯が点灯しているときはリアフォグランプも点灯し続けます。

リアフォグランプを消灯する

リアフォグランプスイッチを  の位置にする。

方向指示器

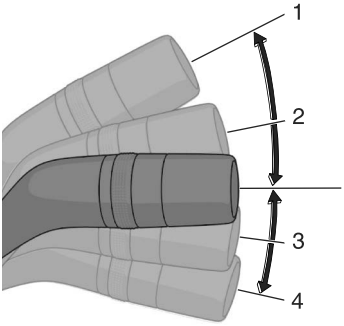
方向指示器の使いかた

レバーを操作すると、方向指示灯が点滅/消灯します。

方向指示器を使用する

左折または右折する

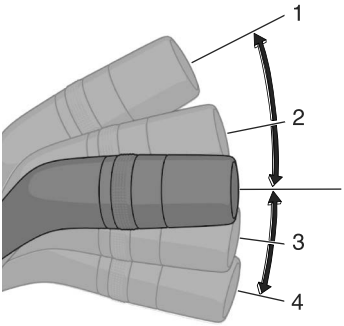
レバーを①または④の位置まで操作する。



各方向指示灯が点滅し、メーター内の方向指示灯⇦⇨が点滅します。
レバーはハンドル操作に連動してもとにもどります。もどらないときは手動でもどしてください。

車線変更をする

レバーを②または③の位置まで操作する。



レバーを②または③の位置にしている間、各方向指示灯が点滅し、メーター内の方向指示灯⇦⇨が点滅します。
レバーを②または③の位置にしてすぐに離すと、スリーフラッシュターンシグナルが作動し、方向指示灯が 3 回点滅します。

知識

方向指示器のブザーの音量を変更することができます。

知識

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⚙ で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

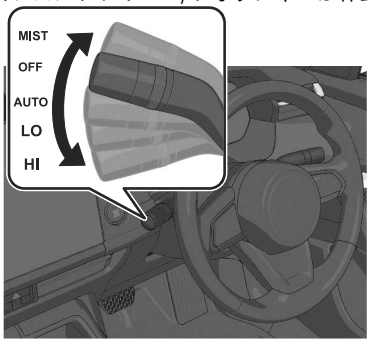
スリーフラッシュターンシグナルを非作動に変更することができます。

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⚙ で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ワイパー/ウォッシャースイッチ

フロントワイパー/ウォッシャースイッチについて

スイッチやレバーを操作すると、フロントワイパー/ウォッシャーが作動します。



フロントワイパー/ウォッシャースイッチ使用上の警告･注意

⚠ 警告

寒冷地では不凍液が入ったウォッシャー液を使用する。また寒冷時にウォッシャー液を噴射するときは、ガラスを温めてから行なう。

寒冷時に不凍液が含まれないウォッシャー液を使用した場合、フロントガラス上で凍結し、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。ウォッシャー液を噴射する前に、デフロスターを使用してフロントガラスが十分に温まっていることを確認してください。

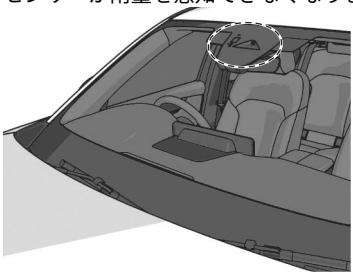
⚠ 注意

凍結時や長時間ワイパーを使用しなかったときは、ワイパーゴムがガラスに貼り付いていることがあります。ガラスに貼り付いた状態で作動させると、ワイパーゴムの損傷、ワイパーモーターの故障につながるおそれがあります。

ガラスが乾いている状態でワイパーを作動させると、ガラスに傷がついたり、ワイパーゴムを損傷したりするおそれがあります。ガラスが乾いているときは、ウォッシャー液を噴射してください。

ウォッシャー液が十分に出ないときは、ウォッシャースイッチを使用しないでください。ウォッシャー液が出ない状態で、ウォッシャースイッチを操作し続けると、ポンプの故障につながるおそれがあります。

フロントガラスにステッカーやラベルなどを貼り付けてレインセンサーを覆わないでください。センサーが雨量を感知できなくなります。



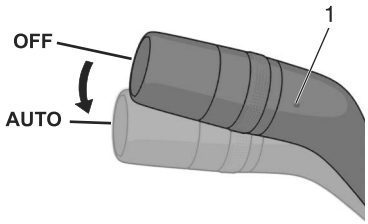
車両の電源が ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、次のような場合はワイパーが自動で作動することがあります。

- フロントガラスのレインセンサー上部に触れたり、布などでふいたとき。
- フロントガラスや車内のレインセンサー部に衝撃が加わったとき。

ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、フロントガラスやワイパーを触らないでください。ワイパーが自動で作動し、指を挟んだり、ワイパーが損傷するおそれがあります。車両の電源が ON で氷や雪を除去する、またはフロントガラスを清掃するときは、ワイパーレバーを OFF の位置にしてください。

フロントワイパー/ウォッシャースイッチの使いかた

オートワイパーを使用する



1 表示灯
レバーの表示灯が点灯します。
雨量に応じて、ワイパーが自動で作動します。

知識

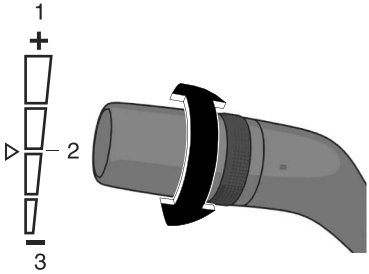
純正品以外の撥水コーティングを使用すると、レインセンサーが雨量を正確に検知できず、オートワイパーが正常に作動しないことがあります。純正品以外の撥水コーティングは使用しないでください。

フロントガラスのレインセンサー上部に泥や氷などが付着しているときに、ワイパーが数回作動しても泥や氷などを取り除けない場合、オートワイパーは作動を停止します。オートワイパーが停止した場合は、フロントガラスの泥や氷などを取り除いてください。

レインセンサーは光学センサーを使用しているため、強い光源、電磁波、赤外線などの影響により、オートワイパーが作動することがあります。雨天時以外はワイパーレバーを OFF の位置にして走行することをおすすめします。

オートワイパーの感度を変更する

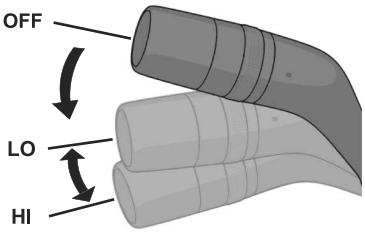
スイッチをまわすと、雨に反応する感度を調節できます。



1 雨に反応しやすい
2 普通
3 雨に反応しにくい

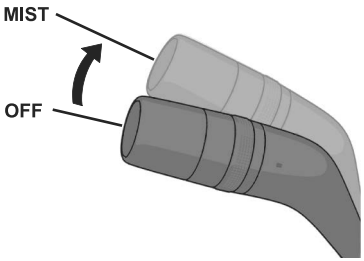
フロントワイパーを使用する

連続で使用する



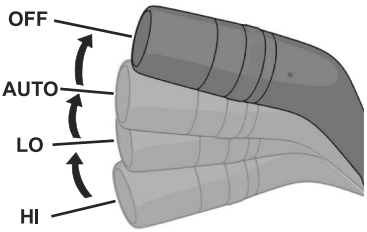
LO の位置にするとワイパーが低速で作動し、HI の位置にすると高速で作動します。

一時的に使用する



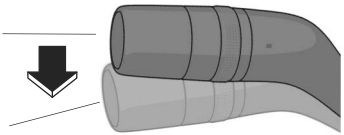
レバーを MIST の位置にしている間、ワイパーが作動します。
レバーを MIST の位置にしてすぐに離すと、ワイパーが一度だけ作動します。

フロントワイパーを停止する



ワイパーが停止します。

フロントウォッシャーを使用する



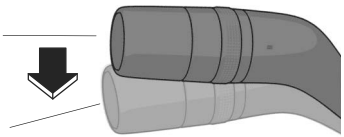
ワイパーが格納位置から反転位置に動いている間にウォッシャー液が噴射し、ワイパーが数回作動します。

知識

レバーを 5 回引いてフロントウォッシャーを作動させたときに、ヘッドランプウォッシャーも連動して作動します。

ヘッドランプウォッシャーを使用する

ヘッドランプが点灯しているときに、レバーを矢印の方向に 2 回引く。

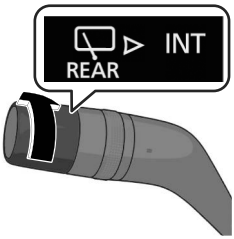


ウォッシャー液が噴射します。

リアワイパー/ウォッシャースイッチの使いかた

リアワイパーを使用する

間欠作動で使用する



ワイパーが一定間隔で作動します。

連続作動で使用する



ワイパーが連続作動します。

リアワイパーを停止する



ワイパーが停止します。

リアウォッシャーを使用する



スイッチを の位置にしている間、ウォッシャー液が噴射し、ワイパーが作動します。

知識

フロントウォッシャー液が噴射しているときは、スイッチを操作してもリアウォッシャー液は噴射されません。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチについて

リアウインドーを熱線で温め、曇りを取ります。
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) を作動させると、次の装備も連動して作動します。

・ミラーデフォッガー (曇り取り)*
5-64 ページ「ミラーの曇り取りの使いかた」
・ウインドーワイパーデアイサー*
5-64 ページ「ウインドーワイパーデアイサーの使いかた」

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ使用上の警告・注意

注意

リアウインドーの内側には熱線が取り付けてあります。清掃するときは熱線を傷つけないようにしてください。

 *グレード/仕様別装備

⚠ 注意

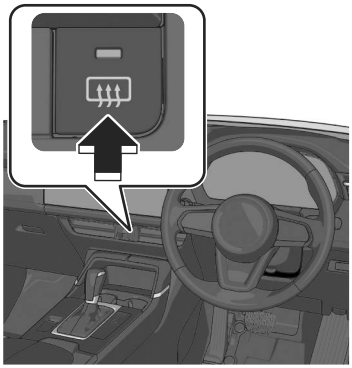
→9-20 ページ「外装をお手入れする」

リアウインドーデフォッガーは、エンジン作動中に使用してください。また、連続して長時間使用しないでください。12 V バッテリーがあがるおそれがあります。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかた

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) を使用する

1. エンジンを始動する。
2.



3. リアウインドーデフォッガー (曇り取り) が作動し、スイッチの表示灯が点灯します。
   リアウインドーデフォッガー (曇り取り) は約 15 分間作動すると自動で停止します。

知識

リアウインドーデフォッガーの作動時間を変更することができます。

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⚙ で設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) を停止する

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) 作動中に、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチを押す。
リアウインドーデフォッガー (曇り取り) が停止し、スイッチの表示灯が消灯します。

ミラーの曇り取りについて*

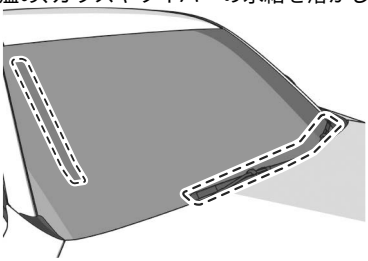
ミラーを熱線で温めて、曇りを取ります。

ミラーの曇り取りの使いかた

ミラーデフォッガー (曇り取り) は、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) と連動して作動します。
操作方法は、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかたを参照してください。
→5-63 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかた」

ウインドーワイパーデアイサーについて*

フロントガラスの一部を熱線で温め、ガラスやワイパーの氷結を溶かします。



ウインドーワイパーデアイサーの使いかた

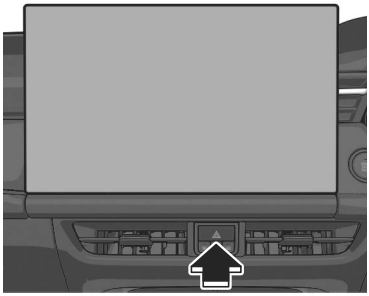
ウインドーワイパーデアイサーは、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) と連動して作動します。
操作方法は、リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかたを参照してください。
→5-63 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかた」

非常点滅表示灯

非常点滅表示灯について

故障などでやむをえず路上駐車するときや、非常時に使用します。

非常点滅表示灯の使いかた



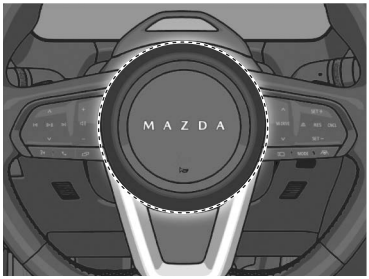
すべての方向指示灯が点滅し、メーター内の方向指示灯⇦⇨および非常点滅表示灯が点滅します。
もう一度スイッチを押すと消灯します。

 *グレード/仕様別装備

ホーン

ホーンの使いかた

ハンドルのマーク周辺部を押す。
押している間、ホーンが鳴ります。



アンチロックブレーキシステム (ABS)

アンチロックブレーキシステム (ABS) について

ABS は、すべりやすい路面での制動時に起こる車輪のロックを防いで車の方向安定性を保ち、操縦性を確保するシステムです。

知識

ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルから小刻みな振動を感じることがあります。これは ABS が正常に作動しているときの現象です。

ABS は低速 (10 km/h 以下) では作動しません。

アンチロックブレーキシステム (ABS) 使用上の警告・注意

警告

ABS を過信せず安全運転に心がける。
ABS が作動した状態でも車の方向安定性や操縦性には限界があります。また、次のようなときには、速度をひかえめにし、車間距離を十分にとって運転してください。ABS が装備されていない車に比べて制動距離が長くなることがあるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ジャリ道、新雪道を走行しているとき。
- タイヤチェーンを装着しているとき。
- 道路の継ぎ目などの段差を乗り越えるとき。
- 凸凹道や石だたみなどの悪路を走行しているとき。

⚠ 注意

前後輪とも必ず指定されたサイズや種類のタイヤを装着してください。指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると、ABS が正常に作動しないことがあります。

トラクションコントロールシステム (TCS)

トラクションコントロールシステム (TCS) について

TCS は、水にぬれた路面や雪道などのすべりやすい路面での発進や旋回加速時に起こる駆動輪の空転を防ぎ、適切な駆動力と操縦性を確保するシステムです。

トラクションコントロールシステム (TCS) 使用上の警告・注意

⚠ 警告

TCS を過信せず安全運転に心がける。
TCS が作動した状態でも駆動力の確保や車の操縦性には限界があり、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。

トラクションコントロールシステム (TCS) の使いかた

車両の電源を ON にすると、TCS が作動可能な状態になります。

TCS が作動すると TCS/DSC 作動表示灯 が点滅します。

TCS の作動を停止する

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの →“Dynamics” を選択し、表示されている TCS OFF をタップすると TCS の作動が停止し、メーター内の TCS OFF 表示灯 が点灯します。

もう一度、TCS OFF をタップすると、TCS が作動可能な状態になります。

知識

TCS の作動を停止した状態でエンジンを停止した場合、次にエンジンを始動すると TCS が作動可能な状態にもどります。

ぬかるみや新雪などからの脱出時に TCS が作動し、アクセルペダルを踏み込んでもエンジンの出力が上がらず、脱出困難なときに TCS の作動を停止します。

TCS の作動を停止しているときに、次のシステムが作動すると、TCS が作動可能な状態になります。

・スマート・ブレーキ・サポート (SBS)
・衝突二次被害軽減システム (SCR)

TCS の作動を停止している間は、マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール(MRCC)を設定することができません。TCS が作動可能な状態で MRCC を設定してください。

知識

また、MRCC 制御中に TCS の作動を停止すると MRCC 制御が解除されます。

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC)

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) について

DSC は､すべりやすい路面での走行時や､緊急回避など急激なハンドル操作による車両の横すべりを抑えるため､ABS や TCS などにより､ブレーキやエンジンの出力を自動的に制御して､車両の安定性を確保するシステムです。
「アンチロックブレーキシステム (ABS) について」､「トラクションコントロールシステム (TCS) について」もあわせてお読みください。
→5-65 ページ「アンチロックブレーキシステム (ABS) について」
→5-66 ページ「トラクションコントロールシステム (TCS) について」

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) 使用上の警告･注意

警告

DSC を過信せず安全運転に心がける。
DSC が作動した状態でも車両の安定性や操縦性には限界があるため､無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。特に TCS/DSC 作動表示灯 が点滅しているときは､車両が横すべりしやすい状態になっています。慎重に運転してください。

注意

DSC を正常に作動させるために次の点をお守りください。

- タイヤは指定されたサイズを使用し､4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

タイヤチェーンや応急用スペアタイヤ装着時のように径の異なるタイヤを使用したときは､DSC が正常に作動しないことがあります。

ダイナミック･スタビリティ･コントロール (DSC) の使いかた

車速が 20 km/h 以上で走行する。
DSC が作動可能な状態になります。

DSC が作動すると TCS/DSC 作動表示灯 が点滅します。

トレーラー･スタビリティ･コントロール (TSC)

トレーラー･スタビリティ･コントロール (TSC) について

TSC は、けん引時の車両の安定性を確保するシステムです。
けん引時に車両の横揺れが発生すると、ブレーキやエンジンの出力を制御して、横揺れを抑制します。

トレーラー･スタビリティ･コントロール (TSC) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

TSC を過信せず安全運転に心がける。
TSC が作動した状態でも車両の安定性には限界があるため、無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあります。特に TCS/DSC 作動表示灯が点滅しているときは、不安定な状態にあり揺れやすいので、道路、車両およびトレーラーの状態に応じて慎重に運転してください。

⚠ 注意

TSC を正常に作動させるために次の点をお守りください。

- タイヤは指定されたサイズを使用し、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

タイヤチェーン使用時は、慎重に運転してください。タイヤ径が異なるため、TSC が正常に作動しないことがあります。

トレーラー･スタビリティ･コントロール (TSC) の使いかた

車速が 65 km/h 以上で走行する。TSC が作動可能な状態になります。TSC が作動すると TCS/DSC 作動表示灯 が点滅します。

アクティブドライビングサウンド

アクティブドライビングサウンドについて

アクティブドライビングサウンドは、車両に搭載されたスピーカーからエンジン音を補う音を出力し、加速感やスピード感を演出します。

ヒルディセントコントロール

ヒルディセントコントロールについて*

ヒルディセントコントロールは、急な下り坂、オフロードや雪道を下るときに、車速を一定に保つシステムです。アクセルやブレーキの操作をしなくても、低速を維持できるため、運転者はハンドル操作に集中できます。

 *グレード/仕様別装備

ヒルディセントコントロール使用上の警告･注意

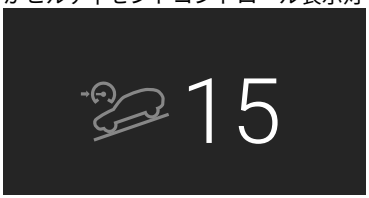
⚠警告

ヒルディセントコントロールを過信しない。
極端に急な下り坂、凍結路、泥･砂利の道路などすべりやすい路面では必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。一定の低速を維持できず、思わぬ事故につながるおそれがあります。安全運転を心掛けてください。

ヒルディセントコントロールの使いかた

ヒルディセントコントロールを使用する

1. 車速が 25 km/h 以下のときに、をタップします。
   方法 1
   → “車両コントロール” → “Dynamics”→ .
   方法 2
   →“Dynamics”→ .
   ヒルディセントコントロールが作動可能な状態になり、メーター内のヒルディセントコントロール表示灯 (白) が点灯します。
2. 車速が 3 km/h～20 km/h の間で走行する。
3. アクセルペダルおよびブレーキペダルから足を離す。
   ヒルディセントコントロールが作動し、メーター内のヒルディセントコントロール表示灯 (白) がヒルディセントコントロール表示灯 (緑) に変わり、目標速度が表示されます。



ヒルディセントコントロール作動中にアクセルペダルまたは、ブレーキペダルを操作して、目標速度を変更できます。ヒルディセントコントロール作動中はブレーキランプが点灯します。

知識

ヒルディセントコントロールを長時間使用し、ブレーキシステムが過熱すると、一時的にヒルディセントコントロールの作動を停止することがあります。ヒルディセントコントロールの作動が停止すると、警報音がなり、メーター内のヒルディセントコントロール表示灯が消灯します。

TCS/DSC 作動表示灯 が点灯しているときは、ヒルディセントコントロールが使用できないことがあります。

をタップしてもメーター内のヒルディセントコントロール表示灯が点灯しないときは、システムの故障により、ヒルディセントコントロールが使用できないことがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) または、クルージング & トラフィック・サポート (CTS) が作動中は、ヒルディセントコントロールを使用できません。

ヒルディセントコントロールを解除する

次のいずれかの操作を行なうと、ヒルディセントコントロールが解除されます。

・をタップします。
ヒルディセントコントロールが作動しているときにヒルディセントコントロールスイッチを押すと、ヒルディセントコントロールが徐々に解除されます。
・車速が 30 km/h 以上で走行する。

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive)

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive)について

Mi-Drive は、運転状況、路面状況、車両状況により走行モードを切り替えることができるシステムです。
Mi-Drive には、次の走行モードがあります

SPORT モード

応答性が最大になるように走行します。アクセルペダルを踏み込んだときの車両応答性を高め、力強く加速します。

NORMAL モード

走行性能と燃費のバランスが最適になるように走行します。

OFF-ROAD モード*

走破性が最大になるように走行します。オフロード走行時の駆動輪の空転を防ぎ、走破性を高めます。ぬかるみ、砂地、深雪路などすべりやすい路面を走行するときにご使用ください。

 *グレード/仕様別装備

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive)使用上の警告･注意

⚠ 警告

システムを過信しない
Mi-Drive が作動した状態でも車両の安定性には限界があります。無理な運転は思わぬ事故につながるおそれがあるため､常に安全運転を心がけてください。

⚠ 注意

システムを正常に作動させるために次の点をお守りください。

- タイヤは指定されたサイズを使用し､4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

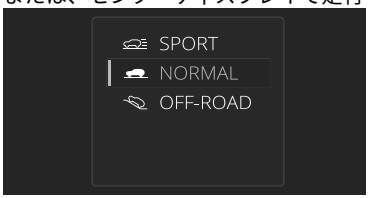
タイヤチェーン使用時は､慎重に運転してください。タイヤ径が異なるため､システムが正常に作動しないことがあります。

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive)の使いかた

1. Mi-Drive スイッチの∧または∨を押します。



2. メーター内のリスト表示を確認しながら､Mi-Drive スイッチの∧または∨を押して走行モードを選択します。
   または、センターディスプレイで走行モードを選択します。



3. 走行モードが確定すると、メーター内の表示が切り替わります。
SPORT モード



NORMAL モード



OFF-ROAD モード*



知識

SPORT モード/OFF-ROAD モードを選択すると、高いエンジン回転数での走行が多くなり、燃費が悪化することがあります。通常時は SPORT モード/OFF-ROAD モードを解除して走行することをおすすめします。

SPORT モード/OFF-ROAD モードを選択したときの走行状態によって、シフトダウンしたり、少し加速したりすることがあります。

SPORT モードで走行中にマツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) を設定すると NORMAL モードに切り替わります。また、MRCC を使用しているときは、SPORT モードに切り替えることができません。

次のときは、走行モードを切り替えることができません。

・アンチロックブレーキシステム (ABS) が作動しているとき
・トラクションコントロールシステム (TCS) が作動しているとき
・ダイナミック・スタビリティ・コントロール (DSC) が作動しているとき
・急なハンドル操作をしているとき

表示がグレーアウトした走行モードは選択できません。

車両の電源を OFF にすると NORMAL モードになります。

i-ACTIV AWD

i-ACTIV AWD について

i-ACTIV AWD は、積雪路、砂地、ぬかるみ、急な坂などすべりやすい路面で優れた走行性を発揮します。

 *グレード/仕様別装備

i-ACTIV AWD 使用上の警告･注意

⚠ 警告

車両が動かなくなったり､溝に入ったりした結果として地面から離れた車輪を回転させない。
ドライブアセンブリが深刻な損傷を受け､事故につながる可能性があります。また､過熱､オイル漏れ､火災につながる可能性もあります。

⚠ 注意

i-ACTIV AWD は､本格的なオフロード走行やラリー走行を目的に作られた万能車ではありません。凸凹や岩を乗り越えたり､川を渡ったりしないでください。

i-ACTIV AWD を正常に作動させるために次の点をお守りください。

- タイヤは指定されたサイズを使用し､4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

パワーステアリング

パワーステアリングについて

パワーステアリングはエンジン作動中に作動します。エンジンが停止している場合やパワーステアリングシステムが動作しない場合でも､ステアリング操舵は可能ですが､通常より重たくなります。

給油

給油時の警告･注意

⚠ 警告

給油するときは必ず次のことを守る。
燃料や燃料蒸気は引火しやすいため､火災や爆発のおそれがあります。

- エンジンを止める。
- タバコなどの火気を給油口に近づけない。
- こぼれた燃料はすみやかにふき取る。

給油を行なう前に､車体の金属部分に触れて体の静電気を除去する。
放電による火花で､燃料に引火したり､やけどしたりするおそれがあります。

給油中は必ず次のことを守る。
再帯電により､燃料に引火したり､やけどしたりするおそれがあります。

- 給油はひとりで行ない､給油口に他の人を近づけない。
- 車内にもどったり､帯電している人や物に触れたりしない。

⚠ 警告

➢ 携帯電話やスマートフォン、その他電子機器などを使用しない。

フューエルキャップの開閉は必ずツマミ部分を持って行なう。
放電による火花で、燃料に引火したり、やけどしたりするおそれがあります。

フューエルキャップを開けるときは、ゆっくりとゆるめ、空気の抜ける音が止まってから開ける。
急に開けると燃料が噴き出すことがあるため、火災につながったり、目や皮膚に付着したりして、傷害につながるおそれがあります。

気化した燃料を吸い込まないようにする。
燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。

給油ノズルは確実に給油口へ挿入する。
給油ノズルの挿入が浅いと給油の自動停止が遅れるため、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

給油の自動停止後は、追加給油しない。
追加給油をすると、燃料があふれて火災につながるおそれがあります。

給油の自動停止後は、すぐに給油ノズルを引き抜かない。
給油ノズル内に残った燃料がこぼれ出て、火災につながるおそれがあります。

フューエルキャップは確実に閉める。
フューエルキャップが確実に閉まっていないと、走行中に燃料が漏れて火災につながるおそれがあります。

⚠ 注意

給油するときは、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。

給油するときは、ドアや窓を必ず閉めてください。火災になった場合、室内に燃え広がるおそれがあります。

給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。燃料が付着すると変色、シミ、塗膜はがれの原因となります。

純正部品以外のフューエルキャップは使用しないでください。燃料装置や排出ガス発散抑止装置などの故障につながるおそれがあります。

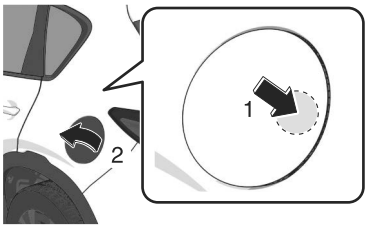
自動洗車機や高圧洗車機を使うときは、フューエルリッドが閉まっていることを確認してドアを施錠してください。フューエルリッドが意図せず開いて損傷するおそれがあります。

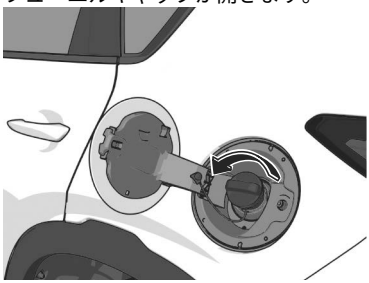
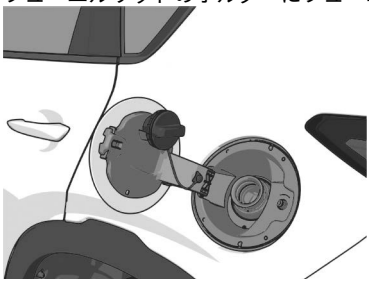
指定燃料以外の燃料を使用したり、純正以外の燃料添加剤を使用したりしないでください。
有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、軽油、高濃度アルコール含有燃料を使用すると、たとえば次のような悪影響をおよぼします。

⚠ 注意

- エンジンや燃料系部品の損傷 (最悪の場合、車両火災)
- エンジンの出力低下や始動性能の悪化

給油のしかた

1. すべてのドア、窓ガラス、リアゲートを閉める。
2. 車両の電源を OFF にする。
3. 運転席ドアを解錠する。
4. 

5. フューエルキャップをゆっくりまわす。
   フューエルキャップが開きます。

6. フューエルリッドのホルダーにフューエルキャップをかける。

7. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
8. フューエルキャップをカチッと音がするまでまわす。
9. フューエルリッドを閉める。

知識

ドアを施錠した後にフューエルリッドを閉めると、フューエルリッドは施錠されません。

次の機能によってドアが施錠された場合は、ドアの施錠と同時にフューエルリッドも施錠されます。

・車速感応式オートドアロック機能
・オートリロック機能

ドアを施錠すると、1 分 30 秒後にフューエルリッドが施錠されます。

ドアを施錠してからフューエルリッドが施錠されるまでの時間を変更できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

i-ACTIVSENSE

i-ACTIVSENSE について

i-ACTIVSENSE (アイ・アクティブセンス) とは、マツダの先進安全・運転支援システムの総称です。
i-ACTIVSENSE は、アクティブセーフティ技術とプリクラッシュセーフティ技術の 2 つの技術で構成されています。

i-ACTIVSENSE 使用上の警告・注意

⚠ 警告

i-ACTIVSENSE を過信しない。
i-ACTIVSENSE は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、運転負荷および事故被害の軽減を目的としています。
i-ACTIVSENSE の各機能には限界がありますので、安全運転を心がけてください。

アクティブセーフティ技術について

アクティブセーフティ技術とは、運転者の安全運転を支援し、事故を未然に防止する技術です。
アクティブセーフティ技術には、認知支援システムと運転支援システムがあります。

認知支援システム

認知支援システムは、道路、標識、車両の周囲、運転者の疲労などの認知を支援するシステムです。
認知支援システムには、次のシステムがあります。

夜間視界

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)..... 5-97 ページ
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)..... 5-99 ページ

左右側面・後側方認知

車線逸脱警報システム..... 5-104 ページ

ブラインド・スポット・モニタリング (BSM).....5-107 ページ

標識認知

交通標識認識システム (TSR).....5-117 ページ

発進報知

発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機).....5-136 ページ

交差点発進時前方認知

前側方接近車両検知 (FCTA).....5-129 ページ

駐車場発進時後方認知

後側方接近車両検知 (RCTA).....5-133 ページ

後退時後方認知

後方歩行者警報.....5-135 ページ

全周囲認知

360° ビュー・モニター.....5-198 ページ

運転者疲労検知

ドライバー・アテンション・アラート (DAA).....5-120 ページ
ドライバー・モニタリング.....5-122 ページ

運転支援システム

運転支援システムは、走行中の加減速やハンドル操作を支援するシステムです。
運転支援システムには、次のシステムがあります。

車間距離

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC).....5-137 ページ
プロアクティブ・ドライビング・アシスト (PDA).....5-176 ページ

車間距離・車線保持

クルージング & トラフィック・サポート (CTS).....5-145 ページ

車線保持

緊急時車線維持支援 (ELK).....5-167 ページ

プリクラッシュセーフティ技術について

プリクラッシュセーフティ技術とは、事故を避けづらい状況での衝突回避支援、および避けられず衝突した際の被害軽減を図る技術です。
プリクラッシュセーフティ技術には、次のシステムがあります。

衝突回避支援・被害軽減

スマート・ブレーキ・サポート (SBS).....5-181 ページ
AT 誤発進抑制制御.....5-192 ページ

衝突被害軽減

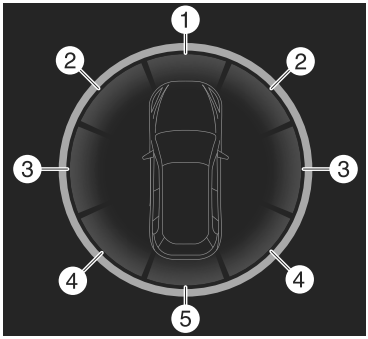
ドライバー異常時対応システム (DEA).....5-220 ページ
衝突二次被害軽減システム.....5-226 ページ

警報･リスク回避支援表示について

センターディスプレイ

警報･リスク回避支援表示は､i-ACTIVSENSE の一部システムの作動状態を示します。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⋮⋮ をタップし 🚗 をタップする。
センターディスプレイに警報･リスク回避支援表示が表示されます。



1 前方系システム作動状態
2 前側方系システム作動状態
3 側方系システム作動状態
4 後側方系システム作動状態
5 後方系システム作動状態

警報･リスク回避支援表示の表示対象システム

前方系システム
次のシステムが前方系システムに該当します。

・交通標識認識システム (TSR)
・緊急時車線維持支援 (ELK) の対向車両衝突回避アシスト機能
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の前方検知機能
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の右直事故回避アシスト機能
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の交差点事故回避アシスト機能
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の対向車衝突被害軽減機能
・AT 誤発進抑制制御 [前進時]

前側方系システム
次のシステムが前側方系システムに該当します。

・前側方接近車両検知 (FCTA)

側方系システム
次のシステムが側方系システムに該当します。

・車線逸脱警報システム
・緊急時車線維持支援 (ELK) のレーンキープ･アシスト･システム (LAS)
・緊急時車線維持支援 (ELK) のロードキープアシスト機能

後側方系システム
次のシステムが後側方系システムに該当します。

・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の右左折時警告機能付
・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の降車時警告機能付

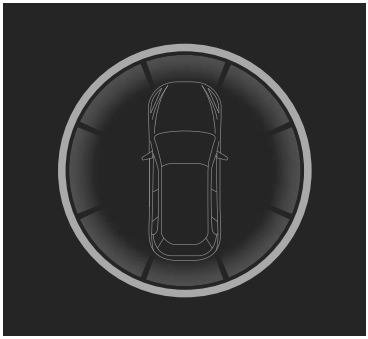
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・後方歩行者警報
・緊急時車線維持支援 (ELK) の側方危険回避アシスト機能

後方系システム
次のシステムが後方系システムに該当します。

・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の前後方検知機能
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の後進時左右接近物検知機能
・AT 誤発進抑制制御 [後退時]

警報･リスク回避支援表示の見かた

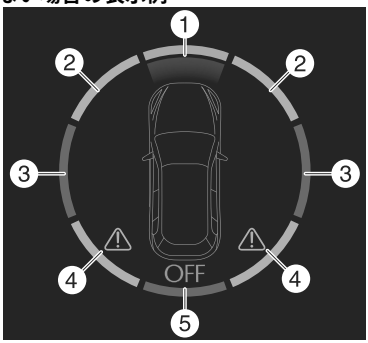
対象システムがすべて ON の場合



ドライバー異常時対応システム (DEA) が OFF の場合



対象システムがすべて ON ではない場合の表示例



1 前方系システムのすべてが ON の状態です。
2 前側方系システムの一部が機能を停止している状態です (橙)。
3 側方系システムの一部が OFF の状態です (グレー)。
4 後側方系システムの一部が故障している状態です。
5 後方系システムのすべてが OFF の状態です。

メーター

警報・リスク回避支援表示は、次のシステムの作動状態を示します。

・車線逸脱警報システム
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) の右左折時警告機能付
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) の降車時警告機能付
・交通標識認識システム (TSR)
・前側方接近車両検知 (FCTA)
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・後方歩行者警報
・緊急時車線維持支援 (ELK) のレーンキープ・アシスト・システム (LAS)
・緊急時車線維持支援 (ELK) のロードキープアシスト機能
・緊急時車線維持支援 (ELK) の側方危険回避アシスト機能
・緊急時車線維持支援 (ELK) の対向車両衝突回避アシスト機能
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前方検知機能
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の右直事故回避アシスト機能
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の交差点事故回避アシスト機能
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の対向車衝突被害軽減機能
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前後方検知機能
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の後進時左右接近物検知機能
・AT 誤発進抑制制御 [後退時]
・AT 誤発進抑制制御 [前進時]

警報・リスク回避支援表示 (白) / (システム待機状態)

すべてのシステムが作動条件を満たしていない、またはいずれかのシステムが機能を停止している場合は、警報・リスク回避支援表示 (白) *1/ が表示されます。

警報・リスク回避支援表示 (緑) / (システム作動状態)

いずれかのシステムが作動条件を満たしている場合は、警報・リスク回避支援表示 (緑) *1/ が表示されます。

知識

警報･リスク回避支援表示 (緑) が表示されていても､作動条件を満たしていないシステムは作動しません。

警報･リスク回避支援表示 (橙) / (システム故障状態)

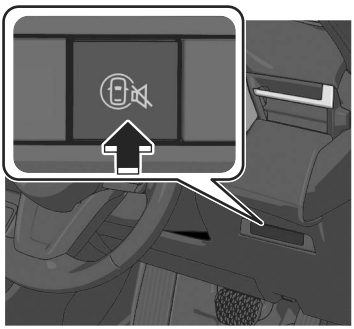
いずれかのシステムが故障している場合は､警報･リスク回避支援表示 (橙) *1/ が表示されます。

警報･リスク回避支援 OFF 表示 / (システム停止状態)

マツダコネクトですべてのシステムを OFF にしている場合は､警報･リスク回避支援 OFF 表示 *1/ が表示されます。

*1 i-ACTIVSENSE の警報音を OFF にしている場合に表示されます。
→5-81 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」

i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた



i-ACTIVSENSE ミュートスイッチを押すと､次のシステムが作動した際の警報音がなくなります。

・車線逸脱警報システム
・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)
・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の右左折時警告機能付
・ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の降車時警告機能付
・交通標識認識システム (TSR)
・前側方接近車両検知 (FCTA)
・緊急時車線維持支援 (ELK) のロードキープアシスト機能
・緊急時車線維持支援 (ELK) の側方危険回避アシスト機能
・緊急時車線維持支援 (ELK) の対向車両衝突回避アシスト機能

もう一度 i-ACTIVSENSE ミュートスイッチを押すと､もとの作動状態にもどります。

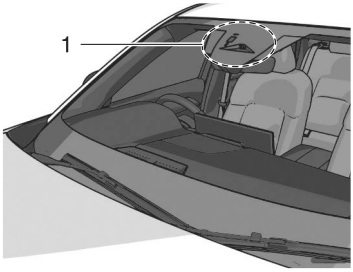
知識

i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで各システムの警報音を OFF にしたまま車両の電源を OFF にすると、次に車両の電源を ON にしたときに各システムの警報音が自動的に ON にもどります。

フロントカメラヘッド

フロントカメラヘッドについて

フロントカメラヘッドは、車両前方を撮影します。i-ACTIVSENSE は、フロントカメラヘッドの映像から車両前方の障害物や区画線などを認識し、交通状況を判断します。



1 フロントカメラヘッド
次のシステムがフロントカメラヘッドを利用します。

- ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)
- アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)
- 車線逸脱警報システム
- 交通標識認識システム (TSR)
- ドライバー・アテンション・アラート (DAA)
- ドライバー・モニタリングの漫然検知機能
- 発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機)
- マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
- クルージング & トラフィック・サポート (CTS)
- 緊急時車線維持支援 (ELK)
- プロアクティブ・ドライビング・アシスト (PDA)
- スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前方検知機能
- AT 誤発進抑制制御 [前進時]
- ドライバー異常時対応システム (DEA)

警告

サスペンションを改造しない。
車高や車の傾きが変わると前方車や障害物を正しく検知できないため、システムが正常に作動しなくなったり、誤って作動したりするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

システムを正しく作動させるために、次のことをお守りください。

- フロントカメラヘッド本体やその周辺部に強い衝撃や力を加えないでください。万一、衝撃が加わった場合は、i-ACTIVSENSE の使用を中止してマツダ販売店にご相談ください。
  - ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)
  - アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH)
  - 車線逸脱警報システム
  - 交通標識認識システム (TSR)
  - ドライバー・アテンション・アラート (DAA)
  - ドライバー・モニタリングの漫然検知機能
  - 発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機)
  - マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
  - クルージング & トラフィック・サポート (CTS)
  - 緊急時車線維持支援 (ELK)
  - プロアクティブ・ドライビング・アシスト (PDA)
  - スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前方検知機能
  - AT 誤発進抑制制御 [前進時]
  - ドライバー異常時対応システム (DEA)
- フロントカメラヘッドのカバーをはずさないでください。
- フロントカメラヘッドのレンズを汚したり、傷をつけたりしないでください。また、分解などもしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- フロントカメラヘッドの向きは厳密に調整されていますので、フロントカメラヘッドの取り付け位置を変更したり、取りはずしたりしないでください。故障や誤作動の原因になります。
- カメラのレンズの手入れは、マツダ販売店にご相談ください。
- インストルメントパネルの上に、光を反射するものを置かないでください。
- フロントカメラヘッド付近のフロントガラスに、アクセサリー、ステッカー、フィルムなどを貼らないでください。フロントカメラヘッドのレンズの前方にさまたげとなるものがあると、それが透明であっても誤作動の原因となります。
- フロントカメラヘッド付近のフロントガラスは、汚れたり曇ったりしないように常にきれいな状態にしてください。フロントガラスが曇った場合は、曇り取りスイッチを押してください。
- フロントカメラヘッド付近のフロントガラスが汚れている場合は、システムが汚れを検知してお知らせします。ただし、ビニール袋、氷、雪などが付着した場合など、状況によっては検知できない場合があります。このようなときは前方車を正しく判断できず、正しい制御ができないおそれがあります。常に前方を注意して運転してください。
- フロントガラスの手入れをする場合は、ガラスクリーナーなどがフロントカメラヘッドのレンズに付着しないようにしてください。また、フロントカメラヘッドのレンズには触れないでください。
- フロントカメラヘッド前方のフロントガラス内側の清掃は、マツダ販売店にご相談ください。
- 飛び石などでフロントガラスに傷がついた場合は、フロントガラスを必ず交換してください。フロントガラスを交換する場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- フロントカメラヘッド本体周辺の修理をする場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- ルームミラー周辺の修理をする場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- タイヤは指定されたサイズを使用し、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤや空気圧が著しく異なるタイヤを、混ぜて使用しないでください (応急用スペアタイヤを含む)。

知識

次の条件をすべて満たしている場合は、システムが歩行者を検知します。

・歩行者の身長が、約 1 m～2 m のとき
・頭部、両肩、足など、歩行者の輪郭が判別できるとき

次のいずれかの条件を満たしている場合は、システムが歩行者を検知できないことがあります。

・歩行者が複数人いるとき
・歩行者が別の障害物の近くにいるとき
・歩行者がしゃがんでいる、横たわっている、前かがみになっているとき
・歩行者が急に飛び出してきたとき
・歩行者が何かを持っているとき (傘をさす、大きな荷物を持つなど)
・歩行者が背景に溶け込んでいるとき (夜間などに暗い場所にいる、背景と近い色の服を着ているなど)

次のいずれかの条件を満たしている場合は、システムが対象物を正確に検知できず、各システムが正常に作動しないことがあります。

・夜間やトンネル内などで、ヘッドランプを点灯していないとき
・対象物がフロントカメラヘッドの死角にいるとき
・対象物が横から飛び出したり、目の前に割り込んだりしたとき
・対象物との距離が極端に近いとき、または極端に遠いとき
・自車が進路変更をして対象物に接近したとき
・対象物が極端に小さいまたは落下物のとき
・前方車が離れた車線から接近してきたとき
・対象物 (前方車、白線 (黄線)、標識) に汚れ、擦れ、色あせ、傾きや曲がりがあるとき
・前方車が特殊な形状のとき (キャリアカーなど)
・前方車が荷台の低いトラックのとき
・前方車の車高が極端に低いとき、または極端に高いとき
・前方車がヘッドランプの照射範囲外にいるとき
・前方車のヘッドランプの明るさが十分でないとき (ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき、ヘッドランプの光軸がずれているときなど)
・先行車のテールランプ点灯面積が小さいとき
・先行車のテールランプが暗いとき、または消灯しているとき
・対向車のヘッドランプが暗いとき、または消灯しているとき
・天候が悪いとき (雨、霧、雪など)
・前方の視界状況が悪いとき (前方車が水、雪、砂などをまき上げて走行するなど)
・前方から強い光を受けたとき (逆光、ヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
・周囲が暗いとき (夜間、夕方、朝方、トンネル、屋内駐車場など)
・周囲に光源があるとき (街灯、電光掲示、信号機など)
・周囲に光を反射する物があるとき (反射板、標識など)
・周囲の明るさが急に変わるとき (トンネルの出入り口など)
・自車のヘッドランプの明るさが十分でないとき (ヘッドランプのレンズが汚れて照射が弱いとき、ヘッドランプの光軸がずれているときなど)
・自車のタイヤが指定サイズと異なるとき (タイヤチェーン装着時、応急用タイヤ装着時など)
・自車のタイヤの偏摩耗が著しいとき
・フロントガラスに異物が付着しているとき (氷、曇り、雪、霜、雨滴、汚れ、ビニールなど)
・フロントガラスが汚れたり、曇ったりしているとき
・フロントカメラヘッド付近に遮へい物があり、前方が見えないとき (ルーフレールを装着して長尺物を載せたときなど)

知識

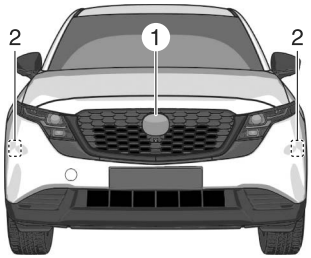
・フロントカメラヘッドが高温または低温のとき
・ウォッシャーを使用しているとき
・降雨時にワイパーを使用していないとき
・自車が傾いているとき (荷室や後席に重い荷物を載せたときなど)
・急カーブ、急な上り坂、急な下り坂を走行しているとき
・カーブの始まりやカーブの終わりを走行しているとき
・カーブの多い道、起伏の激しい道を走行しているとき
・凸凹な道を走行しているとき
・悪路や未舗装の道路を走行しているとき
・中央分離帯や街路樹などで前方車が見え隠れしているとき
・模様のない壁の横を走行しているとき (フェンスや縦じま模様の壁を含む)
・強い光の反射があるとき (路面、水たまり、ガラス、自車のヘッドランプなど)
・車線の白線 (黄線) を正しく検知できないとき (複数引かれている、途切れている、道路補修の消し残り線、影、残雪、雨の溜まったわだち、路面の一部がぬれているなど)
・路外を正しく検知できないとき (縁石が低い、走行している車線と路外の明暗差がない、前方車で隠れている、道路補修の消し残り線、影、残雪、雨の溜まったわだち、路面の一部がぬれているなど)
・電光標識のコントラストが低いとき
・標識の全体または一部が木や電柱などで隠れているとき
・標識を検知する時間が短いとき
・先行車の後部に標識に見えるステッカーが貼られているとき
・標識に似ているマークを検知したとき
・側道の標識を検知したとき

レーダーセンサー

レーダーセンサーについて

レーダーセンサーは、特定方向に電波を送信しつつ反射してもどってきた電波を受信することで対象物を検知します。

車両前方



1 フロントレーダーセンサー
2 フロントサイドレーダーセンサー

車両後方



1 リアサイドレーダーセンサー

⚠ 注意

レーダーセンサーを正しく機能させるために、次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。
- タイヤは指定されたサイズを使用し、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤや空気圧が著しく異なるタイヤを、混ぜて使用しないでください (応急用スペアタイヤを含む)。
- レーダーセンサーに強い水圧を与えたり、強くこすったりしないでください。
- レーダーセンサー付近の部品に、ステッカーなどを貼り付けないでください。
- レーダーセンサー付近の部品に異物が付着した場合は、異物を取り除いて車両の電源を OFF にしてください。車両の電源を OFF にすることで、異物検知の状態がリセットされます。
- レーダーセンサー付近の部品を修理、交換、塗装する場合は、マツダ販売店にご相談ください。
- レーダーセンサーの前面を覆うような部品を取り付けないでください。
- ラジエーターグリルおよびエンブレムを正規品以外の物に取り替えないでください。

レーダーセンサー付近の部品に強い力がかかった場合は、レーダーセンサーが故障したり、レーダーセンサーの向きがずれたりして、各システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちに各システムの使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

レーダーセンサーは、センサーの異常や前面の汚れなどを検知して運転者に知らせる機能を備えています。対処可能なメッセージが画面に表示された場合は、メッセージに従ってください。

レーダーセンサーは、日本国内の電波法の認可を受けています。日本国外で走行する際には、その国の認可を受ける必要があります。

・本製品は、電波法に基づく特定無線設備の技術基準適合証明などを受けております。
・本製品の改造は禁止されています。 (適合証明番号などが無効となります。)
・レーダーセンサーに印字されているマークは電波法の適合証明のため、消さないでください。

フロントレーダーセンサー

次のシステムがフロントレーダーセンサーを利用します。

・ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)
・アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)
・車線逸脱警報システム
・ドライバー･モニタリングの漫然検知機能
・前側方接近車両検知 (FCTA)
・発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機)
・マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)
・クルージング & トラフィック･サポート (CTS)
・クルージング & トラフィック･サポート (CTS) の車線変更アシスト機能
・クルージング & トラフィック･サポート (CTS) のハンズオフアシスト機能 (渋滞時)
・クルージング & トラフィック･サポート (CTS) の緊急停止支援機能
・緊急時車線維持支援 (ELK) のレーンキープ･アシスト･システム (LAS)
・緊急時車線維持支援 (ELK) のロードキープアシスト機能
・緊急時車線維持支援 (ELK) の側方危険回避アシスト機能
・緊急時車線維持支援 (ELK) の対向車両衝突回避アシスト機能
・プロアクティブ･ドライビング･アシスト (PDA)
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の前方検知機能
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の右直事故回避アシスト機能
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の前進時左右接近物検知機能
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の交差点事故回避アシスト機能
・AT 誤発進抑制制御 [前進時]
・ドライバー異常時対応システム (DEA)

知識

前方車が少ない道路を走行すると、フロントレーダーセンサーの汚れを示すメッセージが一時的に画面に表示されることがあります。

片側に高架が続いている道路やトンネル内を走行すると、フロントレーダーセンサーの機能が一時的に制限されることがあります。

12 V バッテリーが弱くなってきた場合は、フロントレーダーセンサーの検知性能が低下して各システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、フロントレーダーセンサーが前方車や障害物を正確に検知できないことがあります。

・天候が悪いとき
・前方の視界状況が悪いとき
・強力な電波を発する施設や物体などの近くを走行しているとき
・前方車の後面が電波を反射しにくいとき
・前方車の電波反射面積が小さいとき
・自車が傾いているとき
・フロントレーダーセンサー付近の部品に異物が付着しているとき
・対象物がフェンス、ガードレール、マンホール、路面の鉄板、他の車両の近くにあるとき
・対象物の上方に構造物があるとき

フロントレーダーセンサーは、次のような対象物を検知できない場合があります。

知識

・パイロンなどのプラスチック類
・店舗入り口などのガラス類
・縁石などの高さが低い物など
・横たわっている人や物
・歩行者、自転車、自動二輪車、立木、動物、壁など

次の条件のいずれかを満たしている場合は、フロントレーダーセンサーが隣接車線の車両や周辺の障害物を検知したり、前方車や障害物を検知できなかったりすることがあります。

・カーブの始まりやカーブの終わりを走行しているとき
・カーブが連続する道路を走行しているとき
・上り坂と下り坂が繰り返される道路を走行しているとき
・車線幅の狭い道路を走行しているとき
・悪路や未舗装の道路を走行しているとき
・前方車がフロントレーダーセンサーの死角にいるとき
・前方車との距離が極端に近いとき
・前方車が不安定な走行をしているとき
・割り込みなどで車両が急接近してきたとき
・強力な電波を発する施設や物体などの近くを走行しているとき
・対象物との距離が極端に近いとき
・道路端の構造物 (ガードレール、電柱、立木、壁など) に近づいたとき
・右左折待ちの前方車とすれ違うとき
・作動対象物が自車の進路内に入る手前で停止または車線変更したとき
・道路上方に構造物 (道路標識や看板など) がある場所を走行するとき
・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・道路の上方または下方を移動する物があるとき
・車両が対象物に曲がりながら接近するとき
・レーダーセンサーの検知範囲が隣接する壁や車両によってさえぎられるとき
・先行車が急な動きをしたとき (急ハンドル、急加速、急減速など)
・先行車に急接近したとき

フロントサイドレーダーセンサー*

次のシステムがフロントサイドレーダーセンサーを利用します。

・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) の右左折時警告機能付
・前側方接近車両検知 (FCTA)
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS) の車線変更アシスト機能
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS) のハンズオフアシスト機能 (渋滞時)
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前進時左右接近物検知機能
・ドライバー異常時対応システム (DEA)

知識

背の高いコンクリート壁が続いている道路やトンネル内を走行すると、フロントサイドレーダーセンサーの機能が一時的に制限され、汚れを示すメッセージが表示されることがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、フロントサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないことがあります。

・天候が悪いとき
・急カーブや凸凹道路を走行しているとき
・隣接した車両のレーダーセンサーによって、電波干渉を受けているとき
・隣接した壁や車両によって、フロントサイドレーダーセンサーの検知範囲がさまたげられたり、レーダーが反射されたりしているとき
・自車の前方、後方または側方から、車両などが検知範囲に突然進入してきたとき
・対象物が非常に小さいとき
・対象物が非常に低い/高いとき
・車両が旋回しながら接近してくるとき
・停止していた車両などが突然動き始めたとき
・複数の物体が同時に移動しているとき
・フロントサイドレーダーセンサー付近のバンパーが変形しているとき
・フロントサイドレーダーセンサー付近のバンパーに異物が付着しているとき
・フロントサイドレーダーセンサー付近の温度が非常に高いとき
・強力な電波を発する施設や物体などの近くを走行しているとき
・対象物がフェンス、ガードレール、マンホール、路面の鉄板、他の車両の近くにあるとき
・対象物の上方に構造物があるとき

フロントサイドレーダーセンサーは、次のような対象物を検知できないことがあります。

・動物
・歩行者
・低速で移動している、自転車および小型の自動二輪車
・ショッピングカート
・道路上および道路端の静止物体
・レーダーが反射しにくい形状の車両

次の条件のいずれかを満たしている場合は、フロントサイドレーダーセンサーが隣接車線の車両や周辺の障害物を検知したり、前方車や障害物を検知できなかったりすることがあります。

・強力な電波を発する施設や物体などの近くを走行しているとき
・対象物との距離が極端に近いとき
・道路端の構造物 (ガードレール、電柱、立木、壁など) に近づいたとき
・右左折待ちの前方車とすれ違うとき
・作動対象物が自車の進路内に入る手前で停止または車線変更したとき
・道路上方に構造物 (道路標識や看板など) がある場所を走行するとき
・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・道路の上方または下方を移動する物があるとき
・車両が対象物に曲がりながら接近するとき
・レーダーセンサーの検知範囲が隣接する壁や車両によってさえぎられるとき
・先行車が急な動きをしたとき (急ハンドル、急加速、急減速など)
・先行車に急接近したとき

リアサイドレーダーセンサー

次のシステムがリアサイドレーダーセンサーを利用します。

・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) の右左折時警告機能付
・ブラインド・スポット・モニタリング (BSM) の降車時警告機能付
・後側方接近車両検知 (RCTA)
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS) の車線変更アシスト機能
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS) のハンズオフアシスト機能 (渋滞時)
・緊急時車線維持支援 (ELK) の側方危険回避アシスト機能
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の後進時左右接近物検知機能
・ドライバー異常時対応システム (DEA)

知識

背の高いコンクリート壁が続いている道路やトンネル内を走行すると、リアサイドレーダーセンサーの機能が一時的に制限され、汚れを示すメッセージが表示されることがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないことがあります。

・天候が悪いとき
・急カーブや凸凹道路を走行しているとき
・隣接した車両のレーダーセンサーによって、電波干渉を受けているとき
・隣接した壁や車両によって、フロントサイドレーダーセンサーの検知範囲がさまたげられたり、レーダーが反射されたりしているとき
・自車の前方、後方または側方から、車両などが検知範囲に突然進入してきたとき
・対象物が非常に小さいとき
・対象物が非常に低い/高いとき
・車両が旋回しながら接近してくるとき
・停止していた車両などが突然動き始めたとき
・複数の物体が同時に移動しているとき
・リアサイドレーダーセンサー付近のバンパーが変形しているとき
・リアサイドレーダーセンサー付近のバンパーに異物が付着しているとき
・リアサイドレーダーセンサー付近の温度が非常に高いとき
・トレーラーをけん引しているとき
・強力な電波を発する施設や物体などの近くを走行しているとき
・対象物がフェンス、ガードレール、マンホール、路面の鉄板、他の車両の近くにあるとき
・対象物の上方に構造物があるとき
・自転車のキャリアなどのアクセサリー用品を装着しているとき

リアサイドレーダーセンサーは、次のような対象物を検知できないことがあります。

・動物
・歩行者
・低速で移動している、自転車および小型の自動二輪車
・ショッピングカート
・道路上および道路端の静止物体
・レーダーが反射しにくい形状の車両

知識

・自車とほとんど速度差がなく、長い時間並走している車両

次の条件のいずれかを満たしている場合は、リアサイドレーダーセンサーが隣接車線の車両や周辺の障害物を検知したり、前方車や障害物を検知できなかったりすることがあります。

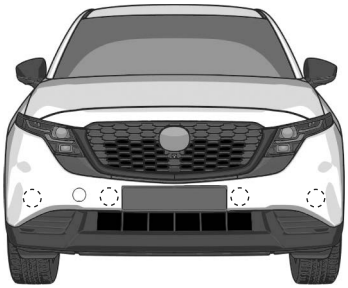
・強力な電波を発する施設や物体などの近くを走行しているとき
・対象物との距離が極端に近いとき
・道路端の構造物 (ガードレール、電柱、立木、壁など) に近づいたとき
・右左折待ちの前方車とすれ違うとき
・作動対象物が自車の進路内に入る手前で停止または車線変更したとき
・道路上方に構造物 (道路標識や看板など) がある場所を走行するとき
・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・道路の上方または下方を移動する物があるとき
・車両が対象物に曲がりながら接近するとき
・レーダーセンサーの検知範囲が隣接する壁や車両によってさえぎられるとき

超音波センサー

超音波センサーについて

超音波センサーは、特定方向に超音波を送信しつつ反射してもどってきた超音波を受信することで対象物を検知します。

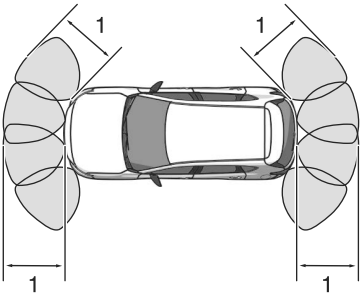
フロント超音波センサー



リア超音波センサー



超音波センサーの検知範囲



1 約 2 m

⚠ 注意

超音波センサーを正しく機能させるために、次のことをお守りください。

- 高圧の水をあてたり、強くこすったりするなど、超音波センサーに強い力を加えないでください。
- 高温の水蒸気をあてるなど、超音波センサーに高温なものを近づけないでください。

対象物の種類や周囲の条件によっては、超音波センサーが対象物を検知できる距離が短くなったり、対象物を検知できなかったりすることがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

超音波センサー付近の部品に強い力がかかった場合は、超音波センサーの向きがずれて、各システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。ただちに各システムの使用を中止し、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

超音波センサーは、センサーの異常や前面の汚れなどを検知して運転者に知らせる機能を備えています。対処可能なメッセージが画面に表示された場合は、メッセージに従ってください。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、超音波センサーが対象物を検知できず (未検知、誤検知、位置が異なるなど) 各システムが正常に作動しないことがあります。

・対象物が針金、ロープ、ポールなどの細いもののとき
・対象物が綿、雪などの音波を吸収しやすいもののとき
・対象物が鋭角的な形を持つもののとき
・対象物の背が高く、上部が張り出しているとき
・対象物の背が低いとき
・対象物が複数あるとき
・対象物がセンサーに近づきすぎているとき
・センサー部に氷、雪、泥などの異物が付着したとき
・センサー部にどしゃぶりの雨や水しぶきがかかったとき
・センサー部が凍結したとき
・センサーを手でふさいだとき

知識

・センサー付近に強い衝撃が加わったとき
・車両姿勢が大きく傾いたとき
・炎天下や寒冷時
・他車のホーン、オートバイのエンジン音、大型車のエアブレーキ音、他車のセンサーなど、超音波を発生するものが近づいたとき
・市販のフェンダーポールや無線機用アンテナを車に取り付けたとき
・背の高い縁石、直角の縁石、急な坂道に向かって進んだとき
・凹凸のある壁、階段に向かって進んだとき
・天井の低い場所を走行しているとき
・凹凸道、砂利道、草むら、グレーチングなどを走行しているとき

超音波センサーは、バンパーの真下付近の対象物を検知しません。超音波センサーよりも低い位置にある対象物を一度検知しても、接近すると突然検知しなくなることがあります。

フロント超音波センサー

次のシステムがフロント超音波センサーを利用します。

・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前後方検知機能
・AT 誤発進抑制制御 [前進時]
・ドライバー異常時対応システム (DEA)
・パーキングセンサー

リア超音波センサー

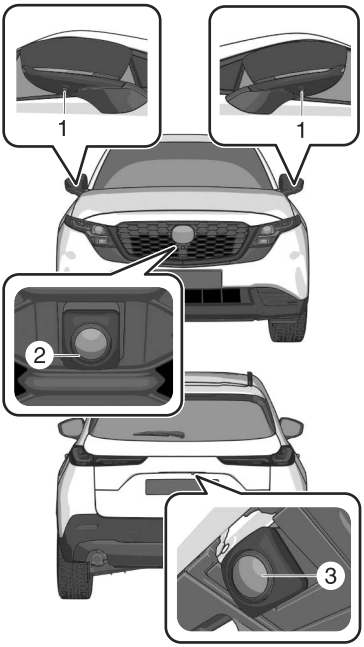
次のシステムがリア超音波センサーを利用します。

・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前後方検知機能
・AT 誤発進抑制制御 [後退時]
・パーキングセンサー

ビューカメラ

ビューカメラについて

カメラは車両周辺を撮影します。



1 サイドカメラ
2 フロントカメラ
3 リアカメラ

⚠ 注意

カメラの分解、改造、取りはずしをしないでください。

カメラ付近の部品を修理、交換、塗装する場合は、マツダ販売店にご相談ください。

カメラ部に強い力がかかった場合は、カメラの位置や取り付け角度がずれるおそれがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

カメラを正しく機能させるために、次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。

⚠ 注意

➢ 前後輪とも、必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なう場合は、マツダ販売店にご相談ください。

カメラのカバーは樹脂ですので、油膜取り剤、有機溶剤、ワックス、ガラスコート剤などを付着させないでください。付着した場合は、すぐにやわらかい布などでふき取ってください。

カメラのレンズやカバーを強くこすったり、研磨剤や硬いブラシなどで磨いたりしないでください。レンズまたはカバーが傷つき、映像に影響を及ぼす恐れがあります。

飛び石などによってカメラのレンズが大きく傷ついた場合は、カメラを交換してください。カメラの交換については、マツダ販売店にご相談ください。

対象物の種類や周囲の条件によっては、カメラが対象物を検知できる距離が短くなったり、対象物を検知できなかったりすることがあります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

知識

カメラ周辺にアクセサリー用品や字光式ナンバープレートを取り付けたり、カメラにステッカーを貼り付けたりしないでください。カメラが周囲の状況を正確に映し出さなくなります。

寒いときにお湯をかけるなど、カメラ部に急激な温度変化を与えると、カメラが正常に作動しなくなるおそれがあります。

カメラは、カメラの異常や前面の汚れなどを検知して運転者に知らせる機能を備えています。対処可能なメッセージが画面に表示された場合は、メッセージに従ってください。

カメラのレンズに、水滴、雪、泥などが付着している場合は、やわらかい布などでふき取ってください。汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い流してください。

フロントカメラ

次のシステムがフロントカメラを利用します。

・360°ビュー・モニター

サイドカメラ

次のシステムがサイドカメラを利用します。

・360°ビュー・モニター

リアカメラ

次のシステムがリアカメラを利用します。

・後方歩行者警報
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前後方検知機能
・AT 誤発進抑制制御 [後退時]
・360°ビュー・モニター

知識

次の条件をすべて満たしている場合に、リアカメラが歩行者を検知します。

・歩行者の身長が、約 1 m～2 m のとき
・頭部、両肩、足など、歩行者の輪郭が判別できるとき

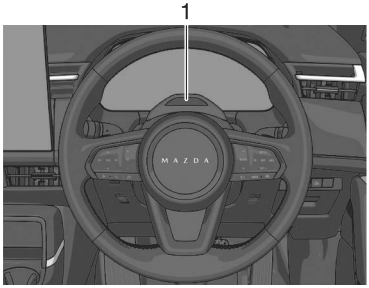
次の条件のいずれかを満たしている場合はリアカメラが正確に歩行者を検知できず、後方歩行者警報、スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前後方検知機能、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が正常に作動しないことがあります。

・歩行者が複数人いるとき
・歩行者が別の障害物の近くにいるとき
・歩行者がしゃがんでいる、横たわっている、前かがみになっているとき
・歩行者が急に飛び出してきたとき
・歩行者が何かを持っているとき (傘をさす、大きな荷物を持つなど)
・歩行者が背景に溶け込んでいるとき (夜間などに暗い場所にいる、背景と近い色の服を着ているなど)
・リアカメラに異物が付着しているとき (水滴、雪、泥など)
・周囲が暗いとき (夜間、夕方、朝方、トンネル、屋内駐車場など)
・リアカメラに強い光を受けているとき (太陽光、車両のヘッドランプなど)

ドライバー・モニタリングカメラ

ドライバー・モニタリングカメラについて*

ドライバー・モニタリングカメラは、運転者の顔の各部位の変化を検出し、運転者の状態を推定します。



1 ドライバー・モニタリングカメラ
次のシステムがドライバー・モニタリングカメラを利用します。

・車線逸脱警報システム
・ドライバー・モニタリング
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS)
・クルージング & トラフィック・サポート (CTS) の車線変更アシスト機能
・緊急時車線維持支援 (ELK)
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) の前方検知機能
・ドライバー異常時対応システム (DEA)
・ドライバー・パーソナライゼーション・システム

 *グレード/仕様別装備

知識

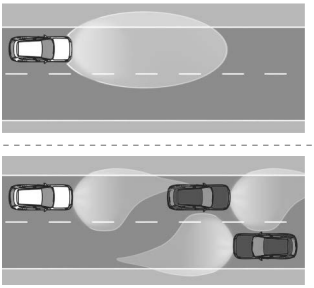
次の条件のいずれかを満たしている場合は、各システムが正常に作動しないことがあります。

・メガネやサングラス (赤外線を通しにくい物など) を着用しているとき
・メガネやサングラスに強い光 (西日やヘッドランプなど) があたっているとき
・強い光 (西日やヘッドランプ) がドライバー･モニタリングカメラや運転者の顔に当たっているとき
・前に身を乗り出したり、メーター全体が見えない運転姿勢をとったりしているときなど、顔がドライバー･モニタリングカメラの検知範囲から大きく外れているとき
・帽子、前髪などで目の一部が隠れたり、マフラー、マスク、髭、手などで顔の一部が隠れたりしているとき
・光環境条件が大きく変化したとき (西日などによる逆光、側光、順光および対向車のヘッドランプなど)
・車室内で、近赤外線を発する機器を使用しているとき
・車室内が高温になっているとき
・ハンドルや手、腕などでドライバー･モニタリングカメラがさえぎられているとき (カーブや旋回時のハンドル操作など)
・助手席や後席の乗員が身を乗り出すなどして、ドライバー･モニタリングカメラの検知範囲に複数の顔があるとき

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC)

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) について*

HBC は、夜間走行時に前方の状況を判断して、ヘッドランプの上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を自動的に切り替えるシステムです。



ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) 使用上の警告･注意

注意

HBC を正常に作動させるために、次のことをお守りください。

➢ サスペンションを改造しないでください。
➢ ヘッドランプユニットを改造しないでください。
➢ フロントカメラヘッドを取りはずさないでください。

⚠ 注意

➢ フロントレーダーセンサーを取りはずさないでください。

システムを過信せず､必要に応じて上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えてください。

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) の使いかた

知識

HBC が対象物を認識できる距離は､周囲の状況によって異なります。

フロントカメラヘッドが対象物を検知できず､HBC が正常に作動しないことがあります。
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」

フロントレーダーセンサーが対象物を検知できず､HBC が正常に作動しないことがあります。
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」

HBC を使用する

次の条件をすべて満たしている場合に､周囲の状況に応じて HBC が作動します。

・ランプスイッチが AUTO の位置にあるとき
・ランプレバーが中立の位置にあるとき (ヘッドランプが下向きのとき)

HBC が作動すると､メーター内の HBC 表示灯  が点灯します。

知識

悪天候やフロントカメラヘッドの温度異常などにより HBC を使用できない場合は､HBC 表示灯 (白) が点灯します。

ヘッドランプが上向き (ハイビーム) に切り替わるとき

次の条件をすべて満たしている場合に､HBC がヘッドランプを上向き (ハイビーム) に切り替えます。

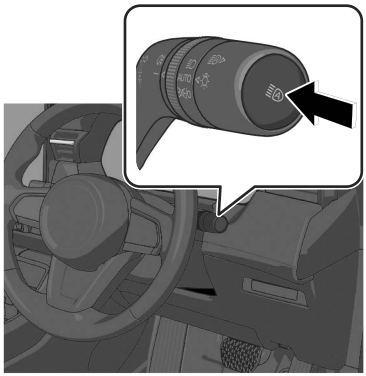
・車速が約 30 km/h 以上のとき
・システムが前方車を検知していないとき

ヘッドランプが下向き (ロービーム) に切り替わるとき

次の条件のいずれかを満たしている場合に､HBC がヘッドランプを下向き (ロービーム) に切り替えます。

・車速が約 20 km/h 未満のとき
・街灯が並んでいるエリアや路面の明るい街中を走行しているとき
・システムが前方車のランプ類を検知したとき

作動中の HBC を停止する



HBC が停止すると、メーター内の HBC 表示灯 が消灯します。
もう一度 HBC スイッチを押すと、HBC が作動可能な状態にもどります。

知識

HBC を停止したまま車両の電源を OFF にすると、次に車両の電源を ON にしたときに HBC が自動的に ON になります。

HBC を OFF にする

マツダコネクトで HBC を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

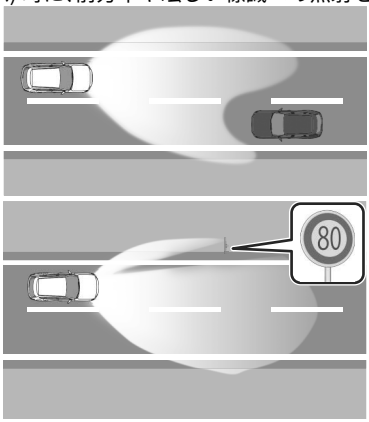
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) について*

ALH は、夜間走行時に前方の状況を判断して、ヘッドランプの照射範囲や明るさを自動的に変化させるシステムです。
ALH には、次の 5 つの機能があります。

グレアフリー (防眩) ハイビーム

ヘッドランプ上向き (ハイビーム) 時に、前方車や眩しい標識への照射を減光します。

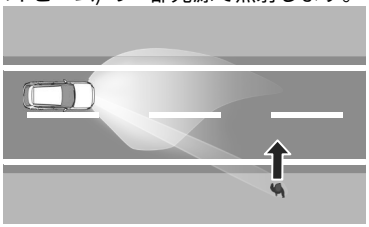


マーキングライト

自車と衝突する可能性がある歩行者をヘッドランプで強調照射します。

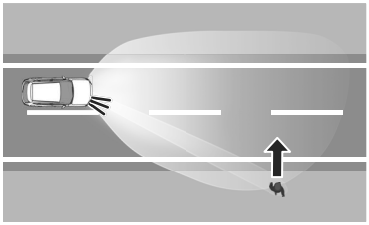
ヘッドランプが下向き (ロービーム) のとき

歩行者をヘッドランプ上向き (ハイビーム) の一部光源で照射します。



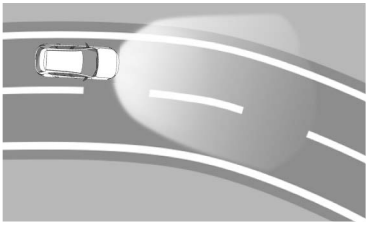
ヘッドランプが上向き (ハイビーム) のとき

歩行者への照射のみ点滅させます。



アダプティブフロントライティングシステム (AFS)

ハンドル操作や車線にあわせて車両の進行方向を照射します。



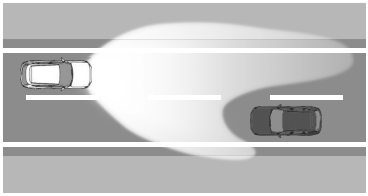
ワイド配光ロービーム

ヘッドランプ下向き (ロービーム) の照射範囲を拡大します。



ハイウェイモード

高速走行時にヘッドランプの照射角度を上方に向けます。



アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 使用上の警告･注意

⚠ 注意

ALH を正常に作動させるために､次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。
- ヘッドランプユニットを改造しないでください。
- フロントカメラヘッドを取りはずさないでください。
- フロントレーダーセンサーを取りはずさないでください。

システムを過信せず､必要に応じて上向き (ハイビーム) と下向き (ロービーム) を手動で切り替えてください。

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) の使いかた

知識

フロントカメラヘッドが対象物を検知できず､ALH が正常に作動しないことがあります。
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」

フロントレーダーセンサーが対象物を検知できず､ALH が正常に作動しないことがあります。
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」

標識の位置や眩しさによっては､グレアフリー (防眩) ハイビームが正常に作動しないことがあります。

歩行者の位置や動きによっては､マーキングライトが正常に作動しないことがあります。

ALH を使用する

次の条件をすべて満たしている場合に､周囲の状況に応じて ALH が作動します。

・ランプスイッチが AUTO の位置にあるとき
・ランプレバーが中立の位置にあるとき (ヘッドランプが下向きのとき)

ALH が作動すると､メーター内の ALH 表示灯 が点灯します。

知識

悪天候やフロントカメラヘッドの温度異常などにより ALH を使用できない場合は､ALH 表示灯 (白) が点灯します。

グレアフリー (防眩) ハイビームが作動するとき

対象に応じた条件をすべて満たしている場合に､グレアフリー (防眩) ハイビームが作動します。

・**(対象が前方車の場合)**
  ・車速が約 30 km/h 以上のとき
  ・システムが前方車を検知しているとき
・**(対象が標識の場合)**
  ・車速が約 60 km/h 以上のとき
  ・システムが眩しい標識を検知しているとき

マーキングライトが作動するとき

車速が約 20 km/h から約 80 km/h の場合に､システムが自車と衝突する可能性のある歩行者を検知すると､マーキングライトが作動します。

アダプティブフロントライティングシステム (AFS)

車速が約 30 km 以上の場合に､AFS が作動します。

ワイド配光ロービームが作動するとき

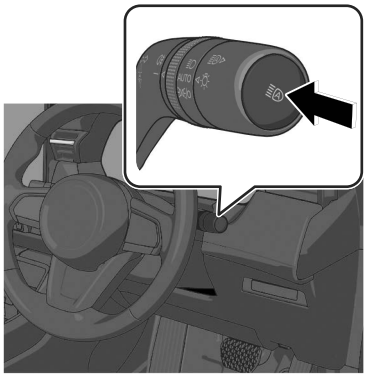
次の条件のいずれかを満たしている場合に､ワイド配光ロービームが作動します。

・車速が約 40 km/h 未満で走行中のとき
・停車中に方向指示灯を点滅させたとき

ハイウェイモードが作動するとき

車速が約 105 km/h 以上のときにハイウェイモードが作動します。

作動中の ALH を停止する



ALH が停止すると､メーター内の ALH 表示灯 (緑) が消灯します。
もう一度 ALH スイッチを押すと､ALH が作動可能な状態にもどります。

知識

ALH を停止したまま車両の電源を OFF にすると､次に車両の電源を ON にしたときに ALH が自動的に ON になります。

ALH を OFF にする

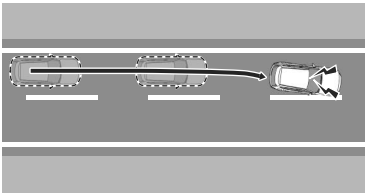
マツダコネクトで ALH を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

車線逸脱警報システム

車線逸脱警報システムについて

車線逸脱警報システムは、自車が車線から逸脱する可能性があることを知らせるシステムです。自車が車線から逸脱する可能性があると、警報と画面表示で運転者に危険を知らせます。



車線逸脱警報システム使用上の警告・注意

⚠ 警告

車線逸脱警報システムを過信しない。

- 車線逸脱警報システムには限界があります。システムを過信せず、常にハンドルの操作で進路を修正してください。
- 車線逸脱警報システムは、前方不注意を補助するものではありません。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

車線逸脱警報システムを正常に作動させるために、前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。

車線逸脱警報システムの使いかた

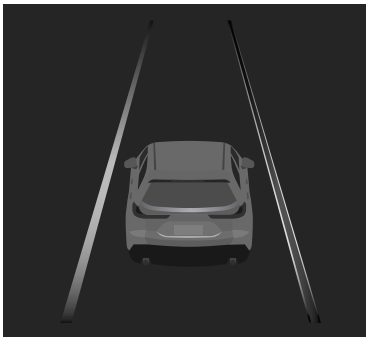
車線逸脱警報システムが作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、車線逸脱警報システムが作動します。

・車速が約 50 km/h 以上のとき
運転者の状態により車速が約 40 km/h 以上で作動する場合があります。
・車線の白線 (黄線) を検知しているとき

車線逸脱警報システムが作動している場合は、画面表示、警報音、ハンドルの振動で運転者に危険を知らせます。

メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



知識

車線逸脱警報システムは、白線 (黄線) を検知している側のみ作動します。

フロントカメラヘッドが対象物を検知できず、車線逸脱警報システムが正常に作動しないことがあります。
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」

マツダコネクトで車線逸脱警報システムの警報種別を変更できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

ただし、車線逸脱警報システムの警報種別は、緊急時車線維持支援 (ELK) の警報種別と連動しています。車線逸脱警報システムの警報種別を変更した場合は、ELK の警報種別も変更されます。

運転者の操作により意図的に車線を逸脱したと判断した場合は、車線逸脱警報システムが作動しないことがあります。

運転者の状態により、車線逸脱警報システムの作動が早期化される場合があります。

車線逸脱警報システムが一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、車線逸脱警報システムが一時的に解除されます。なお、車線逸脱警報システムは、作動可能な状態になると自動で復帰します。

・方向指示器を操作したとき
・ハンドル操作をしたとき
・アクセル操作をしたとき
・ブレーキ操作をしたとき
・車線幅の狭い道路を走行しているとき
・急カーブを走行しているとき
・TCS/DSC を OFF にしているとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき

警報音を OFF にする

車線逸脱警報システム作動時の警報音を OFF にする方法は 2 つあります。

・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで警報音を OFF にする
→5-81 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」
・マツダコネクトで警報音を OFF にする。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

車線逸脱警報システムを OFF にする

マツダコネクトで車線逸脱警報システムを OFF にできます。

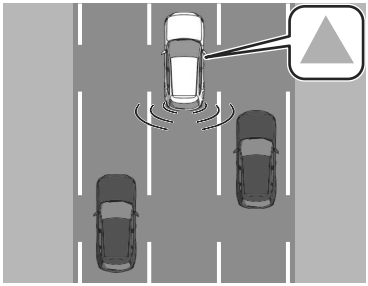
センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

車線逸脱警報システムが OFF になると、LAS & 車線逸脱警報システム OFF 表示 OFF が点灯します。

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM)

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) について

BSM は､車線変更時における運転者の後方確認を支援するシステムです。自車の後方から接近する車両を検知すると､各種表示､警報音､またはハンドルの振動で運転者に危険を知らせます。



右左折時警告機能付

右左折時警告機能は､右左折時における運転者の後方確認を支援するシステムです。自車の後方から接近する車両を検知すると､各種表示､警報音､またはハンドルの振動で運転者に危険を知らせます。

降車時警告機能付

降車時警告機能は､降車時における運転者の後方確認を支援するシステムです。自車の後方から接近する車両や自転車を検知すると､各種表示と警報音で運転者に危険を知らせます。

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

車線変更時には､必ず目視にて周辺状況を確認する。
BSM は､車線変更時の後方確認を支援するシステムです。システムの作動には各種の制約がありますので､隣接車線に車両が存在する場合でも接近表示灯が点滅しなかったり､点滅が遅れたりすることがあります。必ず､運転者の責任において後方を確認してください。

右左折時には､必ず目視にて周辺状況を確認する。
右左折時には､必ず目視にて周辺状況を確認する。右左折時警告機能は､右左折時の後方確認を支援するシステムです。システムの作動には各種の制約がありますので､自車周辺に車両が存在する場合でも接近表示灯が点滅しなかったり､点滅が遅れたりすることがあります。必ず､運転者の責任において後方を確認してください。

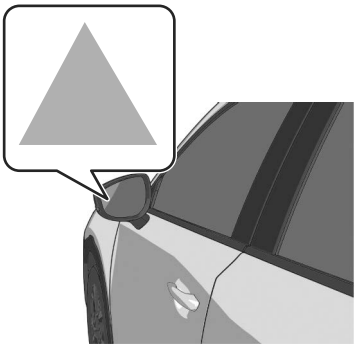
降車時には､必ず目視にて周辺状況を確認する。
降車時警告機能は､降車時の後方確認を支援するシステムです。システムの作動には各種の制約がありますので､自車周辺に車両が存在する場合でも接近表示灯が点滅しなかったり､点滅が遅れたりすることがあります。必ず､運転者の責任において後方を確認してください。

ブラインド･スポット･モニタリング (BSM) の使いかた

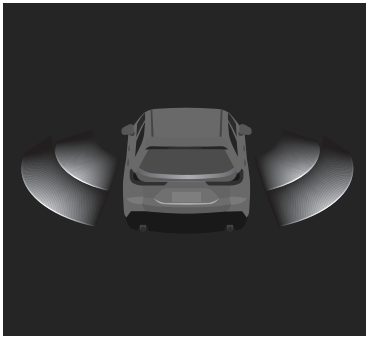
BSM が作動するとき

セレクトレバーを R 以外の位置にして走行している場合に接近車両を検知すると、BSM が作動します。
BSM が作動している場合は、接近表示灯の点灯と画面表示 (白)*1 で運転者に接近車両の存在を知らせます。

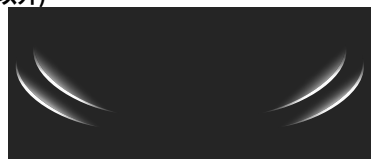
接近表示灯



メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



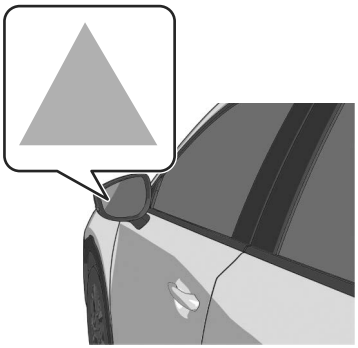
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



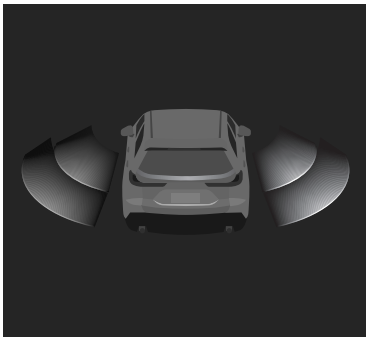
*1　メーターの画面表示 (白) は､メーターを i-ACTIVSENSE 画面に設定している場合のみに表示されます。

接近車両を検知している方向に方向指示器のレバーを操作すると､接近表示灯の点滅､警告表示 (橙)､警報音またはハンドルの振動で運転者に危険を知らせます。

接近表示灯



メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



知識

速度差が大きい状態で隣接車線を走行する車両を追い越す場合は､警報音またはハンドルの振動が作動しません。

背の高いコンクリート壁が続いている道路やトンネル内を走行すると､BSM が一時的に制限されることがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は､BSM が正常に作動しないことがあります。

・リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・道路が急勾配のとき
・道路幅が極端に広いとき
・2 車線以上の車線変更をしているとき
・自車と後続車の距離が近いとき
・隣接車線を走行している他車と自車の距離が遠いとき

道路上および道路端の停止物 (ガードレール､側壁､駐車車両､エアコンの室外機 (回転機構がある機器) など) に対して､BSM が作動することがあります。

マツダ純正トレーラーヒッチを使用すると､BSM が自動的に OFF になります。

マツダ純正トレーラーヒッチ以外でトレーラーなどをけん引したり､車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりする場合は､BSM を OFF にしてください。レーダーの電波がさえぎられるため､BSM が正常に作動しない可能性があります。

接近表示灯の明るさは､パネルライトコントロールと連動しています。
→5-27 ページ「パネルライトコントロールの使いかた」

マツダコネクトで BSM の警報種類を変更できます。BSM の警報種類を変更すると右左折時警告機能の警報種類も変更されます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

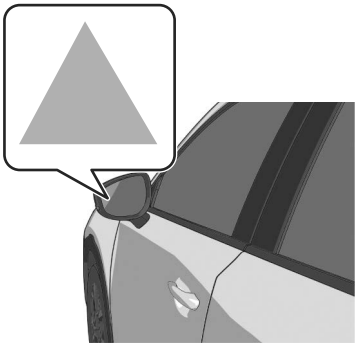
右左折時警告機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合にシステムが右左折時に巻き込む可能性がある接近車両を検知すると､右左折時警告機能が作動します。

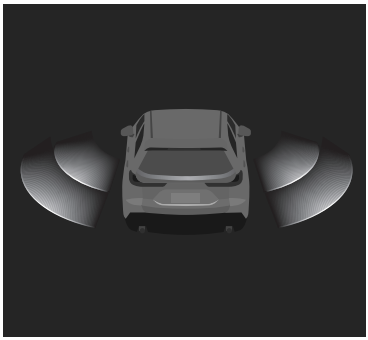
・セレクトレバーが R 以外の位置のとき
・車速が約 30 km/h 以下で走行しているとき

右左折時警告機能が作動している場合は､接近表示灯の点灯と画面表示 (白)*1 で運転者に接近車両の存在を知らせます。

接近表示灯



メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



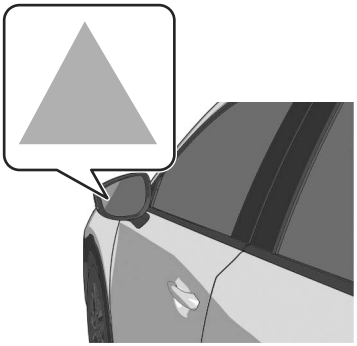
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



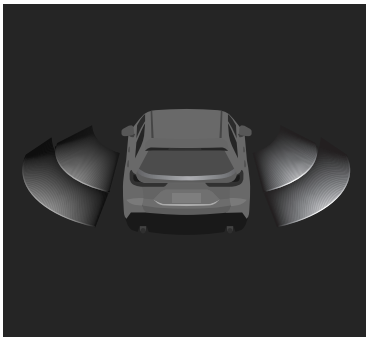
*1　メーターの画面表示 (白) は、メーターを i-ACTIVSENSE 画面に設定している場合のみに表示されます。

接近車両を検知している方向に方向指示器のレバーを操作すると、接近表示灯の点滅、警告表示 (橙)、警報音またはハンドルの振動で運転者に危険を知らせます。

接近表示灯



メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



知識

速度差が大きい状態で隣接車線を走行する車両を追い越す場合は､警報音またはハンドルの振動が作動しません｡

BSM が一時的に制限されている場合は右左折時警告機能も一時的に制限されます｡

次の条件のいずれかを満たしている場合は､右左折時警告機能が正常に作動しないことがあります｡

・リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・道路が急勾配のとき
・道路幅が極端に広いとき
・2 車線以上の車線変更をしているとき
・自車と後続車の距離が近いとき
・隣接車線を走行している他車と自車の距離が遠いとき

道路上および道路端の停止物 (ガードレール､側壁､駐車車両､エアコンの室外機 (回転機構がある機器) など) に対して､右左折時警告機能が作動することがあります｡

マツダ純正トレーラーヒッチの使用により BSM が OFF になると右左折時警告機能も OFF になります｡

接近表示灯の明るさは､パネルライトコントロールと連動しています｡
→5-27 ページ「パネルライトコントロールの使いかた」

マツダコネクトで BSM の警報種類を変更すると右左折時警告機能の警報種類も変更されます｡

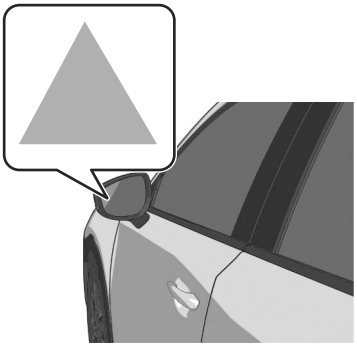
降車時警告機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合にシステムが接近車両を検知すると､降車時警告機能が作動します｡

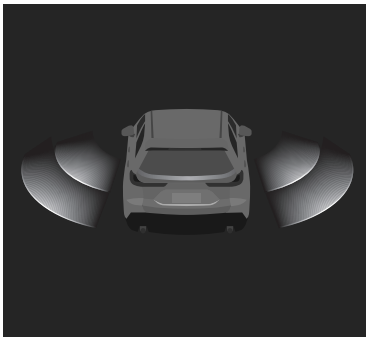
・自車が停止しているとき
・車両の電源が ON のとき､または車両の電源が OFF になってから 3 分以内のとき

降車時警告機能が作動している場合は､接近表示灯の点灯とメーターの画面表示 (白)[*1] で接近車両の存在を知らせます｡

接近表示灯



メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



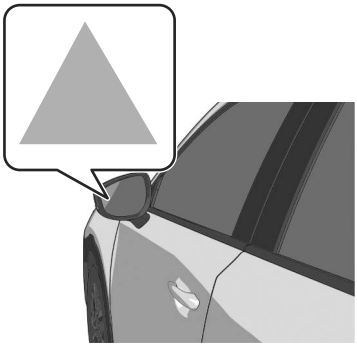
メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



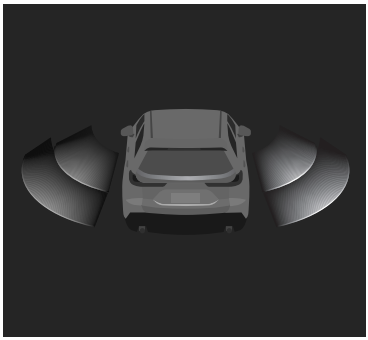
*1　メーターの画面表示 (白) は、メーターを i-ACTIVSENSE 画面に設定している場合のみに表示されます。ただし、車両の電源が OFF の場合は、メーターの画面表示 (白) が表示されません。

さらに、接近車両を検知している方向のドアを開けると、接近表示灯の点滅、警報音、メーターの警告表示 (橙) で危険を知らせます。

接近表示灯



メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は､降車時警告機能が正常に作動しないことがあります。

・リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・自車の近くに駐車車両があるとき
・人が車に近づいてきたとき
・移動物の速度が遅いとき
・接近する他車が壁や標識などの近くを走行しているとき
・道路幅が極端に広いとき

知識

・隣接車線を走行している他車と自車の距離が遠いとき

道路上および道路端の停止物 (ガードレール､側壁､駐車車両､エアコンの室外機 (回転機構がある機器) など) に対して､降車時警告機能が作動することがあります。

マツダ純正トレーラーヒッチを使用すると､降車時警告機能が自動的に OFF になります。

トレーラーなどをけん引したり､車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりした場合は､レーダーの電波がさえぎられて降車時警告機能が正常に作動しない可能性があります。

接近表示灯の明るさは､パネルライトコントロールと連動しています。
→5-27 ページ「パネルライトコントロールの使いかた」

警報音を OFF にする

(BSM)
BSM 作動時の警報音を OFF にする方法は 3 つあります。

・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで警報音を OFF にする。
→5-81 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」
・マツダコネクトで警報音を OFF にする。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップし → (BSM) をタップする。

の表示灯が消灯します。
・マツダコネクトで警報音を OFF にする。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

(降車時警告機能)
降車時警告機能作動時の警報音を OFF にする方法は 2 つあります。

・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで警報音を OFF にする。
→5-81 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」
・マツダコネクトで警報音を OFF にする。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

BSM および降車時警告機能を OFF にする

(BSM)
マツダコネクトで BSM を OFF にできます。BSM を OFF にする方法は 2 つあります。

・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップし → をタップする。

の表示灯が消灯します。
・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

(降車時警告機能)
マツダコネクトで降車時警告機能を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

交通標識認識システム (TSR)

交通標識認識システム (TSR) について

TSR は､走行中に車両が認識した交通標識を画面に表示することで､運転者に交通標識を知らせるシステムです。

交通標識認識システム (TSR) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

走行中は､必ず目視にて交通標識を確認する。
TSR は､天候状況や交通標識の状況などによって交通標識を認識できなかったり､実際とは異なる交通標識を表示したりすることがあります。交通標識の確認を怠ると思わぬ事故につながるおそれがありますので､必ず､運転者の責任において実際の交通標識を確認してください。

交通標識認識システム (TSR) の使いかた

知識

TSR は専用 SD カードが挿入されていない場合でも作動しますが､実際とは異なる交通標識を表示することがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は､TSR が正常に作動しないことがあります。

- フロントカメラヘッドが交通標識を正しく検知していないとき
  →5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」
- 専用 SD カード内のデータが最新バージョンに更新されていないとき
- 専用 SD カード内のデータに含まれている最高速度標識が不正確なとき
- 専用 SD カード内のデータに最高速度標識が含まれていないとき
- 専用 SD カード内のデータの自車位置がずれているとき

TSR は､次のいずれかのパターンで標識を同時に表示することがあります。

- 最高速度標識と条件付き速度標識を同時に表示 (システムが条件付き速度標識を正確に判断できないとき)
- 最高速度標識とこの先の速度標識を同時に表示
- 最高速度標識と､一時停止/車両進入禁止/追い越し禁止のいずれかを同時に表示

アクティブ･ドライビング･ディスプレイの TSR 表示を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

関連機器をアップデートする

TSR の性能を維持するために、専用 SD カード内のデータを定期的にアップデートしてください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。
フロントカメラヘッドのアップデートが必要になった場合は、マツダ販売店にご相談ください。

最高速度標識 (補助標識も含む) が表示されるとき

次のいずれかの条件を満たしている場合に、システムが認識した最高速度標識 が画面に表示されます。

・認識した標識を自車が通過したとき
・走行中、専用 SD カード内のデータに保存されている最高速度標識をシステムが読み込んだとき

知識

システムが何らかの条件付き標識を正しく認識できない場合は、[!] が表示されます。

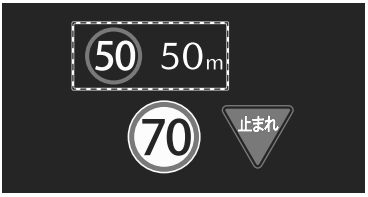
システムが最高速度標識を認識できない場合は、最高速度標識表示が終了します。

システムが速度規制終わりの標識を認識した場合は、 が表示されます。

最高速度標識の表示が変化すると、通知音が鳴ります。なお、この通知音はマツダコネクトまたは i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで OFF にできます。通知音を OFF にする方法は 3 つあります。

・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで警報音を OFF にする
→5-81 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」
・マツダコネクトで警報音を OFF にする。
センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップし → (TSR) をタップする。
の表示灯が消灯します。
・マツダコネクトで警報音を OFF にする。
センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ナビゲーションシステムがこの先の速度標識の切り替わりを判断できている場合は、その最高速度標識とそこまでの残距離が表示されます。



車両進入禁止標識が表示されるとき

システムが車両進入禁止標識を認識した場合は、車両進入禁止標識 が画面に表示されます。

知識

自車が標識を通過してから一定の時間が経過すると、画面表示が終了します。

一時停止標識が表示されるとき

自車が一定速度以下で走行している場合に、システムが認識した一時停止標識 が画面に表示されます。

知識

標識を画面表示してから一定の時間が経過すると、画面表示が終了します。

追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識が表示されるとき

追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識をシステムが認識して、自車がその標識を通過すると、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識 が画面に表示されます。

知識

次の条件のいずれかを満たす場合は、追い越しのための右側部分はみ出し禁止標識の表示が終了します。

・追い越し禁止終わりの標識をシステムが認識して、自車がその標識を通過したとき
・自車が同じ道を走行してから一定の距離を走行しても、標識を見つけられなかったとき
・右左折などの運転操作をしたとシステムが判断したとき

TSR を OFF にする

マツダコネクトで TSR を OFF にできます。TSR を OFF にする方法は 2 つあります。

・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップし → をタップする。
の表示灯が消灯します。
・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

交通標識認識システム (TSR) の便利な使いかた

自車の速度が最高速度標識の速度を超えた場合に、速度超過の警報が出るように設定できます。

マツダコネクトで速度超過警報を ON にする。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

自車の速度が最高速度標識の速度を超えると､最高速度標識の表示のまわりが橙色に点滅 (80) して警報音が鳴ります。また､速度超過の状態が続くと点灯に切り替わります。
警報音はマツダコネクトまたは i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで OFF にできます。警報音を OFF にする方法は 3 つあります。

・ACTIVSENSE ミュートスイッチで警報音を OFF にする
→5-81 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」
・マツダコネクトで警報音を OFF にする

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている 🚗 をタップし (80) → 🔊 (TSR) をタップする。

🔊 の表示灯が消灯します。
・マツダコネクトで警報音を OFF にする

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

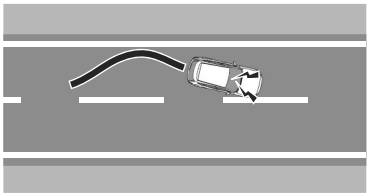
マツダコネクトで警報パターンおよび警報タイミングを変更できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

ドライバー･アテンション･アラート (DAA)

ドライバー･アテンション･アラート (DAA) について

DAA は､各種車両情報から運転者の疲労や注意力低下を検知して､画面表示と警報音で運転者に休憩を促すシステムです。



ドライバー･アテンション･アラート (DAA) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

DAA を過信しない。
DAA は運転者の疲労や注意力低下を防止するものではありませんので､システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に集中し､適切にハンドルを操作してください。

⚠ 警告

また､道路状況や走行状況などによっては､システムが運転者の疲労や注意力低下を適切に検知できないことがあります。運転者は十分に休憩を取り､安全運転を心がけてください。

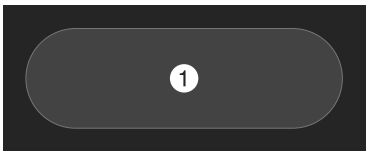
ドライバー･アテンション･アラート (DAA) の使いかた

DAA が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に､システムが運転者の疲労や注意力低下を検知すると､DAA が作動します。

・運転者の走行データ学習が完了したとき
・車線の白線 (黄線) を検知しているとき
・運転開始後､1 時間経過したとき
・車速が約 65 km/h 以上のとき

DAA が作動している場合は､画面表示と警報音で運転者の注意力が低下していることを知らせます。
メーター



1 “休憩をおすすめします”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は､DAA が作動しません。

・急カーブを走行しているとき
・車線変更をしたとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は､DAA が正常に作動しないことがあります。

・車線の白線 (黄線) が見えにくいとき
・強風や悪路走行で車両が揺れ続けたとき

DAA は､車速が約 65 km/h 以上で約 20 分間走行したときの走行データをもとに､運転者の疲労や注意力低下を検知します。次の条件のいずれかを満たすと､学習した走行データがリセットされます。

・15 分以上停車したとき
・車速約 65 km/h 未満で約 30 分間走行したとき
・車両の電源を OFF にしたとき

DAA は一度休憩を促すと､60 分間は次回休憩をお知らせしません。

DAA を OFF にする

マツダコネクトで DAA を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

ドライバー･モニタリングカメラ装備車の場合は、ドライバー･モニタリングの作動が優先されるため、マツダコネクトには DAA の設定項目が表示されません。

ドライバー･モニタリング

ドライバー･モニタリングについて*

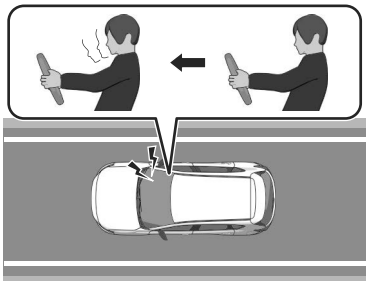
ドライバー･モニタリングは、運転者の危険な状態･行動を検知して、運転者に危険を知らせるシステムです。
ドライバー･モニタリングには、警報機能とドライバー異常時対応システム (DEA) 連携機能とがあります。

警報機能

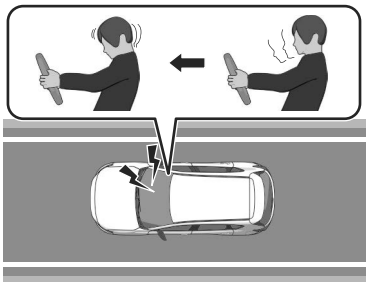
ドライバー･モニタリングの基本機能です。次の 3 つの機能があります。

眠気検知機能

眠気検知機能は、運転者の眠気の程度を検知します。運転者の眠気を検知すると、画面表示と警報音で運転者に休憩を促します。
画面表示と警報音は 2 段階あります。
警報パターン (注意)
運転者の眠気を検知した場合に休憩を促します。



警報パターン (警告)
運転者のより強い眠気を検知した場合に休憩を促します。



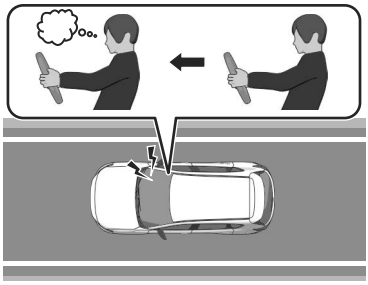
脇見検知機能

脇見検知機能は､運転者の脇見を検知します。運転者の脇見を検知すると､画面表示と警報音で運転者に注意を促します。



漫然検知機能

漫然検知機能は､運転者の注意力低下を検知します。運転者の注意力低下を検知すると､画面表示と警報音によって運転者に休憩を促します。



ドライバー異常時対応システム (DEA) 連携機能*

DEA が装備されている場合は､ドライバー･モニタリングの機能が拡張されます。次の 2 つの機能があります。

居眠り検知機能

居眠り検知機能は､運転者に強い眠気が続いている場合に居眠りをしていると判断します。運転者の居眠りを検知すると､DEA が作動します。

急病検知機能

急病検知機能は､運転者の異常姿勢を検知した場合に急病が起きていると判断します。運転者の急病を検知すると､DEA が作動します。また､運転者に急病の兆候があると判断されると､運転者の異常姿勢を判断する時間を短くし､早期に DEA が作動します。

DEA については､次の項目を参照してください。
→5-220 ページ「ドライバー異常時対応システム (DEA) について」

ドライバー･モニタリング使用上の警告･注意

⚠ 警告

ドライバー･モニタリングを過信しない。
ドライバー･モニタリングは運転者の眠気､脇見､漫然､居眠り､急病を防止するものではありませんので､システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。運転に集中し､適切にハンドルを操作してください。
また､道路状況や走行状況などによっては､システムが運転者の眠気､脇見､漫然､居眠り､急病を適切に検知できないことがあります。運転者は十分に休憩を取り､安全運転を心がけてください。

ドライバー･モニタリングカメラを適切に取り扱う。
ドライバー･モニタリングカメラが対象物を正しく検知できない場合､思わぬ事故につながるおそれがあります。
→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」

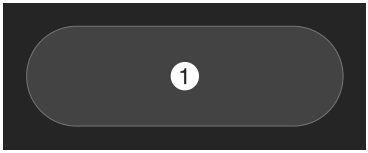
ドライバー･モニタリングの使いかた

眠気検知機能が作動するとき

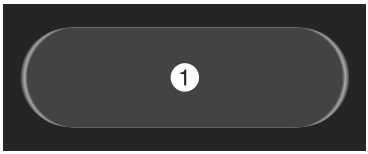
次の条件をすべて満たしている場合にシステムが運転者の眠気を検知すると､眠気検知機能が作動します。

・車両を約 20 分以上走行させたとき
・車速が約 5 km/h 以上のとき

眠気検知機能が作動している場合は､画面表示および警報音で運転者に休憩を促します。また､警報パターン (警告) (橙) の場合は､ハンドルが振動します。
メーター
警報パターン (注意) (白)



1“休憩をおすすめします”
警報パターン (警告) (橙)



1“休憩をおすすめします”

知識

眠気検知機能は一度休憩を促すと､次の間は休憩をお知らせしません。ただし､さらに強い眠気を検知した場合は休憩をお知らせします。

・警報パターン (注意) のお知らせ後､45 分間は次回の警報パターン (注意) をお知らせしません。
・警報パターン (警告) のお知らせ後､15 分間は次回の警報パターン (警告) をお知らせしません。
・警報パターン (警告) のお知らせ後､45 分間は次回の警報パターン (注意) をお知らせしません。

ドライバー･モニタリングカメラが運転者を正しく認識していない場合は､眠気検知機能が正常に作動しないことがあります。
→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」

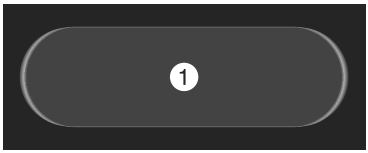
次の条件のいずれかを満たしている場合は､眠気検知機能が正常に作動しないことがあります。

・伏し目になっているとき
・目を細めたり､目を閉じたりしているとき
・片目を閉じているとき
・笑っているとき

脇見検知機能が作動するとき

車速が約 20 km/h 以上の場合にシステムが運転者の脇見を検知すると､脇見検知機能が作動します。脇見検知機能が作動している場合は､画面表示と警報音で運転者に注意を促します。

メーター



1“脇見運転を検知しました”

知識

ドライバー･モニタリングカメラが運転者を正しく認識していない場合は､脇見検知機能が正常に作動しないことがあります。
→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」

次の条件のいずれかを満たしている場合は､脇見検知機能が正常に作動しないことがあります。

・視線が動いているとき､または視線が動き終わった直後
・視線と顔の向きが大きく異なっているとき
・頻繁に顔の向きや視線を正面方向以外に向けているとき
・顔を大きく傾けて運転しているとき
・運転者が大きく動いているとき

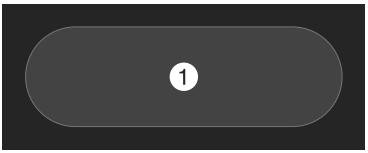
漫然検知機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合にシステムが運転者の注意力低下を検知すると､漫然検知機能が作動します。

・高速道路など単調な道路を走行しているとき
・先行車を検知しているとき

漫然検知機能が作動している場合は､画面表示と警報音で運転者に休憩を促します。

メーター



1“注意力低下を検知しました 休憩をおすすめします”

知識

ドライバー･モニタリングカメラが運転者を正しく認識していない場合は､漫然検知機能が正常に作動しないことがあります。
→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」

次の条件のいずれかを満たしている場合は､漫然検知機能が作動しません。

・目を細めたり､目を閉じたりしているとき
・車線の白線 (黄線) を検知できないとき
・マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) を使用しているとき
・クルージング & トラフィック･サポート (CTS) を使用しているとき

居眠り検知機能が作動するとき*:

次の条件をすべて満たしている場合に､居眠り検知機能が作動します。

・車両を約 20 分以上走行させたとき
・運転者の強い眠気が一定時間続いたとき

居眠り検知機能が作動している場合は､ドライバー異常時対応システム (DEA) が作動します。

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は､居眠り検知機能が正常に作動しないことがあります。

・伏し目になっているとき
・目を細めたり､目を閉じたりしているとき
・片目を閉じているとき
・笑っているとき

次の操作をした場合は､居眠り検知が正しく行なわれないことがあります。

・方向指示器の操作
・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの操作
・ステアリングスイッチの操作

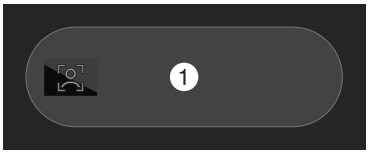
急病検知機能が作動するとき*

次の条件のいずれかを満たしている場合に､急病検知機能が作動します。

・運転姿勢の崩れがあるとき
・ハンドルから手を放した状態､または緩く握った状態が一定時間続いたとき

急病検知機能が作動している場合は､ドライバー異常時対応システム (DEA) が作動し､画面表示と警報音で運転者に注意を促します。

メーター

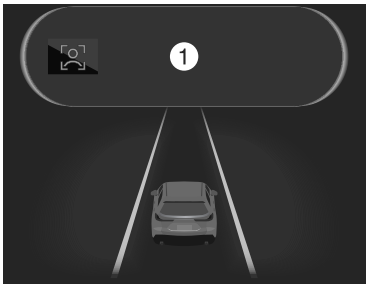


1“ドライバーの運転状態を 検知できません 姿勢を整えて運転してください”

急病の兆候を検知したとき

急病検知機能の作動前に､車両のふらつきなどにより運転者に急病の兆候があるとシステムが判断した場合は､画面表示､警報音､ハンドルの振動で運転者に注意を促します。また､その後も車線を逸脱するような車両のふらつきが継続している場合は､画面表示が切り替わり､DEA の作動が早期化されます。

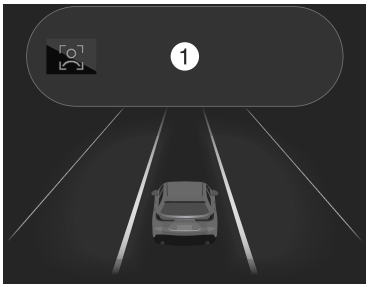
メーター



1“ドライバー異常の兆候を検知 ハンドルから手を離さずに 姿勢を整えて運転してください”
次のいずれかの条件を満たした場合は､画面表示､警報音が切り替わり､DEA の早期化を中止します。

・運転者が通常の運転状態に復帰したとシステムが判断したとき
・方向指示器を操作したとき
・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチを操作したとき
・ステアリングスイッチを操作したとき

メーター



1“ドライバー異常の兆候が なくなったことを確認しました”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は､急病検知機能が正常に作動しないことがあります。

・顔を大きく傾けて運転しているとき
・運転者が大きく動いているとき
・マスクを着用しているとき
・ハンドルカバーや手袋など手が直接ハンドルに触れていないとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は､急病の兆候検知が作動しません。

・車線の白線 (黄線) を検知できないとき
・ワイパーを使用しているとき
・マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) を使用しているとき
・クルージング & トラフィック･サポート (CTS) を使用しているとき

ドライバー･モニタリング検知表示灯 (緑) が点灯するとき

ドライバー･モニタリングカメラが運転者の顔を正しく認識している場合は､ドライバー･モニタリング検知表示灯 (緑) が点灯します。

ドライバー･モニタリング検知性能低下表示灯 (橙) が点灯するとき

ドライバー･モニタリング作動中に運転者を正しく認識できない状態が続くと､ドライバー･モニタリング検知性能低下表示灯 (橙) が点灯します。
運転者を正しく認識できない条件については､ドライバー･モニタリングカメラの項目を参照してください。
→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」

知識

ドライバー･モニタリング検知性能低下表示灯 (橙) が点灯している場合は､ドライバー･モニタリングが正常に作動しないことがあります。

ドライバー･モニタリングを OFF にする

マツダコネクトでドライバー･モニタリングを OFF にできます。ドライバー･モニタリングを OFF にする方法は 2 つあります。

・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップし → をタップする。
の表示灯が消灯します。

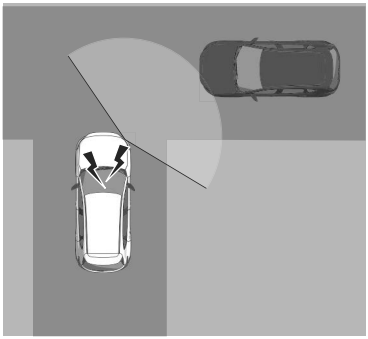
・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ドライバー･モニタリングが OFF になると、ドライバー･モニタリング OFF 表示灯 が点灯します。

前側方接近車両検知 (FCTA)

前側方接近車両検知 (FCTA) について*

FCTA は、交差点などで自車が発進する際の左右確認を支援するシステムです。左右前方の死角から接近する車両を検知すると、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。



前側方接近車両検知 (FCTA) 使用上の警告･注意

⚠警告

必ず目視にて周辺状況を確認する。
FCTA の作動には各種の制約がありますので、死角から接近する車両が存在する場合でも、画面表示と警報音が遅れることがあります。必ず、運転者の責任において左右を確認してください。

前側方接近車両検知 (FCTA) の使いかた

FCTA が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、システムが前側方から約 5 km/h 以上で接近する車両を検知すると、FCTA が作動します。

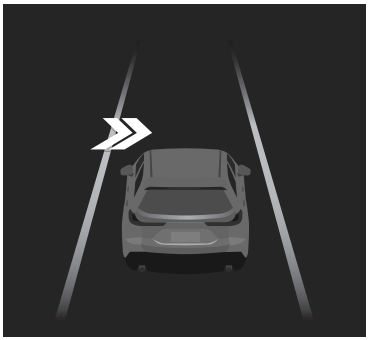
・車速が約 15 km/h 未満のとき
・セレクトレバーが D または N の位置にあるとき

FCTA が作動している場合は、状況に応じて警報音 (前進中のみ) と画面表示で運転者に危険を知らせます。

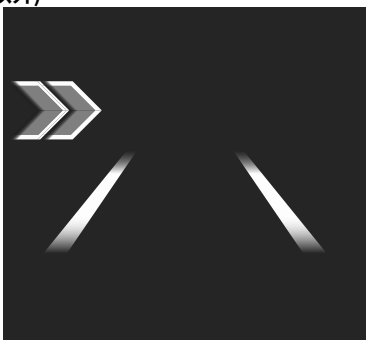
画面表示 (白)

自車が停止しているときまたは自車の速度が約 8 km/h 以上のときに画面表示 (白)[*1] で車両の接近を知らせます。

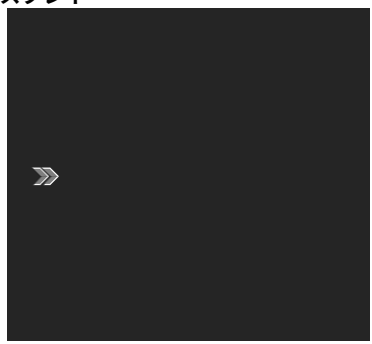
メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



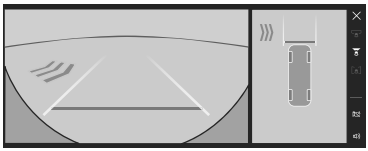
メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



360° ビュー･モニター



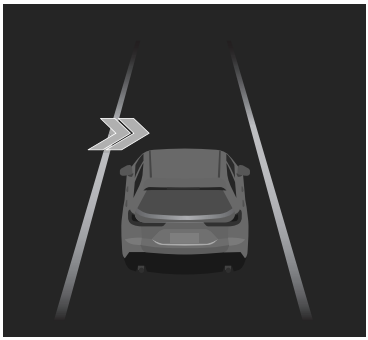
*1　メーターの画面表示 (白) は､メーターを i-ACTIVSENSE 画面に設定している場合のみに表示されます。

画面表示 (橙)

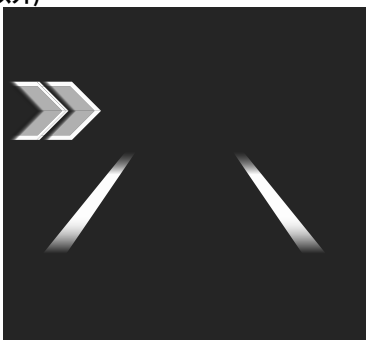
次の条件をすべて満たしている場合に画面表示 (橙) と警報音で､接近車両と衝突する可能性があることを知らせます。

・自車の速度が約 8 km/h 以下のとき
・ブレーキペダルを踏んでいないとき

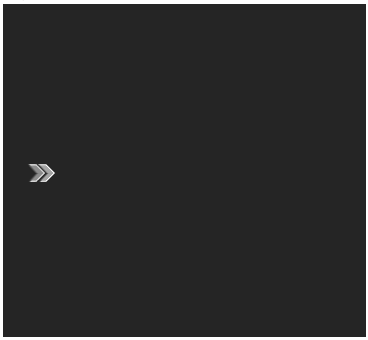
メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



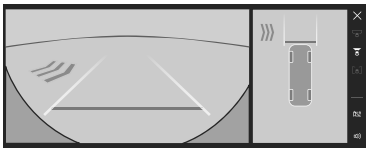
メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



360° ビュー･モニター



知識

道路上および道路端の停止物 (ガードレール、側壁、駐車車両、エアコンの室外機 (回転機構がある機器) など) に対して、FCTA が作動することがあります。

フロントサイドレーダーセンサーが対象物を検知できず、FCTA が正常に作動しないことがあります。
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」

次のような場合は、対象物が存在しない場合でも FCTA が作動することがあります。

・自車の側方に構造物 (ガードレール、壁、看板、標識、電柱、街灯など) があるとき
・カーブを走行しているとき
・道幅の広い交差点で信号待ちをしているとき
・ラウンドアバウト、右折専用レーンまたは左折専用レーンを走行しているとき

次のような場合は、FCTA が正常に作動しない場合があります。

・自車の前方に立体交差 (道路、鉄道路線、モノレールなど) があるとき
・自車と接近する車両の間に障害物があるとき

警報音を OFF にする

FCTA 作動時の警報音を OFF にする方法は 2 つあります。

・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで警報音を OFF にする。
→5-81 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」
・マツダコネクトで警報音を OFF にする。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、または マツダ販売店にご相談ください。

FCTA を OFF にする

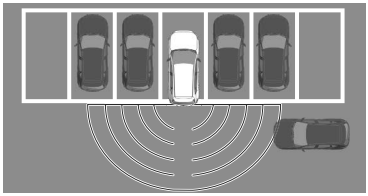
マツダコネクトで FCTA を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

後側方接近車両検知 (RCTA)

後側方接近車両検知 (RCTA) について

RCTA は、駐車場などで自車が後退する際の後方確認を支援するシステムです。左右後方から接近する車両を検知すると、各種表示と警報音で運転者に危険を知らせます。



後側方接近車両検知 (RCTA) 使用上の警告・注意

⚠ 警告

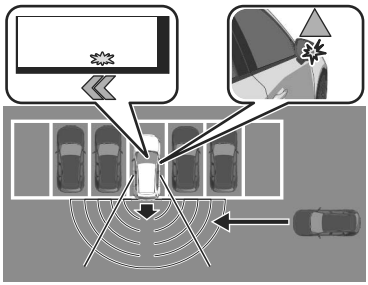
必ず目視にて周辺状況を確認する。
RCTA は、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。システムの作動には各種の制約がありますので、自車後方に車両が存在する場合でも接近表示灯が点滅しなかったり、点滅が遅れたりすることがあります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

後側方接近車両検知 (RCTA) の使いかた

RCTA が作動するとき

車両を後退させようとしている場合に、システムが後側方から接近する車両を検知すると、RCTA が作動します。

RCTA が作動している場合は、警報音 (後退中のみ)、接近表示灯の点滅、警告表示で運転者に危険を知らせます。



知識

道路上および道路端の停止物 (ガードレール、側壁、駐車車両、エアコンの室外機 (回転機構がある機器) など) に対して、RCTA が作動することがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、RCTA が正常に作動しないことがあります。

・リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・後退時の車速が約 15 km/h 以上のとき
・自車の真後ろから車両が接近してきたとき
・自車の斜め後ろから車両が接近してきたとき

マツダ純正トレーラーヒッチを使用すると、RCTA が自動的に OFF になります。

マツダ純正トレーラーヒッチ以外でトレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりする場合は、RCTA を OFF にしてください。レーダーの電波がさえぎられるため、RCTA が正常に作動しない可能性があります。

接近表示灯の明るさは、パネルライトコントロールと連動しています。
→5-27 ページ「パネルライトコントロールの使いかた」

警報音を OFF にする

マツダコネクトで RCTA 作動時の警報音を OFF にできます。警報音を OFF にする方法は 2 つあります。

・警報音が吹鳴しているときにセンターディスプレイの をタッチする。
が に変わり、警報音が一時的に OFF になります。
再度、セレクトレバーを R 以外の位置から R の位置にすると警報音が ON になります。
・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

RCTA を OFF にする

マツダコネクトで RCTA を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

後方歩行者警報

後方歩行者警報について

後方歩行者警報は、駐車場などで自車が後退する際の後方確認を支援するシステムです。後退時にリアカメラが歩行者を検知すると、警告表示と警報音で運転者に危険を知らせます。

後方歩行者警報使用上の警告・注意

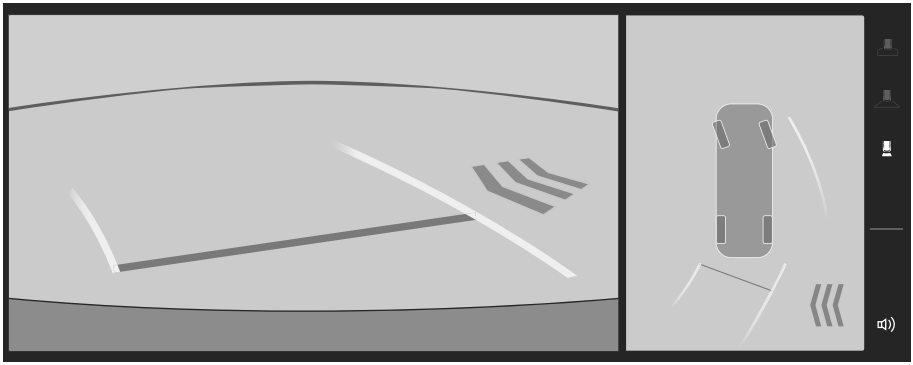
⚠ 警告

必ず目視にて周辺状況を確認する。
後方歩行者警報は、車両後退時の後方確認を支援するシステムです。システムの作動には各種の制約がありますので、自車後方に歩行者が存在する場合でもシステムが作動しなかったり、作動が遅れたりすることがあります。必ず、運転者の責任において後方を確認してください。

後方歩行者警報の使いかた

後方歩行者警報が作動するとき

車両を後退させようとしている場合に、リアカメラが歩行者を検知すると後方歩行者警報が作動します。
後方歩行者警報が作動すると警告表示により運転者に危険を知らせます。
さらに、自車が歩行者と接触する可能性があるとシステムが判断すると警報音が吹鳴します。



📖 知識

リアカメラが歩行者を正しく検知できない場合は、後方歩行者警報が正常に作動しないことがあります。
→5-94 ページ「ビューカメラについて」

警報音を一時的に OFF にする

警報音が吹鳴しているときにセンターディスプレイの をタッチする。
が に変わり、警報音が一時的に OFF になります。

後方歩行者警報を OFF にする

マツダコネクトで後方歩行者警報を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機)

発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機) について

先行車の発進または信号機が青 (方向指示灯の点滅と同一方向の青矢印の信号機も含む) に変わっても、自車が停止し続けた場合に音と表示でお知らせする機能です。

発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機) の使いかた

発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機) が作動するとき

次のいずれかの条件を満たすと発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機) が作動します。

・セレクトレバーを P または R 以外の位置にしてブレーキペダルを踏んでいるとき
・セレクトレバーを N の位置にして停止しているとき
・オートホールドが作動しているとき
・マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC) により停車しているとき

知識

次のような場合は、システムが正常に作動しないことがあります。

・フロントカメラヘッドが対象物を正しく検知できないとき。
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」
・フロントレーダーセンサーが対象物を正しく検知できないとき。
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・先行車が自動二輪車または自転車などのとき
・車両や木、看板などにより信号機を正しく検知できないとき
・右左折時や車線変更などによりハンドルを大きく操作しているとき

次のような場合は、先行車が発進したと判断しシステムが正常に作動しないことがあります。

・先行車がいない状態で停車中に交差点の先や自車の前を横切る車両を先行車と認識したとき
・自車と先行車の間に他の車両が割り込んできたり、通過したりしたとき

次のような場合は、信号機が青に変わったと判断しシステムが正常に作動しないことがあります。

・道路標識や看板など信号機ではないものを信号機と認識したとき
・歩行者用信号機または自転車用信号機が自動車用信号機と似ているとき
・交差する側の信号機や遠くにある交差点の信号機を認識したとき
・日照条件などにより、正しく信号機を認識できないとき

発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機) を OFF にする

マツダコネクトで発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機) を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) について

MRCC は､定速走行と追従走行によって運転者の負担を軽減するシステムです。運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても､設定した速度で定速走行をしたり､先行車との車間距離を保って追従走行をしたりします。

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

MRCC を過信しない。
MRCC は､先行車の種類や状態､天候状況､道路状況などによって､先行車を検知できないことがあります。また､先行車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んできたときなどは十分な減速ができず､思わぬ事故につながるおそれがあります。
周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど､先行車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため､次のような状況では MRCC を使用しない。

- 自動車専用道路以外を走行するとき
- 急なカーブや交通量が多く車間距離が十分にとれない道路を走行するとき
- 頻繁に加減速を繰り返すような道路を走行するとき
- 高速道路などで､インターチェンジ､サービスエリア､パーキングエリアに進入するなど､本線から出るとき
- 凍結路､積雪路､未舗装路などのすべりやすい路面を走行するとき
- 長い下り坂を走行するとき
- 勾配が急な坂を走行するとき
- バイクや自転車などの二輪車が前方を走行しているとき

MRCC 制御による停車中に車両から離れない。
車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車両から離れるときは､セレクトレバーを P の位置にし､パーキングブレーキをかけてください。

⚠ 注意

けん引されるとき、または他の車をけん引するときは、MRCC を使用しないでください。

シャシーローラーを使用するときは、MRCC を使用しないでください。

周囲の状況などにより、フロントカメラヘッドが対象物を正しく検知できず MRCC が正常に作動しないことがあります。周囲の安全を確認しながら運転してください。
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) の使いかた

MRCC が作動する条件

次の条件をすべて満たしている場合に、MRCC を設定できます。

・ブレーキペダルを踏んでいないとき
・車速が 0 km/h 以上のとき
・ヒルディセントコントロールが作動していないとき
・ドライバー･モニタリングが正常に作動しているとき

MRCC を設定する

1. MRCC スタンバイ表示灯 (白) が点灯していない場合は、ステアリングスイッチの MODE を長押しする。



システムが ON になり MRCC スタンバイ表示灯 (白) が点灯します。

2. ステアリングアシスト表示灯 (白) が点灯している場合は、ステアリングスイッチの を押す。



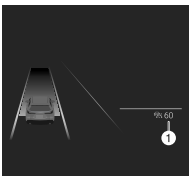
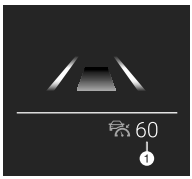
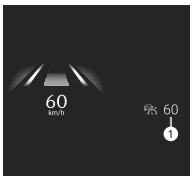
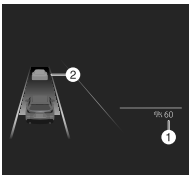
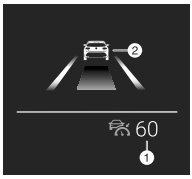
MRCC が ON になりステアリングアシスト表示灯 (白) が消灯します。

3. 設定したい速度まで加速する。

4. ステアリングスイッチの SET＋ または SET－ を押す。



速度を設定すると、定速走行が開始されます。また、設定した速度が画面に表示され、MRCC スタンバイ表示 (白) が MRCC セット表示 (緑) に変わります。
定速走行中に先行車を検知すると、追従走行に切り替わります。追従走行中は、先行車表示が画面に表示されます。

走行状態	メーター表示		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示
	i-ACTIVSENSE 画面	i-ACTIVSENSE 画面以外	
定速走行時			
追従走行時			

1 設定速度
2 先行車表示

知識

車速が約 80 km/h 以上で走行中に方向指示器を操作して追い越し車線に車線変更すると､緩やかに加速し､追い越しを支援します。

車速が約 80 km/h 以上で走行中に方向指示器を操作して自車より遅い車両の後方に車線変更すると､緩やかに減速し車線変更を補助します。

前方の地上から低い位置に道路構造物や障害物がある場合は､システムが先行車と認識することがあります。

定速走行中または追従走行中は､アクセルペダル操作による加減速が優先されます。アクセルペダルを離すと､設定速度での定速走行または追従走行にもどります。

先行車が極低速の場合は､先行車を正しく検知できないことがあります。

MRCC を使用して走行しているときは､セレクトレバーを操作しても意図したエンジンブレーキがかかりません。

MRCC 制御によるブレーキ作動中は､ブレーキランプが点灯します。

車間制御を無効にしたまま車両の電源を OFF にすると､次に車両の電源を ON にしたときに車間制御が自動的に有効になります。

MRCC スタンバイ状態からステアリングスイッチの MODE を長押しするとクルーズコントロールスタンバイ状態になります。

マツダコネクトで MRCC の加速度の強さを切り替えることができます。
センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

追従走行中に先行車が停止すると､追従して自車も停止します。停車中は､メーター内の MRCC 表示灯 HOLD が点灯します。
先行車が発進した後に次のいずれかの発進操作をすると､自車が発進します。

・ステアリングスイッチの RES を押す。
・アクセルペダルを踏み込む

知識

システムによる停車後､先行車が 3 秒以内に発進した場合は､自車も自動的に発進します。

(ドライバー･モニタリング装備車)
自動車専用道路を走行中にドライバー･モニタリングにより運転者が前方を注視していると判断した場合は､3 秒以上経過しても自動的に発進します。
ただし､システムが高速道路を走行していると判断できない場合 (一般道の上方にある高速道路を走行しているときなど) または運転者が前方を注視していることを判断できない場合 (サングラスやマスクを着用している､脇見をしているときなど) は､自動的に発進しません。

知識

→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」

システムによる停車状態が 10 分以上継続した場合は､自動でパーキングブレーキがかかります。このとき､MRCC は停止します。

停車中に MRCC が停止しても､停車状態は維持されます。
→5-46 ページ「オートホールドについて」

停車中に i-stop の作動条件を満たしている場合は､ブレーキペダルを踏まなくてもアイドリングストップします。発進操作をすると､自動でエンジンが再始動します。
→5-19 ページ「i-stop について」

設定した速度を変更する

ステアリングスイッチで設定速度を変更する

希望の速度になるまで､ステアリングスイッチの SET＋ または SET－ を操作する。

・短押し : 1 km/h
・長押し/フリック : 10 km/h

知識

マツダコネクトでステアリングスイッチのフリック操作を ON にすることができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

アクセルペダルで設定速度を変更する

アクセルペダルを踏んで希望の速度になったところで､ステアリングスイッチの SET＋ または SET－ を押す。

ステアリングスイッチで速度標識から設定速度を取り込む

速度標識セット表示 RES が点灯しているときにステアリングスイッチの RES 押す。

注意

速度標識を認識する機能には限界があります。必ず､取り込まれた設定速度を確認してください。

知識

速度標識連動型は、交通標識認識システム (TSR) を利用しています。
→5-117 ページ「交通標識認識システム (TSR) について」

速度標識連動型は、30 km/h 未満の速度を取り込めません。

速度標識から取り込む設定速度を調整することができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップし“安全装備”→“運転支援”→“標識連動車速調整”を選択する、またはマツダ販売店にご相談ください。

速度標識連動型を OFF にすることができます。

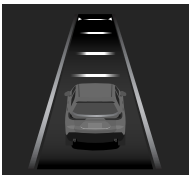
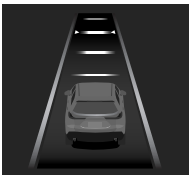
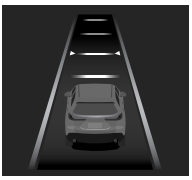
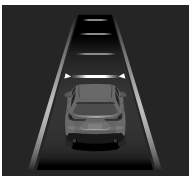
センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップし“安全装備”→“運転支援”→“標識連動車速設定”を選択する、またはマツダ販売店にご相談ください。

追従走行時の車間距離を設定する

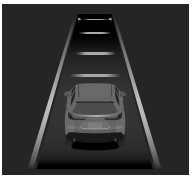
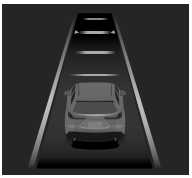
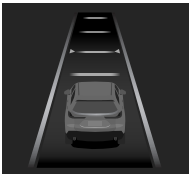
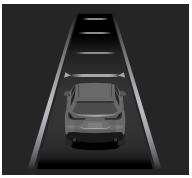
1. ステアリングスイッチの ☰ を押す。



MRCC 非作動時 (白)

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	メーター表示		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示
	i-ACTIVSENSE 画面	i-ACTIVSENSE 画面以外	
長 (約 70 m)			
中 (約 60 m)			
短 (約 45 m)			
極短 (約 30 m)			

MRCC 作動時 (緑)

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	メーター表示		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示
	i-ACTIVSENSE 画面	i-ACTIVSENSE 画面以外	
長 (約 70 m)			
中 (約 60 m)			
短 (約 45 m)			
極短 (約 30 m)			

知識

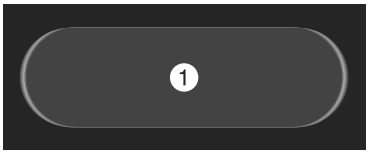
車間距離は、長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。

車間距離は速度によって異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。

接近警報

追従走行中に先行車に接近した場合は、画面表示と警報音で運転者に注意を促します。

メーター



1“ブレーキペダルを踏んでください”

知識

次のような場合は､接近警報が作動しないことがあります。

・先行車と同程度の速度で走行しているとき
・MRCC を設定した直後
・アクセルペダルから足を離した直後
・他の車が割り込んできたとき

接近警報が頻繁に作動するような状況では､MRCC を使用しないでください。

MRCC が一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと､MRCC が一時的に解除されます。

・ブレーキペダルを踏んだとき
・ステアリングスイッチの CNCL を押したとき
・セレクトレバーを D 以外の位置にしたとき
・車速が約 30 km/h 以下で走行中に先行車がいなくなったとき
・DSC が作動したとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できなくなったとき
・パーキングブレーキがかかったとき
・運転席のシートベルトをはずしたとき

MRCC が一時的に解除された場合は､ステアリングスイッチの RES を押すと一時的に解除される前の設定速度で MRCC が作動します。

クルージング & トラフィック･サポート (CTS)

クルージング & トラフィック･サポート (CTS) について

CTS は､高速道路や自動車専用道路での運転者の負担を軽減するシステムです。
CTS には､次の 5 つの機能があります。

定速/追従走行機能

運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても､設定した速度で定速走行をしたり､先行車との車間距離を保って追従走行をしたりします。

ステアリングアシスト機能

車線を検知している場合は､車線に沿って走行するように運転者のハンドル操作をアシストします。車線を検知していない場合は､先行車の走行軌跡に沿って走行するように運転者のハンドル操作をアシストします。

車線変更アシスト機能*1

運転者が方向指示器を操作することで､車線変更時のハンドル操作を支援します。

ハンズオフアシスト機能 (渋滞時)*1

高速道路や自動車専用道路で渋滞している場合は､運転者がハンドルから手を放してもハンドル操作をアシストします。

緊急停止支援機能

運転者が適切な運転状態ではない場合に､画面表示と警報音で運転者に適切な運転を促します。さらに､この状態が一定時間継続すると車両を減速･停止させます。

クルージング & トラフィック･サポート (CTS) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

CTS を過信しない。

- CTS は自動運転システムではありません。そのため､機能には限界があります。システムを過信せず､常にハンドルの操作で進路を修正してください。
- 道路状況や環境に応じて､車速を制限速度内に設定してください。
- CTS は､先行車の種類や状態､天候状況､道路状況などによって､先行車を検知できないことがあります。また､先行車が急ブレーキをかけたときや他車が割り込んできたときなどは十分な減速ができず､思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 緊急停止支援機能は､万一の際にすみやかに減速することで事故の回避や被害の軽減を図るものです。機能には限界があり､効果はさまざまな条件によって変わります。

緊急停止支援機能を意図的に作動させない。
思わぬ事故につながるおそれがあります。

車線変更アシスト機能を過信しない。
車線変更アシスト機能は､自動で車線変更するシステムではありません。必ず､運転者の責任において後方を確認してください。他車が隣接する車線を並走している場合や急接近している場合などは車線変更を中断できず､思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の状況に応じてハンドルを操作してください。また､次のような状況では､ステアリングアシスト機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。

- 先行車や周辺の車両が車線変更したとき
- 先行車や周辺の車両がふらついたとき
- 先行車や周辺の車両が車線から逸脱したとき
- 先行車や周辺の車両が車線内を片寄って走行しているとき
- 周囲に移動物や構造物があるとき
- 急カーブや車線減少､分岐､合流など道路状況が急に変化するとき

⚠ 警告

ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) を過信しない。

- ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) は、自動運転システムではありません。そのため、機能には限界があります。車線を逸脱しそうになった場合など、システムを過信せず、常にハンドルの操作で進路を修正してください。
- ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) は、脇見運転や居眠り運転など前方不注意による運転操作を補助するシステムではありません。必ず周囲の状況を確認し、周囲の状況に応じて運転してください。
- 車両の状態、天候状況、道路状況などにより、CTS が周辺状況や周辺車両を正しく検知できない場合があります。必ず周囲の状況を確認し、周囲の状況に応じて運転してください。
- ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) に関するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って操作してください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような状況では CTS を使用しない。

- 高速道路以外または自動車専用道路以外を走行するとき
- 急なカーブや交通量が多く車間距離が十分にとれない道路を走行するとき
- 頻繁に加減速を繰り返すような道路を走行するとき
- 高速道路などで、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するなど、本線から出るとき
- 凍結路、積雪路、未舗装路などのすべりやすい路面を走行するとき
- 長い下り坂を走行するとき
- 勾配が急な坂を走行するとき
- バイクや自転車などの二輪車が前方を走行しているとき
- けん引されるとき、または他の車をけん引するとき
- 接近警報が頻繁に作動するとき
- 悪天候のとき (雨、霧、雪など)
- タイヤチェーン装着時、応急用タイヤ装着時など、指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき
- タイヤの空気圧が適正空気圧に調整されていないとき
- 十分な溝がないタイヤを使用しているとき

CTS 制御による停車中に車両から離れない。
車両が動き出し思わぬ事故につながるおそれがあります。車両から離れるときは、CTS を OFF にしてセレクトレバーを P の位置にし、パーキングブレーキをかけてください。

緊急停止支援機能の作動後は、二次被害の防止に努める。
運転者が運転に復帰できた場合は、安全な場所に移動するなどして二次被害の防止に努めてください。また、必要に応じて停止表示板 (停止表示灯) および発炎筒を使用して、後続車両に停車していることを知らせてください。

⚠ 注意

CTS を正常に作動させるために、次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。

⚠ 注意

➢ 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。

シャシーローラーを使用するときは、CTS を OFF にしてください。

クルージング & トラフィック･サポート (CTS) の使いかた

CTS が作動する条件

次の条件をすべて満たしている場合に、CTS の速度を設定できます。

・ブレーキペダルを踏んでいないとき
・車速が 0 km/h 以上のとき
・ヒルディセントコントロールが作動していないとき
・MRCC を使用可能なとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が ON のとき
・TCS が OFF になっていないとき

CTS を設定する

1. CTS スタンバイ表示灯 (白) が点灯していない場合は、ステアリングスイッチの MODE を長押しする。



システムが ON になり CTS スタンバイ表示灯 (白) が点灯します。

2. ステアリングアシスト表示灯 (白) が点灯していない場合は、ステアリングスイッチの を押す。



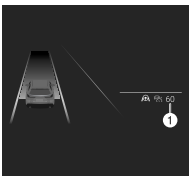
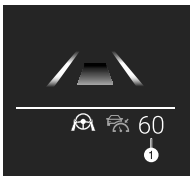
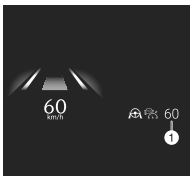
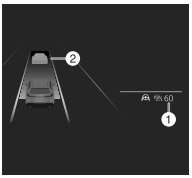
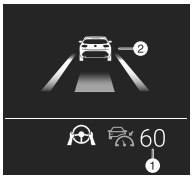
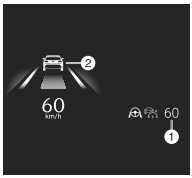
CTS が ON になりステアリングアシスト表示灯 (白) が点灯します。

3. 設定したい速度まで加速する。

4. ステアリングスイッチの SET＋ または SET－ を押す。



速度を設定すると、定速走行が開始されます。また、設定した速度が画面に表示され、CTS スタンバイ表示 (白) が CTS セット表示 (緑) に変わります。
定速走行中に先行車を検知すると、追従走行に切り替わります。追従走行中は、先行車表示が画面に表示されます。

走行状態	メーター表示		アクティブ・ドライビング・ディスプレイ表示
	i-ACTIVSENSE 画面	i-ACTIVSENSE 画面以外	
定速走行時			
追従走行時			

1 設定速度
2 先行車表示

知識

車速が約 80 km/h 以上で走行中に方向指示器を操作して追い越し車線に車線変更すると、緩やかに加速し、追い越しを支援します。

車速が約 80 km/h 以上で走行中に方向指示器を操作して自車より遅い車両の後方に車線変更すると、緩やかに減速し車線変更を補助します。

前方の地上から低い位置に道路構造物や障害物がある場合は、システムが先行車と認識することがあります。

定速走行中または追従走行中は、アクセルペダル操作による加減速が優先されます。アクセルペダルを離すと、設定速度での定速走行または追従走行にもどります。

フロントカメラヘッドが対象物を検知できず、CTS が正常に作動しないことがあります。
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」

フロントレーダーセンサーが対象物を検知できず、CTS が正常に作動しないことがあります。
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」

先行車が極低速の場合は、先行車を正しく検知できないことがあります。

CTS を使用して走行しているときは、セレクトレバーを操作しても意図したエンジンブレーキがかかりません。

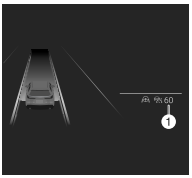
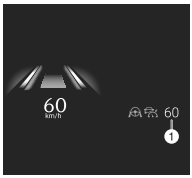
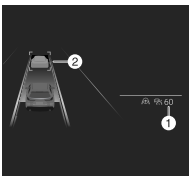
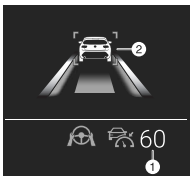
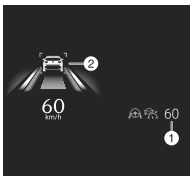
CTS 制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯します。

ドライバー･モニタリングが ON の状態で CTS が作動しているときは、ドライバー･モニタリングカメラが運転状態を監視します。
→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」

定速走行中または追従走行中に次の条件をすべて満たしている場合は、ステアリングアシスト機能が作動します。

・両側の白線 (黄線) を安定して検知している状態で車線の中央付近を走行しているとき
・ハンドルを大きく操作していないとき
・方向指示器を使用していないとき

ステアリングアシスト機能が作動している場合は、ステアリングアシスト状態表示が白色から緑色に変わります。

走行状態	メーター表示		アクティブ・ドライビング・ディスプレイ表示
	i-ACTIVSENSE 画面	i-ACTIVSENSE 画面以外	
車線に沿ったステアリングアシスト			
先行車の走行軌跡に沿ったステアリングアシスト			

1 設定速度
2 先行車表示

知識

ステアリングアシスト機能は走行車線内の中央付近を走行するようにハンドル操作をアシストしますが、次の条件のいずれかを満たしている場合は車線の中央付近を走行できないことがあります。

・走行速度が速いとき
・急カーブを走行しているとき
・傾斜や起伏が大きい道路を走行しているとき
・横方向の勾配が大きい道路を走行しているとき

追従走行中に先行車が停止すると、追従して自車も停止します。停車中は、メーター内の CTS 表示灯 HOLD が点灯します。
先行車が発進した後に次のいずれかの発進操作をすると、自車が発進します。

・ステアリングスイッチの RES を押す
・アクセルペダルを踏み込む

知識

システムによる停車後､先行車が 3 秒以内に発進した場合は､自車も自動的に発進します。

(ドライバー･モニタリング装備車)
自動車専用道路を走行中にドライバー･モニタリングにより運転者が前方を注視していると判断した場合は､3 秒以上経過しても自動的に発進します。
ただし､システムが高速道路を走行していると判断できない場合 (一般道の上方にある高速道路を走行しているときなど) または運転者が前方を注視していることを判断できない場合 (サングラスやマスクを着用している､脇見をしているときなど) は､自動的に発進しません。
→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」

システムによる停車状態が 10 分以上継続した場合は､自動でパーキングブレーキがかかります。このとき､CTS は停止します。

停車中に i-stop の作動条件を満たしている場合は､ブレーキペダルを踏まなくてもアイドリングストップします。発進操作をすると､自動でエンジンが再始動します。
→5-19 ページ「i-stop について」

設定した速度を変更する

ステアリングスイッチで設定速度を変更する

希望の速度になるまで､ステアリングスイッチの SET＋ または SET－ を操作する。

・短押し : 1 km/h
・長押し/フリック : 10 km/h

知識

マツダコネクトでステアリングスイッチのフリック操作を ON にすることができます。
センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

アクセルペダルで設定速度を変更する

アクセルペダルを踏んで希望の速度になったところで､ステアリングスイッチの SET＋ または SET－ を押す。

ステアリングスイッチで速度標識から設定速度を取り込む

速度標識セット表示 RES が点灯しているときにステアリングスイッチの RES 押す。

⚠ 注意

速度標識を認識する機能には限界があります。必ず､取り込まれた設定速度を確認してください。

知識

速度標識連動型は、交通標識認識システム (TSR) を利用しています。
→5-117 ページ「交通標識認識システム (TSR) について」

速度標識連動型は、30 km/h 未満の速度を取り込めません。

速度標識から取り込む設定速度を調整することができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップし“安全装備”→“運転支援”→“標識連動車速調整”を選択する、またはマツダ販売店にご相談ください。

速度標識連動型を OFF にすることができます。

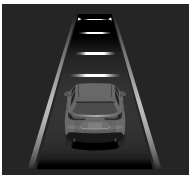
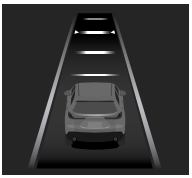
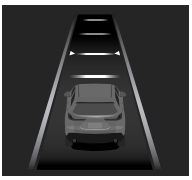
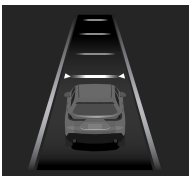
センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップし“安全装備”→“運転支援”→“標識連動車速設定”を選択する、またはマツダ販売店にご相談ください。

追従走行時の車間距離を設定する

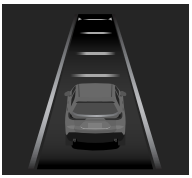
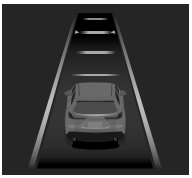
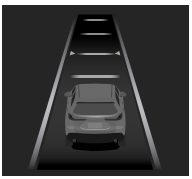
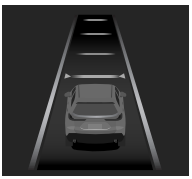
1. ステアリングスイッチの 〓 を押す。



CTS 非作動時 (白)

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	メーター表示		アクティブ･ドライビング･ディスプレイ表示
	i-ACTIVSENSE 画面	i-ACTIVSENSE 画面以外	
長 (約 70 m)			
中 (約 60 m)			
短 (約 45 m)			
極短 (約 30 m)			

CTS 作動時 (緑)

車間距離の目安 (約 80 km/h 走行時)	メーター表示		アクティブ・ドライビング・ディスプレイ表示
	i-ACTIVSENSE 画面	i-ACTIVSENSE 画面以外	
長 (約 70 m)			
中 (約 60 m)			
短 (約 45 m)			
極短 (約 30 m)			

知識

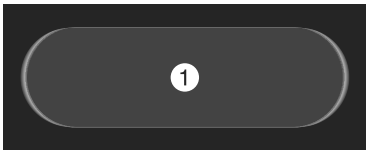
車間距離は、長、中、短、極短の 4 段階で設定できます。

車間距離は速度によって異なり、速度が遅いほど車間距離は短くなります。

定速/追従走行機能による警告

追従走行中に先行車に接近した場合は、画面表示と警報音で運転者に注意を促します。

メーター



1“ブレーキペダルを踏んでください”

知識

次のような場合は､接近警報が作動しないことがあります。

・先行車と同程度の速度で走行しているとき
・CTS を設定した直後
・アクセルペダルから足を離した直後
・他の車が割り込んできたとき

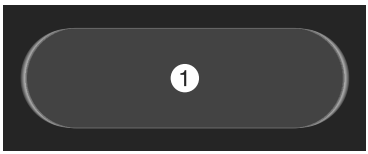
接近警報が頻繁に作動するような状況では､CTS を使用しないでください。

ステアリングアシスト機能による警告

前方不注意に対する警報

運転者が前方を注視せずに運転すると､メーターに警報 (橙色) が表示されます。
この警報は､運転者が前方を注視すると解除されます。

メーター

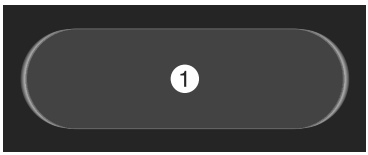


1“前方不注意を検知しました”

ステアリングアシスト限界警報

ステアリングアシスト機能が車線に沿った走行を維持できない場合は､画面表示と警報音で運転者にハンドル操作を促します。

メーター

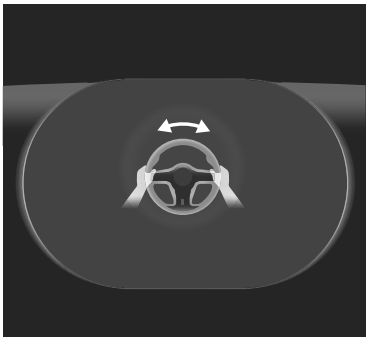


1“車線逸脱を検知 ハンドルを操作してください”

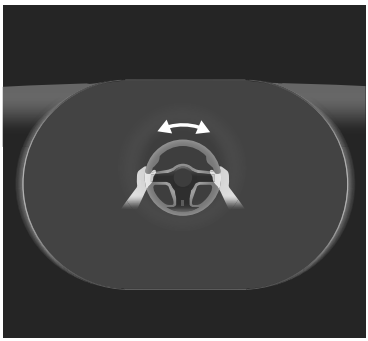
手放し運転に対する警報

運転者がハンドルから手を放すと､メーターおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報 (橙色) が表示されます。その後もハンドルから手を放した状態を続けると､メーターおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報 (赤色) が表示されるとともに､警報音が鳴ります。

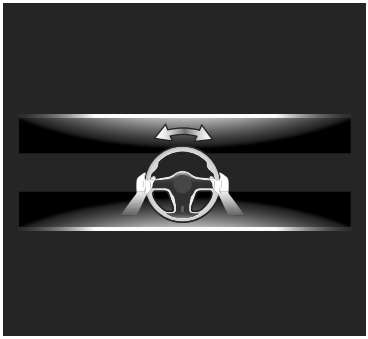
この警報は､ハンドルを左または右に軽く操作すると解除されます。
メーター
警報 (橙色)



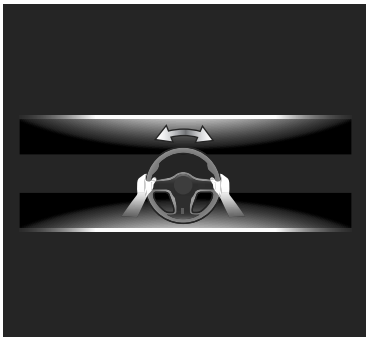
警報 (赤色)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ
警報 (橙色)



警報 (赤色)



車線変更アシスト機能が作動する条件

次の条件をすべて満たしている場合に車線変更アシスト機能が作動します。

・ステアリングアシスト機能が作動しているとき
・車速が約 60 km/h 以上のとき
・中央分離帯がある高速道路または自動車専用道路を走行しているとシステムが認識しているとき
・システムが車線境界線を白の破線と認識しているとき
・車線変更先に他車がいないとき
・車線が複数ある道路を走行しているとき
・専用 SD カードが挿入されているとき
・ハンドルを大きく操作していないとき

知識

車線変更アシスト機能の性能を維持するために､専用 SD カード内のデータを定期的にアップデートしてください。

フロントサイドレーダーセンサーが対象物を検知できず､車線変更アシスト機能が正常に作動しないことがあります。
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」

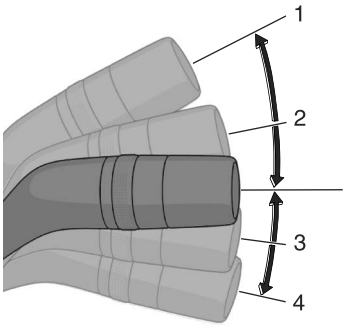
車線変更アシスト機能を使用する

注意

次のような状況では､車線変更アシスト機能を使用しないでください。

- 片側 1 車線の道路を走行しているとき
- 車線境界線が白の破線ではないとき
- 高速道路または自動車専用道路以外を走行しているとき

車線変更アシスト機能表示灯 (白) が点灯しているときに､方向指示器のレバーを②または③の位置まで動かす。



車線変更アシスト機能が作動し車線変更アシスト機能表示灯 (白) が車線変更アシスト機能表示灯 (緑) に変わります。

車線変更が完了すると方向指示灯が自動で消灯し､車線変更アシスト機能表示灯 (緑) が車線変更アシスト機能表示灯 (白) に変わります。

知識

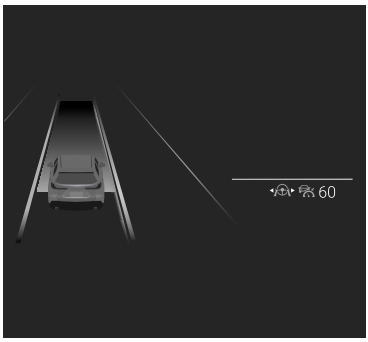
車線変更アシスト機能を使用せずに車線変更する場合は､方向指示器のレバーを①または④の位置まで操作してください。

車線変更アシスト機能による警告

接近警報

車線変更アシスト機能作動中に急な接近車両を検知した場合は､画面表示と警報音で注意を促します。また､接近車両に近づかないようにハンドル支援することがあります。

メーター (i-ACTIVSENSE 画面)



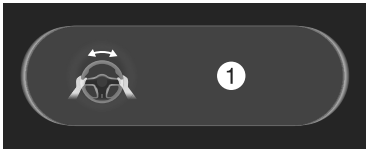
メーター (i-ACTIVSENSE 画面以外)



手放し運転に対する警報

車線変更アシスト機能作動中に運転者がハンドルから手を放すと、メーターおよびアクティブ･ドライビング･ディスプレイに警報が表示されます。その後もハンドルから手を放した状態を続けると、車線変更アシスト機能を中止します。

メーター



1“手放しを検知 ハンドルの保持が必要です”

車線変更アシスト機能が一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、車線変更アシスト機能が一時的に解除されます。

・車線を検知できなくなったとき
・方向指示器のレバーを 2 段目に操作したとき
・車線変更する方向と逆方向に方向指示器を操作したとき
・ハンドルやアクセルペダル、ブレーキペダルを操作したとき
・手放し運転に対する警報が作動したとき
・自車周辺にいる他車を検知したとき

車線変更アシスト機能を OFF にする

マツダコネクトで車線変更アシスト機能を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が作動する条件

次の条件をすべて満たしている場合にハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が作動します。

・ステアリングアシスト機能が作動しているとき
・高速道路または自動車専用道路を走行しているとき
・渋滞しているとき
・先行車を検知しているとき
・運転者が前方を注視しているとき

知識

ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) の性能を維持するために、専用 SD カード内のデータを定期的にアップデートしてください。

フロントカメラヘッドが対象物を検知できず、ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が正常に作動しないことがあります。
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」

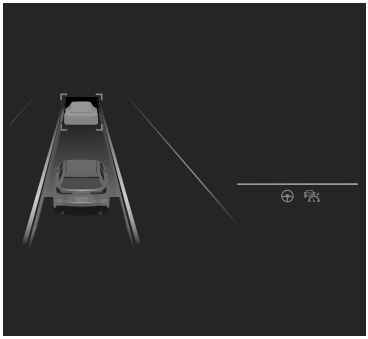
レーダーセンサーが対象物を検知できず、ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が正常に作動しないことがあります。
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」

ドライバー･モニタリングカメラが運転者を正しく認識していない場合は、ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が正常に作動しないことがあります。
→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」

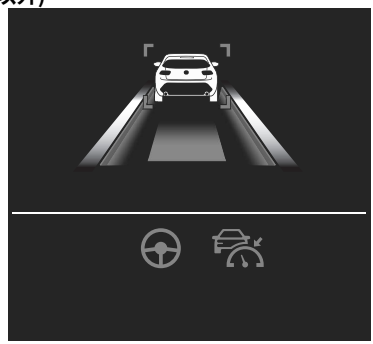
ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が作動したとき

ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が作動すると画面表示および表示灯が青色になります。

メーター (i-ACTIVSENSE 画面)



メーター (i-ACTIVSENSE 画面以外)

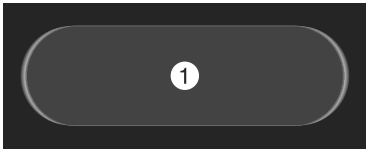


ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) による警告

前方不注意に対する警報

運転者の前方不注意を検知すると､画面表示により注意を促します。この警報は､運転者が前方を注視していることを検知すると解除されます。

メーター



1“前方不注意を検知しました”

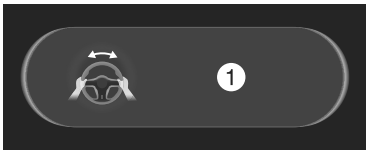
知識

前方不注意の検知については「ドライバー･モニタリングについて」の項目を参照してください。
→5-122 ページ「ドライバー･モニタリングについて」

ハンドル操作に対する警報

ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) 作動中にハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が作動する条件を満たさなくなった場合は､画面表示と警報音で運転者にハンドル操作を促します。

メーター

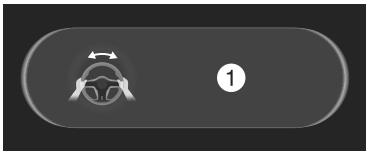


1“ハンドルを操作してください支援条件を満たしていません”

ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) 終了に対する警報

ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) 作動中にハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が終了した場合は､画面表示と警報音で運転者にハンドル操作を促します。この警報に対して運転者の反応がない場合は､緊急停止支援機能が作動する場合があります。

メーター



1“運転操作してくださいハンズオフアシスト機能（渋滞時）を終了しました”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は､ハンドルを持っていることを検知できないことがあります。

知識

・運転者が手袋を着用しているとき
・ハンドルにカバーが取り付けられているとき
・スポーク部や革の継ぎ目などを持っているとき
・ハンドルに手を軽く添えて運転をしているとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は、ハンドルを持っていると誤検知することがあります。

・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに物や腕などを広い範囲で近づけているとき

ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) が一時的に解除されます。

・車速が約 40 km/h 以上になったとき
・他車が自車の前に割り込んできたとき
・渋滞が解消したとシステムが判断したとき
・インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアなど本線から出るとき
・トンネルに入ったとき
・GPS 情報を取得できないとき
・工事区間を走行しているとき
・ドライバー・モニタリングカメラが運転者を検知していないとき
・アクセルペダルを踏んだとき
・定速/追従走行機能が解除されたとき
・ステアリングアシスト機能が解除されたとき
・ステアリングスイッチの を押したとき

ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) を OFF にする

マツダコネクトでハンズオフアシスト機能 (渋滞時) を OFF にすることができます。

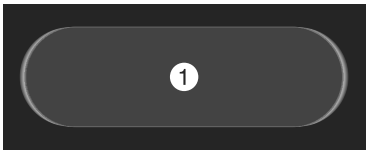
センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

適切な運転を促す警報

次の警報のいずれかが一定時間継続すると、メーターおよびアクティブ・ドライビング・ディスプレイに警報 (赤色) が表示されるとともに、警報音が鳴ります。さらに、定速/追従走行機能およびステアリングアシスト機能が解除され緩い減速が行なわれます。

・手放し運転に対する警報 (ステアリングアシスト機能作動時)
・前方不注意に対する警報
・ハンズオフアシスト機能 (渋滞時) による警報

メーター



1“軽くハンドル操作してください”

知識

適切な運転を促す警報が一定時間継続すると､緊急停止支援機能が作動します。

緊急停止支援機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に､緊急停止支援機能が作動します。

・ステアリングアシスト機能が作動しているとき
・適切な運転を促す警報が一定時間継続したとき

緊急停止支援機能が作動すると､警報音と音声ガイダンスが流れるとともにハンドルが振動し､システムによる車両減速の待機状態であることをセンターディスプレイおよびメーターの表示で知らせます。システム制御の詳細はセンターディスプレイに表示されます。

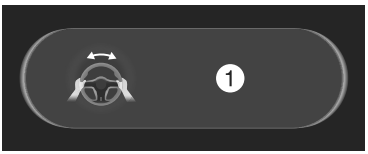
知識

ハンドルの振動するタイミングは次のとおりです。また､それぞれ 2､3 回振動します。

・ドライバーの異常を検知したとき
・車両減速・停止を開始したとき

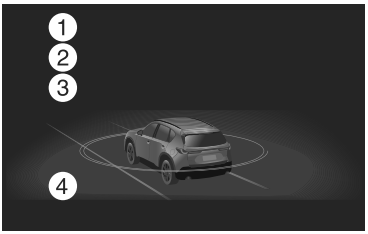
一定時間内にキャンセル操作が行なわれない場合は､システムが車両減速･停止を開始します。*1
*1　状況によって､以下のように減速･停止します。

メーター



1“減速します キャンセルするには 軽くハンドル操作してください”

センターディスプレイ



1“CTS 減速制御中”
2“車両を減速します。”
3“ドライバーの反応がない時は停車するまでお待ちください。”
4“周囲や歩行者の安全のために注意喚起しています。”

知識

緊急停止支援機能が作動するとアクセルペダル操作による加速ができません。

運転者が通常運転に復帰せず緊急停止支援機能がキャンセルされない場合は、非常点滅表示灯が点滅します。

次の場合には、ステアリングアシスト機能による車線維持が作動しないことがあります。

・車線の白線 (黄線) を検知できないとき (見えにくい、複数引かれる、途切れる、紛らわしい線が見えるなど)
・車線の両側白線 (黄線) が平行でないとき
・車両の速度が速すぎるとき
・道路の段差などにより車が大きく揺れたとき
・急なカーブを走行したとき
・急なハンドル操作をしたとき
・車線をまたいで走行したとき
・車線の幅が狭いとき、または広いとき
・自車が急減速したとき

緊急停止支援機能による車両停止

緊急停止支援機能によって自車が停止した後は、次のことが自動的に行なわれます。

・パーキングブレーキがかかります
・すべてのドアが解錠されます
・マツダエマージェンシーコールが行なわれます
→7-14 ページ「マツダエマージェンシーコールについて」
・ホーンが吹鳴します

知識

緊急停止支援機能による車両制御の詳細は、メーターに表示されます。

非常点滅表示灯スイッチを押すと、非常点滅表示灯の点滅が停止し、緊急停止支援機能がキャンセルされます。

ブレーキランプの点滅とホーンの吹鳴は、緊急停止支援機能を解除すると停止します。

緊急停止支援機能が作動すると、一時的に CTS が使用できなくなります。一度車両の電源を OFF にして、再度車両の電源を ON にすると CTS を使用できます。

作動中の緊急停止支援機能を解除するとき

メーターまたは、センターディスプレイの表示に従って緊急停止支援機能を解除してください
次のいずれかの条件を満たすことでも、緊急停止支援機能を解除できます。

・ハンドルを左または右に軽く操作したとき
・ハンドルを握った状態でペダル操作をして加減速をするなど、意図的な運転操作をしたとき
・走行中かつ非常点滅表示灯の点滅中に、非常点滅灯スイッチを押下したとき
・車両の電源を OFF にしたとき
・パーキングブレーキを解除したとき

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、ハンドルを持っていることを検知できないことがあります。

・運転者が手袋を着用しているとき
・ハンドルにカバーが取り付けられているとき
・スポーク部や革の継ぎ目などを持っているとき
・ハンドルに手を軽く添えて運転をしているとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は、ハンドルを持っていると誤検知することがあります。

・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに物や腕などを広い範囲で近づけているとき

CTS が一時的に解除されるとき

定速/追従走行機能

次の条件のいずれかを満たすと、定速/追従走行機能が一時的に解除されます。

・ブレーキペダルを踏んだとき
・ステアリングスイッチの CNCL を押したとき
・セレクトレバーを D 以外の位置にしたとき
・車速が約 30 km/h 以下で走行中に先行車がいなくなったとき
・DSC が作動したとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できなくなったとき
・パーキングブレーキがかかったとき
・運転席のシートベルトをはずしたとき

定速/追従走行機能が一時的に解除された場合は、ステアリングスイッチの RES を押すと一時的に解除される前の設定速度で定速/追従走行機能が作動します。

ステアリングアシスト機能

次の条件のいずれかを満たすと、ステアリングアシスト機能が一時的に解除されます。なお、ステアリングアシスト機能は、作動可能な状態になると自動で復帰します。

・定速/追従走行機能が解除されたとき
・白線 (黄線) を検知できない、または先行車を認識できないとき
・方向指示器を使用したとき
・急なハンドル操作をしたとき
・ハンドルから手を放したとき
・急なカーブを走行したとき
・車線をまたいで走行したとき
・車線の幅が狭いとき、または広いとき

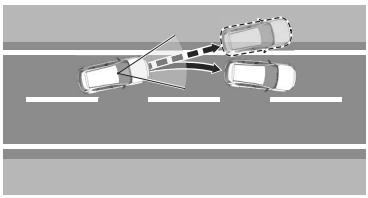
緊急時車線維持支援 (ELK)

緊急時車線維持支援 (ELK) について

ELK は、運転者のハンドル操作をアシストして危険回避を図るシステムです。
ELK には次の 4 つの機能があります。

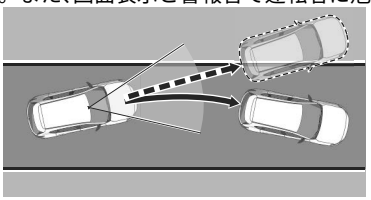
レーンキープ･アシスト･システム (LAS)

LAS は、自車が車線から逸脱することの回避を支援するシステムです。
自車が車線から逸脱する可能性があると、LAS が車線からの逸脱を回避するようにハンドル操作をアシストします。



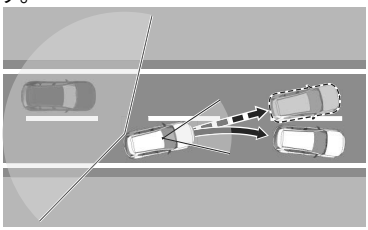
ロードキープアシスト機能

ロードキープアシスト機能は、自車が路外へ逸脱することの回避をアシストします。
自車が路外へ逸脱する可能性があると、ロードキープアシスト機能が路外への逸脱を回避するようにハンドル操作をアシストします。また、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。



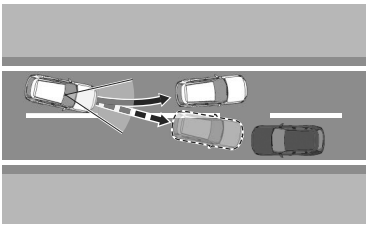
側方危険回避アシスト機能

側方危険回避アシスト機能は、隣接車線を走行する車両 (対向車を除く) と自車の衝突回避をアシストします。
自車の車線変更または車線逸脱によって、自車が隣接車線の車両と衝突する可能性があると、側方危険回避アシスト機能がもとの車線にもどるようにハンドル操作をアシストします。また、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。



対向車両衝突回避アシスト機能

対向車両衝突回避アシスト機能は、対向車線を走行する車両と自車の衝突回避をアシストします。自車の車線逸脱によって自車が対向車線の車両と衝突する可能性があると、対向車両衝突回避アシスト機能がもとの車線にもどるようにハンドル操作をアシストします。 また、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。

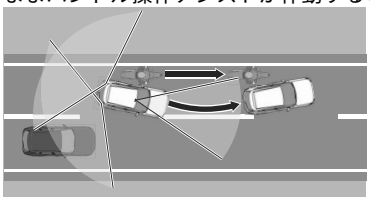


緊急時車線維持支援 (ELK) 使用上の警告・注意

⚠ 警告

ELK を過信しない。

- ELK には限界があります。システムを過信せず、常にハンドルの操作で進路を修正してください。
- ELK は自動運転システムではありません。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあります。
- カメラおよびセンサーの検知範囲には限界があります。自車付近の二輪車などを検知できないままハンドル操作アシストが作動すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。



思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような状況では ELK を使用しない。

- 凍結路、積雪路、未舗装路など、すべりやすい路面を走行するとき
- タイヤチェーン装着時、応急用タイヤ装着時など、指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき
- 十分な溝がないタイヤを使用しているとき
- タイヤの空気圧が適正空気圧に調整されていないとき
- キャンピングトレーラーやボートトレーラーなどをけん引しているとき
- **(側方危険回避アシスト機能)**
  リアサイドレーダーセンサー付近のリアバンパーが変形しているとき

⚠ 注意

ELK を正常に作動させるために、次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。
- 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。

緊急時車線維持支援 (ELK) の使いかた

レーンキープ･アシスト･システム (LAS)

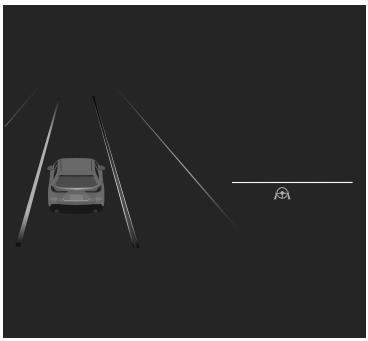
LAS が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、LAS が作動してハンドル操作をアシストします。

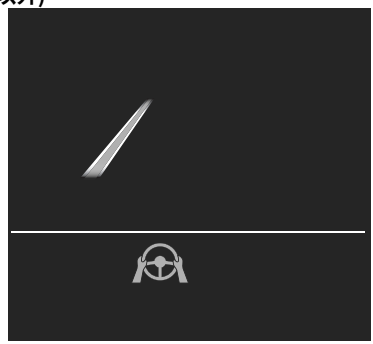
・車速が約 50 km/h 以上のとき
　運転者の状態により車速が約 40 km/h 以上で作動する場合があります。
・車線の白線 (黄線) を検知しているとき

ハンドル操作アシストが作動している場合は、画面表示で運転者に知らせます。

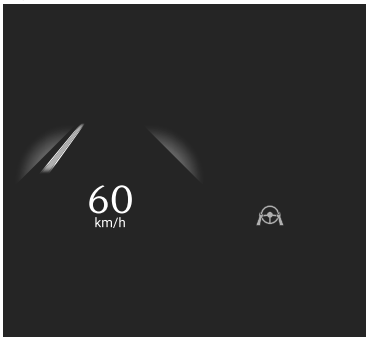
メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



知識

ハンドル操作アシスト作動時に運転者が手放し運転をしているとシステムが判断し、さらにその状態が一定時間内に複数回継続すると、警報音が鳴ります。なお、ハンドル操作アシストの回数が増加するごとに、警報音の継続時間が長くなります。警報音が鳴っている場合は、運転者がハンドル操作をしても警報音が一定時間鳴り続けることがあります。手放しに対する警報は、ELK の警報種別の設定に関わらず鳴ります。

LAS は、白線 (黄線) を検知している側のみ作動します。

フロントカメラヘッドが対象物を検知できず、LAS が正常に作動しないことがあります。
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」

ハンドル操作アシストが作動しているときに運転者がハンドル操作をすると、ハンドル操作アシストが解除されます。

運転者の操作により意図的に車線を逸脱したと判断した場合は、LAS が作動しないことがあります。

運転者の状態により、LAS の作動が早期化される場合があります。

LAS が一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、LAS が一時的に解除されます。なお、LAS は、作動可能な状態になると自動で復帰します。

・方向指示器を操作したとき
・ハンドル操作をしたとき
・アクセル操作をしたとき
・ブレーキ操作をしたとき
・車線幅の狭い道路を走行しているとき
・急カーブを走行しているとき
・TCS/DSC が作動しているとき
・TCS/DSC を OFF にしたとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき

ロードキープアシスト機能

ロードキープアシスト機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が路外へ逸脱する可能性があるとシステムが判断すると、ロードキープアシスト機能が作動してハンドル操作をアシストします。

・**(対象物が縁石やガードレールなどの構造物の場合)**
車速が約 35 km/h 以上のとき
・**(対象物が縁石やガードレールなどの構造物以外の場合)**
車速が約 50 km/h 以上のとき
運転者の状態により車速が約 40 km/h 以上で作動する場合があります。
・対象物 (砂利、芝生、側溝、縁石、ガードレール、側壁など) を検知することで、路外を認識しているとき

ハンドル操作アシストは作動している場合は、ステアリングアシスト表示灯 (橙) が点灯し、警報音およびハンドルの振動で運転者に知らせます。

知識

ハンドル操作アシスト作動時に運転者が手放し運転をしているとシステムが判断し、さらにその状態が一定時間内に複数回継続すると、警報音が鳴ります。なお、ハンドル操作アシストの回数が増加するごとに、警報音の継続時間が長くなります。警報音が鳴っている場合は、運転者がハンドル操作をしても警報音が一定時間鳴り続けることがあります。手放しに対する警報は、ELK の警報種別の設定に関わらず鳴ります。

ロードキープアシスト機能は、対象物を検知している側のみ作動します。

フロントカメラヘッドが対象物を検知できず、ロードキープアシスト機能が正常に作動しないことがあります。
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」

ハンドル操作アシストが作動しているときに運転者がハンドル操作をすると、ハンドル操作アシストが解除されます。

運転者の操作により意図的に車線を逸脱したと判断した場合は、ロードキープアシスト機能が作動しないことがあります。

運転者の状態により、ロードキープアシスト機能の作動が早期化される場合があります。

ロードキープアシスト機能が一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、ロードキープアシスト機能が一時的に解除されます。なお、ロードキープアシスト機能は、作動可能な状態になると自動で復帰します。

・方向指示器を操作したとき
・ハンドル操作をしたとき
・アクセル操作をしたとき
・ブレーキ操作をしたとき
・車線幅の狭い道路を走行しているとき
・急カーブを走行しているとき
・TCS/DSC が作動しているとき
・TCS/DSC を OFF にしたとき
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき

側方危険回避アシスト機能

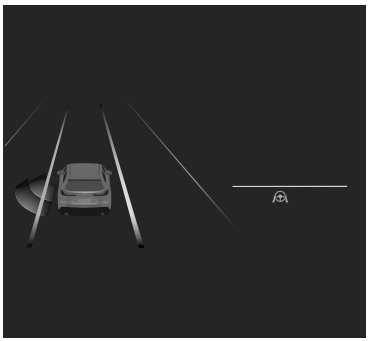
側方危険回避アシスト機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が後側方の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断すると、側方危険回避アシスト機能が作動してハンドル操作をアシストします。

・車速が約 40 km/h 以上のとき
・直線または緩やかなカーブを走行しているとき
・車線の白線 (黄線) や路外 (芝、砂利など) を検知しているとき

ハンドル操作アシストが作動している場合は、画面表示、警報音、ハンドルの振動で運転者に知らせます。

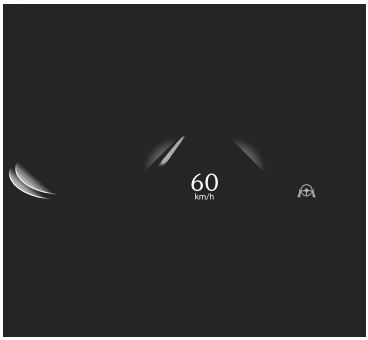
メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



知識

ハンドル操作アシスト作動時に運転者が手放し運転をしているとシステムが判断し、さらにその状態が一定時間内に複数回継続すると、警報音が鳴ります。なお、ハンドル操作アシストの回数が増加するごとに、警報音の継続時間が長くなります。警報音が鳴っている場合は、運転者がハンドル操作をしても警報音が一定時間鳴り続けることがあります。手放しに対する警報は、ELK の警報種別の設定に関わらず鳴ります。

側方危険回避アシスト機能は、白線 (黄線) または路外 (芝、砂利など) を検知している側のみ作動します。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、側方危険回避アシスト機能が正常に作動しないことがあります。

・フロントカメラヘッドが対象物を検知できないとき
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」
・リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行しているとき
・分岐路や合流路を走行しているとき

ハンドル操作アシストが作動しているときに運転者がハンドル操作をすると、ハンドル操作アシストが解除されます。

運転者の操作により意図的に車線を逸脱したと判断した場合は、側方危険回避アシスト機能が作動しないことがあります。

側方危険回避アシスト機能が一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、側方危険回避アシスト機能が一時的に解除されます。なお、側方危険回避アシスト機能は、作動可能な状態になると自動で復帰します。

・ハンドル操作をしたとき
・アクセル操作をしたとき
・ブレーキ操作をしたとき
・車線幅の狭い道路を走行しているとき
・急カーブを走行しているとき

・TCS/DSC が作動しているとき
・TCS/DSC を OFF にしたとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき

対向車両衝突回避アシスト機能

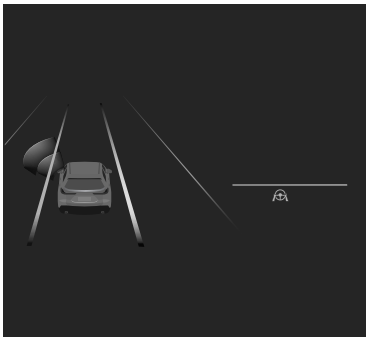
対向車両衝突回避アシスト機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に､自車が対向車線の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断すると､対向車両衝突回避アシスト機能が作動してハンドル操作をアシストします。

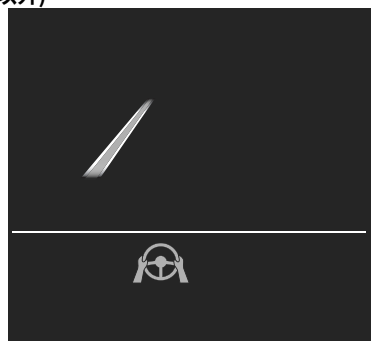
・車速が約 40 km/h 以上のとき
・直線または緩やかなカーブを走行しているとき
・車線の白線 (黄線) や路外 (芝､砂利など) を検知しているとき

ハンドル操作アシストが作動している場合は､画面表示､警報音､ハンドルの振動で運転者に知らせます。

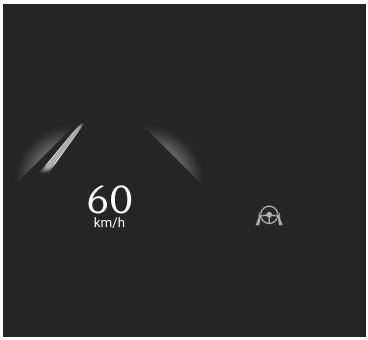
メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



知識

ハンドル操作アシスト作動時に運転者が手放し運転をしているとシステムが判断し、さらにその状態が一定時間内に複数回継続すると、警報音が鳴ります。なお、ハンドル操作アシストの回数が増加するごとに、警報音の継続時間が長くなります。警報音が鳴っている場合は、運転者がハンドル操作をしても警報音が一定時間鳴り続けることがあります。手放しに対する警報は、ELK の警報種別の設定に関わらず鳴ります。

対向車両衝突回避アシスト機能は、白線 (黄線) または路外 (芝、砂利など) を検知している側のみ作動します。

次の条件のいずれかを満たしている場合は、対向車両衝突回避アシスト機能が正常に作動しないことがあります。

・フロントカメラヘッドが対象物を検知できないとき
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・工事による車線規制や仮設の車線がある区間を走行しているとき
・分岐路や合流路を走行しているとき

ハンドル操作アシストが作動しているときに運転者がハンドル操作をすると、ハンドル操作アシストが解除されます。

運転者の操作により意図的に車線を逸脱したと判断した場合は、対向車両衝突回避アシスト機能が作動しないことがあります。

対向車両衝突回避アシスト機能が一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、対向車両衝突回避アシスト機能が一時的に解除されます。なお、対向車両衝突回避アシスト機能は、作動可能な状態になると自動で復帰します。

・ハンドル操作をしたとき
・アクセル操作をしたとき
・ブレーキ操作をしたとき
・車線幅の狭い道路を走行しているとき
・急カーブを走行しているとき

・TCS/DSC が作動しているとき
・TCS/DSC を OFF にしたとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき

ELK の警報種別を変更する

マツダコネクトで ELK の警報種別を変更できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

ELK の警報種別は､車線逸脱警報システムの警報種別と連動しています。ELK の警報種別を変更した場合は､車線逸脱警報システムの警報種別も変更されます。

警報音を OFF にする

ELK 作動時の警報音を OFF にする方法は 2 つあります。

・i-ACTIVSENSE ミュートスイッチで警報音を OFF にする。
→5-81 ページ「i-ACTIVSENSE ミュートスイッチの使いかた」
・マツダコネクトで警報音を OFF にする。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

ELK を OFF にする

マツダコネクトで ELK を OFF にできます。ELK を OFF にする方法は 2 つあります。

・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている 🚗 をタップし Ⓢ → 🚘 をタップする。

🚘 の表示灯が消灯します。

・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

ロードキープアシスト機能､側方危険回避アシスト機能､対向車両衝突回避アシスト機能が OFF になると､ELK OFF 表示 🚘OFF が点灯します。

LAS が OFF になると､LAS & 車線逸脱警報システム OFF 表示 OFF が点灯します。

プロアクティブ･ドライビング･アシスト (PDA)

プロアクティブ･ドライビング･アシスト (PDA) について

PDA は､作動対象 (先行車､自動二輪車) を検出したときにブレーキ操作の一部を支援し､運転者の負担を軽減するシステムです。運転者がアクセルペダルを離したときに先行車との車間距離が近づきすぎないよう､ブレーキ操作の一部を支援します。

プロアクティブ･ドライビング･アシスト (PDA) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

PDA を過信しない。
PDA は､先行車の種類や状態､天候状況､道路状況などによって､先行車を検知できないことがあります。また､先行車との車間距離を維持する機能ではありませんので､アクセルやブレーキの適切な操作を怠ると､思わぬ事故につながるおそれがあります。周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど､先行車や後続車との車間距離を十分に確保してください。

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があり､思わぬ事故につながるおそれがあるため､必ず運転者の操作によって車間距離を確保する。

- 車線を検知できないおそれがあるとき
- 作動対象などが自車の進路内に入る手前で停止したとき
- 作動対象などが自車の進路内に割り込んできたり､飛び出してきたりしたとき
- ガードレールや柵などの奥にいる作動対象のすぐそばを通過するとき
- 車線を変更して作動対象などを追いこすとき
- 車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき
- 構造物 (ガードレール､電柱､木､壁､柵､ポール､工事用コーン､ポストなど) が周囲に存在するとき
- 自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様､ペイントがあるとき
- 道路上方に構造物 (天井の低いトンネル､道路標識､看板など) がある場所を走行するとき
- わだちのある道路､雪道､凍結路を走行するとき
- 自車に向かって作動対象が近づいてくるとき
- 自車や作動対象がふらついているとき
- 作動対象の動きが変化したとき (方向転換､急加速､急減速など)
- 作動対象に急接近したとき
- 先行車､自動二輪車が自車の中心軸からずれているとき
- 作動対象の一部が他のもので隠れているとき (大きな荷物や傘､またはガードレールなど)
- 作動対象が複数重なっているとき
- 作動対象の色合いが白系統で､極端に明るく見えるとき
- 作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
- 先行車が､自車の進行方向以外を向いているとき
- 車線幅が極端に広いとき
- 車線幅が極端に狭いとき
- エンジンを始動後かつ走行開始後から一定時間
- 右左折中および右左折後の数秒間
- 進路変更中および進路変更後の数秒間
- 作動対象が､カーブ進入前､カーブ走行中およびカーブを曲がり切ってからの数秒間に存在するとき
- 作動対象との距離が極端に近いときまたは極端に遠いとき
- 作動対象に汚れや擦れがあるとき
- 悪天候時 (雨､霧､雪､砂嵐など)
- 前方の視界状況が悪いとき (前方車が水､雪､砂などをまき上げて走行している､水蒸気や煙があるなど)
- 前方から強い光を受けたとき (逆光､ヘッドランプ上向き (ハイビーム) など)
- 周囲が暗いとき (夜間､夕方､朝方､トンネル､屋内駐車場など)
- 周囲に光を反射する物があるとき (反射板､標識､路面反射など)
- フロントガラスが汚れたり､曇ったりしているとき

⚠ 警告

➢ カーブの多い道､起伏の激しい道を走行しているとき

次の条件のいずれかを満たす場合は､PDA を OFF にする。
PDA が正しく作動せず､思わぬ事故につながるおそれがあります。

➢ 過積載やパンクで自車が傾いているとき
➢ 過度な高速走行をしているとき
➢ けん引するときまたはけん引されるとき
➢ トラック､船舶､列車などに積載するとき
➢ 自車をリフトで上げ､タイヤを空転させるとき
➢ 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
➢ オフロード走行やスポーツ走行をするとき
➢ 洗車機を使用するとき
➢ センサーやセンサー周辺への衝撃などにより､センサーの向きがずれたり変形したりしているとき
➢ センサーやライトをさえぎるような装備品を装着しているとき
➢ タイヤチェーン装着時､応急用タイヤ装着時など､指定されたサイズと異なるタイヤを使用しているとき
➢ タイヤパンク応急修理キットで修理したタイヤを装着しているとき
➢ 十分な溝がないタイヤを使用しているとき
➢ タイヤの空気圧が指定値に調整されていないとき
➢ 事故や故障などにより走行が不安定なとき

プロアクティブ･ドライビング･アシスト (PDA) の使いかた

PDA を ON にする

マツダコネクトで PDA を ON にできます。PDA を ON にする方法は 2 つあります。

・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップし → をタップする。
の表示灯が点灯します。

・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

メーター内の PDA スタンバイ表示 (白) が点灯します。

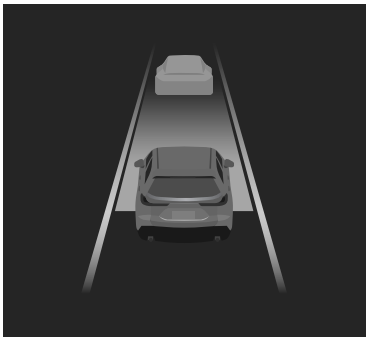
PDA が作動する条件

次の条件をすべて満たしている場合に､自車と先行車との車間距離が近いとシステムが判断すると､PDA が作動して減速支援します。

・PDA が ON のとき
・車速が約 20 km/h 以上のとき
・アクセルペダルを踏んでいないとき
・ブレーキペダルを踏んでいないとき

PDA が作動している間は､PDA スタンバイ表示 (白) が PDA アクティブ表示 (緑) に変わります。

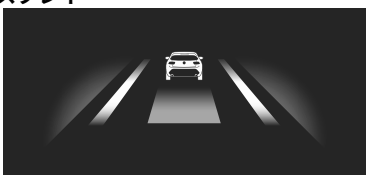
メーター (i-ACTIVSENSE 表示)



メーター (i-ACTIVSENSE 表示以外)



アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



知識

先行車が極端に低速で走行している場合は､先行車を正しく検知できないことがあります。

PDA によりブレーキが作動している場合は､ブレーキランプが点灯します。

PDA の感度を変更する

マツダコネクトで PDA の感度を変更できます。

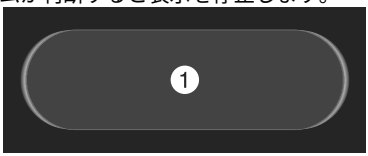
センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

感度は､強､中､弱の 3 段階で設定できます。感度を強くすると減速支援が強くなります。また､感度を強にすると車間距離に対する注意が早期化されます。

車間距離に対する注意

先行車との車間距離が近い状態が一定時間以上継続した場合に画面表示で運転者に注意を促します。車間距離が遠くなったとシステムが判断すると表示を停止します。



1“車間注意”

知識

次のいずれかの条件を満たす場合は､PDA による警報が作動しない場合があります。

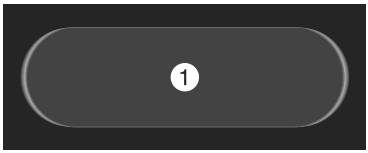
・車速が約 35 km/h 以下のとき
・先行車との車速差が大きいとき

PDA 終了に対する警報

運転者がアクセルペダルまたはブレーキペダルを操作していない場合に､次のいずれかの条件を満たすと､画面表示と警報音で運転者に注意を促します。

・PDA による減速支援終了後に先行車に接近したとき
・PDA による減速支援中に先行車に接近したとき

メーター



1“プロアクティブ・ドライビング・アシストを終了します 前方に注意してください”
運転者によりブレーキ操作またはアクセル操作が行なわれたとシステムが判断すると PDA による警報が停止します。

知識

次のいずれかの条件を満たす場合は､PDA による警報が作動しない場合があります。

・車速が約 25 km/h 以上のとき
・先行車と同程度の速度で走行しているとき

PDA が一時的に解除されるとき

次のいずれかの条件を満たすと、PDA が一時的に解除されます。

・セレクトレバーが D 以外の位置のとき
・車速が約 15 km/h 以下のとき
・マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) またはクルーズコントロールを ON にしたとき
・ヒルディセントコントロールを OFF 以外にしたとき
・TCS/DSC が作動しているとき
・TCS/DSC を OFF にしたとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) を OFF にしたとき
・システムが判断した目標の車速になったとき

次のいずれかの条件を満たすと、PDA が一時的に解除さる場合があります。

・先行車との車間距離が遠くなったとシステムが判断したとき
・スマート･ブレーキ･サポート (SBS) が作動したとき
・車線の白線 (黄線) を検知できないとき
・方向指示器を操作したとき
・運転席のシートベルトをはずしたとき
・電動パーキングブレーキ (EPB) が作動したとき

PDA を OFF にする

マツダコネクトで PDA を OFF にできます。PDA を OFF にする方法は 2 つあります。

・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップし → をタップする。
の表示灯が消灯します。
・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

メーター内の PDA アクティブ表示 (緑) /PDA スタンバイ表示 (白) が消灯します。

スマート･ブレーキ･サポート (SBS)

スマート･ブレーキ･サポート (SBS) について

SBS は、ブレーキ制御をすることで衝突回避および衝突時の被害軽減を図るシステムです。車両に搭載されたセンサーやカメラで対象物を検知し、その対象物と自車とが衝突する可能性があるとブレーキ制御をします。
SBS には、自車が前進する際に機能を発揮するものと、自車が後退する際に機能を発揮するものとがあります。

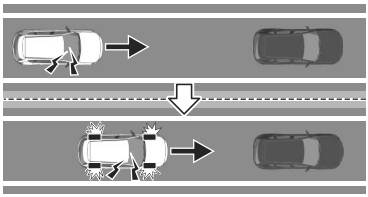
SBS [走行時]

SBS [走行時] には、次の 5 つの機能があります。

前方検知機能

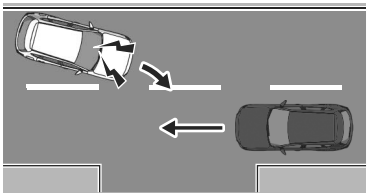
前方検知機能は、前方の対象物 (前方車、歩行者、自転車、自動二輪車) との衝突回避および衝突時の被害軽減を図る機能です。
自車が前方の対象物と衝突する可能性があると、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まったときには、ブレーキ制御をすることで衝突の回避/衝突時の被害軽減をします。

また､運転者がブレーキペダルを踏んだときには､ブレーキが素早く確実にかかるようアシストします。



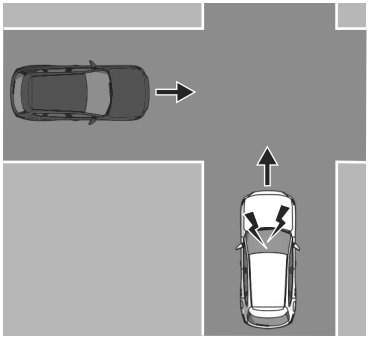
右直事故回避アシスト機能

右直事故回避アシスト機能は､交差点右折時における対向車との衝突回避および衝突時の被害軽減を図る機能です。
自車が交差点を右折する際に対向する車両または自動二輪車と衝突する可能性があると､画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに､衝突の可能性が高まったときには､ブレーキ制御をすることで衝突の回避/衝突時の被害軽減をします。



前進時左右接近物検知機能***

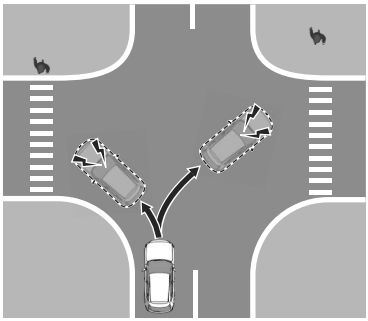
前進時左右接近物検知機能は､出会い頭事故の回避および被害軽減を図る機能です。
出会い頭に車両または自動二輪車と衝突する可能性があると､ブレーキ制御をすることで衝突の回避/衝突時の被害軽減をします。



交差点事故回避アシスト機能*

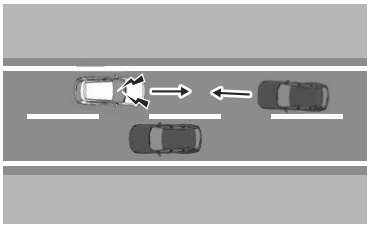
交差点事故回避アシスト機能は､交差点右左折時における対象物 (歩行者､自転車) との衝突回避および衝突時の被害軽減を図る機能です。

自車が交差点を右左折する際に対象物と衝突する可能性があると、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まったときには、ブレーキ制御をすることで衝突の回避/衝突時の被害軽減をします。



対向車衝突被害軽減機能

対向車衝突被害軽減機能は、対向車と正面衝突した際の被害軽減を図る機能です。
自車が同一車線上の対向する車両または自動二輪車と衝突する可能性があると、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まったときには、ブレーキ制御をすることで衝突時の被害を軽減します。

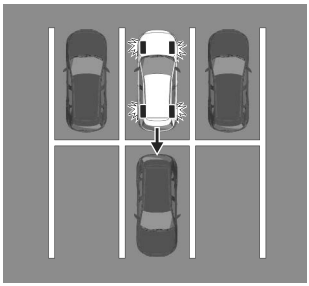


SBS [駐車･低速時]

SBS [駐車･低速時] には、次の 2 つの機能があります。

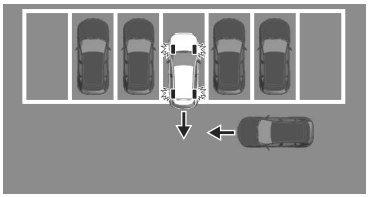
前後方検知機能

前後方検知機能は、前方の対象物 (障害物) または後方の対象物 (障害物、歩行者) との衝突回避および衝突時の被害軽減を図る機能です。
自車が前方または後方の対象物と衝突する可能性があると、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まったときには、ブレーキ制御をすることで衝突の回避/衝突時の被害軽減をします。



後進時左右接近物検知機能

後進時左右接近物検知機能は、後側方から接近する車両との衝突回避および衝突時の被害軽減を図る機能です。
自車が後側方から接近する車両と衝突する可能性があると、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まったときには、ブレーキ制御をすることで衝突の回避/衝突時の被害軽減をします。



スマート･ブレーキ･サポート (SBS) 使用上の警告･注意

⚠ 警告

SBS を過信しない。
SBS は、衝突時の被害を軽減するシステムです。システムを過信してアクセルやブレーキの適切な操作を怠ると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

必ず目視にて周辺状況を確認する。
SBS の作動には各種の制約があります。必ず周囲の安全を直接確認しながら運転してください。

⚠ 注意

次の条件のいずれかを満たす場合は、誤作動を防ぐために SBS を停止してください。

- トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりするとき
- 草の生い茂った場所やオフロードなどの悪路を走行するとき

タイヤは指定されたサイズを使用し、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、SBS が正常に作動しなくなるおそれがあります。

スマート･ブレーキ･サポート (SBS) の使いかた

知識

SBS のブレーキ制御中は、ブレーキペダルが奥に入ったり、固くなったりすることがあります。ブレーキは作動していますが、ブレーキペダルを踏み続けてください。

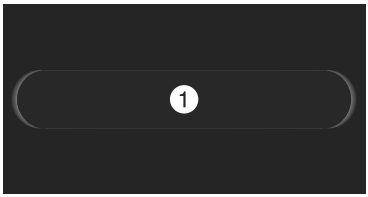
前方検知機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が前方の対象物と衝突する可能性があるとシステムが判断すると、前方検知機能が作動します。

・**(対象が前方車/自動二輪車/自転車の場合)**
車速が約 4 km/h 以上のとき
・**(対象が歩行者の場合)**
車速が約 4 km/h から約 80 km/h のとき
・DSC が作動していないとき

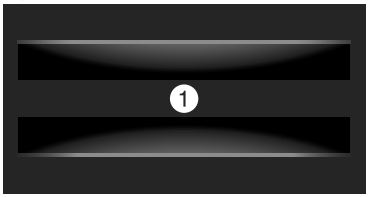
前方検知機能が作動している場合は、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“ブレーキ！”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1“ブレーキ！”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、前方検知機能が正常に作動しないことがあります。

・フロントカメラヘッドが対象物を検知できないとき
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・対象物と部分的な接触の可能性があるとき
・運転者が意図的に運転操作 (アクセルペダル操作、ハンドル操作、セレクトレバー操作、方向指示器操作など) を行なっているとき
・先行車が急減速や急旋回をしたとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は、前方検知機能が作動することがあります。

・動物や路側物を検知したとき
・カーブで対向車とすれ違うとき
・狭いゲートや天井が低いゲートなどに進入するとき
・路面上に、金属物、段差、突起物などがあるとき

知識

・カーブの始まりの道路端に作動対象物があるとき

(ドライバー･モニタリング装備車)
運転者が正面を注視していないときに衝突する可能性があると、通常よりも早期に衝突警報を行ないます。

前方検知機能がブレーキ制御をして自車が停止した場合は、運転者の操作がない限りしばらく停車を保持します。

衝突警報の音量を変更できます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

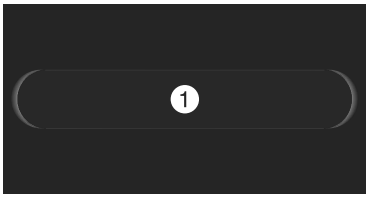
右直事故回避アシスト機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が対向車と衝突する可能性があるとシステムが判断すると、右直事故回避アシスト機能が作動します。

・車速が約 4 km/h から約 40 km/h のとき
・右側の方向指示灯を点けて、右折しているとき

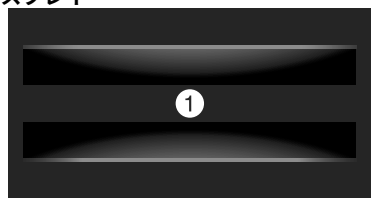
右直事故回避アシスト機能が作動している場合は、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“ブレーキ！”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1“ブレーキ！”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、右直事故回避アシスト機能が正常に作動しないことがあります。

知識

・フロントカメラヘッドが対象物を検知できないとき
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・対向車の一部､または全体が隠れるなどして､対向車を認識できないとき
・対向車の速度が遅すぎる､または速すぎるとき
・片側二車線以上の大きな交差点を曲がるとき
・アクセルペダル操作またはブレーキペダル操作をしているとき
・ハンドルを直進状態に操作しているとき
・一時停止後､再発進するとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は､右直事故回避アシスト機能が作動することがあります。

・対向車がいる場合に､対向車線方向にハンドルを操作したとき
・対向車のすぐ後ろ､または前方を通過するとき
・対向車の急な右左折や減速などにより､移動を予測できないとき

右直事故回避アシスト機能のブレーキ制御によって衝突の危険が去ると､すぐにブレーキが解除されます。

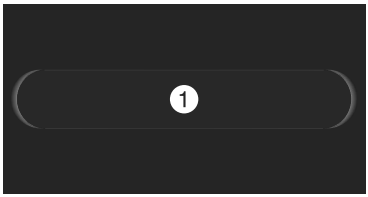
前進時左右接近物検知機能が作動するとき***

次の条件をすべて満たしている場合に､自車が前側方から接近する車両と衝突する可能性があるとシステムが判断すると､前進時左右接近物検知機能が作動します。

・自車が約 4 km/h から約 80 km/h で直進しているとき
・TCS/DSC が作動していないとき
・接近車両が自車と直交するように直進しているとき
・接近車両が約 4 km/h から約 80 km/h の範囲内で､一定速度で走行しているとき

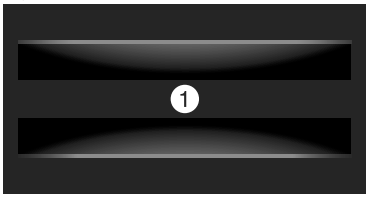
前進時左右接近物検知機能が作動している場合は､画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに､衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“ブレーキ！”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1“ブレーキ！”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、前進時左右接近物検知機能が正常に作動しないことがあります。

・フロントカメラヘッドが対象物を検知できないとき
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」
・フロントレーダーセンサー、フロントサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・アクセルペダル操作またはブレーキペダル操作をしているとき
・ハンドル操作をしているとき
・方向指示器を操作しているとき

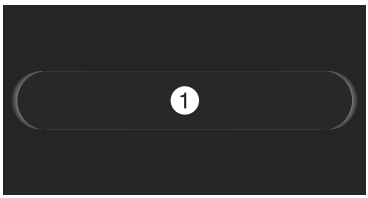
交差点事故回避アシスト機能が作動するとき*

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が前方の対象物と衝突する可能性があるとシステムが判断すると、交差点事故回避アシスト機能が作動します。

・車速が約 4 km/h から約 30 km/h のとき
・DSC が作動していないとき

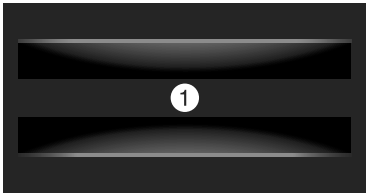
交差点事故回避アシスト機能が作動している場合は、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“ブレーキ！”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1“ブレーキ！”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、交差点事故回避アシスト機能が正常に作動しないことがあります。

・フロントカメラヘッドが対象物を検知できないとき
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」

交差点事故回避アシスト機能がブレーキ制御をして自車が停止した場合は、運転者の操作がない限りしばらく停車を保持します。

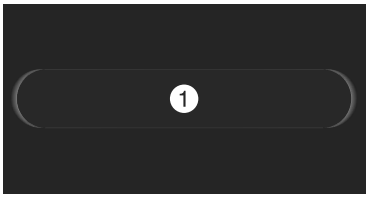
対向車衝突被害軽減機能が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が対向車と衝突する可能性があるとシステムが判断すると、対向車衝突被害軽減機能が作動します。

・車速が約 30 km/h 以上のとき
・DSC が作動していないとき
・対向車が自車と同じ車線内を走行しているとき
・車線の両側の境界を検知しているとき
・車線内に、対向車が回避行動をとるためのスペースがないとき

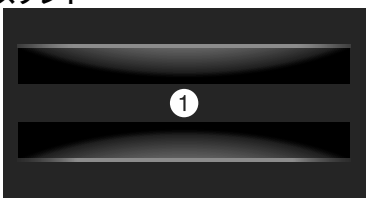
対向車衝突被害軽減機能が作動している場合は、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“ブレーキ！”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1“ブレーキ！”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、対向車衝突被害軽減機能が正常に作動しないことがあります。

知識

・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・対向車が停止しているとき
・対向車の速度が遅すぎる、または速すぎるとき
・対象物と部分的な接触の可能性があるとき
・運転者が意図的に運転操作 (アクセルペダル操作、ハンドル操作、セレクトレバー操作、方向指示器操作など) を行なっているとき
・車線がカーブしているとき
・車線の幅が極端に広いとき

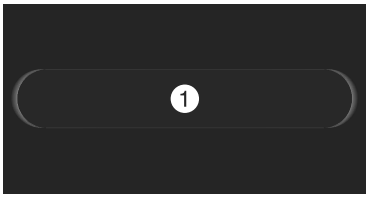
最終的に衝突しない場合でも、対向車が自車の正面に非常に接近すると、対向車衝突被害軽減機能が作動することがあります。

対向車衝突被害軽減機能の作動後、状況によっては衝突前にブレーキが解除されることがあります。

前後方検知機能が作動するとき

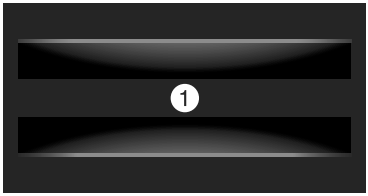
車速が約 15 km/以下の場合に、自車が前方の対象物 (障害物) または後方の対象物 (障害物、歩行者) と衝突する可能性があるとシステムが判断すると、前後方検知機能が作動します。
前後方検知機能が作動している場合は、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに、衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“ブレーキ！”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1“ブレーキ！”

知識

次のいずれかの条件を満たしている場合は、前後方検知機能が正常に作動しないことがあります。

・フロント超音波センサー、リア超音波センサーが対象物を検知できないとき

知識

→5-91 ページ「超音波センサーについて」
・リアカメラが対象物を検知できないとき
→5-94 ページ「ビューカメラについて」

次の条件のいずれかを満たしている場合は、前後方検知機能が作動することがあります。

・垂れ幕などがあるとき
・狭いゲートや天井が低いゲートなどに進入するとき
・路面上に、金属物、段差、突起物などがあるとき

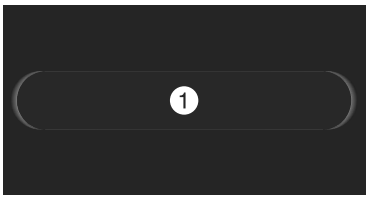
前後方検知機能がブレーキ制御をして車両が停止した場合に運転者がブレーキペダルを踏み込んでいないときは、約 2 秒後にブレーキが自動で解除されます。

マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive) の OFF-ROAD モードを使用している場合は、前後方検知機能が自動で OFF になります。

後進時左右接近物検知機能が作動するとき

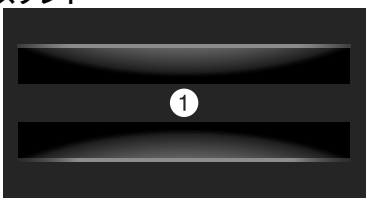
車速が約 15 km/h 以下の場合に、自車が後側方から接近する車両と衝突する可能性があるとシステムが判断すると、後進時左右接近物検知機能が作動します。
後進時左右接近物検知機能が作動している場合は、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。
さらに、衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“ブレーキ！”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1“ブレーキ！”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、後進時左右接近物検知機能が正常に作動しないことがあります。

知識

・リアサイドレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
・自車の真後ろから車両が接近してきたとき
・自車の斜め後ろから車両が接近してきたとき
・角度が急な方向から車両が接近してきたとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は、後進時左右接近物検知機能が作動することがあります。

・垂れ幕などがあるとき
・狭いゲートや天井が低いゲートなどに進入するとき

後進時左右接近物検知機能がブレーキ制御をして車両が停止した場合に運転者がブレーキペダルを踏み込んでいないときは、約 2 秒後にブレーキが自動で解除されます。

マツダインテリジェントドライブセレクト (Mi-Drive) の OFF-ROAD モードを使用している場合は、後進時左右接近物検知機能が自動で OFF になります。

SBS を OFF にする

マツダコネクトで SBS を OFF にできます。SBS を OFF にする方法は 2 つあります。

・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップし → をタップする。
の表示灯が消灯します。
・センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

SBS が OFF になると、SBS OFF 表示 が点灯します。

知識

SBS を OFF にしていない状態で SBS OFF 表示灯 が点灯する場合は、SBS が正常に作動しないことがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

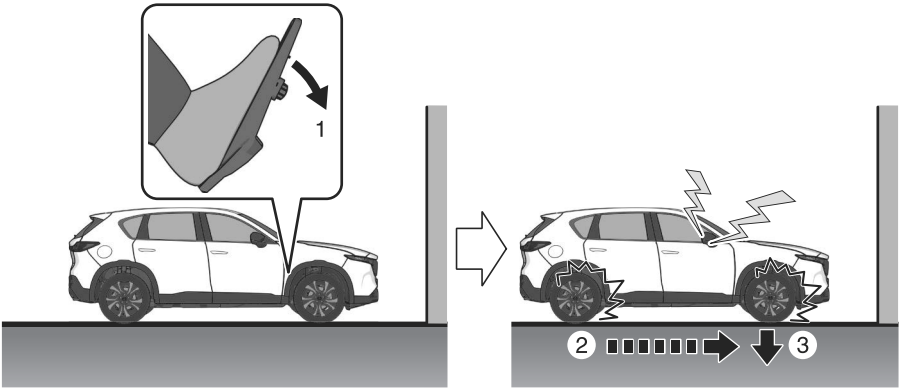
AT 誤発進抑制制御

AT 誤発進抑制制御について

AT 誤発進抑制制御は、アクセルペダルの踏み間違いによる急発進を抑制して衝突時の被害軽減を図るシステムです。
AT 誤発進抑制制御には、自車が前進する際に機能を発揮するものと、自車が後退する際に機能を発揮するものとがあります。

AT 誤発進抑制制御 [前進時]

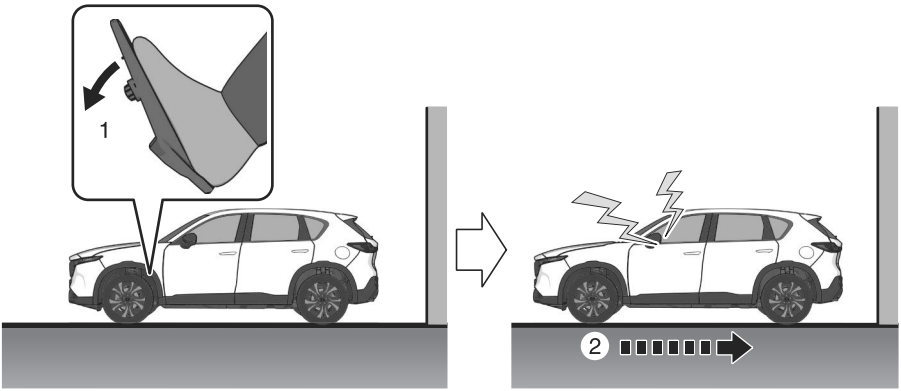
前方に対象物 (障害物、先行車、歩行者) がある状態で運転者がアクセルペダルを踏み込んだ場合に、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が画面表示と警報音で運転者に危険を知らせるとともに、エンジン出力を抑制します。さらに、衝突の可能性が高まった場合にはブレーキ制御をします。



1 アクセルペダルの踏み間違い
2 エンジン出力抑制
3 ブレーキ

AT 誤発進抑制制御 [後退時]

後方に対象物 (障害物、歩行者) がある状態で運転者がアクセルペダルを踏み込んだ場合に、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が画面表示と警報音で運転者に危険を知らせるとともに、エンジン出力を抑制します。



1 アクセルペダルの踏み間違い
2 エンジン出力抑制

AT 誤発進抑制制御使用上の警告･注意

⚠ 警告

AT 誤発進抑制制御を過信しない。
AT 誤発進抑制制御は､ペダルの踏み間違いによる事故を回避するものではありません。発進時は､セレクトレバーの位置とペダルの位置を十分に確認してください。

停車中､むやみにアクセルペダルを踏まない。
停車状態を保ったり､発進を緩やかにしたりするものではありません。また､障害物の近くで故意にアクセルを踏み込まないでください。意に反して車が動き出し､思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

踏切内に閉じ込められた場合､AT 誤発進抑制制御が遮断機を障害物と判断して作動することがあります。遮断機を押しのけて進む場合､あわてずにアクセルを踏み続ける､または踏み直して発進してください。その際､車両が急加速することがありますので注意してください。

次のいずれかの条件を満たす場合は､誤作動を防ぐために AT 誤発進抑制制御を停止してください。

- けん引されるとき､または他の車をけん引するとき
- 草の生い茂った場所やオフロードなどの悪路を走行するとき

AT 誤発進抑制制御の使いかた

AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に､自車が前方の対象物と衝突する可能性があるとシステムが判断すると､AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動します。

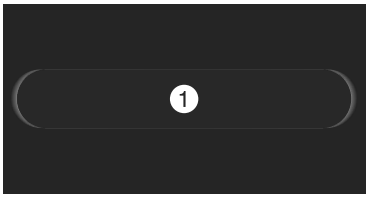
- **(対象が歩行者または先行車の場合)**
  車速が約 50 km/h 以下のとき
- **(対象がその他の障害物の場合)**
  車速が約 15 km/h 以下のとき
- アクセルペダルを踏んでいるとき

また､次の条件をすべて満たしている場合は､前方に障害物がなくても AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動することがあります。

- 車速が約 30 km/h 以下のとき
- ハンドルを大きく操作した状態でアクセルペダルを踏み込むなど､運転者が誤操作をしているとシステムが判断したとき

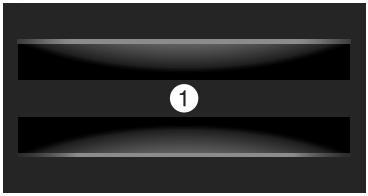
AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動している場合は､画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。さらに､衝突の可能性が高まった場合はブレーキ制御をします。

メーター



1“アクセルを踏んでいます”

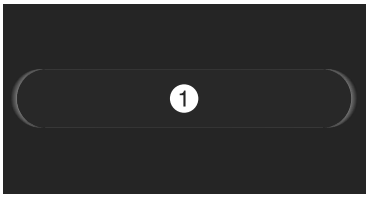
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



1“アクセルを踏んでいます”

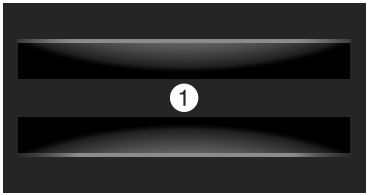
アクセルペダルが踏み込まれると、画面表示と警報音が切り替わります。

メーター



1“ブレーキ！”

アクティブ・ドライビング・ディスプレイ



1“ブレーキ！”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が正常に作動しないことがあります。

・フロントカメラヘッドが対象物を検知できないとき
→5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」
・フロントレーダーセンサーが対象物を検知できないとき
→5-85 ページ「レーダーセンサーについて」

知識

・フロント超音波センサーが対象物を検知できないとき
→5-91 ページ「超音波センサーについて」

次の条件のいずれかを満たしている場合は、AT 誤発進抑制制御 [前進時] が作動することがあります。

・急な登坂路があるとき
・狭いゲートや天井が低いゲートなどに進入するとき
・路面上に、金属物、段差、突起物などがあるとき
・対象物に接近して通過するとき

AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合に、自車が後方の対象物と衝突する可能性があるとシステムが判断すると、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動します。

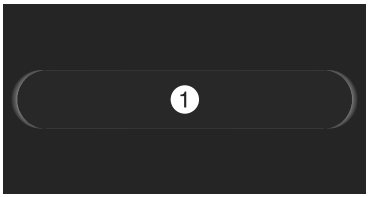
・車速が約 15 km/h 以下のとき
・アクセルペダルを踏んでいるとき

また、次の条件をすべて満たしている場合は、後方に障害物がなくても AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動することがあります。

・車速が約 15 km/h 以下のとき
・セレクトレバーを R の位置にしてアクセルペダルを踏み込むなど、運転者が誤操作をしているとシステムが判断したとき

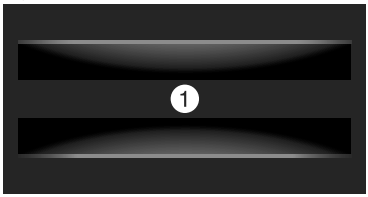
AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動している場合は、画面表示と警報音で運転者に危険を知らせます。

メーター



1“アクセルを踏んでいます”

アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1“アクセルを踏んでいます”

知識

次の条件のいずれかを満たしている場合は、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が正常に作動しないことがあります。

・リア超音波センサーが対象物を検知できないとき
→5-91 ページ「超音波センサーについて」
・リアカメラが対象物を検知できないとき
→5-94 ページ「ビューカメラについて」

次の条件のいずれかを満たしている場合は、AT 誤発進抑制制御 [後退時] が作動することがあります。

・急な登坂路があるとき
・垂れ幕などがあるとき
・狭いゲートや天井が低いゲートなどに進入するとき
・路面上に、金属物、段差、突起物などがあるとき

AT 誤発進抑制制御を OFF にする

マツダコネクトで SBS を OFF にすると AT 誤発進抑制制御が OFF になります。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

AT 誤発進抑制制御が OFF になると、SBS OFF 表示 OFF が点灯します。

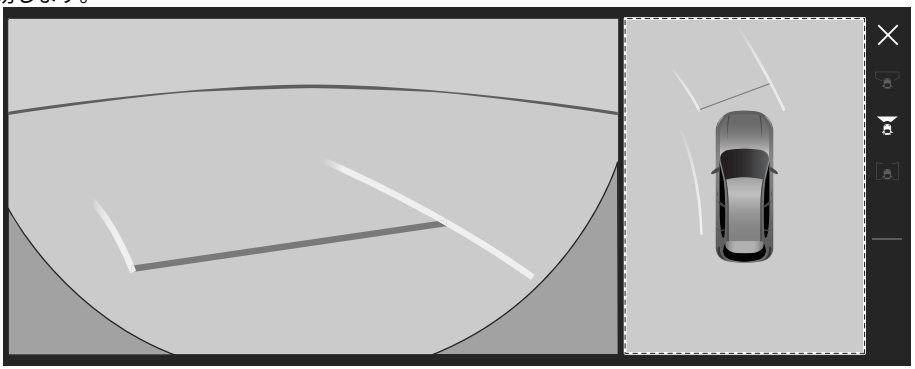
360° ビュー･モニター

360° ビュー･モニターについて

360°ビュー･モニターは､低速走行時や駐停車時に車両周辺の状況をセンターディスプレイに表示することで､運転者の安全確認を補助するシステムです。

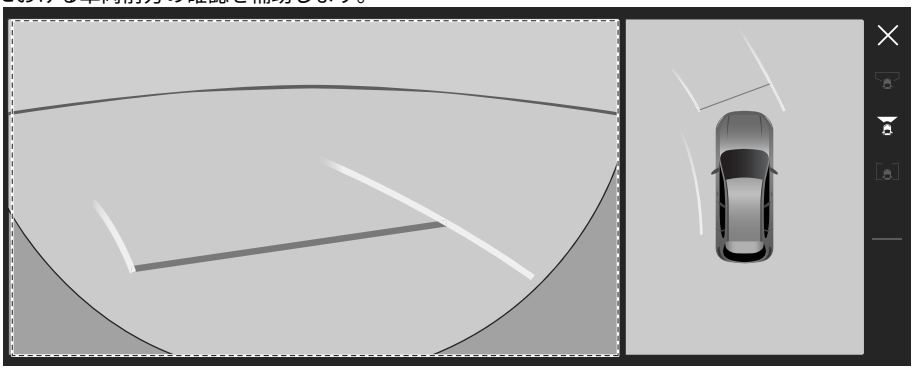
トップビュー

車両を真上から見たかのようなイメージ映像を表示して､前進時や後退時における車両周辺の確認を補助します。



フロントワイドビュー

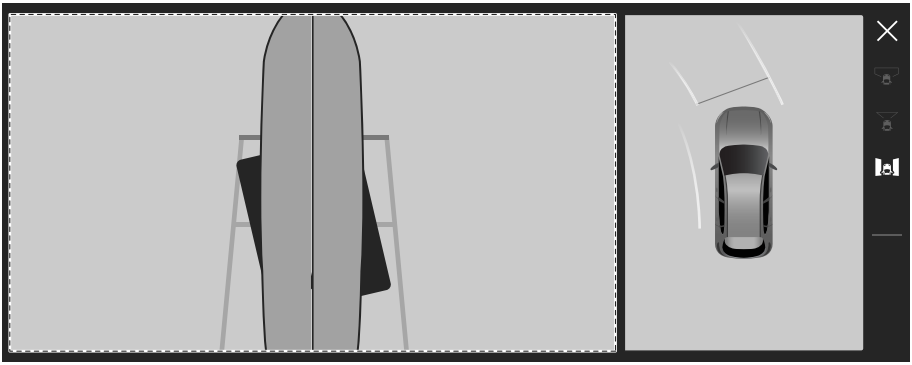
車両前方 (広域) の映像とガイド線を組みあわせて表示することで､前進時や駐停車時､交差点への進入時における車両前方の確認を補助します。



サイドビュー

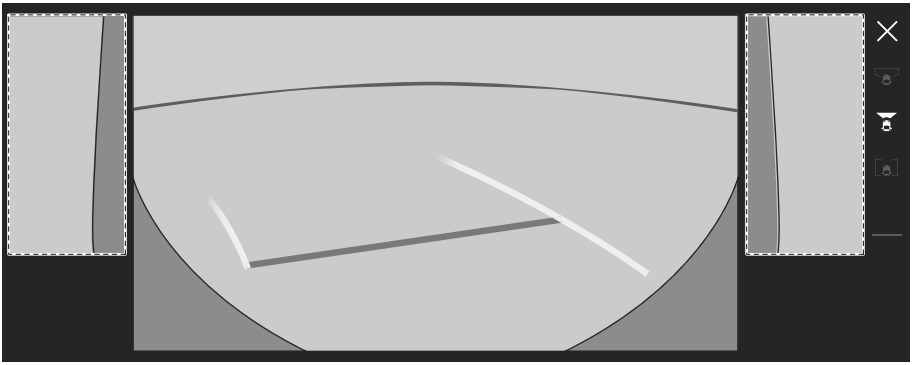
ドアミラー展開時

車両左右前側面の映像とガイド線を組みあわせて表示することで、前進時や駐停車時における車両左右前側面の確認を補助します。



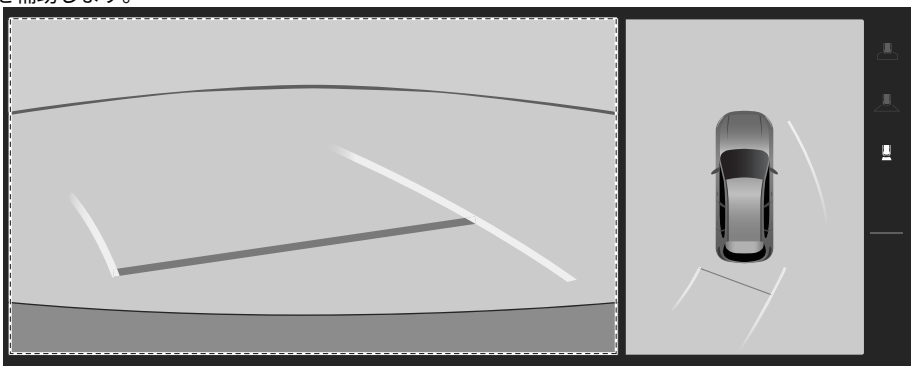
ドアミラー格納時

ドアミラーを格納している場合は、トップビューの代わりのサイドビューを表示します。狭い場所での幅寄せ時や対向車とのすれ違い時などにおける車両側面の確認を補助します。



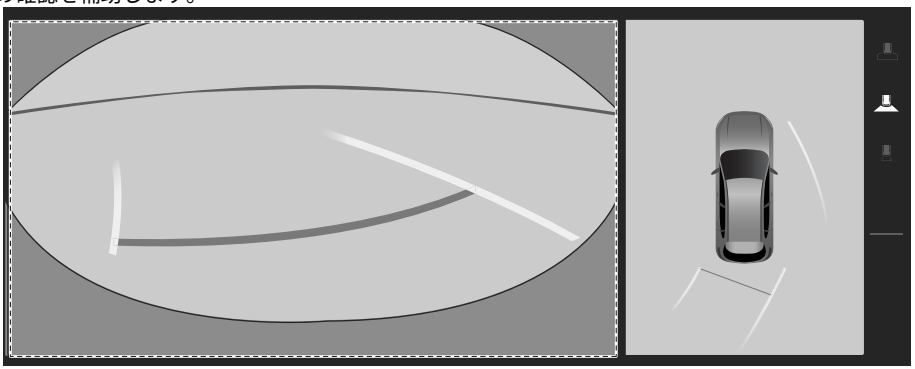
リアビュー

車両後方の映像とガイド線を組みあわせて表示することで､後退時や駐停車時における車両後方の確認を補助します。



リアワイドビュー

車両後方 (広域) の映像とガイド線を組みあわせて表示することで､後退時や駐停車時における車両後方の確認を補助します。

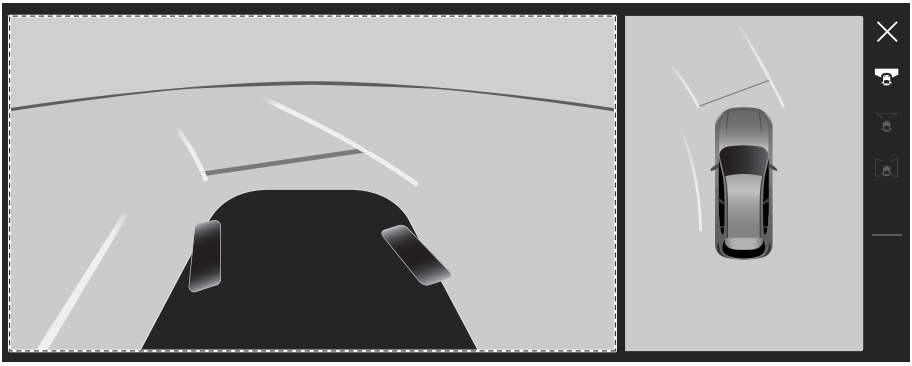


シースルービュー

シースルービューは、各カメラで撮影した映像を組みあわせて車両が透過したかのような加工をし、センターディスプレイに表示する機能です。

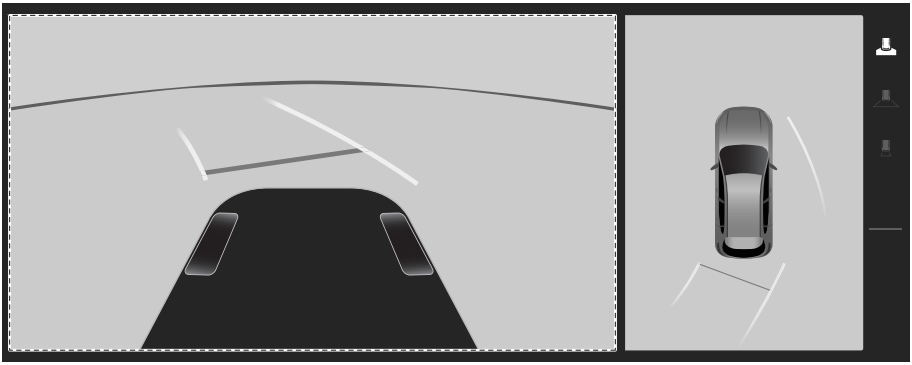
フロントシースルービュー

車両前部が透過したかのようなカメラ映像とガイド線を組みあわせて表示することで、前進時や駐停車時における車両前方・側方の確認を補助します。



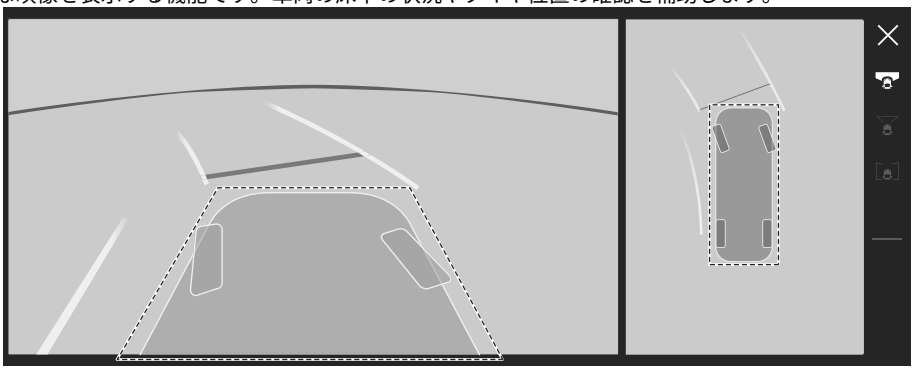
リアシースルービュー

車両後部が透過したかのようなカメラ映像とガイド線を組みあわせて表示することで、後退時や駐停車時における車両後方・側方の確認を補助します。



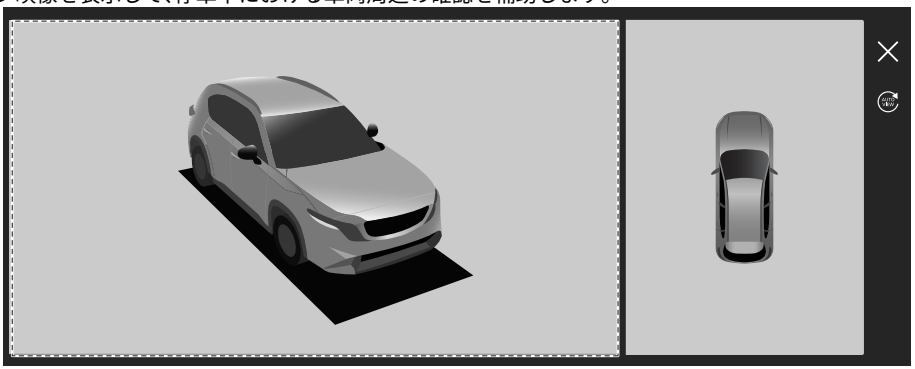
床下透過機能

床下透過機能は､フロントカメラまたはリアカメラで撮影した過去映像をトップビューの車両アイコンおよびシースルービューの車両底面グラフィックに合成表示することで､車両の床下が透過したような映像を表示する機能です。車両の床下の状況やタイヤ位置の確認を補助します。



3D カメラビュー

3D カメラビューは各カメラで撮影した映像を組み合わせて車両周辺を車外から見たかのようなイメージ映像を表示して､停車中における車両周辺の確認を補助します。



360° ビュー･モニター使用上の警告･注意

⚠ 警告

必ず車両周辺の安全を直接確認しながら運転する。
360° ビュー･モニターは､あくまでも車両周辺の安全を確認するための補助装置です。

360° ビュー･モニターを過信しない。

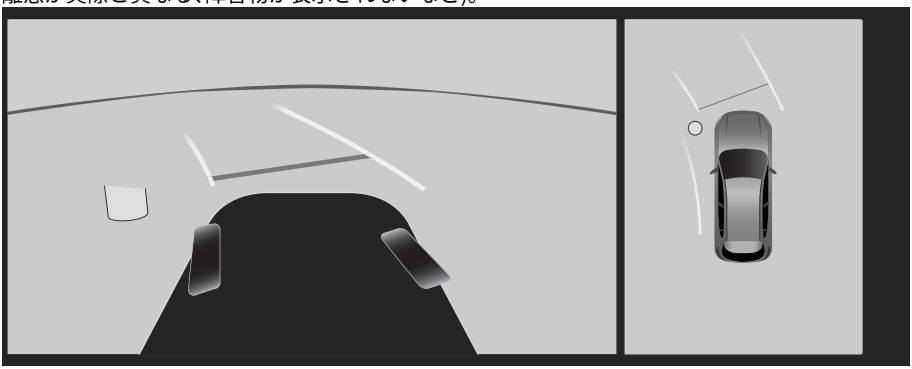
- カメラの撮影範囲やセンサーの検知範囲には限界があります。たとえば､次の箇所は死角となり､対象物が映らないことがあります。

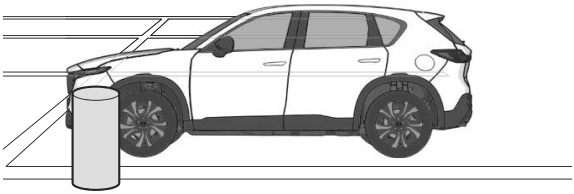
⚠ 警告

- ➢ 自車付近や画面上で黒く塗り潰されている範囲
- ➢ 各カメラの映像のつなぎ目

➢ カメラより高い位置にある構造物や傾斜している構造物などは、画面に映らないまたは実際の状況とは異なる場合があります。

➢ トップビュー、シースルービュー、3D カメラビューは、映像のつなぎ目があります。映像のつなぎ目付近に映る障害物は正確に表示できない、または鮮明に表示できない場合があります (倒れているように表示される、つなぎ目付近から急に現れるように表示される、2 重に表示される、距離感が実際と異なる、障害物が表示されないなど)。





➢ 車両の状態や周囲の状況により、各カメラの映像のつなぎ目がずれる場合があります。

➢ 車幅延長線や予想進路線などはあくまでも目安です。画面に映し出されている映像は、実際の状況とは異なることがあります。

➢ 床下透過機能に表示される車両外形線やタイヤアイコンはあくまでも目安です。車両の状態により画面に映し出されている映像が実際の状況とは異なることがあります。

➢ フロントビュー、リアビュー、リアワイドビュー、サイドビューに障害物が表示されていても、トップビュー、シースルービュー、3D カメラビューには表示されない場合があります。

➢ パーキングセンサーを OFF にしている場合は、パーキングセンサーの検知表示が表示されません。詳細はパーキングセンサーの項目を参照してください。
→5-230 ページ「パーキングセンサーについて」

⚠ 注意

カメラを適切に取り扱ってください。カメラの取り扱い方法を誤ると、映像が正常に表示されないことがあります。
→5-94 ページ「ビューカメラについて」

次の部品は保安基準適合部品です。次の部品が故障した場合は、すみやかにマツダ販売店にご相談ください。

- サイドカメラ
- リアカメラ
- センターディスプレイ

次のような場所・状況では、360° ビュー・モニターを使用しないでください。

- 段差がある道路
- 坂道などの平坦ではない道路
- 凍結したすべりやすい路面や雪道
- タイヤチェーンや応急用スペアタイヤを使用しているとき
- ドアやリアゲートが完全に閉まっていないとき

360° ビュー・モニターを正常に作動させるために、次のことをお守りください。

- サスペンションを改造しないでください。
- 前後輪とも必ず指定されたサイズのタイヤを装着してください。タイヤ交換などを行なうときは、マツダ販売店にご相談ください。

センターディスプレイが冷えている場合や外気温が低い場合は、映像が尾を引いたり、画面が通常よりも暗くなったりして、車両周辺の状況を確認しにくくなることがあります。必ず車両周辺の安全を直接確認しながら運転してください。

サイドカメラが撮影する範囲にはランプ類がないため、夜間では映像を認識しづらくなることがあります。必ず車両周辺の安全を直接確認しながら運転してください。

360° ビュー・モニターを使って駐停車をする方法は、道路状況、路面状況、自車の状況などによって異なります。また、ハンドル操作のタイミングや操作量は状況によって異なりますので、周囲を直接確認しながら状況にあわせた操作をしてください。

360° ビュー・モニターの使いかた

車両前方/車両側方の映像を表示する

セレクトレバーが N または D の位置のときに、ステアリングスイッチの を押す、またはセンターディスプレイの をタッチする。
センターディスプレイに映像が表示されます。

知識

次の条件のいずれかを満たすと、車両前方/車両側方の映像が終了します。

- **(車速が約 20 km/h 未満のときに映像を表示させた場合)**
  車速が約 20 km/h 以上になったとき
- **(車速が約 20 km/h 以上のときに映像を表示させた場合)**
  車速が約 20 km/h 以上の状態で 8 秒経過したとき
- セレクトレバーを P の位置にしたとき

車両後方の映像を表示する

セレクトレバーを R の位置にする。
センターディスプレイに映像が表示されます。

3D カメラビューを表示する

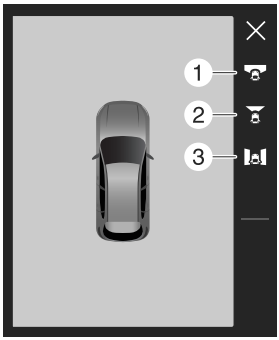
セレクトレバーが P の位置のときに、ステアリングスイッチの を押す、またはセンターディスプレイの をタッチする。
センターディスプレイに映像が表示されます。
3D カメラビューの表示を操作して視点移動や拡大、縮小することができます。

3D カメラビューの表示をダブルタップする、または をタップすると初期視点にもどります。

映像を切り替える

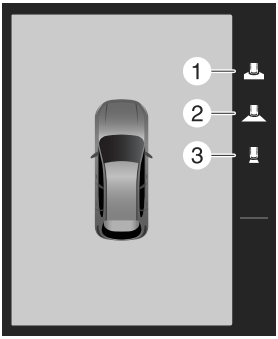
センターディスプレイの各アイコンをタップすると映像が切り替わります。

車両前方/車両側方の映像を切り替える



1 フロントシースルービュー
2 フロントワイドビュー
3 サイドビュー

車両後方の映像を切り替える



1 リアシースルービュー
2 リアワイドビュー
3 リアビュー

知識

次のような状況では､映像を切り替えることができない場合があります。

・車両の電源を ON にした直後
・車速が約 20 km/h 以上のとき

トレーラー連結ガイド線を表示する

センターディスプレイの をタップする。



が に変わり､トレーラー連結ガイド線が表示されます。

知識

マツダ純正トレーラーヒッチを装着している場合にトレーラー連結ガイド線を表示できます。

次の場合に / が表示されます。

・セレクトレバーが R の位置のとき
・リアビューまたはリアワイドビューが表示されているとき

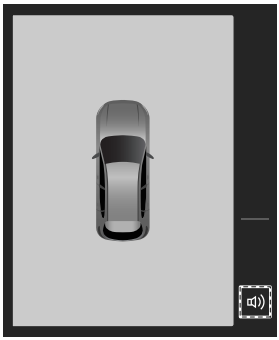
次のような状況では、トレーラー連結ガイド線の表示を切り替えることができない場合があります。

・車両の電源を ON にした直後
・車速が約 20 km/h 以上になったとき

トレーラー連結ガイド線の表示は、ドライバー・パーソナライゼーション・システムと連動しません。

後側方接近車両検知 (RCTA)、後方歩行者警報、パーキングセンサーの警報音を OFF にする

センターディスプレイの をタップする。



が に変わり、後側方接近車両検知 (RCTA)、後方歩行者警報およびパーキングセンサーの警報音が一時的に OFF になります。

知識

障害物を検知して警報音が吹鳴している場合に / が表示されます。

車両の電源を ON にした直後は警報音を OFF にできない場合があります。

360° ビュー･モニターの映像を終了する

次のいずれかの操作をすると 360° ビュー･モニターの映像が終了します。

・**(車両前方/車両側方の映像が表示されている場合)**

・ステアリングスイッチの を押したとき
・センターディスプレイの または をタップしたとき
・360° ビュー･モニター以外の表示に切り替えたとき
・セレクトレバーを D または N の位置から P の位置にしたとき

・**(車両後方の映像表示されている場合)**
セレクトレバーを R の位置から D または N の位置にしたとき

画面の見方

知識

画面に映し出される映像と実際の状況は異なることがありますので､必ず目視で周囲の安全を確認しながら運転してください。

周囲の状況などにより画面の明るさやコントラストが変わる場合があります。

周囲の状況などにより一時的に映像の表示が遅れる場合や が表示される場合があります。

天候や周辺環境の影響によって映像が見えにくくなることがありますが､故障ではありません。

各カメラの状態によって映像の明暗や色が実際と異なる場合や見えにくくなる場合があります。

リアビュー､リアワイドビュー､リアシースルービューの映像は､左右反転されています。

トップビューおよびフロントシースルービューには､実際のタイヤが映ることがあります。

パーキングセンサーの検知範囲には限界があります。詳細はパーキングセンサーの項目を参照してください。
→5-230 ページ「パーキングセンサーについて」

パーキングセンサーの検知表示が車両のバンパーと重なる場合がありますが､異常ではありません。

トレーラー連結ガイド線は､映像の中心からずれて表示されることがあります。

次の条件のいずれかを満たしている場合は､ヒッチボールやトレーラーカプラーがトレーラー連結ガイド線からずれて見えることがあります。

・車両状態 (重量､タイヤ空気圧など) が変化したとき
・ヒッチボールとトレーラーカプラーの高低差が大きいとき
・ヒッチボールの位置が通常の状態から逸脱しているとき

トップビューや 3D カメラビューに表示される車両は CG のため､実際の車両の状態と異なります。車両の色や状態､リアゲートやドアの開閉状態は反映されません。

知識

周囲の状況などにより、パーキングセンサーの検知表示と実際の障害物との位置が一致しないまたは検知表示が表示されない場合があります。

周囲の状況などにより、前側方接近車両検知 (FCTA)、後側方接近車両検知 (RCTA)、後方歩行者警報の表示が実際の対象物の動きと一致しないまたは表示されない場合があります。

前側方接近車両検知 (FCTA)、後側方接近車両検知 (RCTA)、後方歩行者警報、パーキングセンサーの表示は、カメラ映像に重ねて表示しているため、周囲の明るさや色などによって見えにくい場合があります。

次のような場合は、床下透過機能が正しく作動しないことがあります。

・積雪しているとき
・カメラに異物が付着しているとき (水滴、雪、泥など)
・水面 (川、海、水たまりなど) があるとき
・トレーラーヒッチなどのアクセサリー用品を取り付けているとき
・カメラの近くに障害物があるとき
・駆動輪が空転したとき

床下透過機能は過去映像を組み合わせて表示しているため、次のような場合は、床下透過機能の映像と実際の状況が異なる場合があります。

・非常点滅表示灯などを点滅させて走行しているとき
・車両周辺に影などがあるとき
・障害物などが突然現れたとき
・砂や雪などが崩れて動いたとき
・駆動輪が空転したとき

次のような場合は、床下透過機能の映像の一部または全てが黒く塗りつぶされることがあります。

・ハンドルを一定以上の角度までまわして走行しているとき
・停車後、一定時間以上経過したとき
・車両を発進させた直後
・車速が一定速度以上になったとき

周囲の状況や車両の状態などにより、床下透過機能の映像がトップビュー、シースルービューの映像とずれて表示される場合があります。床下透過機能は過去の映像を加工し合成表示しているため、映像のずれや重なり、欠けなどが発生する場合があります。

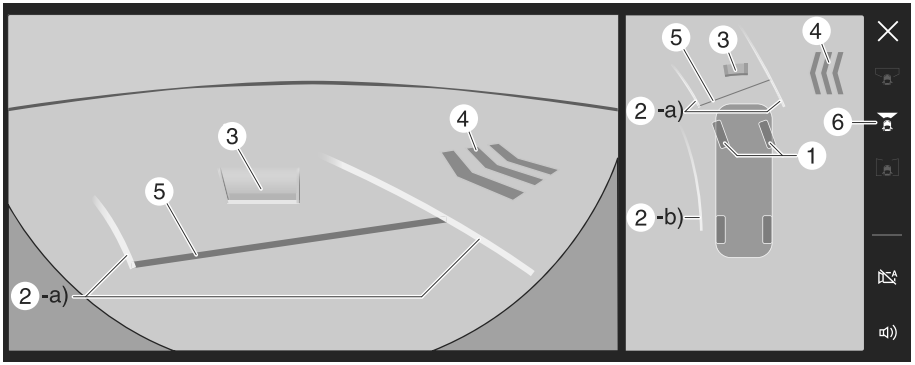
リアゲートが開いた状態で、360° ビュー・モニターを表示するとセンターディスプレイに ⚠ が表示されます。

3D カメラビューの視点移動および表示範囲には限界があります。

3D カメラビューを操作して視点を移動しても必ず死角が存在します。

車両の電源を ON にした直後は、センターディスプレイを操作しても 3D カメラビューが表示されない場合があります。

トップビュー、フロントワイドビュー



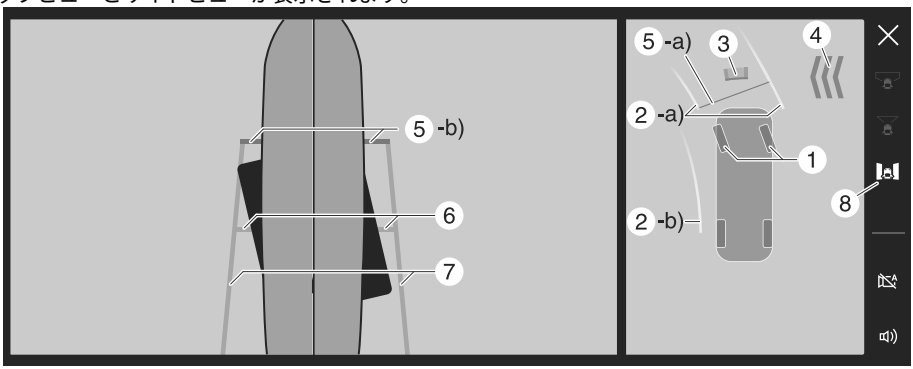
	表示	内容
1	タイヤアイコン	**(床下透過機能作動中)** タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
2	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) フロントバンパーの進路の目安を示すライン b) 車両の内側が通過する目安を示すライン (ハンドルを約 90 度以上まわすと表示されます。)
3	パーキングセンサーの検知表示	パーキングセンサーの検知状況を示します。
4	FCTA の検知表示	FCTA の検知状況を示します。
5	距離目安線 (赤色)	フロントバンパー前端から約 50 cm 先 (直進時) を示します。
6	ビューステータスアイコン	どの映像が選択されているかを示します。

知識

フロントワイドビューは、車両の前方を広角にとらえて表示し、側方から接近する対象物を発見しやすくするために映像を補正しています。そのため、実際の見えかたとは異なります。

サイドビュー

ドアミラー展開時
トップビューとサイドビューが表示されます。

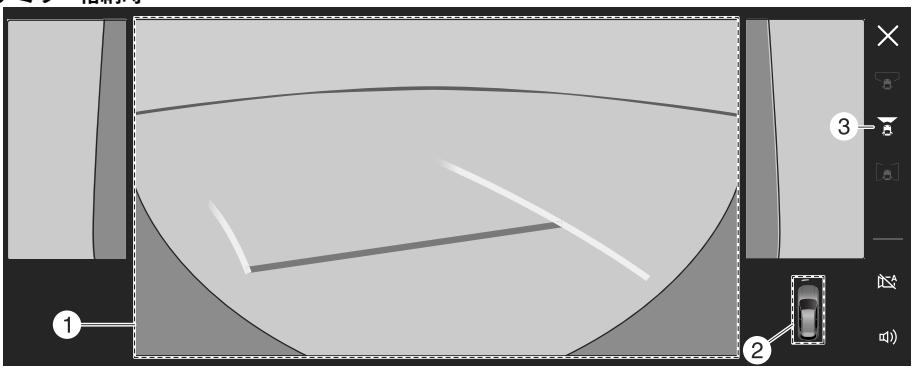


	表示	内容
1	タイヤアイコン	**(床下透過機能作動中)** タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
2	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) フロントバンパーの進路の目安を示すライン b) 車両の内側が通過する目安を示すライン (ハンドルを約 90 度以上まわすと表示されます。)
3	パーキングセンサーの検知表示	パーキングセンサーの検知状況を示します。
4	FCTA の検知表示	FCTA の検知状況を示します。
5	距離目安線 (赤色)	a) フロントバンパー前端から約 50 cm 先 (直進時) を示します。 b) フロントバンパー前端を示します。
6	前輪接地線 (青色)	前輪の目安位置を示します。
7	車両平行線 (青色)	ドアミラーを含んだ車幅の目安を示します。
8	ビューステータスアイコン	どの映像が選択されているかを示します。

⚠ 注意

サイドビューの映像から障害物が見えなくなっても､車両が障害物を通りすぎるまでハンドルを切り足さないでください。ハンドルを切り足すと小回りすることになり､障害物に接触する可能性があります。

ドアミラー格納時

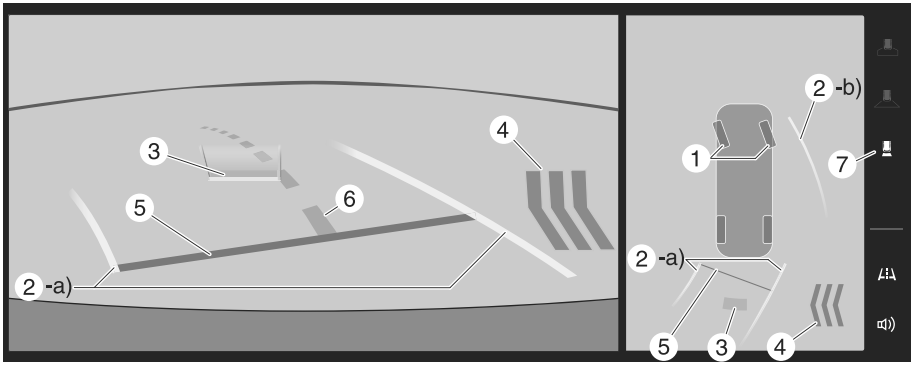


	表示	内容
1	メインビュー	フロントワイドビュー､リアビュー､リアワイドビューのいずれかを表示します。
2	パーキングセンサーの検知表示	パーキングセンサーが障害物を検知すると､障害物の検知状況を示します。
3	ビューステータスアイコン	どの映像が選択されているかを示します。

知識

ドアミラーを手動で開閉した場合やドアミラーが完全に展開または格納されていない場合はサイドビューが正常に作動しないことがあります。

トップビュー、リアワイドビュー



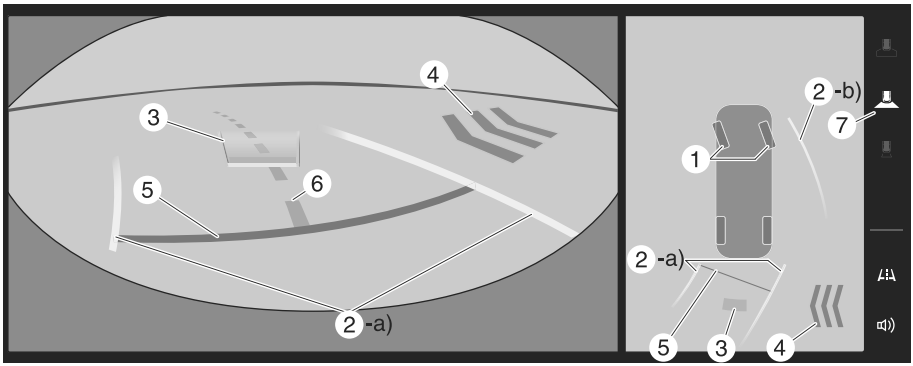
	表示	内容
1	タイヤアイコン	**(床下透過機能作動中)** タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
2	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) リアバンパーの進路の目安を示すライン b) 車両の外側が通過する目安を示すライン (ハンドルを約 90 度以上まわすと表示されます。)
3	パーキングセンサーの検知表示	パーキングセンサーの検知状況を示します。
4	RCTA、後方歩行者警報の検知表示	RCTA、後方歩行者警報の検知状況を示します。
5	距離目安線 (赤色)	リアバンパー後端から約 50 cm 先 (直進時) を示します。
6	トレーラー連結ガイド線	ヒッチボール位置の延長の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。
7	ビューステータスアイコン	どの映像が選択されているかを示します。

知識

画面に映し出される駐車スペース (車庫など) の後端と距離目安線が平行に見えていても､実際には平行ではないことがあります。

駐車場の区画線が片側しかないときは､区画線と車幅延長線が平行に見えていても､実際には平行ではないことがあります。

トップビュー､リアワイドビュー



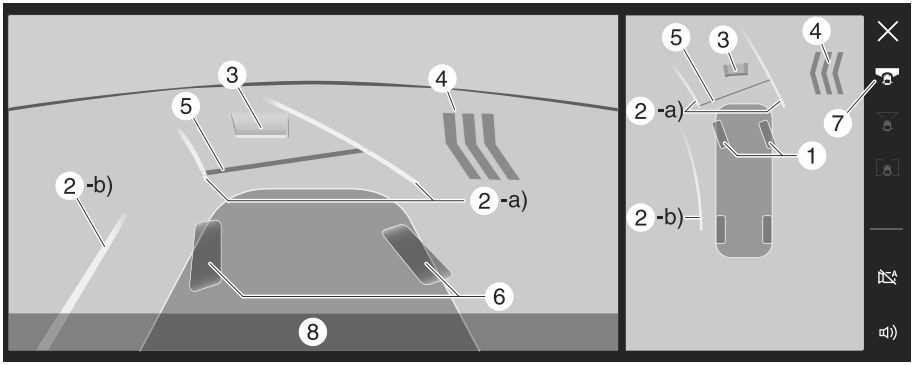
	表示	内容
1	タイヤアイコン	**(床下透過機能作動中)** タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
2	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) リアバンパーの進路の目安を示すライン b) 車両の外側が通過する目安を示すライン (ハンドルを約 90 度以上まわすと表示されます。)
3	パーキングセンサーの検知表示	パーキングセンサーの検知状況を示します。
4	RCTA､後方歩行者警報の検知表示	RCTA､後方歩行者警報の検知状況を示します。
5	距離目安線 (赤色)	リアバンパー後端から約 50 cm 先 (直進時) を示します。
6	トレーラー連結ガイド線	ヒッチボール位置の延長の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。

	表示	内容
7	ビューステータスアイコン	どの映像が選択されているかを示します。

知識

リアワイドビューは、車両の後方を広角にとらえて表示し、側方から接近する対象物を発見しやすくするために映像を補正しています。そのため、実際の見えかたとは異なります。

トップビュー、フロントシースルービュー



	表示	内容
1	タイヤアイコン	**(床下透過機能作動中)** タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
2	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) フロントバンパーの進路の目安を示すライン b) 車両の内側が通過する目安を示すライン (ハンドルを約 90 度以上まわすと表示されます。)
3	パーキングセンサーの検知表示	パーキングセンサーの検知状況を示します。
4	FCTA の検知表示	FCTA の検知状況を示します。
5	距離目安線 (赤色)	フロントバンパー前端から約 50 cm 先 (直進時) を示します。
6	タイヤグラフィック	タイヤのおおよその位置を示します。ハンドル操作に連動して動きます。
7	ビューステータスアイコン	どの映像が選択されているかを示します。
8	メッセージ	パーキングセンサーが OFF になっている場合は、メッセージが表示されます。

知識

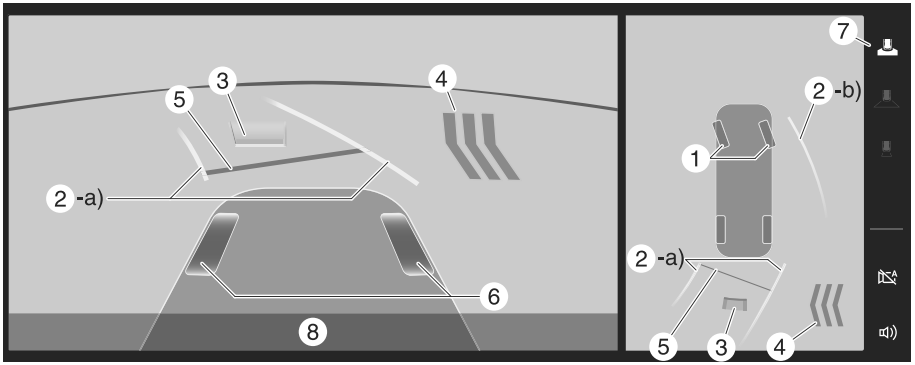
フロントシースルービューは、次のように表示されることがあります。

・地面および立体物が湾曲して表示されることがあります。
・映像のつなぎ目で立体物などの表現が変わり、同一のものが重複して表示されたり、つながって見えなかったりします。

パーキングセンサーが OFF になっている場合は、センターディスプレイにメッセージが表示されます。

パーキングセンサーの検知表示はカメラの映像を補助します。パーキングセンサーを ON にした状態でフロントシースルービューを使用することをお勧めします。
→5-230 ページ「パーキングセンサーの使いかた」

トップビュー、リアシースルービュー



	表示	内容
1	タイヤアイコン	**(床下透過機能作動中)** タイヤの向きを示します。ハンドル操作に連動して動きます。
2	予想進路線 (黄色)	車両の予想進路の目安を示します。ハンドル操作に連動して動きます。 a) リアバンパーの進路の目安を示すライン b) 車両の外側が通過する目安を示すライン (ハンドルを約 90 度以上まわすと表示されます。)
3	パーキングセンサーの検知表示	パーキングセンサーの検知状況を示します。
4	RCTA、後方歩行者警報の検知表示	RCTA、後方歩行者警報の検知状況を示します。
5	距離目安線 (赤色)	リアバンパー後端から約 50 cm 先 (直進時) を示します。
6	タイヤグラフィック	タイヤのおおよその位置を示します。
7	ビューステータスアイコン	どの映像が選択されているかを示します。
8	メッセージ	パーキングセンサーが OFF になっている場合は、メッセージが表示されます。

知識

リアシースルービューは、次のように表示されることがあります。

知識

・地面および立体物が湾曲して表示されることがあります。
・映像のつなぎ目で立体物などの表現が変わり､同一のものが重複して表示されたり､つながって見えなかったりします。

パーキングセンサーが OFF になっている場合は､センターディスプレイにメッセージが表示されます。

パーキングセンサーの検知表示はカメラの映像を補助します。パーキングセンサーを ON にした状態でリアシースルービューを使用することをお勧めします。
→5-230 ページ「パーキングセンサーの使いかた」

こんなときは

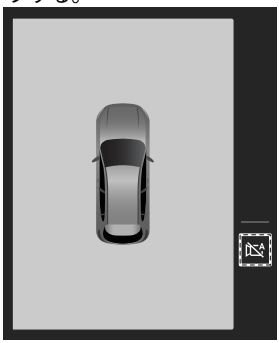
次のような場合はシステムの故障が考えられますので､マツダ販売店で点検を受けてください。

・センターディスプレイに､“カメラ映像信号がありません”と表示される。
・セレクトレバーを R の位置にしても､センターディスプレイの表示がカメラ映像に切り替わらない。
・360°ビュー･モニタースイッチを押しても､センターディスプレイの表示がカメラ映像に切り替わらない。
・センターディスプレイの表示の一部が黒くなる。
・メーター内の i-ACTIVSENSE 警告灯 が点灯しているとき
・センターディスプレイにガイド線やアイコンが表示されず、 が表示される。
・セレクトレバーを R 以外の位置にしても､センターディスプレイに映像が表示されたままになる。
・セレクトレバーを R の位置にしても､センターディスプレイの一部または全体が黒くなる。

360° ビュー･モニターの便利な使いかた

360° ビュー･モニターを自動表示する

センターディスプレイの をタップする。



が に変わり､次の場合に 360° ビュー･モニターが自動表示されます。

・車速が約 20 km/h 以下になったとき
・セレクトレバーを P の位置から N または D の位置に操作したとき

知識

セレクトレバーが N または D の位置にある場合に / が表示されます。

次のような状況では､360° ビュー･モニターの自動表示を切り替えることができない場合があります。

・車両の電源を ON にした直後
・車速が約 20 km/h 以上のとき

360° ビュー･モニターの自動表示は､ドライバー･パーソナライゼーション･システムと連動しません。

360° ビュー･モニターの自動非表示を OFF にする

停車または低速状態から車速が約 20 km/h 以上になった場合の 360° ビュー･モニターの自動非表示を OFF にできます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

パーキングセンサーの 3D 検知表示を OFF にする

フロントビュー､リアビュー､リアワイドビュー､およびシースルービューのパーキングセンサーの 3D 検知表示を OFF にできます。
ただし､トップビューのパーキングセンサーの検知表示は表示されます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

360° ビュー･モニターの明るさ､コントラストを変更する

360° ビュー･モニターが表示されているときにセンターディスプレイの をタッチすると､360° ビュー･モニターの明るさおよびコントラストを変更できます。

知識

走行中は変更できない場合があります。

ドライバー異常時対応システム (DEA)

ドライバー異常時対応システム (DEA) について*

ドライバー異常時対応システム (DEA) は､高速道路､自動車専用道路および一般道を問わず､運転者が急病などで運転の継続が困難になった場合に､車両を減速･停止させることで､衝突事故やその被害の軽減に寄与するシステムです。

DEA の基本的な動作について

①DEA は､運転者の異常を検知､または乗員が操作することにより作動します。

②DEA が作動するとブレーキランプの点滅を開始し、間もなく緊急停車することを乗員に報知しながら、運転者の正常/異常判定を行います。
③運転者が通常運転状態に復帰せず DEA がキャンセルされない場合には、ブレーキランプの点滅に加え、非常点滅表示灯の点滅とホーンの吹鳴を開始し、車両を減速・停止させます。

ドライバー異常時対応システム (DEA) 使用上の警告・注意

⚠ 警告

DEA を過信しない。

- DEA は運転者に異常が起きて運転の継続が困難になった場合を対象とするものであり、自動運転システムではありません。
- DEA は万一の際にすみやかに減速・停止を行なうことで事故の回避や被害の軽減を図るものであり、その機能には限界があり、その効果はさまざまな条件により変わります。
- DEA の作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。
- 運転者には安全運転をする義務があり、DEA 作動にともなう責任は運転者にあります。DEA の特性を十分ご理解いただき使用をお願い致します。
- DEA は体調が優れない場合の運転を対象とするものではないため、体調が優れない場合は運転しないでください。

運転者に異常がない場合は、意図的に DEA を作動させない。
思わぬ事故につながるおそれがあります。

DEA を正しく作動させるために、次のことを守る。

- フロントカメラヘッドを適切に取り扱ってください。フロントカメラヘッドが対象物を正しく検知できない場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  →5-82 ページ「フロントカメラヘッドについて」
- レーダーセンサー (フロントレーダーセンサー、フロントサイドレーダーセンサー、リアサイドレーダーセンサー) を適切に取り扱ってください。レーダーセンサーが対象物を正しく検知できない場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  →5-85 ページ「レーダーセンサーについて」
- 超音波センサーを適切に取り扱ってください。超音波センサーが対象物を正しく検知できない場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  →5-91 ページ「超音波センサーについて」
- ドライバー・モニタリングカメラを適切に取り扱ってください。ドライバー・モニタリングカメラが対象物を正しく検知できない場合、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  →5-96 ページ「ドライバー・モニタリングカメラについて」

DEA 作動後、運転者が異常から復帰できた場合には、すみやかに運転を再開するか、路肩へ避難し、また、必要に応じて三角表示板及および発炎筒を設置して後続車両に停車していることを知らせる。

⚠ 注意

次の条件のいずれかを満たす場合は、誤作動を防ぐために DEA の自動的な作動を停止するとともに、乗員の操作による意図的な DEA 作動を行なわないでください。

⚠ 注意

➢ トレーラーなどをけん引したり、車両後部に自転車のキャリアなどを装着したりするとき
➢ 草の生い茂った場所やオフロードなどの悪路を走行するとき

サスペンションを改造しないでください。

タイヤは指定されたサイズを使用し、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。また、摩耗状態が著しく異なるタイヤを混ぜて使用しないでください。タイヤを混ぜて使用すると、DEA が正常に作動しなくなるおそれがあります。

ドライバー異常時対応システム (DEA) の使いかた

自動的な作動の設定状況を確認する

DEA の自動的な作動はお客様のご希望によりマツダコネクトで ON または OFF にできます。運転開始前に設定状況をご確認ください。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

DEA が作動する条件

高速道/自動車専用道路/一般道を一定時間走行している場合に、システムが運転者に異常が起きていると判断すると、DEA が作動します。

DEA が運転者の異常を検知する方法は 2 つあります。

①システムの自動検知による作動

DEA は、運転者の状態や運転操作のデータをもとに、運転者の異常を検知します。

📖 知識

次のいずれかの条件を満たしている場合に、DEA は運転者に異常が起きていると判断します。

・ドライバー・モニタリングにより急病を検知したとき
→5-124 ページ「ドライバー・モニタリングの使いかた」
・ドライバー・モニタリングにより居眠りを検知したとき
→5-124 ページ「ドライバー・モニタリングの使いかた」

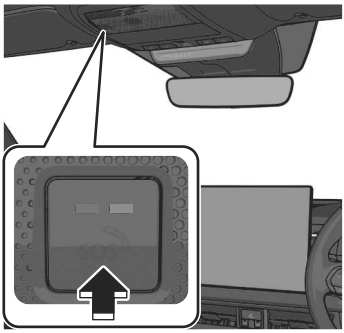
⚠ 注意

スマート・ブレーキ・サポート (SBS) を OFF にしている場合は、DEA が作動しません。

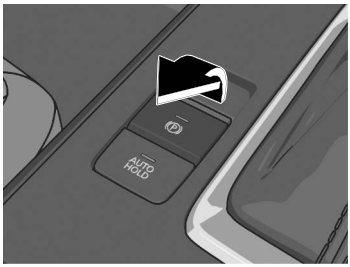
②乗員の操作による作動

運転者の異常を察知した場合などに、運転者自身または同乗者が、以下 1 および 2 の操作を完了することで、DEA が作動します。
SOS スイッチ操作後 (1)、センターディスプレイの表示内容に従い、EPB スイッチを引き上げる (2)。

1.



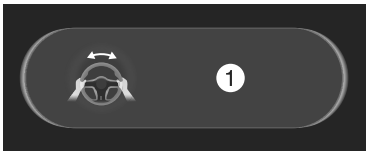
2.



DEA が作動したとき

DEA が作動すると、ハンドルの振動、警報音、音声ガイダンスとともに、システムによる車両減速・停止の待機状態であることをセンターディスプレイおよびメーターの表示で知らせます。システム制御の詳細はセンターディスプレイに表示されます。

メーター



1“ドライバー異常検知 キャンセルするには 軽くハンドル操作してください”

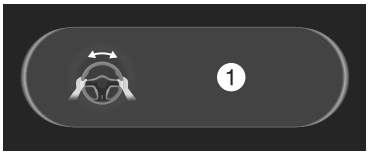
センターディスプレイ



1“ドライバー異常を検知しました”
2“まもなく自動で車両が停車します。”
3“ドライバーの反応がない時は停車するまでお待ちください。”

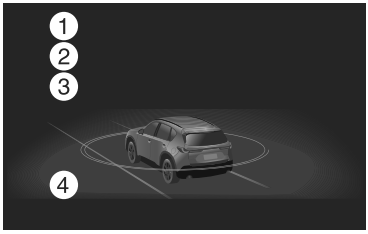
その後、一定時間内にキャンセル操作が行なわれない場合は、システムが車両減速・停止を開始します。状況によって、以下のように減速・停止します。
①高速道路または自動車専用道路において第一走行車線や登坂車線など路肩に隣接する車線を走行している場合、可能な範囲で路肩に寄せながら、減速・停止します。
②上記①以外の場合、可能な範囲で自車が車線から逸脱しないように維持しながら、減速・停止します。

メーター



1“減速します キャンセルするには 軽くハンドル操作してください”

センターディスプレイ



1“ドライバー異常時対応システム作動中”
2“車両を減速します。”
3“ドライバーの反応がない時は停車するまでお待ちください。”
4“周囲や歩行者の安全のために注意喚起しています。”

知識

DEA が作動するとアクセルペダル操作による加速ができません。また、運転者が通常運転状態に復帰せず DEA がキャンセルされない場合には、非常点滅表示灯が点滅します。

DEA が車両減速・停止を開始すると非常点滅表示灯が点滅、ホーンが吹鳴します。

次の条件をすべて満たしている場合は、路肩に寄って停車します。

・専用 SD カードが挿入されているとき
・高速道路または自動車専用道路を走行しているとき
・路肩に隣接する車線を走行しているとき
・路肩に停車可能なスペースがあり、自車の進入ルートに障害物などがないとき
・自車の左側方および左後側方に、接近車両を検知していないとき
・キャンピングトレーラーなどをけん引していないとき

ただし、路肩に寄っている最中に次のいずれかの条件を満たすと、路肩に寄らずに停車します。

・ブレーキペダルを踏んだとき
・セレクトレバーを D 以外の位置にしたとき
・いずれかのドアを開けたとき
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
・車線を維持して走行できなくなったとき

知識

・車線の幅が極端に狭いとき、または極端に広いとき
・一定時間内に路肩に寄れなかったとき

次の場合には、ステアリングアシスト機能による車線維持が作動しないことがあります。

・車線の白線 (黄線) を検知できないとき (見えにくい、複数引かれる、途切れる、紛らわしい線が見えるなど)
・車線の両側白線 (黄線) が平行でないとき
・道路の段差などにより車が大きく揺れたとき
・急なカーブを走行したとき
・急なハンドル操作をしたとき
・車線をまたいで走行したとき
・車線の幅が狭いとき、または広いとき
・車速が高すぎるとき
・車両が急減速したとき
・エアバッグが作動したとき

作動中の DEA を解除するとき

メーターまたはアクティブ・ドライビング・ディスプレイの表示に従って DEA を解除してください。

知識

次のいずれかの条件を満たすことでも、DEA を解除できます。

・ハンドルを左右に軽く操作したとき
・ハンドルを正しく持ち、ブレーキペダルまたはアクセルペダルを操作するなど意図的な運転をしたとき
・非常点滅灯が点滅しながら走行している場合に非常点滅表示灯スイッチを押したとき
・車両の電源を OFF にしたとき
・パーキングブレーキを解除したとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は、ハンドルを持っていることを検知できないことがあります。

・運転者が手袋を着用しているとき
・ハンドルにカバーが取り付けられているとき
・スポーク部や革の継ぎ目などを持っているとき
・ハンドルに手を軽く添えて運転をしているとき

次の条件のいずれかを満たしている場合は、ハンドルを持っていると誤検知することがあります。

・ハンドルに手以外の物が接触しているとき
・ハンドルに物や腕などを広い範囲で近づけているとき

DEA による緊急停止

システム制御によって自車が停止した後は、パーキングブレーキが自動的にかかり、すべてのドアが自動的に解錠されます。停車後のシステム制御の詳細はセンターディスプレイに表示されます。

また、システムの自動検知による DEA 作動の場合には、エマージェンシーコールを行います。
→7-14 ページ「マツダエマージェンシーコールについて」

知識

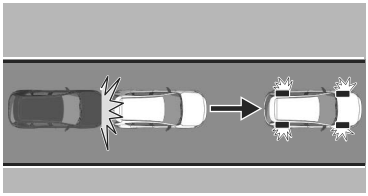
システム制御によって自車が停止した後も、非常点滅表示灯およびブレーキランプの点滅は継続します。

・非常点滅表示灯およびブレーキランプの点滅は、作動中のシステムを解除すると停止します。
・非常点滅表示灯の点滅は、非常点滅表示灯スイッチを押すと停止します。

衝突二次被害軽減システム

衝突二次被害軽減システムについて

衝突二次被害軽減システムは、走行中にエアバッグが作動するほどの衝突被害を受けた際に、車両を減速させて二次被害を軽減するシステムです。
走行中にエアバッグが作動するほどの衝突事故が起きると、非常点滅灯を点滅させて周辺車両に注意を促しつつ、ブレーキ制御をして障害物などに衝突した際の被害を軽減します。



衝突二次被害軽減システム使用上の警告・注意

警告

衝突二次被害軽減システムを過信しない。

- 車両の状態、構成部品の損傷状態、対象物の状態、天候状況、道路状況などの条件によっては、衝突二次被害軽減システムが正常に作動しないことがあります。システムを過信せず、運転者の責任において運転してください。
- 衝突二次被害軽減システムの機能には限界があります。ブレーキペダルやアクセルペダルの適切な操作を怠ると、重大な傷害につながるおそれがあります。

衝突二次被害軽減システムの使いかた

衝突二次被害軽減システムが作動するとき

走行中にエアバッグが作動するほどの衝突被害を受けた場合に、衝突二次被害軽減システムが作動します。
衝突二次被害軽減システムが作動すると、システム制御によるブレーキがかかり、非常点滅灯が点滅し続けます。
システム制御によるブレーキで自車が停止した後は、電動パーキングブレーキ (EPB) によってパーキングブレーキがかかります。

知識

システム制御によるブレーキ作動中は、ブレーキランプが点灯します。

電動パーキングブレーキ (EPB) に異常がある場合は、停車後にシステム制御によるブレーキが解除されます。

システム制御によるブレーキが解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、システム制御によるブレーキが解除されます。

・システムが作動してから一定時間が経過したとき
・システム制御による停車後、アクセルペダルを強く 3 回踏み込んだとき
・電動パーキングブレーキ (EPB) の作動後にパーキングブレーキを解除したとき

知識

システムのブレーキ制御よりも運転者のブレーキペダル踏力が強い場合は、運転者のブレーキ操作が優先されます。

システム制御による非常点滅灯の点滅は、次のいずれかの操作をすると解除されます。

・非常点滅灯スイッチを押す
・車両の電源を OFF にする

クルーズコントロール

クルーズコントロールについて

クルーズコントロールは、定速走行によって運転者の負担を軽減するシステムです。運転者がアクセルペダルやブレーキペダルを踏まなくても、設定した速度で定速走行をします。

クルーズコントロール使用上の警告･注意

⚠ 警告

クルーズコントロールを過信しない。
クルーズコントロールの機能には限界があります。周囲の状況を確認してブレーキペダルやアクセルペダルを踏むなど、安全運転を心がけてください。

思わぬ事故につながるおそれがあるため、次のような状況ではクルーズコントロールを使用しない。

- 自動車専用道路以外を走行するとき
- 急なカーブや交通量が多く車間距離が十分にとれない道路を走行するとき
- 凍結路、積雪路、未舗装路などのすべりやすい路面を走行するとき
- 長い下り坂を走行するとき
- 勾配が急な坂を走行するとき

⚠ 警告

クルーズコントロールを使用しないときは、クルーズコントロールを OFF にする。
常に使用できる状態にしておくと、誤ってクルーズコントロールを作動させ、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

けん引されるとき、または他の車をけん引するときは、クルーズコントロールを使用しないでください。

シャシーローラーを使用するときは、クルーズコントロールを使用しないでください。

クルーズコントロールの使いかた

クルーズコントロールを設定する

1. MRCC スタンバイ表示灯 (白) が点灯しているときにステアリングスイッチの MODE を長押しする。

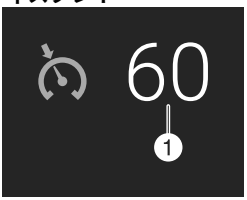


システムが ON になりクルーズスタンバイ表示 (白) が点灯します。
2. 25 km/h 以上の設定したい速度まで加速する (ただし、設定速度の下限は 30 km/h)。
3. ステアリングスイッチの SET＋ または SET－ を押す。



速度を設定すると、定速走行が開始されます。また、設定した速度が画面に表示され、クルーズスタンバイ表示 (白) がクルーズセット表示 (緑) に変わります。
クルーズコントロールが作動している場合は、作動状況を画面表示で運転者に知らせます。

メーター/アクティブ･ドライビング･ディスプレイ



1 設定速度

知識

クルーズコントロールスタンバイ状態からステアリングスイッチの**MODE**を長押しすると MRCC スタンバイ状態になります。

ヒルディセントコントロールが作動している場合は､クルーズコントロールが作動しません。

定速走行中は､アクセルペダル操作による加減速が優先されます。アクセルペダルから足を離すと､設定速度での定速走行にもどります。

車間制御を無効にしたまま車両の電源を OFF にすると､次に車両の電源を ON にしたときに車間制御が自動的に有効になります。

急な上り坂または下り坂など､道路条件によっては設定速度を保てないことがあります。

車速が 25 km/h 未満になると､クルーズコントロールが解除されます。再度クルーズコントロールを使用する場合は､クルーズコントロールを設定し直してください。

クルーズコントロール制御によるブレーキ作動中は､ブレーキランプが点灯します。

クルーズコントロールを使用して走行している場合には､手動で低速ギヤにシフトダウンしてもクルーズコントロールが解除されず､エンジンブレーキが効きません。減速が必要なときは､設定速度を下げるかブレーキペダルを踏んでください。

設定した速度を変更する

ステアリングスイッチで設定速度を変更する

希望の速度になるまで､ステアリングスイッチの**SET＋**または**SET－**を操作する。

・短押し : 1 km/h
・長押し/フリック : 10 km/h

知識

マツダコネクトでステアリングスイッチのフリック操作を ON にすることができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

アクセルペダルで設定速度を変更する

アクセルペダルを踏んで希望の速度になったところで、ステアリングスイッチの SET＋ または SET－ を押す。

クルーズコントロールが一時的に解除されるとき

次の条件のいずれかを満たすと、クルーズコントロールが一時的に解除されます。

・ブレーキペダルを踏んだとき
・ステアリングスイッチの CNCL を押したとき
・DSC が作動したとき
・スマート・ブレーキ・サポート (SBS) が作動したとき
・パーキングブレーキがかかったとき
・運転席のシートベルトをはずしたとき
・システムによるブレーキの作動頻度が高いとき

クルーズコントロールが一時的に解除された場合は、ステアリングスイッチの RES を押すと一時的に解除される前の設定速度でクルーズコントロールが作動します。

クルーズコントロールを OFF にする

ステアリングスイッチの MODE を長押しするとクルーズコントロールが OFF になり、MRCC スタンバイ状態になります。

パーキングセンサー

パーキングセンサーについて

パーキングセンサーは、駐車時などに車両周辺の障害物を検知して運転者に知らせることで、運転者の安全確認を補助するシステムです。障害物を検知すると、画面表示と警報音で障害物までの距離を運転者に知らせます。

パーキングセンサー使用上の警告・注意

⚠ 警告

必ず車両周辺の安全を直接確認しながら運転する。
パーキングセンサーはあくまでも前進時または後退時の補助装置です。また、センサーの検知範囲は限られていますので、システムを過信して前進/後退すると、障害物に接触するなどの思わぬ事故につながるおそれがあります。

パーキングセンサーの使いかた

パーキングセンサーが作動するとき

次の条件をすべて満たしている場合にシステムが障害物を検知すると、障害物の存在を画面表示と警報音で運転者に知らせます。

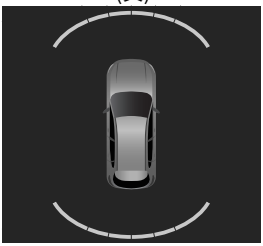
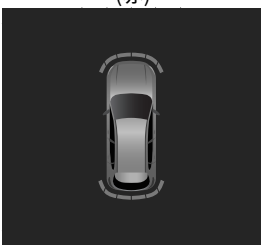
・セレクトレバーが P 以外の位置にあるとき
・車速が約 10 km/h 以下のとき

この画面表示と警報音は、障害物との距離に応じて変化します。

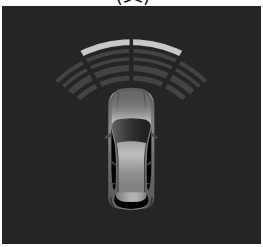
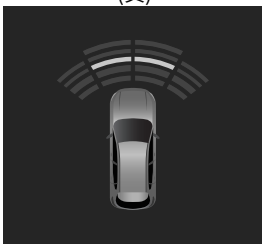
なお、複数箇所の障害物を検知した場合は、最も近い障害物との距離に応じて吹鳴します。

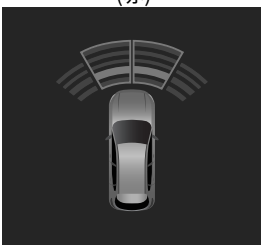
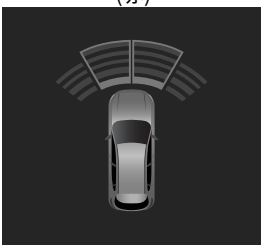
画面表示

ドアミラー展開時

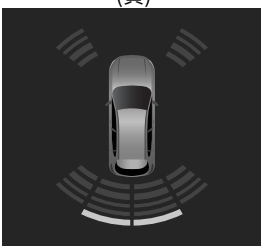
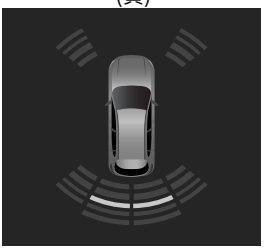
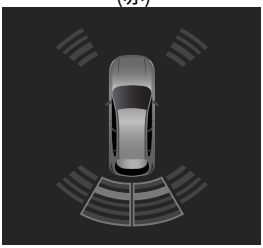
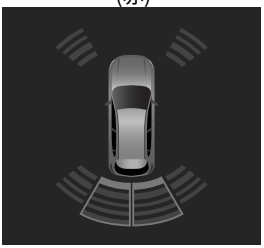
車両と障害物の距離	画面表示	
約 2 m～30 cm	障害物が最も遠いときの表示 (黄) 	障害物が最も近いときの表示 (黄) 
約 30 cm 以内	障害物が最も遠いときの表示 (赤) 	障害物が最も近いときの表示 (赤) 

ドアミラー格納時
(フロントパーキングセンサー)

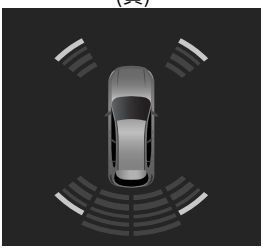
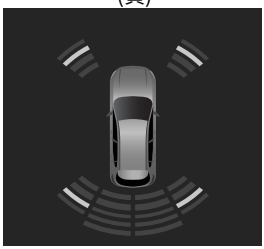
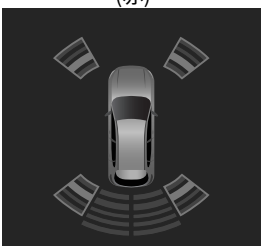
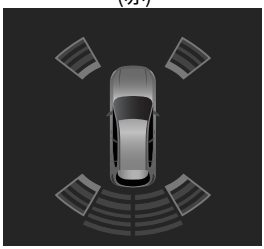
車両と障害物の距離	画面表示	
約 1 m～30 cm	障害物が最も遠いときの表示 (黄) 	障害物が最も近いときの表示 (黄) 

車両と障害物の距離	画面表示	
約 30 cm 以内	障害物が最も遠いときの表示 (赤) 	障害物が最も近いときの表示 (赤) 

(リアパーキングセンサー)

車両と障害物の距離	画面表示	
約 1 m 50 cm～30 cm	障害物が最も遠いときの表示 (黄) 	障害物が最も近いときの表示 (黄) 
約 30 cm 以内	障害物が最も遠いときの表示 (赤) 	障害物が最も近いときの表示 (赤) 

(コーナーパーキングセンサー)

車両と障害物の距離	画面表示	
約 60 cm～30 cm	障害物が最も遠いときの表示 (黄) 	障害物が最も近いときの表示 (黄) 
約 30 cm 以内	障害物が最も遠いときの表示 (赤) 	障害物が最も近いときの表示 (赤) 

警報音

車両と障害物の距離	警報音		
	フロントパーキングセンサー	リアパーキングセンサー	コーナーパーキングセンサー
約 1 m 50 cm～1 m	なし	遅い断続音	なし
約 1 m～60 cm	遅い断続音	遅い断続音	なし
約 60 cm～50 cm	断続音	断続音	断続音
約 50 cm～30 cm	早い断続音	早い断続音	早い断続音
約 30 cm 以内	連続音	連続音	連続音

知識

スマート･ブレーキ･サポート (SBS) を OFF にしていない状態で SBS OFF 表示灯 が点灯する場合は､パーキングセンサーが正常に作動しないことがあります。マツダ販売店で点検を受けてください。

超音波センサーが対象物を正確に検知できないときは､システムが正常に作動しないことがあります。
→5-91 ページ「超音波センサーについて」

センサーが障害物を検知すると 360° ビュー･モニターの表示に自動で切り替わります。障害物を検知しなくなったときは､障害物を検知する前の表示に切り替わります。ただし､予め 360° ビュー･モニターを表示している場合は､障害物の検知有無に関わらず､360° ビュー･モニターを表示し続けます。

車両と障害物との距離が約 30 cm 以上の場合に､6 秒以上同じ検知距離で障害物を検知し続けているときは､警報音のみを停止します。検知距離が近い側に変わった場合は､警報音を再開します。

パーキングセンサーを OFF にする

マツダコネクトでパーキングセンサーを OFF にできます。パーキングセンサーを OFF にする方法は 2 つあります。

- センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップし → をタップする。
  の表示灯が消灯します。
- センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

パーキングセンサーが OFF になると､パーキングセンサー OFF 表示 が点灯します。

こんなときは

- 異常が発生した場合は､メッセージで運転者に知らせます。システムの異常が考えられるため､マツダ販売店で点検を受けてください。
- センサー汚れに関するメッセージが表示された場合は､センサー部に異物が付着していないか確認してください。直らない場合は､マツダ販売店で点検を受けてください。
- 特定の検知表示が表示し続ける場合は､検知表示に対応するセンサー部に異物が付着していないか確認をしてください。直らない場合は､マツダ販売店で点検を受けてください。

積雪、寒冷時の運転

スノータイヤについて

⚠ 警告

指定サイズ以外のタイヤを使用しない。また、異なる種類のタイヤを混ぜて使用しない。
走行安定性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、法令違反になる場合があります。
運転席ドアを開けたボディー側にあるラベルに記載されているサイズのタイヤを使用してください。また、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。

タイヤチェーンについて

タイヤチェーンは AWD 車も前輪に取り付けます。

⚠ 注意

標準タイヤのみタイヤチェーンを装着できます。標準タイヤ以外のタイヤにタイヤチェーンを装着すると、チェーンがボディーなどに干渉し、傷をつけることがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

純正品以外のタイヤチェーンを使用するとボディーなどに干渉し、傷をつけるおそれがあります。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

積雪路、凍結路以外ではタイヤチェーンを装着して走行しないでください。チェーンの摩耗を早める原因になります。
また、AWD 車は駆動系部品に悪影響をおよぼし故障につながるおそれがあります。

タイヤチェーンを装着したときは、30 km/h 以下で走行してください。30 km/h 以上で走行すると、タイヤチェーンにかかる負担が大きくなるため、チェーンが切れやすくなります。

MEMO

6 車内を快適にする装備

フルオートエアコン..... 6-2
吹き出し口について.....6-2
吹き出し口の使いかた..... 6-2
フルオートエアコンについて 6-5
フルオートエアコンの概略図 6-7
フルオートエアコンの使いかた 6-9
各スイッチの使いかた..... 6-10

シートヒーター.....6-14
シートヒーターについて.....6-14
シートヒーター使用上の警告・注意.....6-14
シートヒーターの使いかた 6-15
シートヒーターの便利な使いかた.....6-17

ステアリングヒーター..... 6-18
ステアリングヒーターについて*..... 6-18
ステアリングヒーター使用上の警告・注意.....6-18
ステアリングヒーターの使いかた.....6-19
ステアリングヒーターの便利な使いかた.....6-20

シートベンチレーション..... 6-20
シートベンチレーションについて*..... 6-20
シートベンチレーション使用上の警告・注意.....6-20
シートベンチレーションの使いかた.....6-21
シートベンチレーションの便利な使いかた.....6-22

ドライバー・パーソナライゼーション・システム..... 6-23
ドライバー・パーソナライゼーション・システムについて*..... 6-23
ドライバー・パーソナライゼーション・システム使用上の警告・注意 6-24
ドライバー・パーソナライゼーション・システムの使いかた.....6-24

フルオートエアコン

吹き出し口について

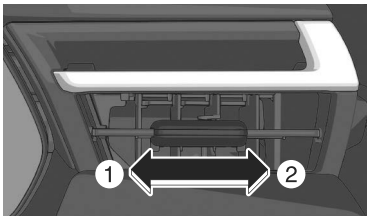
吹き出し口を調整することにより、風の出る位置や方向などが変わります。

吹き出し口の使いかた

吹き出し口の開閉

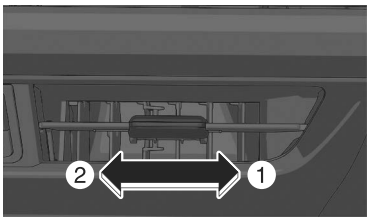
全開また全閉方向にノブまたはダイヤルをいっぱいまで動かす。

側面吹き出し口



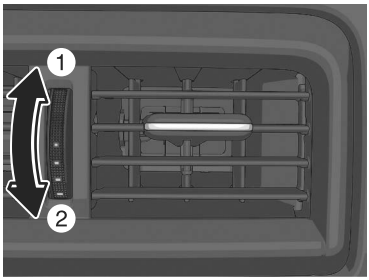
1 全開
2 全閉

中央吹き出し口



1 全開
2 全閉

リア吹き出し口*

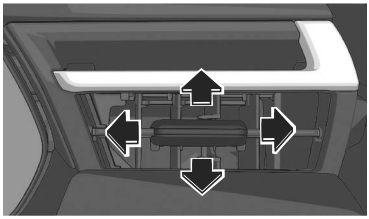


1 全開
2 全閉

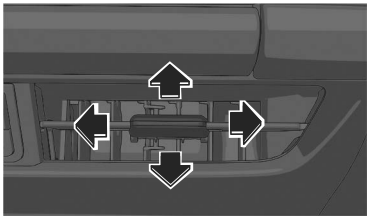
 *グレード/仕様別装備

風向きの調節

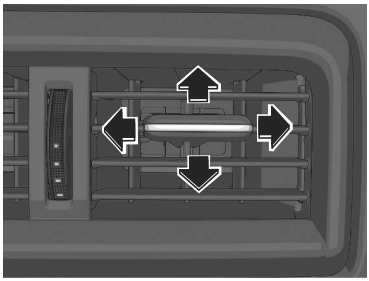
側面吹き出し口



中央吹き出し口

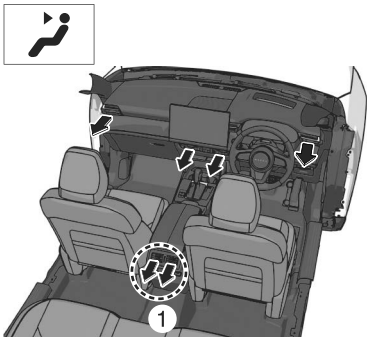


リア吹き出し口*



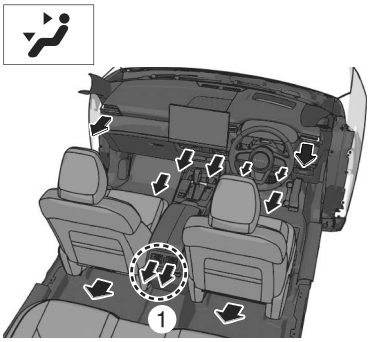
吹き出し口の選択

上半身に送風するとき



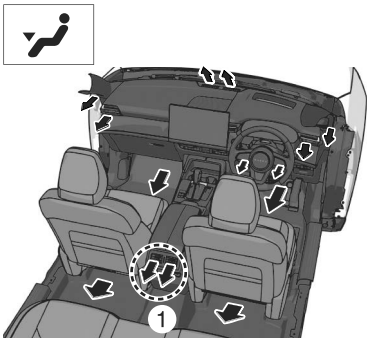
1 リア吹き出し口付き車

上半身、足元に送風するとき



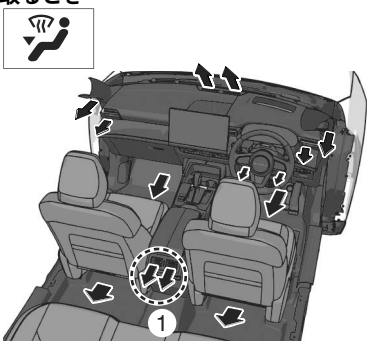
1 リア吹き出し口付き車

主に足元に送風するとき



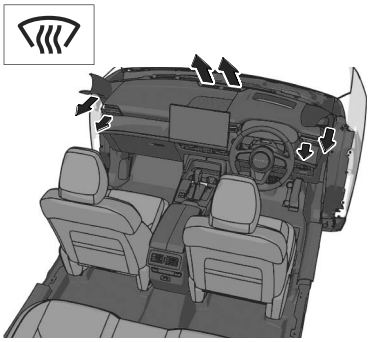
1 リア吹き出し口付き車

足元への送風とガラスの曇りを取るとき



1 リア吹き出し口付き車

ガラスの曇りを取るとき



フルオートエアコンについて

設定温度にあわせて、次の機能が自動制御されます。

・吹き出し風の温度調節
・吹き出し風量調節
・吹き出し口の切り替え
・内気循環/外気導入の切り替え
・エアコン (冷房・除湿機能) の作動/停止
・シートヒーター*の作動/停止*1
・ステアリングヒーター*の作動/停止*1
・シートベンチレーション*の作動/停止*1

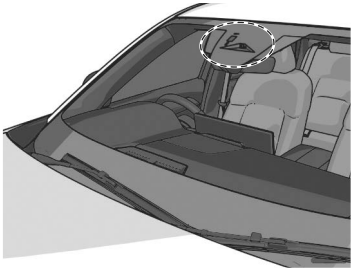
*1　マツダコネクトの設定で、オートモードを有効にしているときに作動します。センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

知識

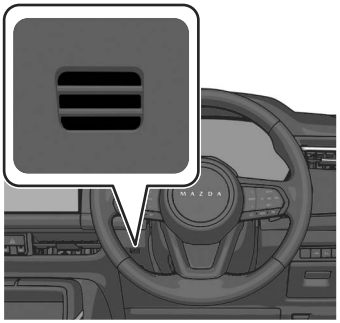
エンジンが冷えているときの暖房開始直後は、冷風の吹き出しを防止するため、風量が少なくなります。

フルオートエアコンは、日射/室内温度センサーを使用して、内外の温度、湿度、日射を測定し、室内の温度を制御しています。日射/室内温度センサーをふさがないでください。

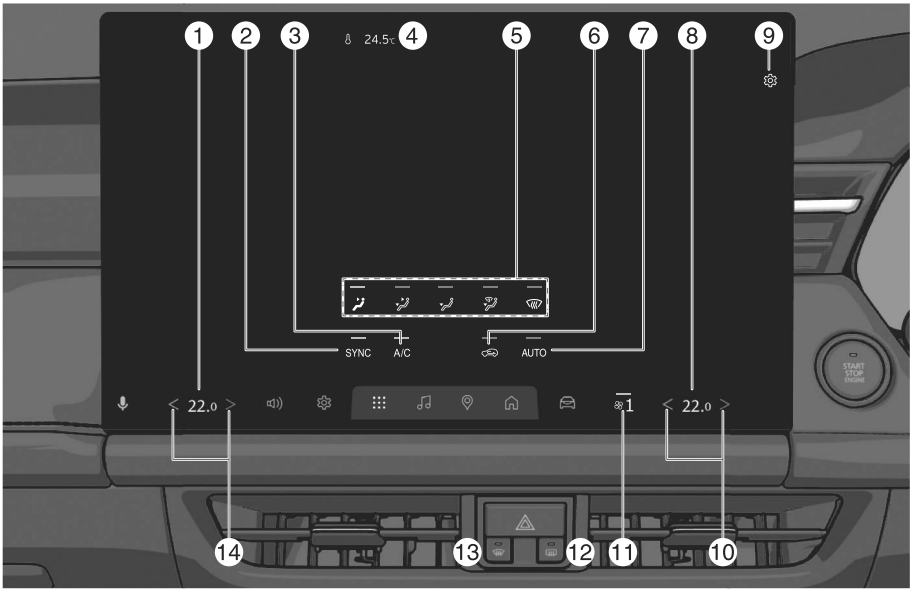
日射センサー



室内温度センサー



フルオートエアコンの概略図



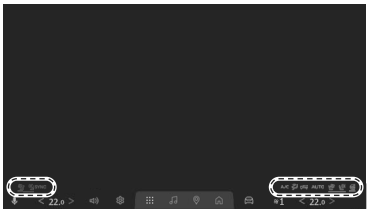
1 助手席側設定温度表示
2 SYNC (連動作動) アイコン
3 エアコンアイコン
4 外気温表示
5 吹き出し口切り替えアイコン
6 内外気切り替えアイコン
7 AUTO アイコン
8 運転席側設定温度表示
9 空調設定アイコン
10 運転席側温度設定アイコン
11 ファンアイコン
12 リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ
13 曇り取りスイッチ
14 助手席側温度設定アイコン

エアコン操作画面 (小)



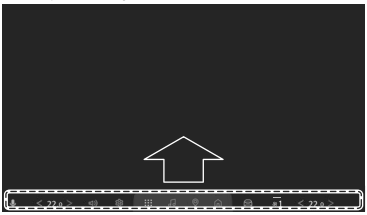
1 SYNC (連動作動) アイコン
2 エアコンアイコン
3 吹き出し口切り替えアイコン
4 内外気切り替えアイコン
5 AUTO アイコン

エアコン操作画面 (小) はナビゲーションバーの空調ステータスアイコンをタップすると表示されます。



フルオートエアコンの使いかた

1. エンジンを始動する。
2. ナビゲーションバーを上にスワイプする。



エアコン操作画面が表示されます。

3. AUTOをタップする。
   AUTO アイコンの表示灯が点灯します。
4. ＞、＜を操作して希望温度に合わせる。
   設定温度に合わせて各機能が自動制御されます。
5. 作動を停止したいときは、エアコン電源アイコンをタップする。
   エアコン電源アイコンは、ファンアイコンをタップすると表示されます。

知識

推奨設定温度は 25.0 °C です。

オート作動中に吹き出し口切り替えアイコン、ファンアイコン、曇り取りスイッチのいずれかのアイコン/スイッチを操作すると、AUTO アイコンの表示灯は消灯します。操作した箇所以外は自動で作動します。

エアコン作動中は各機能の作動状態がナビゲーションバーに表示されます。



各スイッチの使いかた

AUTO アイコン

設定温度にあわせて自動制御されます。

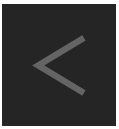


温度設定アイコン

設定温度を上げるとき



設定温度を下げるとき



知識

設定温度は、温度設定アイコンをタップすると表示される温度設定バーをタップするか、バー上のスライダーをスライドすることでも調節可能です。

設定温度は 18.0 から 32.0 の間で 0.5 ずつ変化します。

温度設定アイコンを長押しすると、素早く設定温度を調節することができます。

温度を下限または上限に設定すると、「LO」または「HI」が表示されます。

SYNC (連動作動) アイコン

タップするごとに独立モードと連動モードが切り替わります。



独立モード (表示灯消灯)

運転席側と助手席側の設定温度を独立して調節することができます。
運転席側温度設定アイコンまたは助手席側温度設定アイコンを押して調節します。

連動モード (表示灯点灯)

運転席側と助手席側の設定温度が連動した設定になります。

運転席側温度設定アイコンを押して調節します。

知識

独立モードから連動モードに切り替えると、助手席側の設定温度は運転席側の設定温度に切り替わります。

連動モード (SYNC アイコン表示灯点灯) のとき、助手席側温度設定アイコンを押すと独立モード (SYNC アイコン表示灯消灯) になります。

エアコンアイコン

スイッチを押すごとに冷房·除湿機能の作動と停止が切り替わります。作動中は表示灯が点灯します。



知識

外気温が 0 °C 近くまで下がると、システム保護のためエアコンが作動しない場合があります。

リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチ

リアウインドーの曇りを取りたいときに使用します。
→5-63 ページ「リアウインドーデフォッガー (曇り取り) スイッチの使いかた」

内外気切り替えアイコン

タップするごとに内気循環と外気導入が切り替わります。



内気循環 (表示灯点灯)

トンネル内や渋滞など外気が汚れているときや、急速に冷房したいときなど外気を遮断したいときに使用します。

外気導入 (表示灯消灯)

外気を取り入れて換気したいときや、ガラスの曇りを取るときに使用します。

知識

寒いときや湿度が高いときは、内気循環にするとガラスが曇りやすくなります。

吹き出し口切り替えアイコン

使用目的にあわせて吹き出し口を選択することができます。



ファンアイコン

風量調節バーが表示され、風量を調節できます。



風量を増やすとき

1. ファンアイコンをタップする。
2. “+”をタップする。

風量を減らすとき

1. ファンアイコンをタップする。
2. “-”をタップする。

“+”/”-”アイコンをタップするごとに風量が変わります。
現在の風量がファンアイコンの横に表示されます。
風量は 7 段階に調節できます。

知識

風量は、ファンアイコンをタップすると表示される風量調節バーをタップするか、バー上のスライダーをスライドすることでも調節可能です (スライダーのスライド操作は、ファンアイコンタップ後そのまま指を離すことなく操作可能です)。

マツダコネクトの設定で、オートモード中の風量を設定できます。センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

エアコン電源アイコン

エアコンの作動中にファンアイコンをタップすると表示されます。タップすると、エアコンを停止します。



曇り取りスイッチ/アイコン

スイッチを押すごとに曇り取りの作動と停止が切り替わります。作動中は表示灯が点灯します。
フロントガラス、サイドウインドーの曇りを取りたいときに使用します。

曇り取りの作動中は、自動的に外気導入に切り替わり、エアコンが自動的に作動します。



をタップすることでも操作可能です。

⚠ 警告

ガラスの曇りを取るときは、吹き出し風の温度を低くしない。
ガラスの外側が曇り、視界不良などで思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識

次の操作をすると、より早くガラスの曇りが取れます。

・ファンアイコンを操作して、風量を増す。
・温度設定アイコンを操作して、吹き出し風の温度を上げる。

次の操作をすると、ガラスが曇りやすくなるため、注意して使用してください。

・内気循環に切り替える。
・エアコンの作動を停止する。

空調設定アイコン

空調設定画面を表示します。



空調設定画面では次の機能を設定できます。

・リアウインドーデフォッガー (曇り取り)
・快適装備オートエアコン連動
・オートモード中の風量

シートヒーター

シートヒーターについて

シートを温めることができます。

シートヒーター使用上の警告･注意

⚠ 警告

次のような方がご使用になる場合は､熱すぎたり､低温やけどを起こしたりするおそれがありますので､十分注意してください。

- 乳幼児､お子さま､お年寄り､病人､体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬 (睡眠薬､かぜ薬など) を服用された方

低温やけどを起こさないために､次のことをお守りください。

- 毛布や座布団など保温性のよいものをかけた状態で使用しないでください。異常加熱するおそれがあります。
- 仮眠するときは使用しないでください。
- 突起のある重量物をシートの上に置いたり､針金やピンなどでシートクッションや背もたれをつきさしたりしないでください。異常加熱するおそれがあります。

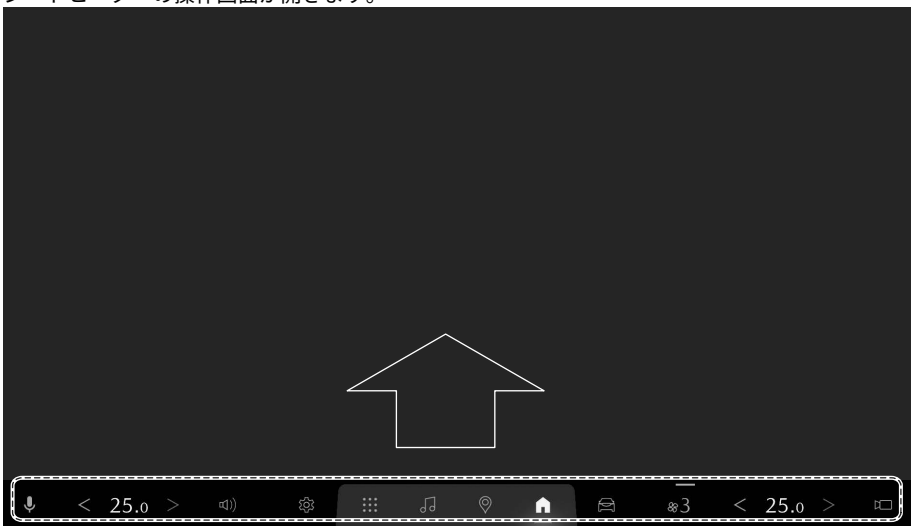
⚠ 注意

リアシートの背もたれを倒すときは､リアシートヒーターのスイッチが OFF になっていることを確認してください。
リアシートヒーターが作動中のまま､背もたれを倒すと､シートが異常加熱し､シートの表面を損傷するおそれがあります。

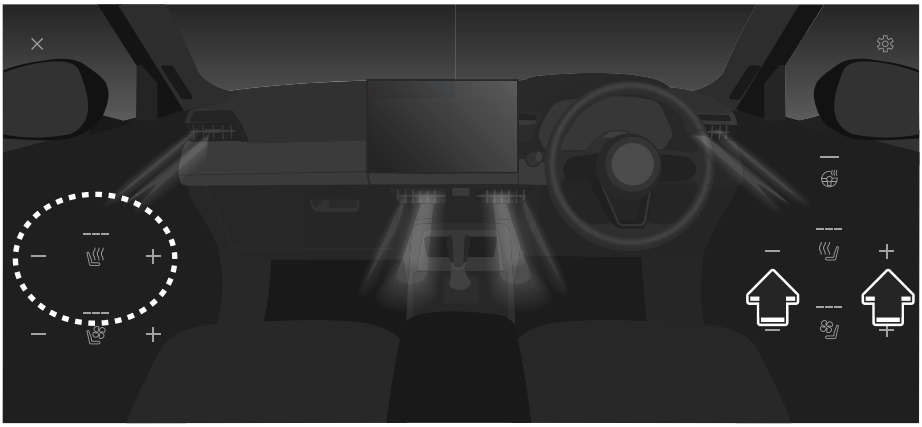
シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ヒーターやシートの表面を損傷するおそれがあります。

シートヒーターの使いかた

フロント
フロントシートヒーターはマツダコネクトの画面で操作することができます。
1. エンジンを始動する。
2. マツダコネクトのナビゲーションバーを上にフリックする。
   シートヒーターの操作画面が開きます。



3. シートヒーターアイコンの+または-をタップする。
   タップするごとに作動状態が切り替わります。

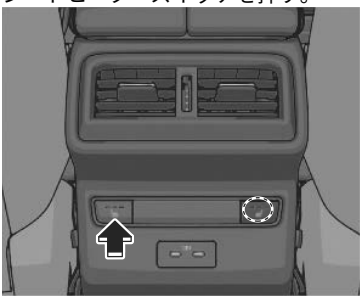


1 OFF
2 低
3 中
4 高
作動状態に応じてシートヒーターアイコンの表示灯が点灯します。

知識

ナビゲーションバーに表示される空調状態表示をタップすることでも操作が可能です。シートヒーターアイコンをタップするごとに、作動状態が変わります。

リア*
1. エンジンを始動する。
2. シートヒータースイッチを押す。



OFF
低
中
高

シートヒータースイッチ内の作動状態に応じて表示灯が点灯します。

知識

シートヒータースイッチ/アイコンを操作して作動しているときにエンジンを止めると、次にエンジンを始動したとき、シートヒーターは自動的に ON にはなりません。シートヒーターを使用するときは、再度スイッチ/アイコンを操作してください。
リアシートヒーターは一定時間作動すると、自動で停止します。

シートヒーターの便利な使いかた

エアコンのオートモードに連動して作動させることができます。
オートモードにすると、車内環境に応じてフロントシートヒーターの作動状態が 4 段階 (高、中、低、OFF) で自動制御されます。

1. マツダコネクトホーム画面の ⚙ で設定する。
2. エアコンの AUTO をタップする。

知識

自動制御の強弱の設定は変更することができます。

助手席のシートベルトがはずれている場合は、助手席のシートヒーターが OFF になります。

オートモード中に次のいずれかの操作をするとマニュアルモードに移行します。
オートモードにもどすときは、エアコンの AUTO をタップしてください。

・エアコンのオート作動を OFF にする

知識

・シートヒーターアイコンの+または-をタップする。
タップした側のシートのみがマニュアルモードに移行します。
・シートベンチレーションアイコンの+または-をタップする。
タップした側のシートのみがマニュアルモードに移行します。

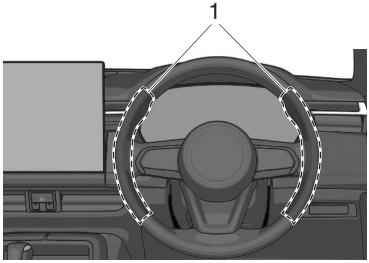
(シートベンチレーション装備車)
フロントシートヒーターはシートベンチレーションと同時に使用することはできません。

オートモードで動作中は、シートヒーターアイコン下部に“AUTO”が表示されます。

ステアリングヒーター

ステアリングヒーターについて*

ハンドルの左右のグリップ部分を温めることができます。



1 加熱位置

ステアリングヒーター使用上の警告･注意

警告

低温やけどを起こすおそれがありますので、次のような方が触れないよう注意してください。

- 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬 (睡眠薬、かぜ薬など) を服用された方

ステアリングヒーターの使いかた

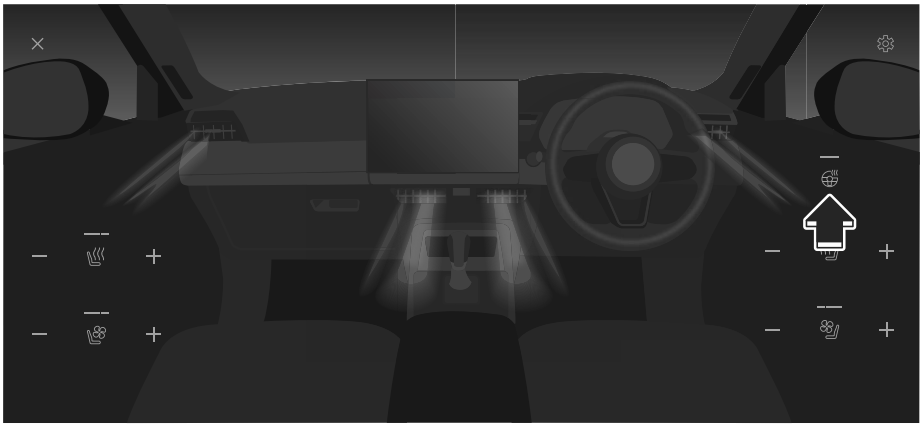
ステアリングヒーターはマツダコネクト画面で操作することができます。

ステアリングヒーターを使用する

1. エンジンを始動する。
2. マツダコネクトのナビゲーションバーを上にフリックする。
   ステアリングヒーターの操作画面が開きます。



3. ステアリングヒーターアイコンをタップする。



ステアリングヒーターアイコンの表示灯が点灯します。

知識

ナビゲーションバーに表示される空調状態表示をタップすることでも操作が可能です。ステアリングヒーターアイコンをタップするごとに、設定状態が変わります。

ステアリングヒーターを停止する

ステアリングヒーターアイコンをタップする。
ステアリングヒーターが停止し、アイコンの表示灯が消灯します。

ステアリングヒーターの便利な使いかた

エアコンのオートモードに連動して作動させることができます。
オートモードにすると、車内環境に応じてステアリングヒーターが自動 (オートモード) で作動/停止します。

1. マツダコネクトホーム画面の ⚙ で設定する。
2. エアコンの AUTO をタップする。

知識

自動制御の強弱の設定は変更することができます。

オートモード中に次のいずれかの操作をするとマニュアルモードに移行します。
オートモードにもどすときは、エアコンの AUTO をタップしてください。

・エアコンのオート作動を OFF にする
・ステアリングヒーターアイコンをタップする。

オートモードで動作中は、ステアリングヒーターアイコン下部に“AUTO”が表示されます。

シートベンチレーション

シートベンチレーションについて*

シートに取り付けられたファンでシート表面の空気を吸い込み、シートの表面を換気します。

シートベンチレーション使用上の警告・注意

⚠ 注意

シートの清掃にベンジンやガソリンなどの有機溶剤を使用しないでください。ベンチレーション部品やシートの表面を損傷するおそれがあります。

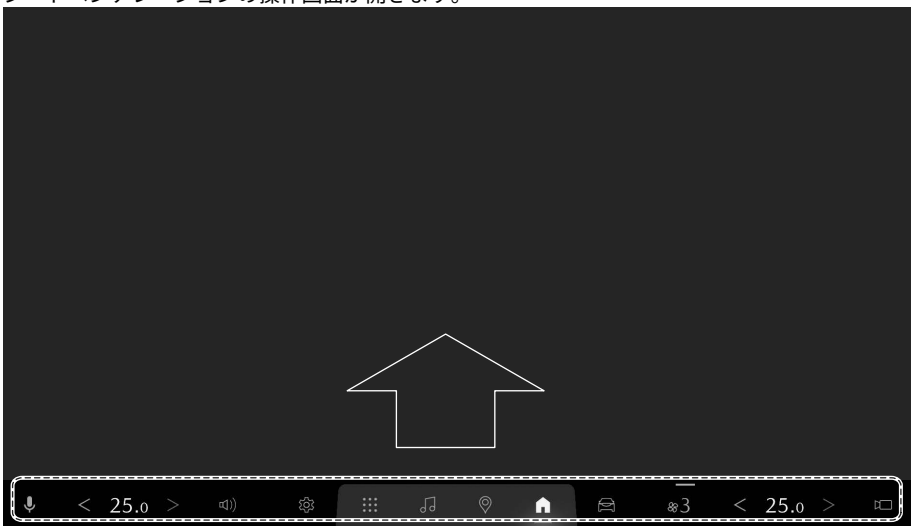
突起のある重量物をシートの上に置いたり、針金やピンなどでシートクッションや背もたれをつきささないでください。

 *グレード/仕様別装備

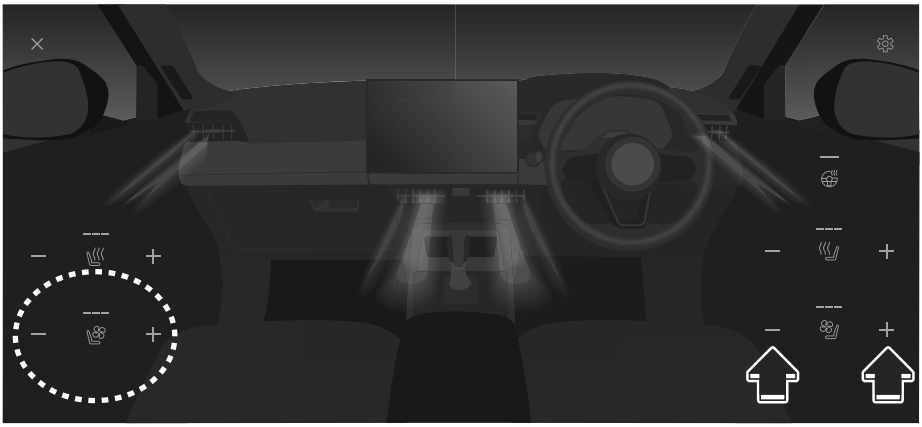
シートベンチレーションの使いかた

シートヒーターはマツダコネクトの画面で操作することができます。

1. エンジンを始動する。
2. マツダコネクトのナビゲーションバーを上にフリックする。
   シートベンチレーションの操作画面が開きます。



3. シートベンチレーションアイコンの+または-をタップする。
   タップするごとに、作動状態が切り替わります。



1 OFF
2 低
3 中
4 高
作動状態に応じて表示灯が点灯します。

知識

ナビゲーションバーに表示される空調状態表示をタップすることでも操作が可能です。シートベンチレーションアイコンをタップするごとに、作動状態が変わります。

シートベンチレーションアイコンを操作して作動しているときにエンジン を止めると、次にエンジン を始動したとき、シートベンチレーションは自動的に ON にはなりません。シートベンチレーションを使用するときは、再度アイコンをタップしてください。

シートベンチレーションの便利な使いかた

エアコンのオートモードに連動して作動させることができます。
オートモードにすると、車内環境に応じてフロントシートのファン作動状態が 4 段階 (高、中、低、OFF) で自動制御されます。

1. マツダコネクトホーム画面の ⚙ で設定する。
2. エアコンの AUTO をタップする。

知識

自動制御の強弱の設定は変更することができます。

助手席のシートベルトがはずれている場合は､助手席のシートベンチレーションが OFF になります。

オートモード中に次のいずれかの操作をするとマニュアルモードに移行します。
オートモードにもどすときは､エアコンの AUTO をタップしてください。

・エアコンのオート作動を OFF にする
・シートヒーターアイコンの+または-をタップする。
　タップした側のシートのみがマニュアルモードに移行します。
・シートベンチレーションアイコンの+または-をタップする。
　タップした側のシートのみがマニュアルモードに移行します。

オートモードで動作中は､シートベンチレーションアイコン下部に“AUTO”が表示されます。

ドライバー･パーソナライゼーション･システム

ドライバー･パーソナライゼーション･システムについて*

ドライバー･パーソナライゼーション･システムとは､車内のカメラで運転者を認識し､記憶した運転者の各種設定を自動的に復元するシステムです。
自動で復元する機能に加えて､次の 2 つの機能があります。

自動ドライビングポジションガイド

車内にあるカメラの情報と入力した身長から運転者の体格を総合的に判断し､推奨するドライビングポジションに自動調節する機能です。

エントリーアシスト

運転者が乗り降りしやすい状態にシートが自動で動く機能です。
ドライバーパーソナライゼーションシステムは運転者に紐付いて次の情報を登録することで各種設定復元時にドライビングポジションへの調節が開始されます。

・顔情報
・ドライバーポジション情報

ドライバー･パーソナライゼーション･システム使用上の警告･注意

⚠ 注意

ドライバー･パーソナライゼーション･システムでシートが自動的に動いているときは、シート下やその周辺に手、指、足などを近づけないでください。手、指、足などをはさんで、けがをするおそれがあります。

自動ドライビングポジションガイド作動前に、ステアリングの位置を上方にし、奥まで移動させてください。シートとステアリングの間に体がはさまれてけがをしたり、荷物がはさまれて破損したりするおそれがあります。

次のような場合、自動ドライビングポジションガイドを中止します。

- 運転席シート、ドアミラー、アクティブ･ドライビング･ディスプレイの位置調節をともなう操作したとき
- キーの施錠スイッチまたは解錠スイッチを操作したとき
- 車両が走行状態になったとき
- セレクトレバーを P 以外の位置にしたとき
- シート作動時に一定以上の負荷を検知し、安全機能が作動したとき

知識

ドライバー･モニタリングカメラについては 5-96 ページをお読みください。

ドライバー･パーソナライゼーション･システムの使いかた

知識

12V バッテリーあがりを防止するため、車両の電源が OFF 中は顔認識が作動しない場合があります。マツダコネクトの画面に従って操作してください。

ドライバー･パーソナライゼーション･システムは、ドライバー･モニタリングカメラを使ってお客さまの顔の特徴を数値化して利用します。

次の場合は、運転者を正しく登録、認識できないことがあります。

・サングラス、マスクなどのアクセサリーを着用しているとき
・顔とカメラの間にさえぎる物があるとき

ドライバー･モニタリングカメラはステアリングコラム上部にあります。前方に顔を向け少し動かすと、運転者を認識しやすくなります。

認識中に車両の電源を ON にした場合は、ゲストとして認識されることがあります。1 回もドア開閉せずに車両の電源を ON にすると前回認識している運転者の情報を引き継ぎます。

知識

認識されにくい場合は､顔データを再度登録してください。メガネやコンタクトなどの 2 種類の顔を登録することもできます。

顔の似ている人が登録されている場合､誤って認識されることがあります。
→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」

ゲストとして認識された場合やゲストを選択した場合は運転者の各種設定が保存されません。

ユーザープロファイルを登録する

ユーザー設定アイコンから登録するとき

1. 車両の電源を ON にする。
2. マツダコネクトのホーム画面のステータスバーの をタップする。
3. プロファイルの項目の追加を選択し､マツダコネクトの画面に従って操作する。

設定から登録するとき

1. 車両の電源を ON にする。
2. マツダコネクトのホーム画面のナビゲーションバーの をタップする。
3. を選択し､ユーザー名の下をタップする。
4. プロファイルの項目の追加を選択し､マツダコネクトの画面に従って操作する。

知識

ドライバーの登録時に表示されるプロファイルセットアップ画面で次の情報を登録することができます。

・顔情報
・ドライバーポジション情報

マツダコネクトのステータスバーの を選択したあと､プロファイルとアカウントの画面を開くことができます。

ドアを閉めて､マツダコネクトのホーム画面に“新規登録”が表示されたときは､画面に従って操作してください。

顔情報を登録する

1. 車両の電源を ON にする。
2. マツダコネクトのホーム画面のナビゲーションバーの をタップする。
3. をタップする。
   プロファイルとアカウントの画面が開きます。
4. “顔データの登録”をタップする。
5. マツダコネクトの画面に従って操作する。

知識

選択したい項目が表示されていない場合は､画面を下にスクロールすると項目が表示されます。

顔認識によるプロファイル切替の ON/OFF の設定が可能です。
OFF のときは顔情報を登録していても､顔認識が動作しません。

ドライビングポジションを登録する

現在のドライビングポジションを登録するとき

1. 車両の電源を ON にする。
2. マツダコネクトのホーム画面のナビゲーションバーの をタップする。
3. “Position Memory”をタップする。
   設定画面が開きます。
4. “ドライバーパーソナライズポジション”横の または をタップする。
5. マツダコネクトの画面に従って操作する。

ドライビングポジションの自動調整をするとき

1. 車両の電源を ON にする。
2. マツダコネクトのホーム画面のナビゲーションバーの をタップする。
3. “Position Memory”をタップする。
   設定画面が開きます。
4. “ドライビングポジション調整”をタップする。
5. マツダコネクトの画面に従って､運転者の身長を登録する。
6. マツダコネクトの画面に従って操作する。

知識

次の項目が自動調節されます。

・運転席シート位置 (角度､前後位置､全体高さ､前端高さ)
・アクティブ･ドライビング･ディスプレイ (表示高さ)
・ドアミラー角度

作動するとき

乗車時

運転席に座り､ドアを閉める。
登録されている情報と運転者情報の照合を開始します。
認識結果が画面に表示されます。
マツダコネクトの画面に確認メッセージが表示された場合は､メッセージにしたがって､操作してください。
記憶している運転者の各種設定を自動的に復元します。

顔認識設定を OFF にしている､または顔情報の登録をしていないとき

顔認識が実行されません。前回認識している運転者の情報を復元します。
マツダコネクトの画面に確認メッセージが表示された場合は､メッセージに従って操作してください。

知識

ドアミラー角度が可動域の限界近くに調節されている場合は､ドアミラー角度が正しく復元されないことがあります。

記憶させたドライビングポジションに調節済みのときは､音が鳴りません。

降車時

シートベルトをはずし､車両の電源を OFF にする。
車両の電源を OFF にした時点のエアコン設定状態､カスタマイズ設定を記憶します。
次のすべての状態になると､シートが移動します。

・運転者に紐付けて登録されているドライビングポジションまたはドライビングポジション調節後一定時間走行したとき
・車両の電源を OFF にしたとき
・運転席のシートベルトをはずしたとき

知識

エアコン設定状態､カスタマイズ設定は､運転者の入れ替わりや登録済みの他の運転者を選択したときにも記憶します。

次のいずれかの場合は､記憶値を復元せずに現在の設定でエアコンが作動します。

・フロントガラスの曇り取りが作動していたとき
・前回乗車時から外気温度が大きく異なるとき
・前回乗車時から日数が一定期間経過したとき

車両の電源を OFF してから一定時間経過後､運転席シートベルトをはずした場合は､エントリーアシストが作動しないときがあります。

シートの位置によっては､エントリーアシストが作動しない場合があります。

シートの移動する量や､シートの移動 ON/OFF を変更することができます。マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⚙ をタップして設定する､またはマツダ販売店にご相談ください。

次のような場合､エントリーアシストを中止します。

・運転席シート､ドアミラーの位置調節をともなう操作したとき
・キーの施錠スイッチまたは解錠スイッチを操作したとき
・シート作動時に一定以上の負荷を検知し､安全機能が作動したとき

ドライビングポジションメモリーの設定画面から記憶させた各種設定を自動で復元するとき

1. ドライビングポジションメモリーの設定画面を開く。
→3-23 ページ「ドライビングポジションメモリー機能の使いかた」
2. “ドライバーパーソナライズポジション”をタップする。
記憶させた各種設定の呼び出しが終了すると音が鳴り､メッセージが表示されます。

登録内容を編集､削除するとき

ドライバーの削除、顔情報の編集・削除

1. 車両の電源を ON にする。
2. マツダコネクトのホーム画面のナビゲーションバーの をタップする。
3. をタップする。
   プロファイルとアカウントの画面が開きます。
4. マツダコネクトの画面に従って操作する。

知識

選択したい項目が表示されていない場合は､画面を下にスクロールすると項目が表示されます。

他ドライバーを削除するとき

管理者権限を付与されているドライバーのみ操作することができます。

1. マツダコネクトのホーム画面のナビゲーションバーの をタップする。
2. をタップする。
   プロファイルとアカウントの画面が開きます。
3. 他のプロファイル編集項目をタップする。
4. 削除したいプロファイル横の をタップする。
5. 削除する。
6. マツダコネクトの画面に従って操作する。

ドライビングポジションの編集・削除

1. 車両の電源を ON にする。
2. マツダコネクトのホーム画面のナビゲーションバーの をタップする。
3. “Position Memory”をタップする。
   設定画面が開きます。
4. “ドライバーパーソナライズポジション”の をタップする。
5. マツダコネクトの画面に従って操作する。

ユーザープロファイルのロック設定

ユーザープロファイルごとにロック設定をすることができます。

1. 車両の電源を ON にする。
2. マツダコネクトのホーム画面のナビゲーションバーの をタップする。
3. をタップする。
4. プロファイルをロックする項目をタッチする。
5. マツダコネクトの画面に従って操作する。

7 その他装備

マツダコネクト.....7-4
マツダコネクトについて.....7-4
マツダコネクト使用上の警告・注意.....7-7
マツダコネクトの概略図.....7-7
マツダコネクトの使いかた 7-8
付録.....7-10

マツダエマージェンシーコール 7-14
マツダエマージェンシーコールについて..... 7-14
マツダエマージェンシーコール使用上の警告･注意..... 7-15
マツダエマージェンシーコールの使いかた.....7-15

収納..... 7-16
収納使用上の警告･注意..... 7-16

カップホルダー.....7-16
カップホルダー使用上の警告・注意.....7-16
カップホルダーの使いかた 7-17

ボトルホルダー.....7-17
ボトルホルダー使用上の警告・注意.....7-17
ボトルホルダーの使いかた 7-18

グローブボックス..... 7-18
グローブボックスの使いかた 7-18

コインボックス..... 7-18
コインボックスの使いかた 7-18

センターコンソール.....7-19
センターコンソール使用上の警告･注意.....7-19
センターコンソールの使いかた 7-19

オーバーヘッドコンソール..... 7-20
オーバーヘッドコンソールの使いかた..... 7-20

リアコートフック.....7-20
リアコートフック使用上の警告・注意.....7-20
リアコートフックの使いかた 7-20

ラゲッジルーム.....7-20
ラゲッジルームについて.....7-20
ラゲッジルームの使いかた 7-21

サンバイザー.....7-21
サンバイザーの使いかた.....7-21

バニティミラー.....7-22
バニティミラーの使いかた 7-22

ルームランプ..... 7-22
イルミネーテッドエントリーシステムについて.....7-22

イルミネーテッドエントリーシステムの使いかた..... 7-23
ルームランプの使いかた..... 7-23
マップランプの使いかた.....7-25
ラゲッジルームランプの使いかた 7-26
ドアランプの使いかた*.....7-26
アンビエントライトの使いかた*..... 7-27

電源ソケット.....7-27
電源ソケットについて..... 7-27
電源ソケット使用上の警告･注意 7-28
電源ソケットの使いかた.....7-28
USB 電源ソケットについて* 7-29
USB 電源ソケット使用上の警告･注意.....7-29
USB 電源ソケットの使いかた 7-30

ワイヤレス充電 (Qi)..... 7-30
ワイヤレス充電 (Qi) について*..... 7-30
ワイヤレス充電 (Qi) 使用上の警告･注意.....7-31
ワイヤレス充電 (Qi) の使いかた 7-32
ワイヤレス充電 (Qi) の便利な使いかた..... 7-34

アシストグリップ.....7-34
アシストグリップ使用上の警告･注意.....7-34
アシストグリップの使いかた 7-35

アクセサリー.....7-35
電気･電子部品/機器使用上の警告･注意.....7-35

フロアマット.....7-35
フロアマット使用上の警告･注意 7-35

故障診断コネクター.....7-36
故障診断コネクターについて 7-36

発炎筒..... 7-36
発炎筒について..... 7-36
発炎筒使用上の警告･注意.....7-37

ジャッキ..... 7-37
ジャッキについて.....7-37
ジャッキ使用上の警告･注意 7-38

MEMO

マツダコネクト

マツダコネクトについて

マツダコネクトとは、車両情報の表示、音楽の再生、モバイル機器との接続、エアコン操作や車両設定の変更など、さまざまな機能を利用できるシステムです。

本書では、マツダコネクトの一部取り扱い情報のみ記載しています。
取り扱い情報の詳細は、マツダコネクト取扱説明書を参照してください。

知識

本書に記載されている機能の説明、画面やボタンの文字および形状などは、実際とは異なる場合があります。また、これらのコンテンツは、今後のソフトウェア更新によって予告なしに変更されることがあります。

車内や車両の近くで携帯電話や無線機を使用すると、ノイズ (雑音) が発生することがあります。

ホーム画面

ホーム画面は次の領域で構成されています。



1 ステータスバー
2 ウィジェットエリア
3 ナビゲーションバー

ステータスバー

ユーザー名、通知、時刻、外気温などが表示されます。

ウィジェットエリア

ナビゲーションシステム、オーディオ、カレンダー、i-ACTIVSENSE の状態や車両状態などが表示されます。

ナビゲーションバー

Google Gemini または Google アシスタント、Google マップ、エアコン操作、カメラ画面表示、車両コントロール、ホーム画面表示、ナビゲーションシステム、Apple CarPlay、Android Auto™、オーディオシステム、アプリケーションリスト、設定、音量操作などが使用可能です。

マツダコネクトの機能

車両ステータス表示 (ステータスバー)

通知、時刻、外気温、現在選択しているユーザーなどが表示されます。
マツダコネクトにユーザーを登録することができます。ユーザーを登録することで、設定した情報を保存しておくことができます。ユーザー登録の方法は次を参照ください。
6-24 ページ「ドライバー・パーソナライゼーション・システムの使いかた」

画面のパーソナライズ ( )

ウィジェットエリアに表示する内容を変更することができます。

エアコン操作

エアコン、ステアリングヒーター、シートヒーター、シートベンチレーションなどが操作できます。
6-9 ページ「フルオートエアコンの使いかた」
6-15 ページ「シートヒーターの使いかた」
6-19 ページ「ステアリングヒーターの使いかた」
6-21 ページ「シートベンチレーションの使いかた」

カメラ画面表示 ( )

360°ビュー・モニターの映像を表示することができます。
5-204 ページ「360°ビュー・モニターの使いかた」

車両制御 ( )

i-stop、Mi-Drive、ドライバー・パーソナライゼーション・システムや i-ACTIVSENSE 各機能の ON/OFF の切替をすることができます。
5-19 ページ「i-stop の使いかた」
5-71 ページ「マツダ インテリジェント ドライブ セレクト (Mi-Drive)の使いかた」
6-24 ページ「ドライバー・パーソナライゼーション・システムの使いかた」
5-76 ページ「i-ACTIVSENSE について」

ホーム画面表示 ( )

ホーム画面を表示することができます。

ナビゲーションシステム ( )

Google 搭載、Android Auto
Google マップを表示して、ナビゲーションを行うことができます。
Apple CarPlay
マップを表示して、ナビゲーションを行うことができます。

Apple CarPlay ( ) (Apple CarPlay 接続時のみ表示)

Apple CarPlay に対応した iPhone を接続することで、Apple CarPlay を利用できます。

Android Auto ( ) (Android Auto 接続時のみ表示)

Android Auto に対応した Android™スマートフォンを接続することで、Android Auto を利用できます。

オーディオ ( )

ラジオや音楽などを聴くことができます。

アプリケーション一覧 ( )

アプリケーションの一覧が表示されます。

Google Play ( )

Google Play のご使用には Google アカウントの登録およびログインが必要です。
Google Play を使えば、スマートフォンと同様に、お気に入りのアプリを車に簡単にダウンロードできます。
ダウンロードしたアプリを使って、気に入りの音楽、ポッドキャスト、オーディオブックなどをスマートフォンなしで再生することができます。

設定 ( )

マツダコネクトの設定や車両機能の設定を変更できます。

ボリューム操作 ( )

マツダコネクトの音量を変更できます。

Google Gemini*1 または Google アシスタント ( )

Gemini は Google アシスタントに代わり、将来のアップデートで利用できるようになります。
Gemini または Google アシスタントとのハンズフリーコントロールによる会話が、外出先でのさまざまなタスクの管理を支援します。
オーナーは、特定のコマンドやフレーズを覚えることなく、自然に話したり、複雑な質問をしたり、フォローアップクエリを使用して会話を誘導したりできます。
*1　Gemini: Google の AI アシスタント

知識

Gemini の利用前に、次の内容をご確認ください。

・誤った情報が表示される場合があります。回答内容はお客様ご自身の責任でご確認ください。
・各機能のご利用には、事前の設定が必要となる場合があります。
・互換性および利用可能な機能は、ご使用のデバイスや通信環境によって異なる場合があります。
・本サービスには年齢制限があります。18 歳以上の方のみご利用いただけます。

インターネット接続と互換性のあるオペレーティングシステムが必要です。
利用状況は、デバイス、国、言語によって異なる場合があります。

マツダコネクト使用上の警告･注意

⚠ 警告

オーディオは､車を止めてから操作する。
走行中の操作は､運転操作がさまたげられ思わぬ事故につながるおそれがあります。

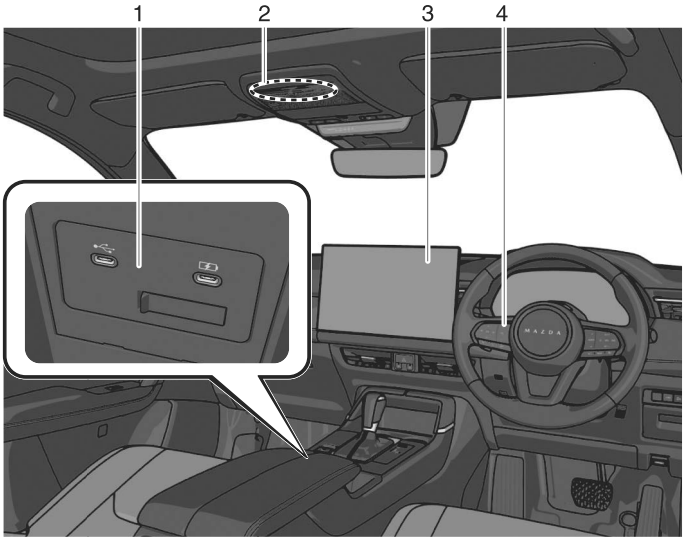
USB 端子に接続したコードが､セレクトレバーに絡まないようにする。
運転操作がさまたげられ､思わぬ事故につながるおそれがあります。

運転中にポータブルオーディオ機器などを調節しない。
走行中に調節すると前方不注意で重大な事故につながるおそれがあります。ポータブルオーディオ機器などの調節は必ず車両を停止した状態で行なってください。

⚠ 注意

安全運転をさまたげないように､運転中は車外の音が聞こえる程度の音量で使用してください。

マツダコネクトの概略図



1 USB ポート/SD カードスロット*1
2 マイク
3 センターディスプレイ
4 オーディオリモートコントロールスイッチ

*1　専用 SD カード用です。専用 SD カードを取りはずさないでください。

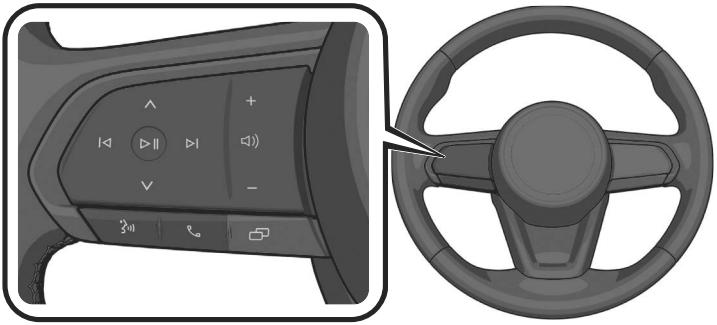
マツダコネクトの使いかた

タッチパネルでの操作

センターディスプレイは、各種タッチ操作に対応しています。

オーディオリモートコントロールスイッチでの操作

オーディオリモートコントロールスイッチはステアリングに搭載されています。



ボタン	説明
	∧ または ∨ を押すと、メーター画面にオーディオソースを切り替えるためのリストが表示されます。 5-22 ページの「メーターの使いかた」を参照してください。
	⏮ または ⏭ を押すと、選択しているソースごとに短押し、長押しによって次の操作が可能です。 短押しする ・オーディオ: 再生中のソース内で楽曲の切り替えができます。 ・ラジオ (AM/FM): お気に入りに登録した放送局に順次切り替わります。 ・ラジオ (交通情報)、テレビ: 受信している放送局に順次切り替わります。 長押しする ・オーディオ: 再生中の楽曲の早送り、早戻しができます。 ・ラジオ (AM/FM): 受信している放送局に順次切り替わります。
	⏯を押すと、選択しているソースごとに次の操作が可能です。 ・オーディオ: 再生/一時停止の切り替えができます。 ・ラジオ (AM/FM/交通情報)、テレビ: ミュート、ミュート解除の切り替えができます。

ボタン	説明
+  −	+ または − を押すと、音量を調節できます。 ミュートの場合、ミュートが解除されます。 "ステアリングスイッチ"の"フリック"または"スワイプ"を有効にすると、指の動きに応じて音量調節が可能になります。 センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。
	を短押しすると、Google Gemini または Google アシスタントが起動します。 を長押しすると、Apple CarPlay 接続中は Siri、Android Auto 接続中は Android Auto の Gemini または Google アシスタントが起動します。どちらも接続されていない場合は Bluetooth の設定画面に遷移します。
	を押すと、着信中は受話、通話中は終話、発信中は発信キャンセルとなります。
	を押すと、メーター画面の切り替えなどの操作ができます。 5-22 ページの「メーターの使いかた」を参照してください。

知識

ステアリングスイッチは静電容量式のスイッチとなっており、意図通り反応しない場合、次をご確認ください。

- 極端にスイッチシンボルの中心から大きく外れての操作は、スイッチが意図通り反応しない場合があります。
- 極端に指の先端での操作や、極端に指を寝かせ指の腹で操作した場合には、スイッチが意図通り反応しない場合があります。
- 水滴や汚れがスイッチ表面に付着している場合、スイッチが意図通り反応しない場合があります。
  電源ポジションを OFF にして、スイッチ表面を清掃してください。
- 分厚い防寒手袋では、スイッチに触れても反応しづらい場合があります。
  設定で“ステアリングスイッチ”の“タッチ感度”を“高”に変更するか、それでも改善しない場合は手袋を外して操作ください。
  センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。
- 極力意図しない限りスイッチ操作パネルの上に、指や手を置かないでください。
  スイッチが一時的に意図通り反応しなくなる場合がありますが、スイッチから指を数秒離すと正常な動作に戻ります。
- 車速設定などのフリック操作でゆっくり指を動かすとスイッチが反応しにくくなる場合があります。
  すばやく指を動かすとスイッチが反応しやすくなります。
- 左右のスイッチを同時に操作すると一方のスイッチの操作を受け付けない場合があります。

Google Gemini または Google アシスタントの操作

Gemini または Google アシスタントを使うことにより音声で多くの車両機能を操作できます。
「OK Google」と発話して Gemini または Google アシスタントを起動してください。

Gemini または Google アシスタントを起動するときは次の操作をしてください。

・「OK Google」と起動コマンドを発話する。
・アプリケーションリストの をタップする。
・ナビゲーションバーの をタップする。
・オーディオリモートコントロールスイッチの を短押しする。

⚠ 注意

「OK Google」で Gemini または Google アシスタントを起動するには、“設定”を使用して起動コマンドを有効にする必要があります。
センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

付録

テレビ*

⚠ 注意

本機は、ARIB (電波産業会) 規格にもとづいた商品仕様になっております。将来規格変更があった場合は、商品仕様を変更する場合があります。

各社の商標および製品商標に対しては、特に注記のない場合でも、これを十分尊重いたします。

本機に搭載されているソフトウェア、またはその一部につき、改変、翻訳、翻案、リバースエンジニアリング、逆コンパイル、逆アセンブルを行なったりそれに関与してはいけません。

本機を、法令により許されている場合を除き、日本国外に持ち出してはいけません。

コンテンツ権利保護専用方式について

本機は、コンテンツ権利保護専用方式 (ソフトウェア方式) を採用しています。そのため、B-CAS カードは不要です。

Google Gemini または Google アシスタント、Google マップおよび Google Play

⚠ 注意

適用法によって認められる最大の範囲で Google Gemini または Google アシスタント、Google マップ、Google Play およびその情報は、瑕疵 (かし) の有無を問わずかつ一切の保証をともなわない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客さまの責任の下で使用されるものとします。

 *グレード/仕様別装備

⚠ 注意

アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。
適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害などについて、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。
なお、当該損害などには以下のものを含みます。

- 逸失利益
- データの破損または損失
- 事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失など

Google Gemini または Google アシスタント、Google マップおよび Google Play を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Google Gemini または Google アシスタント、Google マップおよび Google Play を使用してください。

知識

Google Gemini または Google アシスタント、Google マップおよび Google Play は Google 社によって提供されています。使用するには Google Gemini または Google アシスタント、Google マップおよび Google Play 利用規約に同意していることを条件としています。

Apple CarPlay

⚠ 注意

適用法によって認められる最大の範囲で Apple CarPlay (以下「アプリケーション」) およびその情報は、瑕疵 (かし) の有無を問わずかつ一切の保証をともなわない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客さまの責任の下で使用されるものとします。
アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。
適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害などについて、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。
なお、当該損害などには以下のものを含みます。

- 逸失利益
- データの破損または損失
- 事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失など

Apple CarPlay を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Apple CarPlay を使用してください。

知識

Apple CarPlay は Apple 社によって提供されています。使用するには Apple iOS 利用規約および Apple CarPlay 利用規約に同意していることを条件としています。

Apple CarPlay 使用中は、場所や速度などの車両データが iPhone に転送されます。詳しくは Apple プライバシーポリシーを参照ください。

Android Auto

注意

適用法によって認められる最大の範囲で Android Auto (以下「アプリケーション」) およびその情報は、瑕疵 (かし) の有無を問わずかつ一切の保証をともなわない「現状有姿」かつ「利用可能な限り」提供され、お客さまの責任の下で使用されるものとします。
アプリケーションの商品性、満足すべき品質、特定目的への適合性、正確性、平穏享有、第三者の権利の非侵害性に関する明示的、黙示的または法的な保証を含め、マツダは一切の保証はしません。
適用法により禁止されない限り、アプリケーションとその使用または使用不能に起因/関連する、人身傷害または付随、特別、間接もしくは派生損害などについて、いかなる場合もマツダおよびマツダ関連会社は一切の責任を負いません。
なお、当該損害などには以下のものを含みます。

- 逸失利益
- データの破損または損失
- 事業の中断またはその他のいかなる商業的損害もしくは損失など

Android Auto を使用するときは、運転に集中して周囲の状況を十分に確認し、運転者の責任において Android Auto を使用してください。

知識

Android Auto は Google 社によって提供されています。使用するには Android Auto 利用規約に同意していることを条件としています。

Android Auto 使用中は、場所や速度などの車両データが Android スマートフォンに転送されます。詳しくは Google プライバシーポリシーを参照ください。

商標について

・iPhone, iPod touch, iPod nano, Siri and Lightning are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries.
・The trademark “iPhone” is used in Japan with a license from Aiphone K.K.
・Apple CarPlay is trademarks of Apple Inc.

・Use of the Apple CarPlay logo means that a vehicle user interface meets Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this vehicle or its compliance with safety and regulatory standards. Please note that the use of this product with iPhone, iPod may affect wireless performance.
・iOS is a trademark or registered trademark of Cisco in the U.S. and other countries and is used under license.
・“Made for iPhone” and “Made for iPod” mean that an accessory has been designed to connect specifically to iPhone or iPod, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards.
Please note that the use of this accessory with iPhone or iPod may affect wireless performance.



Made for

・iPhone 14 Pro Max
・iPhone 14 Pro
・iPhone 14 Plus
・iPhone 14
・iPhone SE (3rd generation)
・iPhone 13 Pro Max
・iPhone 13 Pro
・iPhone 13 mini
・iPhone 13
・iPhone 12 Pro Max
・iPhone 12 Pro
・iPhone 12
・iPhone 12 mini
・iPhone SE (2nd generation)
・iPod touch (7th generation)

・Google、Android、Android Auto、Google マップ、およびその他のマークは Google LLC の商標です。互換性のある Android スマートフォンとデータ通信プランが必要です。
・Google アシスタントおよび一部の関連機能は、一部の言語または国ではご利用いただけません。
・“Works with Android”



・AUDIOPILOT は、ボーズコーポレーションの登録商標です。
・Centerpoint は、ボーズコーポレーションの登録商標です。
・This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft.
Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

・本製品は、MPEG-4 Patent Portfolio License、AVC Patent Portfolio License および VC-1 Patent Portfolio License にもとづきライセンスされており、以下に記載する行為に係るお客さまの個人的かつ非営利目的の使用を除いてはライセンスされておりません。
画像情報を MPEG-4 Visual、AVC、VC-1 規格に準拠して (以下、MPEG-4/AVC/VC-1 ビデオ) を記録すること。
個人的活動に従事する消費者によって記録された MPEG-4/AVC/VC-1 ビデオ、または、ライセンスをうけた提供者から入手した MPEG-4/AVC/VC-1 ビデオを再生すること。
詳細については MPEG LA, L.L.C. (http://www.mpegla.com) をご参照ください。
・Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、パナソニック(株)はこれらのマークをライセンスにもとづいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

・SDHC Logo is a trademark of SD-3C, LLC.

Access Advance

Covered by patents at patentlist.accessadvance.com

マツダエマージェンシーコール

マツダエマージェンシーコールについて

エアバッグが展開される衝突事故を車両が検知した場合、システムの自動検知によりドライバー異常時対応システム (DEA)*が作動し自車が停止した場合や、SOS ボタンを押した場合に、緊急通報オペレーターを通じて緊急車両の手配などを行なうことができます。
また、交通事故発生時、車両データ (後席情報含む) の活用によりお客さまの重症度を推定し、ドクターヘリなどの早期出動判断を行なう D-Call Net®にも対応しています。

⚠ 注意

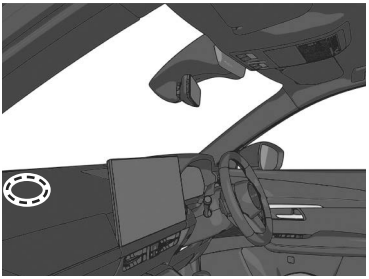
マツダエマージェンシーコールを作動させるためには、コネクティッドサービスの契約が必要になります。
詳しくはコネクティッドサービス取扱説明書をご確認ください。
(URL)
https://www.mazda.co.jp/carlife/connected/

 *グレード/仕様別装備

マツダエマージェンシーコール使用上の警告･注意

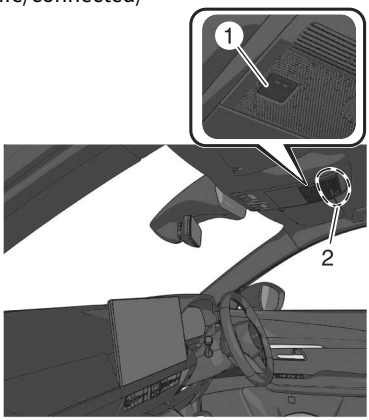
⚠警告

コネクティッドサービス使用時､植込み型心臓ペースメーカーおよび植込み型除細動器の医療用機器を使用している方はアンテナから約 22 cm 以内に医療用機器を近づけない。
電波により､医療用機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。



マツダエマージェンシーコールの使いかた

詳しくはコネクティッドサービス取扱説明書をご確認ください。
(URL)
https://www.mazda.co.jp/carlife/connected/



1 SOS ボタン
2 マイク､スピーカー

収納

収納使用上の警告･注意

⚠ 警告

荷物を積むときは確実に固定する。
荷物を確実に固定しないと､走行中や急ブレーキ時などに荷物が移動したりくずれたりして､けがや思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

グローブボックスなどのフタを走行中は必ず閉めてください。急ブレーキ時や衝突時に収納ボックスのフタや内部の物が飛散してけがをするおそれがあります。

フタのついていない収納スペースに物を入れるときは､収納のしかたに注意してください。収納の状態により､急ブレーキや急旋回時､急加速時などに内部の物が飛び出すなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

炎天下に駐車するときは､収納ボックス内にメガネやライターを放置しないでください。収納ボックス内が高温になるため､ライターが爆発したり､プラスチックレンズ･プラスチック素材のメガネが変形･ひび割れを起こしたりすることがあります。

カップホルダー

カップホルダー使用上の警告･注意

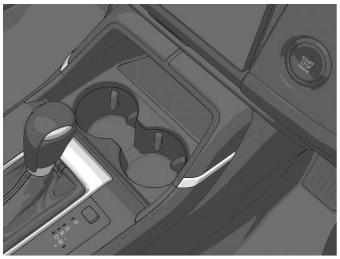
⚠ 注意

走行中は熱い飲み物を置かないでください。熱い飲み物がかかると､やけどをするおそれがあります。

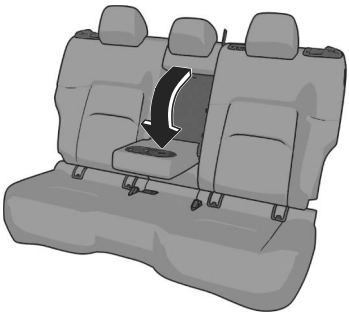
カップホルダーの使いかた

次の位置にカップホルダーを設置しています。

フロント



リア



ボトルホルダー

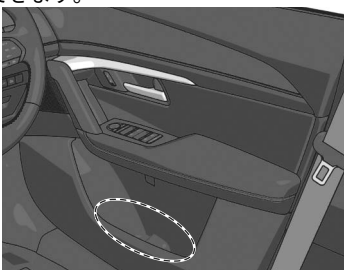
ボトルホルダー使用上の警告･注意

⚠ 注意

フタのないペットボトルなどは置かないでください。走行中やドアを開閉するときにペットボトルなどの中身がこぼれるおそれがあります。

ボトルホルダーの使いかた

ペットボトルなどを置くことができます。



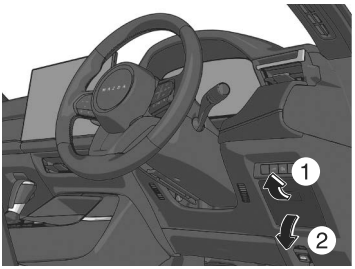
グローブボックス

グローブボックスの使いかた



コインボックス

コインボックスの使いかた



センターコンソール

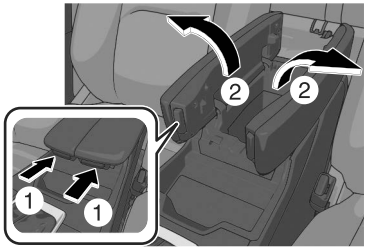
センターコンソール使用上の警告･注意

⚠ 注意

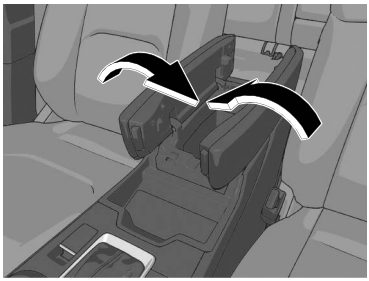
フタを操作するときは､フタの可動域周辺に手や指を置かないでください。手や指などをはさんで､けがをするおそれがあります。

センターコンソールの使いかた

開く



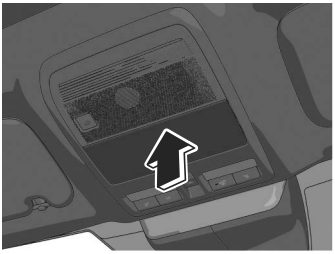
閉じる



オーバーヘッドコンソール

オーバーヘッドコンソールの使いかた

オーバーヘッドコンソールのサングラスホルダーを押すと開きます。



リアコートフック

リアコートフック使用上の警告･注意

⚠ 警告

アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。
服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し､重大な傷害につながるおそれがあります。

リアコートフックの使いかた

リアコートフックは､コートやジャケットなどをかけるときにお使いください。



ラゲッジルーム

ラゲッジルームについて

ラゲッジフック

ロープやネットで荷物を固定するときに使用します。

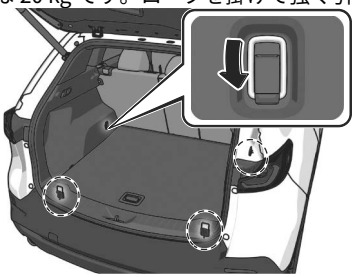
サブトランクボックス

小物などを収納することができます。

ラゲッジルームの使いかた

ラゲッジフック

ラゲッジフックの引っ張り荷重は 20 kg です。ロープを掛けて強く引っ張らないでください。



サブトランクボックス

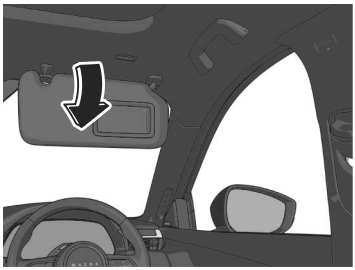
ラゲッジボードを開く。



サンバイザー

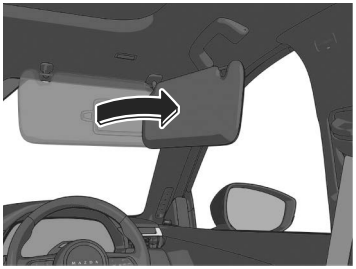
サンバイザーの使いかた

前からの光をさえぎるとき



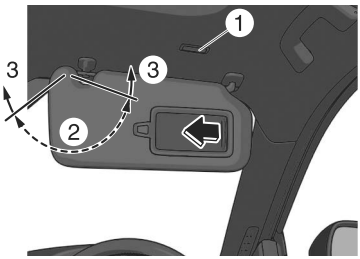
横からの光をさえぎるとき

フックからはずして、横にする。



バニティミラー

バニティミラーの使いかた



1 バニティミラーランプ*
2 点灯範囲
3 消灯範囲
ランプ装備車はフタを開けるとランプが点灯します。
サンバイザーの傾きが点灯範囲内のときのみランプが点灯します。

知識

12V バッテリーあがりを防止するため、車両の電源が OFF でバニティミラーランプが点灯したままのときは自動的に消灯します。

バニティミラーランプは、次の操作により、再度点灯することができます。

・いずれかのドアを開閉する。
・いずれかのドアを解錠する。
・車両の電源を ACC または ON にする。
・ルームランプまたはフロントマップランプを点灯させる。

ルームランプ

イルミネーテッドエントリーシステムについて

運転席ドアの開閉や車両の電源に連動して、室内照明が点灯/消灯します。

 *グレード/仕様別装備

イルミネーテッドエントリーシステムの使いかた

ルームランプスイッチが DOOR 連動 ON の位置で、次のような操作をすると、ルームランプが点灯します。

・車両の電源が OFF で、いずれかのドアを解錠したとき。
・すべてのドアが閉まっている状態で、車両の電源を OFF にしたとき。

次のような操作をすると、ルームランプが消灯します。

・運転席ドアを施錠したとき
・車両の電源を ON にしたとき

車両の電源が OFF で室内照明が点灯したままのときは、一定時間経過後に消灯します。

知識

イルミネーテッドエントリーシステムが消灯するまでの時間を変更することができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

ルームランプの ON/OFF スイッチを操作してルームランプを点灯させているときは、イルミネーテッドエントリーシステムは連動しません。

ルームランプの使いかた

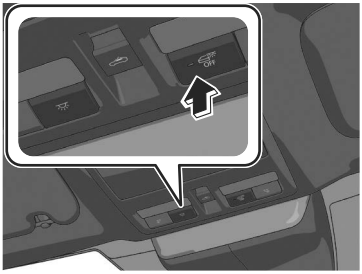
フロント



ルームランプが点灯します。
もう一度、☼ スイッチを押すとルームランプが消灯します。

ドア連動の ON/OFF 切り替え

1.

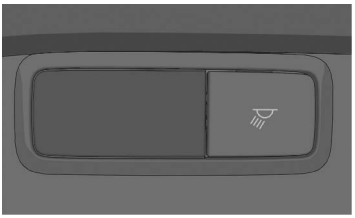


2. OFF スイッチ内の表示灯が消灯し、ドア連動が ON になります。
   いずれかのドアを開けるとランプが点灯します。
   イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。
3. もう一度スイッチを押すと、スイッチ内の表示灯が点灯し、ドア連動が OFF になります。

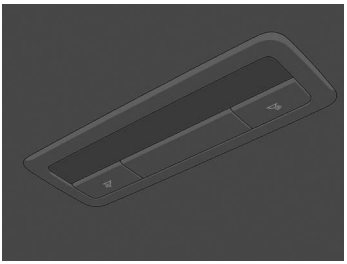
リア

フロントルームランプの操作に連動してリアルームランプも点灯/消灯します。

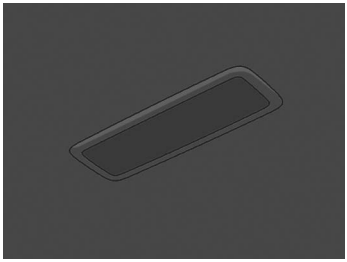
A タイプ



B タイプ

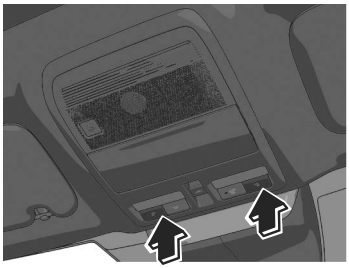


C タイプ



マップランプの使いかた

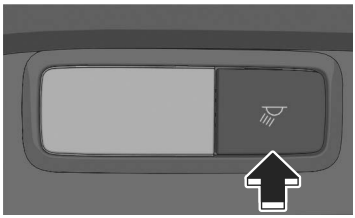
フロント



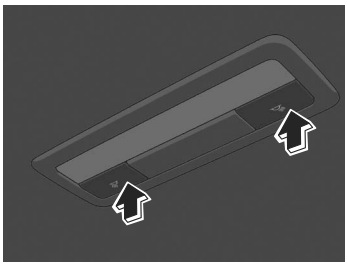
マップランプが点灯します。
もう一度、スイッチを押すとマップランプが消灯します。

リア*

A タイプ



B タイプ



マップランプが点灯します。
もう一度、スイッチを押すとマップランプが消灯します。

知識

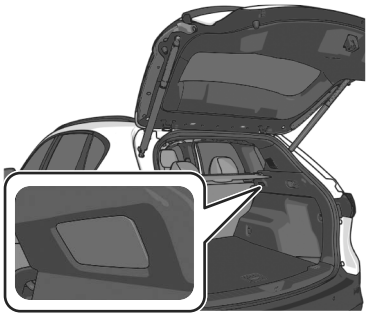
次のいずれかのときはスイッチを押しても消灯しません。

・ルームランプの スイッチを操作して、ランプを点灯させているとき。
・イルミネーテッドエントリーシステムが作動しているとき。

リアマップランプが消灯しているときは、ルームランプのスイッチの操作に連動して点灯/消灯します。

ラゲッジルームランプの使いかた

リアゲートを開ける。

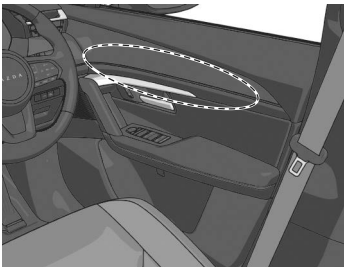


ラゲッジルームランプが点灯します。
リアゲートを閉めるとラゲッジルームランプが消灯します。

ドアランプの使いかた*

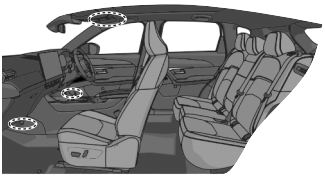
車両の電源をオンにするとドアランプが点灯し、電源をオフにすると消灯します。
照明の点灯/消灯、夜間の明るさ、色はマツダコネクトで変更することができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている タップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。



アンビエントライトの使いかた*

車内のイルミネーテッドエントリーシステムと車幅灯の点灯に連動して、アンビエントライトが点灯/消灯します。



知識

車両の電源を OFF にしたとき、イルミネーテッドエントリーシステムの作動により点灯/消灯します。

車幅灯が点灯しているときにアンビエントライトの照度を変更することができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

電源ソケット

電源ソケットについて

車両の電源が ACC または ON のとき、電気製品の電源として使用します。
最大消費電力 120 W (DC 12 V—10 A) 以下の電気製品を使用してください。

電源ソケット使用上の警告･注意

⚠ 注意

使用しないときは､必ずフタを閉めておいてください。ソケットに異物が入ったり､飲料水などがかかったりすると､故障につながるおそれがあります。

電気製品のプラグはソケットに確実に差し込んでください。プラグが確実に差し込まれていないと､異常に発熱することがあり､ヒューズが切れるおそれがあります。

消費電力が 120 W (DC12 V―10 A) を超える電気製品は使用しないでください。故障につながるおそれがあります。

電源ソケットに接続される機器によってはオーディオにノイズが発生することがあります。

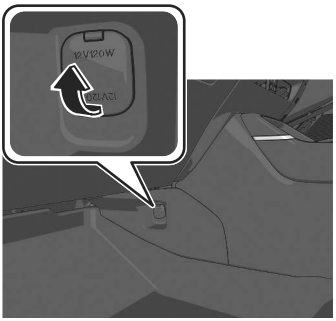
シガーライターを差し込まないでください。

電源ソケットに接続される製品によっては､警告灯が点灯するなど車両のシステムに影響をおよぼすおそれがあります。接続されている機器をはずし､問題が改善されるか確認してください。改善された場合､機器をソケットからはずした後､車両の電源を OFF にしてください。問題が継続する場合､マツダ販売店にご相談ください。

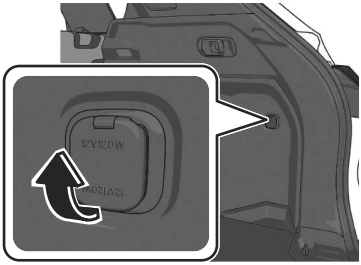
電源ソケットの使いかた

フタを開けて､使用するプラグを差し込みます。

フロント



リア



使用後は、プラグを抜き、フタを閉めます。

USB 電源ソケットについて*

USB 電源ソケットは車両の電源が ACC または ON のとき、USB デバイスの電源として使用することができます。
USB デバイスは、次の最大消費電力のものだけを使用してください。

フロントシート

Type-C

・18 W (DC 9 V, 2 A) 以下
・15 W (DC 5 V, 3 A) 以下

*1　USB Power Delivery 対応機器を接続したとき

リアシート

Type-C

・15 W (DC 5 V, 3 A) 以下

USB 電源ソケット使用上の警告･注意

⚠ 注意

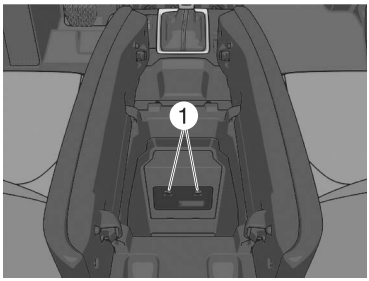
USB プラグを USB 電源ソケットに確実に差し込んでください。USB プラグが確実に差し込まれていないと、異常発熱してヒューズが切れることがあります。

3 A を超える電流を必要とする USB デバイスは使用しないでください。故障の原因となることがあります。

USB 電源ソケットの使いかた

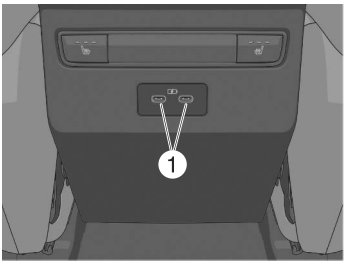
使用するプラグを差し込みます。

フロントシート



1 USB 電源ソケット
このソケットを使用し、マツダコネクトと接続することができます。
マツダコネクトとの接続方法は、マツダコネクト取扱書を参照ください。

リアシート



1 USB 電源ソケット

ワイヤレス充電 (Qi)

ワイヤレス充電 (Qi) について*

ワイヤレス充電 Qi 規格に対応したスマートフォンなどの携帯機器を充電できます。
最大消費電力が 5 W、または 15 W 以下の携帯機器を使用してください。

商標について

「Qi」および Qi シンボルはワイヤレスパワーコンソーシアム (WPC) の商標または、登録商標です。

ワイヤレス充電 (Qi) 使用上の警告・注意

⚠ 警告

ワイヤレス充電器 (Qi) からの電波は、植え込み型心臓ペースメーカー、植え込み型除細動器などの医療機器の作動に影響をおよぼすおそれがあります。

- 医療用機器を使用している方は、ワイヤレス充電器 (Qi) の電波の影響を医師や医療用機器製造業者などに確認してください。
- 医療用機器への影響を防ぐために、ワイヤレス充電器 (Qi) の機能を作動させないようにすることができます。 詳しくは、マツダ販売店にご相談ください。

ワイヤレス充電器 (Qi) の故障や損傷、火災、発熱によるやけど、または感電などの事故につながるおそれがあるため、次の点を守って使用してください。

- ワイヤレス充電器 (Qi) の取り付け、取りはずし、分解、配線の変更はしないでください。取り付け、取りはずしが必要な場合はマツダ販売店にご相談ください。
- ワイヤレス充電器 (Qi) が故障している状態で使用しないでください。また、煙が出たり、異音、異臭がしたりする場合には、車両を安全な場所に停止し、車両の電源を OFF にしてマツダ販売店にご相談ください。
- 小物入れとして使用する場合は、ワイヤレス充電器 (Qi) の電源を OFF にしてください。
- 充電エリアと携帯機器の間に金属物をはさまないでください。また、ワイヤレス充電器 (Qi) に金属製のシールなどを貼り付けないでください。
- 充電するときは、ワイヤレス充電器 (Qi) 上に携帯機器以外の物を置かないでください。また、金属物、IC カード、硬貨、磁気を帯びたものなどを充電エリア周辺に置かないでください。
- 充電エリアのほこりや汚れなどを落としてから使用してください。
- 強い力や衝撃を与えたり、ぬらしたりしないでください。
- ワイヤレス充電器 (Qi) に対応している携帯機器のみを使用してください。

⚠ 注意

携帯機器を充電エリアに置いている場合、ワイヤレス充電器 (Qi) と車両のキーは離してください。ワイヤレス充電器 (Qi) が電波干渉して、車両のキーを認識しない場合があります。

次のような場合は、充電が正常に作動しない場合があります。

- 携帯機器が満充電のとき
- 携帯機器と充電エリアの間に異物があるとき
- 携帯機器の温度が高温になっているとき
- 携帯機器の充電側を上にして置いたとき
- 携帯機器を置く場所が極端に充電エリアの中央からずれているとき
- 近くにテレビ塔、発電所、空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器の Near Field Communication (NFC) 機能が ON に設定されているとき (携帯機器の機種によります)

次のものは、携帯機器のデータが消える、または故障につながるおそれがあるため、充電エリアに近づけないでください。

- 磁石、磁気カード、磁気記録メディアなど、磁気を帯びたもの

⚠ 注意

➢ 腕時計などの精密機器

ご使用の前には必ず携帯機器のデータのバックアップをとってください。携帯機器のデータが消えるおそれがあります。

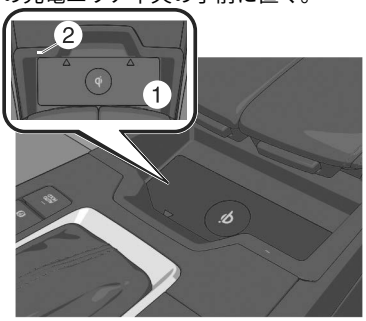
ワイヤレス充電器 (Qi) を油類・アルコール、シンナーなどでふいたり、ヘアスプレー、殺虫剤などをかけたりしないでください。故障やひび割れの原因となります。

携帯機器を車内に放置しないでください。車内が高温となり、故障につながるおそれがあります。

ワイヤレス充電器 (Qi) から携帯機器を取りはずすときはセレクトレバーに手が触れないよう注意してください。
セレクトレバーに触れると、意図しない変速が発生し、思わぬ事故につながる可能性があります。

ワイヤレス充電 (Qi) の使いかた

1. エンジンを始動する。
   ワイヤレス充電器 (Qi) の電源が ON になり、LED インジケーターが点灯します。
2. ワイヤレス充電 Qi 規格準拠機器 (最大消費電力が 5 W、または 15 W 以下の携帯機器) をトレー上の充電エリア中央の手前に置く。



1 充電エリア
2 LED インジケーター
充電を開始すると LED インジケーターが橙色、または緑色で点灯します。
すべてのドア、リアゲートが閉まっている状態で充電が開始されます。

LED インジケーターの詳細については、次の LED インジケーター表を参照してください。

充電状態の表示について

ワイヤレス充電器 (Qi) の充電状態は、LED インジケーターやセンターディスプレイに表示されるアイコンで確認することができます。

点灯/点滅パターン	アイコン表示	状態
点灯しない	—	OFF
白色の点滅		充電準備中
白色の点灯		充電可能
橙色の点灯		普通充電中
緑色の点灯		急速充電中*1
緑色/橙色の点滅		充電エリアから携帯機器がずれている
赤色の点滅		高温による充電停止中
		異物検知による充電停止中
赤色の点灯		内部異常、故障により、修理が必要です。マツダ販売店にご相談ください。

*1　携帯機器によっては、普通充電と急速充電の切り替えができるものがあります。

知識

使用環境や使用状況によっては、充電効率が下がる、または充電ができない場合があります。

使用する携帯電話のケースやアクセサリーによっては、充電できなかったり、充電効率が落ちて充電時間が長くなったりする場合があります。充電エリアに携帯端末を置いても充電が始まらない場合は、ケースやアクセサリーを取りはずしてください。

車両の状態によっては、一時的に充電量が制限されたり、充電が中止されたりすることがありますが、異常ではありません。

充電中に携帯機器の温度が上がると、携帯機器の保護機能により充電が停止する場合があります。その場合には、携帯機器の温度が十分に下がってから充電を行なってください。

ワイヤレス充電器 (Qi) を使用する際、Near Field Communication (NFC) 機能を用いたアプリケーションが起動することがありますが、ワイヤレス充電器 (Qi) の故障ではありません。

エンジン停止時など、車両の状況により充電が一時的にキャンセルされる場合があります。

ワイヤレス充電 (Qi) の便利な使いかた

ワイヤレス充電器 (Qi) の ON/OFF、接続モードの切り替えができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

アシストグリップ

アシストグリップ使用上の警告･注意

⚠ 警告

アシストグリップやコートフックなどには重たいものやとがったものをかけない。
服などをかけるときはハンガーを使わないでください。カーテンエアバッグが膨らむときにこれらのものが飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しない。
アシストグリップに過度の負荷がかかると破損し、けがをするおそれがあります。

アシストグリップの使いかた

アシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



アクセサリー

電気･電子部品/機器使用上の警告･注意

⚠ 注意

車両の電気･電子部品/機器の取り付け、取りはずし、交換をする場合は、マツダ販売店に相談してください。車両や他の部品への悪影響、誤動作や破損、故障の原因になる可能性があります。

フロアマット

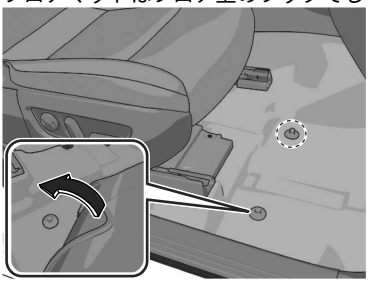
フロアマット使用上の警告･注意

⚠ 注意

フロアマットは車にあったものを使用してください。

フロアマットは重ねて使用しないでください。

フロアマットはフロア上のフックでしっかり固定してください。

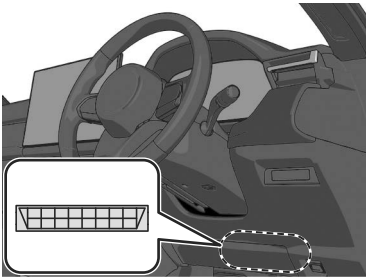


故障診断コネクター

故障診断コネクターについて

⚠ 注意

故障診断コネクターには、点検整備用の故障診断機以外を接続しないでください。故障診断機以外の機器を接続すると、車の電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬ故障につながるおそれがあります。

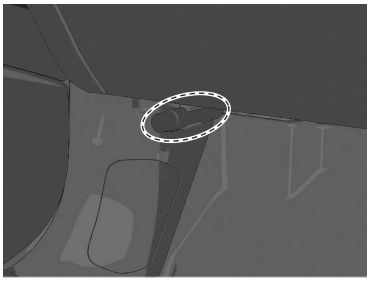


発炎筒

発炎筒について

事故や故障で停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。
発炎筒に記載されている次のことをよく読み、あらかじめ確認しておいてください。

・使用方法
・使用上の注意事項
・発炎時間
・有効期限



発炎筒使用上の警告･注意

⚠ 警告

油､ガソリンなど可燃物の近くでは使用しない。
火災につながるおそれがあります。

使用するときは筒先を顔や体に向けたり近づけたりしない。
やけどなど､重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにはさわらせない。
誤って使用すると､やけどや思わぬ事故につながるおそれがあります。

トンネル内では発炎筒を使用しない。
トンネル内で発炎筒を使用すると､煙で視界が悪くなるため､思わぬ事故につながるおそれがあります。必要なときは非常点滅灯を使用してください。

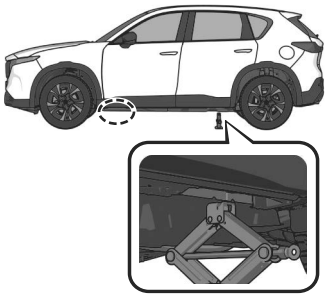
ジャッキ

ジャッキについて

知識

ジャッキはお客さまのお車に標準で搭載されておりません。

ジャッキアップ指定位置



ジャッキ使用上の警告･注意

⚠ 警告

ジャッキアップするときはセレクトレバーを P の位置に入れ､パーキングブレーキをかけ､ジャッキをかける位置と対角の位置に輪止めをする。
パーキングブレーキをかけて輪止めをしないと､車が動きジャッキがはずれて思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキアップ指定位置以外にジャッキをかけたり､ジャッキの上下に台やブロックなどを入れたりしない。
車体が変形したり､ジャッキがはずれたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

必要以上にジャッキアップしない。
車体が不安定になるため､思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキアップした状態で車のエンジンを始動しない。
ジャッキがはずれた場合､思わぬ事故につながるおそれがあります。

ジャッキアップした車の下には絶対に入らない。
万一ジャッキがはずれた場合､重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

人を乗せたままジャッキアップしないでください。

8 いざというときの対処法

緊急を要するとき..... 8-4
事故に対処する.....8-4
マツダエマージェンシーコールを利用する.....8-4
冠水や浸水しているときの対処をする.....8-4

車両が動けなくなったとき..... 8-5
路上で動けなくなったときの対処をする.....8-5
踏切内で動けなくなったときの対処をする..... 8-6
スタックしたときの対処をする 8-7

けん引が必要なとき..... 8-7
けん引してもらう.....8-7
けん引フックを使う.....8-9

キーが作動しないとき..... 8-12
キーの一時停止機能を解除する 8-12
補助キーを使って解錠する 8-12
電池切れしたキーでエンジンを始動する..... 8-13

エンジンが始動しないとき..... 8-15
12 V バッテリーあがりを処置する.....8-15

エンジンが停止できないとき.... 8-17
エンジンを強制的に停止する 8-17

ブレーキシステム (フットブレーキ) が故障したとき.....8-18
緊急ブレーキを使用する.....8-18

オートホールドが解除できないとき 8-18
オートホールドを強制的に解除する.....8-18

セレクトレバーが操作できないとき 8-19
シフトロック装置を解除する 8-19

オーバーヒートしたとき..... 8-20
オーバーヒートを処置する 8-20

パンクやバースト (破裂) したとき 8-21
パンクやバースト (破裂) に対処する.....8-21
タイヤパンク応急修理キットを使う.....8-21

リアゲートが開けられなくなったとき..... 8-28
リアゲートを荷室から開ける 8-28

パワーウインドーが操作できないとき..... 8-29
自動開閉機構を復帰する.....8-29
はさみ込み防止機構を解除する 8-29

パノラマサンルーフが操作できないとき..... 8-29
パノラマサンルーフの初期設定をする*.....8-29

フロントワイパーが高速作動するとき..... 8-30
マツダ販売店で点検を受ける 8-30

ウォッシャー液が噴射しないとき 8-30
ウォッシャータンクの液量を確認する..... 8-30

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき..... 8-30
アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないときは 8-30

警告灯が点灯したとき..... 8-30
警告灯について..... 8-30
ブレーキ警告灯..... 8-30
12 V バッテリー充電警告灯 8-31
オイル警告灯.....8-31
電動パワーステアリング警告灯 8-32
ABS 警告灯.....8-32
マスター警告灯..... 8-32
ブレーキコントロールシステム警告灯.....8-33
電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯.....8-33
エンジン警告灯..... 8-34
i-stop 警告灯 (橙)..... 8-34
オートマチックトランスミッション警告灯.....8-34
AWD 警告灯*..... 8-35
TCS/DSC 作動表示灯.....8-35
エアバッグ/フロントシートベルトプリテンショナー警告灯 8-35
KEY 警告灯 (赤)..... 8-35
セキュリティ表示灯..... 8-36
ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) 警告灯 (橙)*..... 8-36
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告灯 (橙)*..... 8-36
i-ACTIVSENSE 警告灯..... 8-37
エクステリアランプ警告灯 8-37
燃料残量警告灯.....8-37
エンジンオイルレベル警告灯 8-37
シートベルト警告灯 (フロントシート).....8-38
シートベルト警告灯 (リアシート) (赤)..... 8-38
リアシートアラート警告灯 8-39
ウォッシャー液残量警告灯*..... 8-39
半ドア警告灯/リアゲート開警告灯/ボンネット開警告灯.....8-39
KEY 表示灯 (緑) (点滅).....8-40
レンチ表示灯.....8-40
ドライバー･モニタリング検知性能低下表示灯.....8-41

チャイムがなったとき.....8-41
ランプ消し忘れ防止チャイム 8-41
シートベルト着用忘れチャイム 8-42
電源オフ忘れ警告チャイム 8-42

キー車外持ち出し警報チャイム 8-42
キー車内閉じ込み警報チャイム 8-42
ラゲッジルーム内キー閉じ込み警報チャイム (アドバンストキーレス機能装備車)..... 8-42
ドアロック不作動警告チャイム 8-43
パワーリアゲート警告チャイム 8-43
ブレーキシステム警告チャイム 8-43
電動ハンドルロック警告チャイム 8-43
電動パーキングブレーキ (EPB) 警告チャイム..... 8-43
12 V バッテリー充電量低下チャイム.....8-44

緊急を要するとき

事故に対処する

事故が起きたときは、あわてず次の処置をしてください。
1. 事故の続発を防止する。
   他の交通のさまたげにならない安全な場所 (路肩、空き地など) に車を移動させ、エンジンを停止します。
2. 負傷者の救護をする。
   負傷者がいる場合は、医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行ないます。
   この場合、とくに頭部に傷を受けているようなときは、むやみに動かさないようにします。ただし、後続事故のおそれがある場合は、安全な場所に移動させます。
3. 警察へ連絡する。
   事故の発生場所、状況、負傷の程度などを報告し、指示を受けます。
4. 相手の氏名、住所などを確認する。
5. マツダ販売店、保険会社へ連絡する。

マツダエマージェンシーコールを利用する

緊急通報オペレーターを通じてコネクティッドサービスを利用することができます。
→7-14 ページ「マツダエマージェンシーコールについて」

冠水や浸水しているときの対処をする

⚠ 警告

冠水した道路や冠水のおそれがある道路は、走行しない。
水位がフロアを超えると、パワーウインドーが作動しなくなったり、エンジンやモーターが停止したりして車が移動できなくなるおそれがあります。

水没し車が移動できなくなったときは

・ドアを開けることができる場合は、ドアを開け車外に出る
・ドアを開けることができない場合、ドアの窓ガラスを開けて窓から車外に出る

知識

車内が浸水していない状態で、車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けるのが難しくなります。車内の水位が車外の水位と同じになると、ドアを開けることができる可能性が高まります。

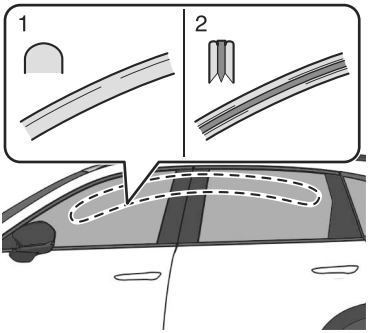
緊急脱出用ハンマーの使用について

使用方法は、脱出用ハンマーに付属している取扱説明書をお読みください。

・フロントガラスは合わせガラスのため、脱出用ハンマーで割ることはできません。
・窓ガラスに合わせガラスを使用しているお車があります。その場合も脱出用ハンマーでは割ることはできません。

知識

ガラスの断面から、ガラスの種類を見分けることができます。平常時にご確認ください。



1 強化ガラスなど: 脱出用ハンマーで割れるガラス
2 合わせガラス: 脱出用ハンマーで割れないガラス

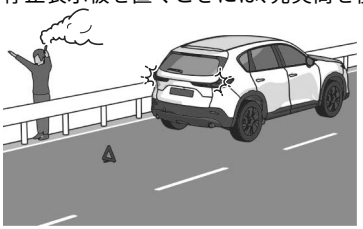
車両が動けなくなったとき

路上で動けなくなったときの対処をする

警告

万一、事故や故障などで車から燃料が漏れている場合は、すぐにエンジンを停止する。
爆発、火災につながるおそれがあり危険です。また、発炎筒は車から離れたところで使用してください。

1. 車を路肩に止め、非常点滅表示灯を点滅させる。
→5-64 ページ「非常点滅表示灯について」
2. 必要に応じて停止表示板 (停止表示灯)、発炎筒を使用し、後続車に故障車であることを知らせる。
→7-36 ページ「発炎筒について」
高速道路や自動車専用道路などでは車の後方に停止表示板 (停止表示灯) を置くことが法律で義務付けられています。
停止表示板を置くときには、発炎筒を使って合図をするなど、後続車に十分注意してください。

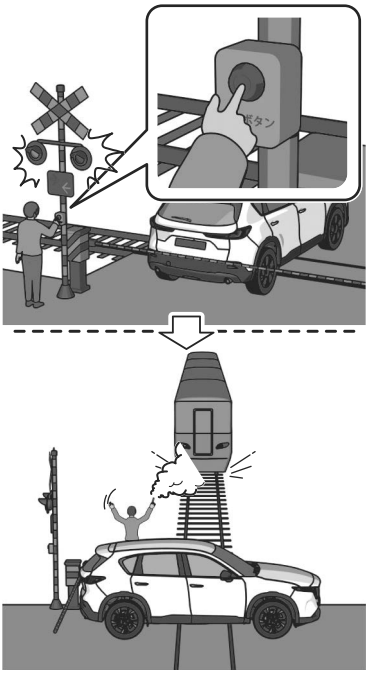


3. 全員が車から降り、ガードレールの外などの安全な場所に、すみやかに避難する。
4. 安全を確保した後、救援を求める。
故障の修理などお困りの際はマツダ販売店に連絡してください。

踏切内で動けなくなったときの対処をする

脱輪などで動けなくなったとき

1. 踏切の非常ボタンを押す。
2. 緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図する。
   →7-36 ページ「発炎筒について」



3. 付近の人に救援を求める。

エンストで動けなくなったとき

1. エンジンをかけ直す。
2. エンジンがかからないときは、踏切の非常ボタンを押す。
   緊急を要するときは、発炎筒で列車に合図する。
   →7-36 ページ「発炎筒について」
3. 付近の人に救援を求める。
4. セレクトレバーを N の位置に入れ、安全な場所まで押し出す。

知識

スターターを使って、車を緊急避難させることはできません。

スタックしたときの対処をする

ぬかるみ、砂地、深雪路などで駆動輪が空転したり、埋まり込んだりして動けなくなることをスタックといいます。

・周囲の安全を十分に確認してください。脱出直後に車両が突然動き出し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・タイヤ前後の土や雪を取り除くか、タイヤの下に木や石をあてがい、セレクトレバーを D または R の位置に入れて、アクセルペダルを軽く踏みます。セレクトレバー操作中はアクセルペダルを踏まないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。また、車両の周辺に人がいないことを確認してください。あてがった木や石が飛散し、重大な傷害につながるおそれがあります。
・タイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト (破裂) したり、異常過熱したり思わぬ事故につながるおそれがあります。
・アクセルを過度に空ぶかししたり、タイヤを空転させたりしないでください。トランスミッションなどを損傷するおそれがあります。

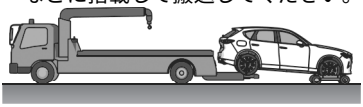
けん引が必要なとき

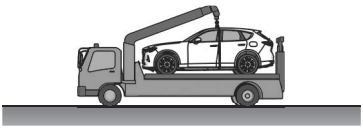
けん引してもらう

けん引はできるだけマツダ販売店などに依頼してください。特に、エンジンが始動しているのに車が動かないときや異常な音がするときは駆動装置の故障が考えられます。必ずマツダ販売店などに連絡してください。

⚠ 警告

AWD 車のけん引は、前後輪すべてを持ち上げるか、前後輪接地状態で搬送する。
AWD 車を前輪または後輪だけを持ち上げた状態でけん引すると、駆動装置が破損したり、車輪が台車から飛び出したりなど思わぬ事故につながるおそれがあります。駆動装置の故障時は、トレーラーなどに搭載して搬送してください。



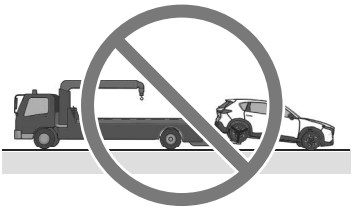


長い下り坂を走行するときは、レッカー車でけん引する。
ロープでけん引をすると、車間距離を保つためにフットブレーキを多用し、ブレーキが過熱して効かなくなります。このような状態でけん引を続けると、前の車に衝突するおそれがあります。

⚠ 注意

駆動輪が接地した状態でけん引しないでください。駆動装置が破損するおそれがあります。

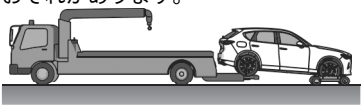
⚠ 注意

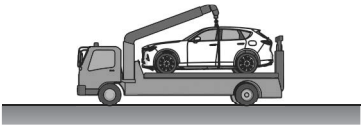


吊り下げタイプのレッカー車の使用は避けてください。車体を傷つけるおそれがあります。



電動パーキングブレーキ (EPB) が解除できないときのけん引は、図のように前後輪をすべて持ち上げた状態で搬送してください。車輪を持ち上げないでけん引すると、ブレーキシステムが破損するおそれがあります。





オートマチック車をロープでけん引してもらうときは、速度 30 km/h 以下、走行距離は 30 km 以内にしてください。

ロープでけん引してもらうときの手順については、次の項目を参照してください。
→8-9 ページ「けん引フックを使う」

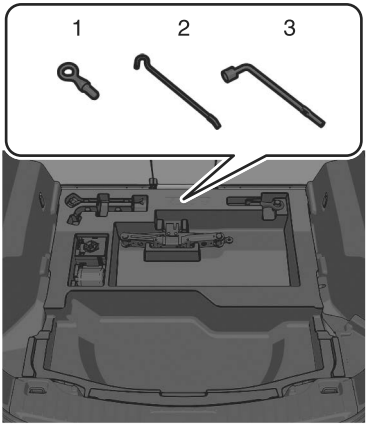
けん引フックを使う

⚠ 注意

けん引するときは次の点に注意してください。けん引フックや車体および駆動装置を損傷するおそれがあります。

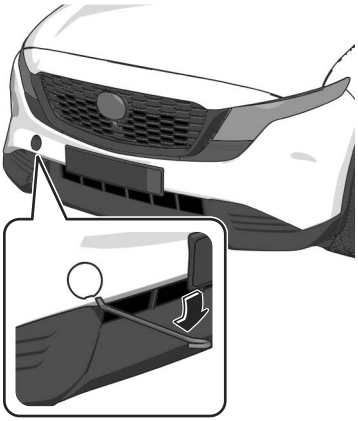
- 自車の重量より重い車はけん引しないでください。
- 急発進など、けん引フックやロープに大きな衝撃が加わる運転をしないでください。
- けん引フック以外にロープをかけないでください。
- 金属製のチェーンやワイヤーロープなどを使用するときは、ロープやロープ先端に付いているフック部に布などを巻いてください。直接バンパーにあたると、傷がつくおそれがあります。

1. けん引フック、ホイールレンチ、ジャッキレバーをラゲッジルームから取り出す。

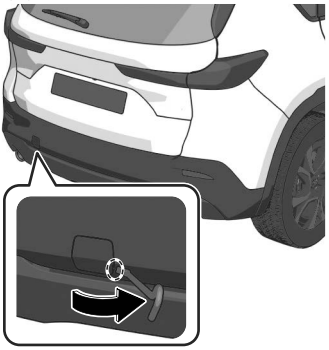


1 けん引フック
2 ジャッキレバー
3 ホイールレンチ

2. ジャッキレバーまたはマイナスドライバーなどの先端に布を巻いてカバーを取りはずす。
フロント



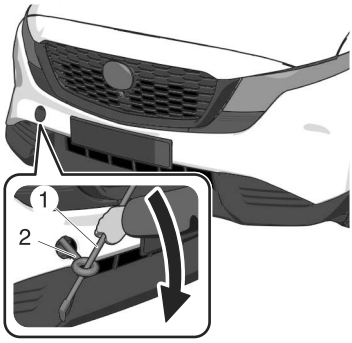
リア



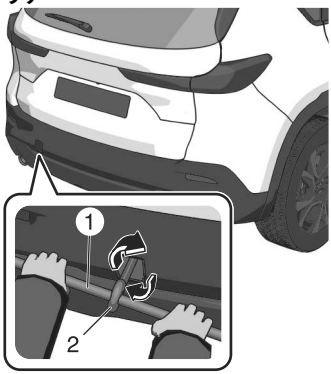
⚠ 注意

カバーはバンパーから完全に取りはずし、紛失しないように保管してください。

3. けん引フックを取り付ける。
フロント

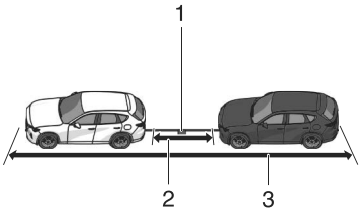


1 ホイールレンチ
2 けん引フック
リア



1 ホイールレンチ
2 けん引フック

4. けん引ロープをフックにかける。



1 ロープの中央に 0.3 m×0.3 m 以上の白い布を必ず付ける。
2 ロープの長さは 5 m 以内にする。
3 全体の長さは 25 m 以内にする。

故障車をけん引するとき

故障した車をロープでけん引するときは、後ろ側のけん引フックにロープをかけてけん引してください。

自車をけん引してもらうとき

1. エンジンをかけ、セレクトレバーを N に入れる。エンジンがかからないときは、電源ポジションを ON にする。

⚠ 警告

エンジンがかかっていない状態でけん引される場合は、慎重に運転する。
エンジンがかかっていないときは、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなったりするなど運転操作が困難になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

けん引中は電源ポジションを OFF にしないでください。OFF にするとハンドルがロックされ、操作できなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オートマチック車をロープでけん引してもらうときは、速度 30 km/h 以下、走行距離は 30 km 以内にしてください。

1. パーキングブレーキを解除する。
   →5-43 ページ「電動パーキングブレーキ (EPB) の使いかた」
2. ロープをたるませないように走行する。

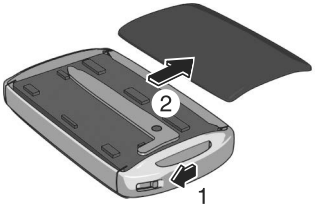
キーが作動しないとき

キーの一時停止機能を解除する

キーが車内にあるとき、車内に置いてあるキーの機能が、盗難防止のために一時停止する場合があります。
この場合は、車内から一時停止したキーのアンロックスイッチを押すと復帰します。

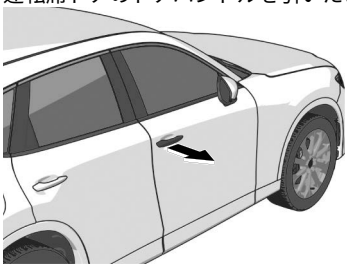
補助キーを使って解錠する

1. ノブを押しながら、カバーを取りはずす。

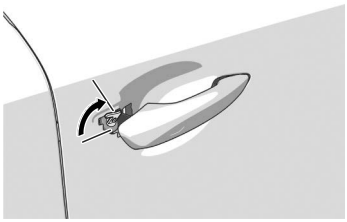


2. 補助キーを取りはずす。

3. 運転席ドアのドアハンドルを引いたまま補助キーを差し込む。



4. 補助キーをまわす。
ドアが解錠します。



5. 補助キーをもとの位置に取り付ける。
6. カバーのツメを差し込むように取り付ける。



電池切れしたキーでエンジンを始動する

⚠ 注意

次のような状態にしないでください。車両がキーからの信号を正確に受信できず、エンジンが始動できない場合があります。

- キーに他のキーの金属部や金属製のものが接している。



⚠ 注意

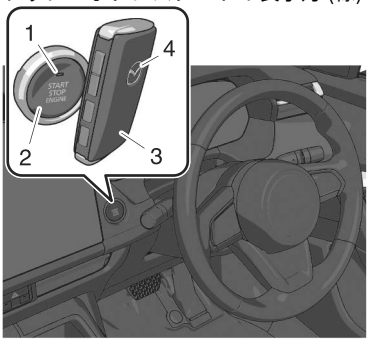
- キーにスペアのキーや他の車両の盗難防止システムキー (信号発信機内蔵のもの) が重なっている、または近くにある。



- キーの近くに電子部品を含んだ製品やクレジットカードなどの磁気カードがある。

キーの電池切れなどで、エンジンが始動できないときは、次の手順でエンジンを始動できます。

1. ブレーキペダルを踏む。
   プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅します。
2. キーのエンブレム中心をプッシュボタンスタートの中心にあわせる。
   プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯します。



1 表示灯
2 プッシュボタンスタート
3 キー
4 エンブレム

3. プッシュボタンスタートを押す。

知識

プッシュボタンスタート機能に異常があるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅します。この場合でもエンジンを始動できることがありますが、ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯しない場合は、最初から操作を行なってください。それでも点灯しない場合はマツダ販売店で点検を受けてください。

車両の電源を切り替えるときは、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点灯に変わった後、ブレーキペダルから足を離してからプッシュボタンスタートを押してください。車両の電源が ACC、ON、OFF の順に切り替わります。なお、車両の電源が OFF になると、それ以降は車両の電源を切り替えることができないため、エンジンを始動する場合は最初から操作してください。

エンジンが始動しないとき

12 V バッテリーあがりを処置する

次のような状態は 12 V バッテリーあがりです。

・スターターがまわらない。またはまわっても回転が弱く、なかなかエンジンが始動しない。
・ホーンの音が小さい、または鳴らない。
・ランプ類がいつもより極端に暗い。

別売りのブースターケーブルを使用して、救援車 (他の車) のバッテリーと自車の 12 V バッテリーを接続してエンジンを始動します。
自車と同じ 12 V バッテリーを搭載した救援車を依頼してください。
正しく安全に 12 V バッテリーを取り扱うために、12 V バッテリー使用前または点検前には必ず次の注意事項をお読みください。

警告

必ず保護メガネを着用する。
12 V バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目に入ると失明など重大な傷害につながるおそれがあります。また、12 V バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあります。

12 V バッテリーの近くでお子さまを遊ばせない。また、12 V バッテリー液をこぼさない。
12 V バッテリー液には有毒で腐食性の高い希硫酸が含まれており、目や皮膚に付着すると重大な傷害につながるおそれがあります。万一、目や皮膚に付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、応急処置が済んだら、医師の診察を受けてください。

絶対に火気を近づけない。
12 V バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。火気の発生を防ぐため、ブースターケーブルの接続、取りはずしのときは、端子同士やボディーに触れないように十分注意してください。

換気の悪い場所では、12 V バッテリーの充電を行なわない。また、充電中は 12 V バッテリーに近づかない。
12 V バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険です。

⚠ 警告

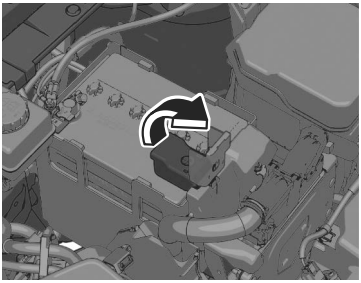
ブースターケーブルを使用してエンジンを始動する前に必ず 12 V バッテリー液の量を点検する。
12 V バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

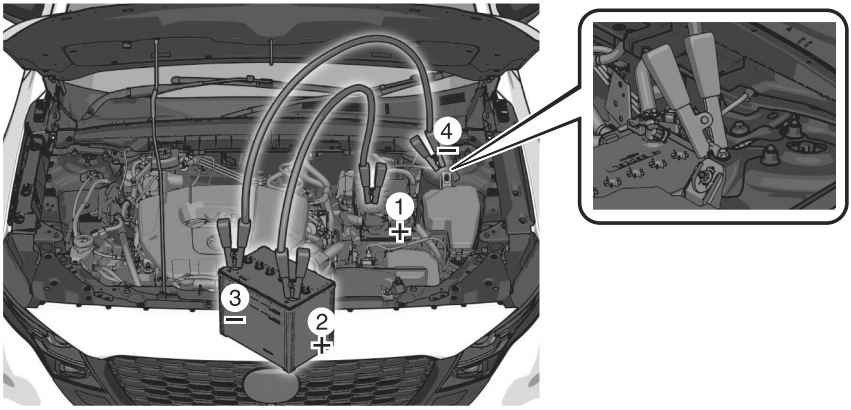
ブースターケーブルを接続するときは慎重に行なってください。ブースターケーブルがベルトなどの回転部に巻き込まれるおそれがあります。

車両故障のおそれがあるため、自車を救援車として使用しないでください。

1. ヘッドランプやエアコンなどの電源が切ってあることを確認する。
2. バッテリーキャップを取りはずす。



3. 救援車のエンジンを止めて、ブースターケーブルを次の順で接続する。
   ブースターケーブルはエンジンの振動などではずれないよう確実に接続してください。
   1. 1 本目のブースターケーブルを、自車の 12 V バッテリーのプラス (+) 端子に接続する。
   2. 1 本目のブースターケーブルを、救援車の 12 V バッテリーのプラス (+) 端子に接続する。
   3. 2 本目のブースターケーブルを、救援車の 12 V バッテリーのマイナス (-) 端子に接続する。
   4. 2 本目のブースターケーブルを、図で示す場所に接続する。



4. 救援車のエンジンをかけ、エンジン回転数を高めにする。
5. 自車のエンジンを始動する。約 3 分間エンジンを回転させて、応急的に自車の 12 V バッテリーを充電する。
6. 自車のエンジンを始動する。
7. ブースターケーブルを、接続したときと逆の順で取りはずす。
8. バッテリーキャップを取り付ける。
9. 早めにマツダ販売店で点検を受ける。

押しがけについて

押しがけによる始動はできません。

エンジンが停止できないとき

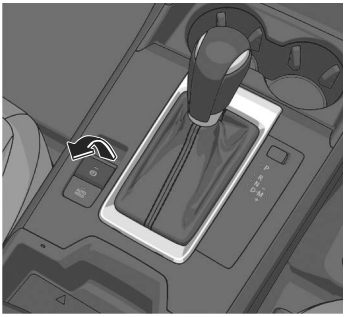
エンジンを強制的に停止する

プッシュボタンスタートを押し続ける、または素早く何度も押す。
エンジンが停止し、車両の電源が ACC になります。

ブレーキシステム (フットブレーキ) が故障したとき

緊急ブレーキを使用する

EPB スイッチを引き続ける。



ブレーキがかかり、車両を減速/停止させることができます。
ブレーキ作動中はチャイムが鳴り、EPB スイッチから手を離すとブレーキは解除され、チャイムが停止します。

⚠ 警告

緊急時にのみ使用する。
この機能は緊急時のみに使用してください。過度に使用するとブレーキ部品が早く摩耗したり、ブレーキが発熱して効きが低下することがあります。

オートホールドが解除できないとき

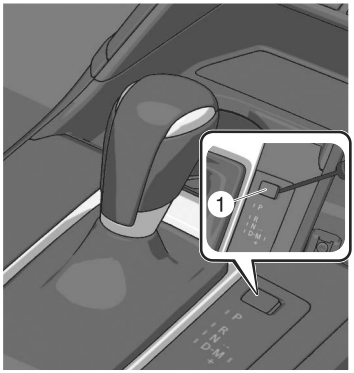
オートホールドを強制的に解除する

オートホールド作動中に、アクセルペダルを約 1 秒いっぱいに踏み込むと、オートホールドを強制的に解除できます。システム故障などでオートホールドが通常操作で解除できないときや、緊急でオートホールドの解除が必要なときのみ使用してください。

セレクトレバーが操作できないとき

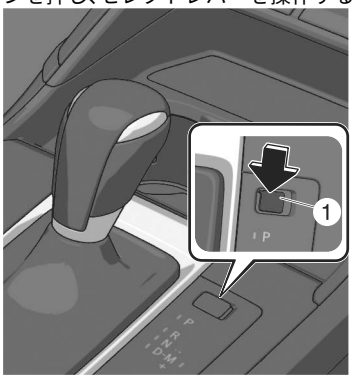
シフトロック装置を解除する

1. マイナスドライバーなどを使用してカバーをはずす。



1 カバー

2. ブレーキペダルを踏む。
3. マイナスドライバーなどを使用してシフトロック解除ボタンを押した状態でセレクトレバーボタンを押し、セレクトレバーを操作する。



1 シフトロック解除ボタン

マツダ販売店で点検を受けてください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートを処置する

次のようなときは、オーバーヒートです。

・エンジンルームから蒸気が出ているとき。

⚠ 警告

エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けない。
エンジンルーム内が熱いとき、ボンネットを開けると、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。また、蒸気が出てない場合でも高温になっている部分があります。ボンネットを開けるときは十分に注意してください。



エンジンが十分に冷えるまではラジエーターとリザーバータンクのキャップを開けない。
エンジンが熱いときにラジエーターキャップをはずすと、蒸気や熱湯が噴き出してやけどなど、重大な傷害につながるおそれがあります。



エンジンルーム内を点検するときは、ファンやベルトなどの回転部に触れない。
特に、エンジンルームが高温のときは、エンジンが停止していてもファンが回転することがあるため、手や衣服などが巻き込まれるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

1. 安全な場所に車を止める。
2. エンジンルームから蒸気が出ていないかどうかを確認する。

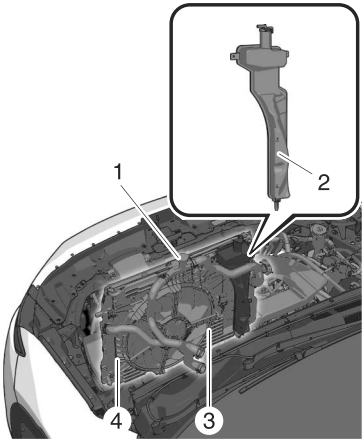
エンジンルームから蒸気が出ているときは
エンジンを停止してください。蒸気が出なくなるまで待ち、風通しをよくするためにボンネットを開け、エンジンを始動してください。
エンジンルームから蒸気が出ていないときは
エンジンを作動させたままボンネットを開け、エンジンを冷やします。

クーリングファンが作動していることを確認し、エンジンを停止します。

⚠ 注意

クーリングファンが作動していないときは、クーリングファンの故障が考えられます。ただちにエンジンを停止し、マツダ販売店にご連絡ください。

3. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量を点検する。冷却水量が不足しているときは、(1)ラジエーター、(2)リザーバータンクの順に冷却水を補充する。
冷却水がない場合は一時的に水を補充してください。
補充後はキャップを確実に取り付けてください。



1 ラジエーターキャップ
2 リザーバータンク
3 クーリングファン
4 ラジエーター

4. 早めに最寄りのマツダ販売店で点検を受ける。

パンクやバースト (破裂) したとき

パンクやバースト (破裂) に対処する

走行中タイヤがパンクやバースト (破裂) したときは、ハンドルをしっかり持ち、徐々にブレーキをかけスピードを落としてください。
急ブレーキをかけるとハンドルをとられるおそれがあります。
次のようなときはパンクやバースト (破裂) が考えられます。

・ハンドルがとられるとき。
・異常な振動があるとき。
・車両が異常に傾いたとき。

タイヤパンク応急修理キットを使う

タイヤパンク応急修理キットについて

本キットはタイヤの接地面に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクを一時的に修理するものです。
タイヤに刺さった釘やネジなどを抜かず、応急修理してください。

⚠ 警告

万一誤飲したときは、すぐに多量の水を飲み、応急処置が済んだら、医師の診察を受ける。
修理剤を誤飲すると健康に害があります。

修理剤が目に入ったり、皮膚に付着したりしたときは、すぐに多量の水で洗浄する。
それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

お子さまには修理剤をさわらせない。
誤って使用すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

天然ゴムに対するアレルギーを有する人は修理剤に触れない。
アレルギー症状を発症する可能性があります。

知識

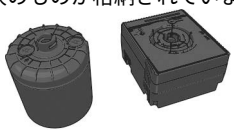
お客さまの車にはスペアタイヤが標準装備されておりません。パンクした場合は応急処置としてタイヤパンク応急修理キットをお使いください。本キットでの応急処置後は、マツダ販売店などでできるだけ早くタイヤの修理または交換を行なってください。

一度使用した修理剤は再使用できません。新しい修理剤をマツダ販売店でお求めください。

次のようなときには、修理剤を使用することができません。マツダ販売店などに連絡してください。

・修理剤の有効期限が切れているとき (有効期限はボトルのラベルに記載されています)
・約 4 mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
・タイヤ側面、ホイール、バルブなど、タイヤ接地部以外が損傷を受けたとき
・タイヤがホイールからはずれているとき
・タイヤが 2 本以上パンクしているとき

タイヤパンク応急修理キット内には、次のものが格納されています。

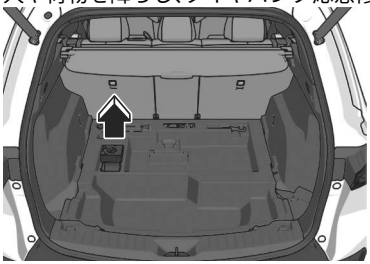


1 2

1 修理剤
2 エアコンプレッサー

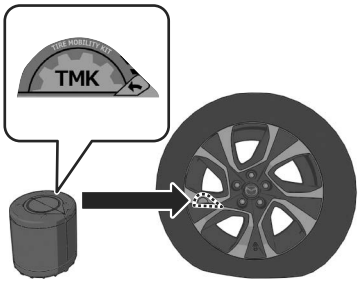
タイヤパンク応急修理キットを使う

1. 車を交通のさまたげにならない、地面が平らで固い安全に作業できる場所に移動する。
2. セレクトレバーを P の位置に入れ、車両の電源を OFF にする。
3. 必要に応じて、非常点滅表示灯を点滅させる。
4. 人や荷物を降ろし、タイヤパンク応急修理キットを取り出す。

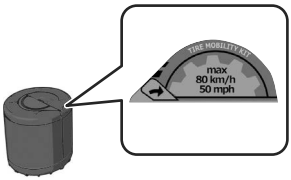


タイヤパンク応急修理キットの位置は仕様により異なる場合があります。

5. 修理剤ボトルからパンク修理ラベルをはがし、パンクを修理するホイールに貼る。



6. 修理剤のボトルから速度制限ラベルをはがし、運転席のよく見えるところに貼る。



⚠ 警告

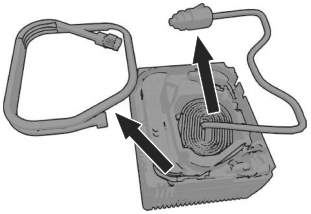
ハンドルのパッド部に速度制限シールを貼らない。
万一の場合エアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置には貼らないでください。

⚠ 注意

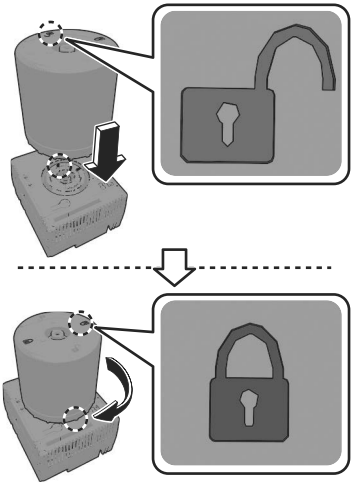
速度制限シールをメーターパネルやディスプレイなどに貼らないでください。剥がすときに傷がつくおそれがあります。

速度制限シールは、タイヤ修理交換後すみやかに剥がしてください。

7. エアコンプレッサーからコンプレッサーホースと電源プラグを引き出す。



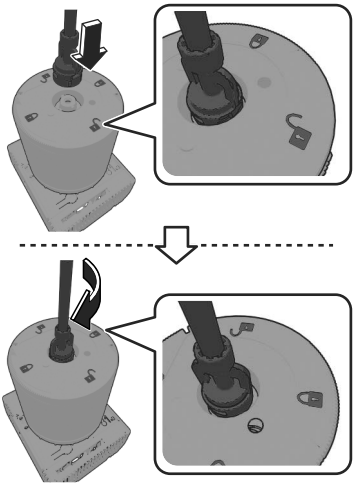
8. 修理剤ボトルをコンプレッサーにねじこむ。



⚠ 注意

ボトルとコンプレッサーの🔓マークが合う位置までボトルを回してください。修理液が飛散したり、適正空気圧まで昇圧しなかったりする可能性があります。

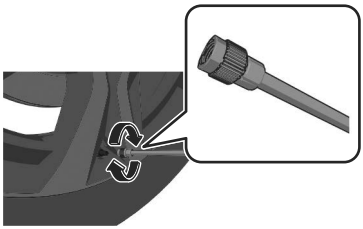
9. エアコンプレッサーホースをボトルに取り付ける。



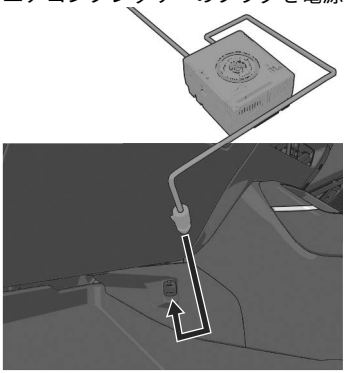
⚠ 注意

ボトルの🔓マークとホースバルブの爪が合う位置までボトルを回してください。修理液が飛散したり、適正空気圧まで昇圧しなかったりする可能性があります。

10. パンクしたタイヤのバルブからキャップを取りはずす。
11. 反対側のホースバルブをタイヤバルブに取り付ける。



12. エアコンプレッサーのプラグを電源ソケットに差し込む。



⚠ 注意

電源ソケットにエアコンプレッサーのプラグを抜き差しするときは、エアコンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。エアコンプレッサーの ON、OFF はエアコンプレッサー本体のスイッチで行なってください。

13. 周囲の換気を確認してから、ブレーキを踏み、電源ポジションを ON にする。

⚠ 注意

ガレージの中や積雪した場所など、喚起の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。一酸化炭素中毒になる危険性があります。

14. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、タイヤを適正空気圧まで昇圧する。

知識

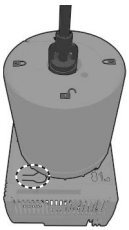
タイヤの適正空気圧は運転席ドアを開けたボディー側に貼り付けられているラベルで確認してください。

エアコンプレッサーは長時間使用すると故障につながるおそれがありますので、10 分以上連続して作動させないでください。

タイヤ空気圧が昇圧できない場合は修理できません。もし、10 分以内に適正空気圧にならなければ、タイヤがひどい損傷を受けている可能性があります。この場合は、本修理キットで応急修理することができません。マツダ販売店などに連絡してください。

空気を入れすぎたときはエアコンプレッサーの排気ボタンを押して空気を抜いてください。

知識



15. 適正空気圧まで昇圧できたら、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にし、タイヤバルブに取り付けているホースバルブを左にまわして取りはずす。
16. バルブキャップを取り付ける。
17. 修理剤をタイヤ内にゆきわたらせるため、ただちに走行を始める。

⚠ 注意

80 km/h 以下の速度で慎重に運転してください。80 km/h を超えた速度で走行した場合、車体が振動することがあります。

18. 15 分間もしくは 10 km 程度走行後に手順 10 の方法でタイヤにエアコンプレッサーを接続し、エアコンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧を確認する。適正空気圧より低下していたら、手順 12 の作業から再度行なう。

⚠ 注意

空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm2) 以下に低下していた場合は、本修理キットによる応急修理はできません。運転を中止してマツダ販売店などに連絡してください。

手順 10～17 の作業を繰り返しても、空気圧の低下が認められる場合は、運転を中止してマツダ販売店などに連絡してください。

タイヤ空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーのスイッチを OFF にしてから確認してください。

19. 空気圧が低下していなければ、応急修理完了です。最大距離 1000 km および最大速度 80 km/h の制限内で、最寄りのマツダ販売店まで慎重に運転し、新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理･再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。
タイヤ交換後は速度制限シールを剥がしてください。

⚠ 注意

コンプレッサーホースは再利用するため廃棄しないでください。

知識

タイヤパンク応急修理キットで応急修理をしたタイヤは、できるだけ早く新しいタイヤに交換をすることをおすすめします。修理・再使用する場合はマツダ販売店にご相談ください。

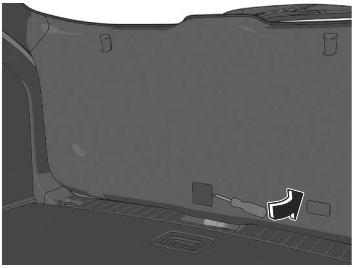
ホイールは付着した修理剤をふき取れば再使用できます。ただし、バルブは新しいものと取り替えてください。

リアゲートが開けられなくなったとき

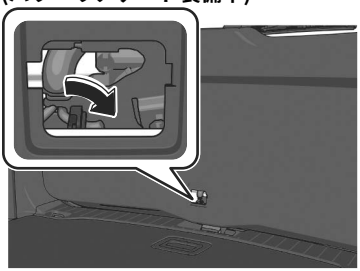
リアゲートを荷室から開ける

12 V バッテリーがあがると、リアゲートの解錠ができず開けられなくなります。
この場合は、12 V バッテリーあがりの対処をすることでリアゲートの解錠ができるようになります。
→8-15 ページ「12 V バッテリーあがりを処置する」
12 V バッテリーあがりの対処をしてもリアゲートの解錠ができない場合は、応急処置として次の手順でリアゲートを開けることができます。

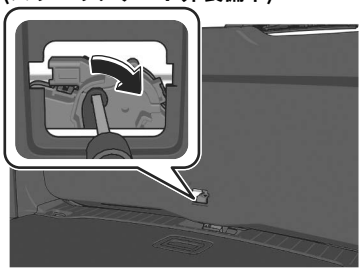
1. リアシートを倒す。
   3-27 ページ「リアシートの使いかた」
2. カバーをはずす。



3. レバーを動かす。
   (パワーリアゲート装備車)



(パワーリアゲート非装備車)



リアゲートが解錠します。
応急処置後はできるだけ早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

パワーウインドーが操作できないとき

自動開閉機構を復帰する

次の操作で復帰させてください。
1. 車両の電源を ON にする。
2. パワーウインドーロックスイッチが ON の場合は OFF にしてください。
3. パワーウインドースイッチを押して窓ガラスを全開にする。
4. パワーウインドースイッチを引き上げて窓ガラスを全閉にし、そのまま約 2 秒間引き上げ続ける。

はさみ込み防止機構を解除する

はさみ込み防止機構が作動して窓ガラスを閉められないときは、窓枠の周囲に異物がないか確認してください。
窓枠の周囲に異物がなければ、次の操作で窓ガラスを強制的に閉めてください。
1. 車両の電源を ON にする。
2. はさみ込み防止機構が作動して窓ガラスが止まるまで、窓ガラスを閉める方向にスイッチを操作する。
3. 手順 2 を 5 回繰り返す。
4. スイッチを引き上げ続けて、窓ガラスを全閉にする。

パノラマサンルーフが操作できないとき

パノラマサンルーフの初期設定をする*

サンルーフが正常に作動しないときは、次の操作を行なってください。
1. 車両の電源を ON にする。
2. チルト/スライドスイッチを前側に押して、パノラマサンルーフとサンシェードを全閉にする。
3. チルト/スライドスイッチから手を離す。
4. チルト/スライドスイッチを前側に押し続ける。
   パノラマサンルーフとサンシェードがさらに閉方向に動きます。
5. 5. 約 13 秒後にサンシェードが停止したら、チルト/スライドスイッチから手を離す。

フロントワイパーが高速作動するとき

マツダ販売店で点検を受ける

ワイパーの制御に異常があると、フロントワイパーが高速作動する場合があります。
ワイパースイッチの操作にかかわらずフロントワイパーが高速作動するときはマツダ販売店で点検を受けてください。

ウォッシャー液が噴射しないとき

ウォッシャータンクの液量を確認する

ウォッシャー液が噴射されないときは、ウォッシャータンクの液量を確認してください。
→9-5 ページ「ウォッシャー液を補充する」
空のウォッシャータンクにウォッシャー液を補充したときなどにウォッシャーパイプに空気が入ると、ウォッシャー液が噴射されない場合があります。
ウォッシャー液が噴射されるまで、ワイパーレバーを操作してください。
ウォッシャー液を補充してもウォッシャー液が噴射されないときは、マツダ販売店にご相談ください。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないとき

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないときは

アクティブ･ドライビング･ディスプレイが作動しないときは車両の電源を OFF にして、再度エンジンを始動させてください。エンジンを始動させても作動しないときは、マツダ販売店で点検を受けてください。

警告灯が点灯したとき

警告灯について

警告灯/表示灯が点灯、点滅した場合は、それぞれの方法で対処してください。警告灯/表示灯が消灯しない場合、または再度点灯、点滅する場合はマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

警告灯/表示灯が点灯、点滅した場合は、ただちに安全な場所に停車し適切な処置を行なう。
警告灯/表示灯の点灯、点滅を無視して運転を続けると、エンジンなどを損傷したり、思わぬ事故につながったりするおそれがあります。

ブレーキ警告灯



次のようなときは点灯し続けます。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

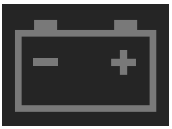
・ブレーキ液が不足しているとき。
・ブレーキ装置 (電子制御制動力配分システム) に異常があるとき。

⚠ 警告

ブレーキ警告灯が点灯したまま走行しない。
ブレーキが効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。また停車するときは、ブレーキの効きが悪くなっているおそれがあるため、ブレーキペダルを通常より強く踏んでください。
エンジンを始動させたとき、ブレーキ警告灯が点灯することがあります。その場合、安全な場所に停車し、ブレーキペダルから足を離してください。それでもブレーキ警告灯が消えない場合は、マツダ販売店で点検を受けてください。

ブレーキ警告灯と ABS 警告灯(ABS)が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。
急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

12 V バッテリー充電警告灯



充電システムに異常があると点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

⚠ 警告

充電警告灯が点灯したまま走行しない。
エンジンが不意に停止したり、パーキングロックが作動しなかったり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

オイル警告灯



エンジンオイルの圧力が低下したときに点灯します。

⚠ 注意

オイル警告灯が点灯したまま走行しないでください。エンジンオイルの圧力が低下している状態で走行すると、エンジン破損につながるおそれがあります。

走行中に、オイル警告灯が点灯したときは安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
その後、マツダ販売店 に連絡してください。

電動パワーステアリング警告灯



電動パワーステアリングに異常があると点灯します。
点灯したときは安全な場所に停車し、車両の電源を OFF にしてください。
しばらく経ってエンジンを再始動したときに警告灯が消灯した場合は問題ありません。
エンジンを再始動した後でも点灯するときは、マツダ販売店に連絡してください。

知識

警告灯が点灯したときは電動パワーステアリングが正常に作動しません。この場合、ハンドル操作は可能ですが、通常に比べて操作が重くなります。

停車中または低速走行時にハンドル操作を繰り返すと、システム保護のためハンドル操作が重くなる場合がありますが、異常ではありません。安全な場所に停車し、ハンドル操作をしないでください。しばらくするともとにもどります。

ABS 警告灯



システムに異常があるときは点灯し続けます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

警告

ブレーキ警告灯 (BRAKE) と ABS 警告灯が同時に点灯したときは、ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡する。
急制動時に後輪が通常より早くロックしやすくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

マスター警告灯



システムに異常があると点灯します。
センターディスプレイまたはメーターに表示されるメッセージの内容を確認して処置してください。

ブレーキコントロールシステム警告灯



システムに異常があると点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯



パーキングブレーキをかけているときに点灯し、解除すると消灯します。

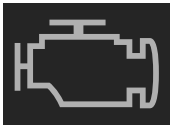
点灯するとき

電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを解除しても点灯し続けるときは、システムの異常が考えられるため、マツダ販売店で点検を受けてください。

点滅するとき

システムに異常があるときに点滅します。電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを操作しても点滅し続けるときは、マツダ販売店に連絡してください。

エンジン警告灯



⚠ 警告

エンジン警告灯が点灯/点滅しているときにバッテリーケーブルをはずさない。
バッテリーケーブルを再接続するときにエンジンが損傷し、火災につながるおそれがあります。

エンジン警告灯は次の異常が発生したときに、点灯します。
ただちに安全な場所に停車し、マツダ販売店に連絡してください。

・エンジンコントロールシステムに異常があるとき
・エミッションコントロールシステムに異常があるとき
・トランスミッションコントロールシステムに異常があるとき
・M ハイブリッドに異常があるとき
・燃料残量が異常に少ないとき

エンジン警告灯が点灯/点滅し続けるときは高速走行をせず、すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

i-stop 警告灯 (橙)



エンジン始動後、システムに異常があるときは点灯/点滅し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション警告灯



システムに異常があると点灯します。
マツダ販売店に連絡してください。

⚠ 注意

オートマチックトランスミッション警告灯が点灯したまま走行しないでください。オートマチックトランスミッション警告灯が点灯したまま走行を続けると、トランスミッションが破損するおそれがあります。すみやかにマツダ販売店で点検を受けてください。

AWD 警告灯*



システムに異常があるときやタイヤサイズが一致しないときに点灯します。
また、システムが高負荷状態のときに点滅します。
表示されるメッセージの内容を確認して処置してください。

TCS/DSC 作動表示灯



次のようなときは DSC、TCS、またはヒル・ローンチ・アシスト (HLA) の異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

・車両の電源を ON にしても点灯しないとき、または点灯したままのとき
・走行中に点灯したとき

エアバッグ/フロントシートベルトプリテンショナー警告灯



次のようなときはシステムの異常が考えられます。
マツダ販売店で点検を受けてください。

・車両の電源を ON にしても点灯しないとき
・点灯/点滅し続けるとき

⚠ 警告

エアバッグ/シートベルトプリテンショナー警告灯が点灯/点滅したまま走行しない。
衝突したときにエアバッグまたはシートベルトプリテンショナー機構が正常に作動せず、重大な傷害につながるおそれがあります。
マツダ販売店で点検を受けてください。

KEY 警告灯 (赤)



システムに異常があるときに点灯します。

表示されるメッセージの内容を確認して処置してください。

⚠ 注意

同時にプッシュボタンスタートの表示灯 (橙) が点滅している場合は、エンジン が始動できなくなるおそれがあります。ただちにマツダ販売店で点検を受けてください。

セキュリティ表示灯



運転中にセキュリティ表示灯が点灯/点滅した場合はエンジンを停止せず、そのままマツダ販売店で点検を受けてください。エンジンを停止すると、再度エンジンを始動できない場合があります。

エンジンが始動できないときは一度、車両の電源を OFF にもどし、キーを作動範囲内の別の場所に置いて、再度エンジンを始動してください。
セキュリティ表示灯を確認し、消灯しない場合は (点灯/点滅したままなど)、もう一度車両の電源を OFF にもどし、しばらく待って再度エンジンを始動してください。
3 回行なってもエンジンが始動しないときはシステムの異常が考えられますので、マツダ販売店で点検を受けてください。

知識

イモビライザーシステムを修理するときはキーのコードを再登録する必要があります。お手持ちのすべてのキーを、マツダ販売店に持参してください。

ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC) 警告灯 (橙)*



システムに異常があると点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH) 警告灯 (橙)*



システムに異常があると点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

 *グレード/仕様別装備

i-ACTIVSENSE 警告灯



i-ACTIVSENSE 関連システムに異常があると点灯します。
表示されるメッセージの内容を確認して処置してください。

エクステリアランプ警告灯



エクステリアランプ (番号灯は含まない) に異常があると点灯します。
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

エクステリアランプ に異常がある状態で走行しないでください。視界不良やブレーキ、方向指示器の合図ができず、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、ランプが点灯しない状態で走行すると、整備不良により法規に抵触するおそれがあります。

燃料残量警告灯



燃料残量が空に近づくと点灯/点滅します。
すみやかに燃料を補給してください。

知識

走行状況や車両姿勢によっては、タンク内の燃料が移動するため、点灯タイミングが変わる場合があります。

エンジンオイルレベル警告灯



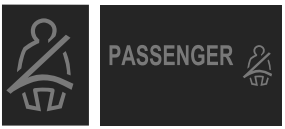
エンジンオイルの量がオイルレベルゲージの下限付近になっているときに点灯します。

⚠ 注意

エンジンオイルレベル警告灯が点灯したまま使用を続けないでください。エンジンオイルの量が不足している状態で使用を続けると、エンジン破損につながるおそれがあります。

エンジンオイルを 1 L 補給してください。
→9-4 ページ「エンジンオイルの点検、補充」

シートベルト警告灯 (フロントシート)



点灯するとき

車両の電源が ON のとき、運転席/助手席シートベルトを着用していないと点灯します。
シートベルトを着用してください。

点滅するとき

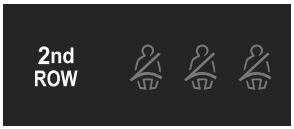
運転席/助手席シートベルトを着用しないまま約 20 km/h 以上になると、しばらくの間点滅します。
一定時間経過すると、点滅は止まりますが、点灯し続けます。
また、警告灯が点滅したとき、チャイムも鳴ります。
→8-42 ページ「シートベルト着用忘れチャイム」
シートベルトを着用してください。

📖 知識

助手席のシートに重いものを置くと、重さによってシートベルト警告システムが作動することがあります。

助手席にお子さまを座らせた場合、シートベルト警告システムが作動しないときがあります。

シートベルト警告灯 (リアシート) (赤)



点灯するとき

車両の電源が ON のとき、シートベルトを着用していないと点灯します。*1
エンジン始動後、しばらくすると消灯します。
また、着用していたシートベルトをはずすとしばらくの間点滅し、その後消灯します。
*1　リアシートに乗員がいないときも点灯します。

点滅するとき

約 20km/h 以上で走行中、着用していたシートベルトをはずすとしばらくの間点滅し、その後消灯します。
警告灯が点滅したとき、チャイムも鳴ります。
→8-42 ページ「シートベルト着用忘れチャイム」
シートベルトを着用してください。

知識

リアシートに重いものを置くと、重さによってシートベルト警告システムが作動することがあります。

リアシートにお子さまを座らせた場合、シートベルト警告システムが作動しないときがあります。

リアシートアラート警告灯



システムに異常があるときは点灯し続けます。マツダ販売店で点検を受けてください。

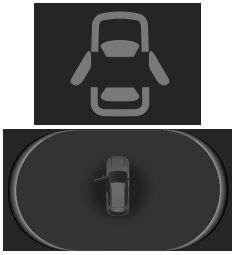
ウォッシャー液残量警告灯*



車両の電源が ON のとき、ウォッシャー液が少なくなると点灯します。
ウォッシャー液を補充してください。

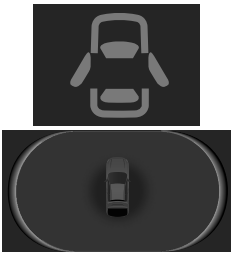
半ドア警告灯/リアゲート開警告灯/ボンネット開警告灯

半ドア警告灯



いずれかのドアが確実に閉まっていない時に上のイラストの警告灯が点灯します。
いずれかのドアが閉まっていないときに走行すると、下のイラストの警告表示が出てチャイムが鳴ります。
ドアを確実に閉めてください。

リアゲート警告灯



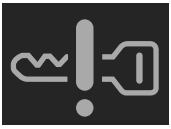
リアゲートが確実に閉まっていない時に上のイラストの警告灯が点灯します。
リアゲートが閉まっていないときに走行すると、下のイラストの警告表示が出てチャイムが鳴ります。
リアゲートを確実に閉めてください。

ボンネット警告灯



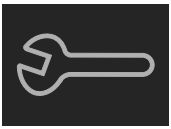
ボンネットが確実に閉まっていない時に警告表示が出ます。
ボンネットを確実に閉めてください。

KEY 表示灯 (緑) (点滅)



キーの電池残量が少ないときに車両の電源を OFF にすると、点滅します。
キーの電池を交換してください。
→9-18 ページ「キーの電池交換のしかた」

レンチ表示灯



次のようなときにレンチ表示灯が点灯します。

・あらかじめ設定されたメンテナンス時期になったとき
マツダ販売店で点検を受けてください。

⚠ 注意

メンテナンス時期になったまま走行を続けないでください。メンテナンスを怠ると、車両性能の低下、さらには故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までに点検を受けてください。

エンジンオイル交換時期をすぎたまま走行を続けると、エンジン故障につながるおそれがあります。メンテナンス時期までにエンジンオイルを交換してください。

知識

エンジンオイルを交換するたびに、車両のエンジンコントロールユニットをリセットする必要があります。

マツダコネクトホーム画面のナビゲーションバーの ⋮⋮ → “Maintenance” → “Maintenance Details”を選択し、エンジンオイル交換までの走行距離をリセットしてください。
またはマツダ販売店にご相談ください。

ドライバー･モニタリング検知性能低下表示灯



走行中、ドライバー･モニタリングの検知性能が低下したときに点灯します。
→5-96 ページ「ドライバー･モニタリングカメラについて」
停車したとき、またはドライバー･モニタリングの検知性能が正常になったときに消灯します。
システムに異常があるときも消灯します。

チャイムがなったとき

ランプ消し忘れ防止チャイム

車両の電源を OFF にして運転席ドアを開けたときに、エクステリアランプが点灯しているとチャイムが鳴ります。
ヘッドランプスイッチを操作して、エクステリアランプを消してください。

知識

マツダコネクトでランプ消し忘れ防止チャイムの音量を変更することができます。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⚙ をタップして設定する、またはマツダ販売店にご相談ください。

シートベルト着用忘れチャイム

運転席/助手席

シートベルトを着用していない状態で、車速が約 20 km/h 以上になるとしばらくの間チャイムが鳴り続けます。
シートベルトを着用してください。

知識

助手席のシートに重いものを置くと、重さによってシートベルト警告システムが作動することがあります。

助手席にお子さまを座らせた場合、シートベルト着用忘れチャイムが鳴らないときがあります。

後席

約 20km/h 以上で走行中、装着していたシートベルトをはずすとチャイムが鳴ります。
シートベルトを着用してください。

電源オフ忘れ警告チャイム

車両の電源が ACC のときに、運転席ドアを開けると車内のチャイムが鳴り続けます。
車両の電源を OFF にしてください。

キー車外持ち出し警報チャイム

アドバンストキーレス機能装備車

車両の電源が ON または ACC の状態でキーを車外に持ち出すと、すべてのドアを閉めたときに車外のチャイムが 6 回鳴り、車内のチャイムが 1 回鳴ります。

アドバンストキーレス機能非装備車

車両の電源が ON または ACC の状態でキーを車外に持ち出すと、すべてのドアを閉めたときに車内のチャイムが 1 回鳴ります。

キーを携帯したまま車外に出ていないかを確認、または車両の電源を OFF にしてください。

キー車内閉じ込み警報チャイム

キーが車内にある状態で、運転席ドアを施錠し、すべてのドアを閉めるとチャイムが鳴ります。
キーが車内に置いたままになっていないかを確認してください。

- **(アドバンストキーレス機能装備車)**
  チャイムが鳴ります。
- **(アドバンストキーレス機能非装備車)**
  ホーンが鳴ります。

ラゲッジルーム内キー閉じ込み警報チャイム (アドバンストキーレス機能装備車)

ドアが施錠された状態で、キーをラゲッジルーム内に置いたままリアゲートを閉めると、チャイムが鳴ります。
ラゲッジルーム内にキーを置いてないかを確認してください。

ドアロック不作動警告チャイム

タッチセンサーによる操作

次の条件がすべてそろった場合に、チャイムが鳴ります。

・車両の電源が OFF のとき
・全ドアが閉まっていないとき
・5 秒以内に 3 回ロック操作をしたとき

車両の電源とドアの開閉状態を確認して、再度ロック操作をしてください。

リアゲートのロックスイッチによる操作

次のいずれかの状態のときに、キーを携帯してリアゲートのロックスイッチを押すと、チャイムが鳴ります。

・車両の電源が OFF 以外
・いずれかのドアが開いている

上記の状態になっていないことを確認して、再度ロックスイッチを押してください。

パワーリアゲート警告チャイム

・パワーリアゲートを操作したとき、リアゲートに物が挟まっているとチャイムが 3 回鳴ります。物が挟まっていないか確認してください。
・パワーリアゲートを開いたまま走行するとチャイムが鳴り続けます。パワーリアゲートを閉じて走行してください。

ブレーキシステム警告チャイム

ブレーキシステムに異常が発生し、ブレーキが意図通りに効かないおそれがある場合にチャイムが鳴ります。
周囲の安全を確認しながら減速し安全な場所に停車してください。
停車後にマツダ販売店に連絡してください。

電動ハンドルロック警告チャイム

ハンドルがロックされた状態で、プッシュボタンスタートを押すとチャイムが鳴り、プッシュボタンスタートの表示灯 (緑) が点滅します。
ハンドルを左右に動かしながら、プッシュボタンスタートを押して、ハンドルのロックを解除してください。

電動パーキングブレーキ (EPB) 警告チャイム

次のときにチャイムが鳴ります。

・パーキングブレーキをかけたまま走行しているとき
・走行中に電動パーキングブレーキ (EPB) スイッチを引き、パーキングブレーキをかける操作をしたとき
・パーキングブレーキが自動解除できない状態で、車を発進させようとしたとき

パーキングブレーキの状態を確認してください。

12 V バッテリー充電量低下チャイム

電力消費が一定量を超えるとチャイムが鳴ります。
バッテリーを充電させるため､5 分以上エンジンをかけてください。

9 点検整備する/お手入れする

点検、整備..... 9-2
点検整備について..... 9-2

定期点検.....9-2
定期点検について..... 9-2

日常点検.....9-2
日常点検について..... 9-2
日常点検についての警告・注意 9-3

エンジンルーム内の点検..... 9-4
点検項目と点検箇所を確認する 9-4
エンジンオイルを点検、補充する 9-4
ウォッシャー液を補充する 9-5
12 V バッテリーを点検する 9-5
ヒューズを交換する.....9-5

車両外観の点検.....9-6
点検項目と点検箇所を確認する 9-6
ワイパーブレードゴムを交換する 9-7
タイヤを点検する..... 9-13
タイヤの位置交換 (タイヤローテーション) をする.....9-15
タイヤパンク応急修理キットを点検する.....9-16
電球 (バルブ) を交換する..... 9-17

車室内の点検.....9-17
点検項目と点検箇所を確認する 9-17
エアコンをお手入れする.....9-17

キーの点検.....9-18
キーの電池交換のしかた.....9-18

外装のお手入れ.....9-20
外装をお手入れする.....9-20
ホイールをお手入れする.....9-22
フロントワイパーを立てる 9-23

内装のお手入れ.....9-24
内装をお手入れする.....9-24
インストルメントパネル上面 (ソフトパッド部) をお手入れする 9-24
布張り、合成皮革部分をお手入れする.....9-24
革張り部分をお手入れする 9-25
アクティブ・ドライビング・ディスプレイをお手入れする..... 9-25
シートベルトをお手入れする 9-26

点検、整備

点検整備について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
安心してお車に乗っていただくために、また、大きなトラブルを防ぐ意味からも、定期的に点検整備を実施してください。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
いつもと違う点に気づいたら、早めにマツダ販売店で点検を受けてください。

知識

廃棄物を処理するときは、法律などに沿って適切に処置する必要があります。タイヤ、バッテリー、エンジンオイル、クーラントなどはそれらを購入した販売店に処分を依頼してください。エアコンガスの大気放出を防止するため、エアコンの点検、修理はマツダ販売店、専門の修理業者に依頼してください。

定期点検

定期点検について

1 年点検、2 年点検はマツダ販売店で受けてください。

知識

新車登録後 1 か月 (または走行距離 1,000 km)、6 か月 (または走行距離 5,000 km) は無料で点検が受けられます。

日常点検

日常点検について

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務付けられています。
日常点検はお客さまのお車の使用状況に応じて、お客さま自身の判断で適切な時期に実施していただく点検です。
お客さま自身で実施可能な項目となっておりますので、長距離走行前や洗車時、給油時などを目安に実施してください。

日常点検整備のしかたは別冊のメンテナンスノートに記載しています。
点検の結果は別冊のメンテナンスノート内「メンテナンスレコード」に記入してください。

日常点検についての警告･注意

⚠ 警告

点検は平らな場所で､車に輪止めをしてから行なう。
車が不意に動き出すと､思わぬ事故につながるおそれがあります。

エンジンルーム内を点検するときは､ファンやベルトなどの回転部に触れない。
手や衣服などが巻き込まれるなど､重大な傷害につながるおそれがあります。

エンジンルームの点検時は高電圧部位に注意する。
感電などの重大な障害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

エンジンルーム内を点検するときは､エンジンの高温部に触れないようにしてください。やけどをするおそれがあります。

エンジンルームを点検したときは､工具や布を置き忘れないようにしてください。置き忘れるとエンジンなどを損傷したり､火災につながったりなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

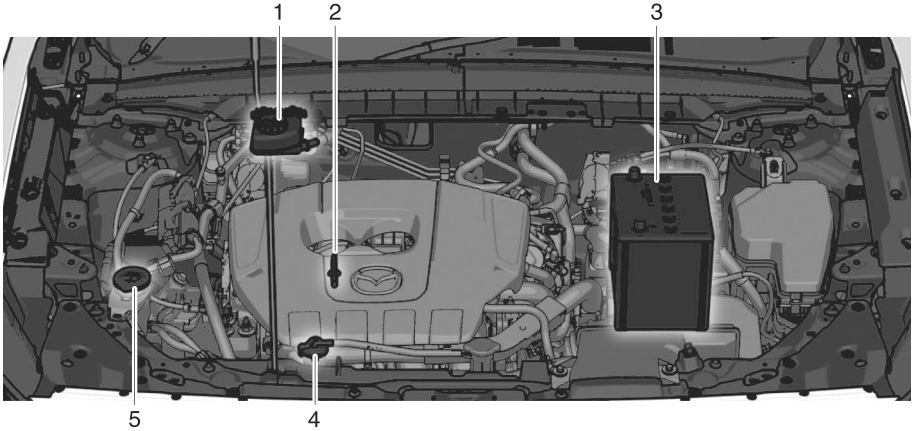
シャシーローラーを使用するときは､シャシーローラー上を走行中にシステムが誤作動することを防ぐため､次のシステムを OFF にしてください。

- マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC)
- クルージング＆トラフィック･サポート (CTS)
- スマート･ブレーキ･サポート (SBS)
- AT 誤発進抑制制御 [前進時]
- AT 誤発進抑制制御 [後退時]

エンジンルーム内の点検

点検項目と点検箇所を確認する

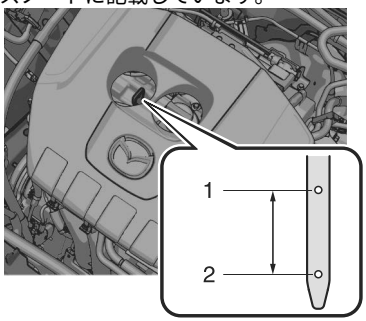
各部品の位置と形状は、仕様により若干異なる場合があります。



1 ブレーキ液の量
2 エンジンオイルの補充
3 12 V バッテリー液の量
4 冷却水の量
5 ウォッシャー液の量

エンジンオイルを点検、補充する

オイルレベルゲージでエンジンオイルの量を点検してください。
不足しているときは上限から下限の間になるよう補充してください。
点検の要領は別冊のメンテナンスノートに記載しています。



1 上限
2 下限
オイル交換後は、記憶値の初期化を行なってください。コンピューターの記憶値を初期化しなかった場合、レンチ表示灯が通常より早めに点灯することがあります。

センターディスプレイのナビゲーションバーに表示されている ⁝⁝ をタップした後、次に表示される“All Apps”内の をタップして確認する、またはマツダ販売店にご相談ください。

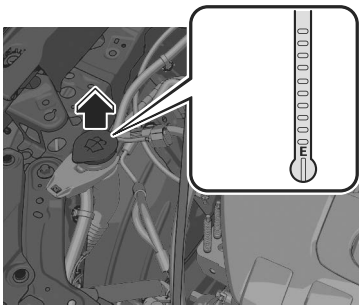
ウォッシャー液を補充する

⚠ 注意

エンジンが始動しているときやエンジンが熱いときはウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液がエンジンなどにかかると、出火するおそれがあります。

ウォッシャー液のかわりにせっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。塗装のしみや、ポンプの故障によりウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

補充要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。



12 V バッテリーを点検する

12 V バッテリー液の量が下限 (LOWER LEVEL) より不足している状態でエンジンを始動すると、破裂 (爆発) につながるおそれがあり危険です。12 V バッテリー液が不足しているときは、マツダ販売店などにご相談ください。
点検の要領は別冊のメンテナンスノートを参照してください。
12 V バッテリーを交換するときは、マツダ販売店にご相談ください。

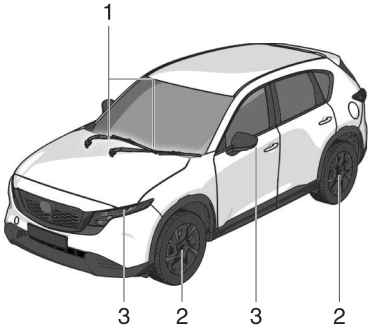
ヒューズを交換する

ヒューズの交換についてはマツダ販売店にご相談ください。

車両外観の点検

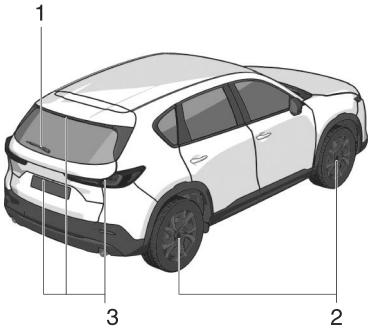
点検項目と点検箇所を確認する

フロント



1 ウォッシャー液の噴射状態、ワイパーの払拭状態
2 タイヤの空気圧、き裂、損傷、異常摩耗、溝の深さなど
3 灯火装置の点灯、方向指示灯の点滅具合および汚れ、損傷

リア



1 ウォッシャー液の噴射状態、ワイパーの払拭状態
2 タイヤの空気圧、き裂、損傷、異常摩耗、溝の深さなど
3 灯火装置の点灯、方向指示灯の点滅具合および汚れ、損傷

ワイパーブレードゴムを交換する

⚠ 注意

ワイパーを立てるときは、正しい手順で行なってください。正しい手順で行なわないと、ワイパーブレード、ワイパーアーム、またはボンネットに傷がつくおそれがあります。

マツダ純正品のワイパーブレードに交換してください。マツダ純正品以外のワイパーブレードに交換すると、ふき取り性能が低下するおそれがあります。

ブレードゴムを交換するときは、必要以上にブレードゴムを曲げないでください。ワイパーブレード内にある金属部分が変形し、ワイパーのふき取りが悪くなるおそれがあります。

ワイパーアームを立てるときはワイパーアームを持って立ててください。ワイパーブレードの先端を持つと、部品が変形してふき取り性能が低下するおそれがあります。

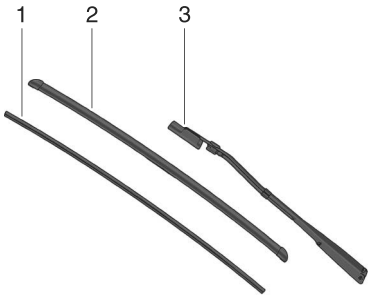
ワイパーブレードをはずした状態のワイパーアームがガラスに強くあたると、ガラスが破損するおそれがあります。ワイパーブレードをはずしている間は、ワイパーアームの先端に布などを巻いてください。

知識

ワイパーブレードはお客さま自身で交換できますが、ワイパーアームを交換することはできません。ワイパーアームを交換するときはマツダ販売店にご相談ください。

フロントワイパー

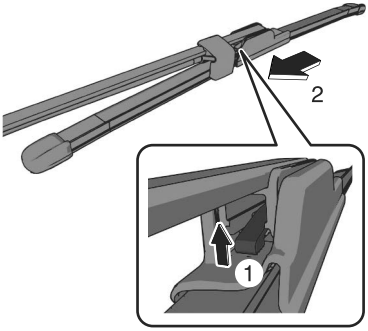
フロントワイパーの構成部品



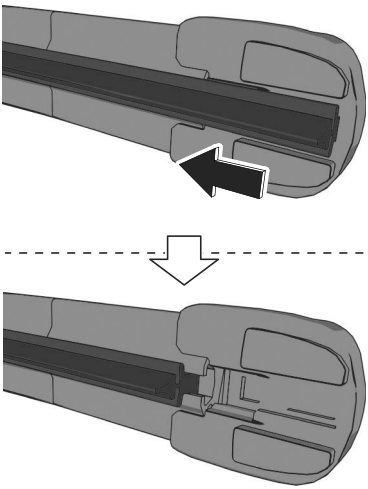
1 ワイパーブレードゴム
2 ワイパーブレード
3 ワイパーアーム

フロントワイパーブレードのゴムを交換する

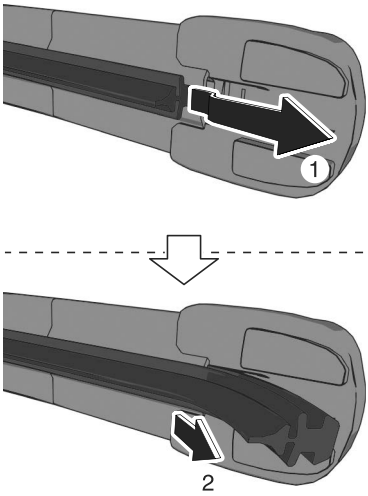
1. ワイパーアームを立てる。
   →9-23 ページ「フロントワイパーを立てる」
2. ワイパーアームのタブを押しながらブレード部品をスライドさせて取りはずす。



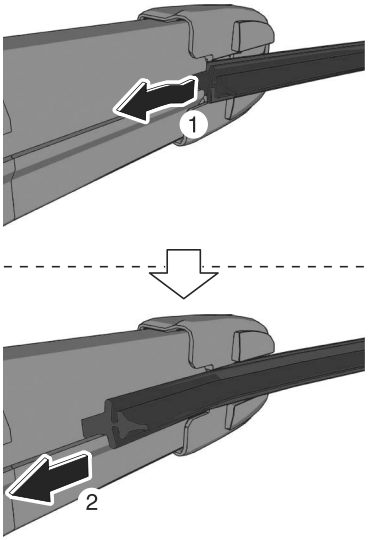
3.



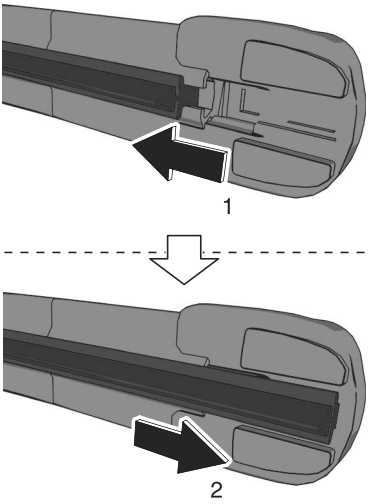
4.



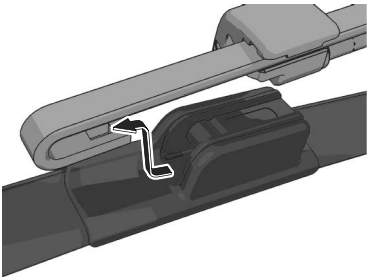
5.



6.



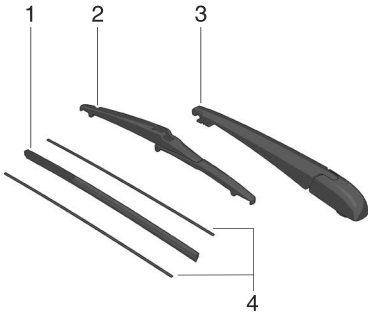
7. ブレードホルダーにブレードゴムが正しく取り付けられているか確認する。
8.



9. ワイパーアームをもとの位置にもどす。
→9-23 ページ「フロントワイパーを立てる」

リアワイパー

リアワイパーの構成部品



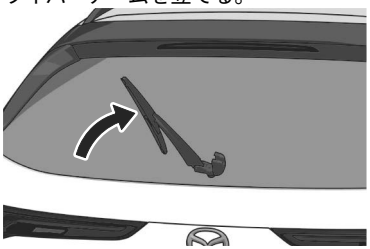
1 ワイパーブレードゴム
2 ワイパーブレード
3 ワイパーアーム
4 金属プレート

リアワイパーブレードのゴムを交換する

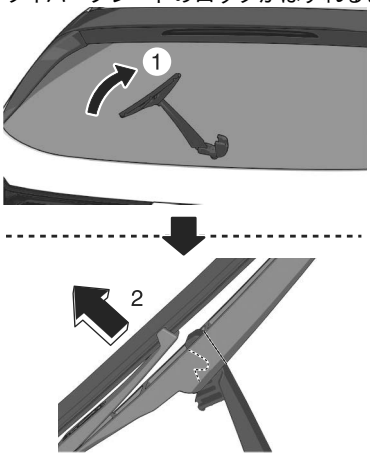
⚠ 注意

ワイパーアームやその他の部品を破損するおそれがあるため、手でワイパーアームを動かさないようにしてください。

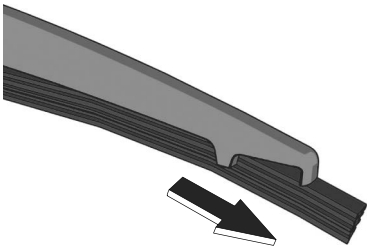
1. ワイパーアームを立てる。



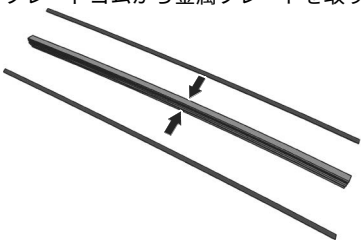
2. ワイパーブレードのロックがはずれるまで右にまわし、ワイパーブレードを取りはずす。



3.



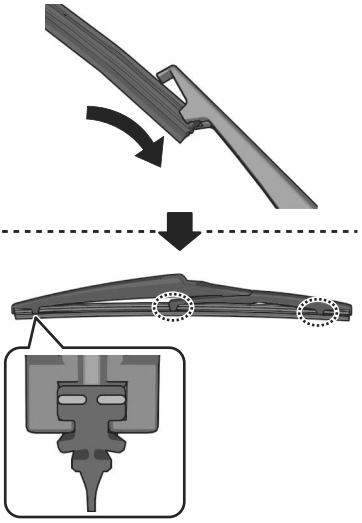
4. ブレードゴムから金属プレートを取りはずし、新しいブレードゴムに取り付ける。



⚠ 注意

ブレード部品を曲げたり廃棄したりしないでください。再度使用する必要があります。

5.



6. ブレードをワイパーアームに、はずした手順と逆の手順で取り付ける。

⚠ 注意

ワイパーアームはゆっくり下ろしてください。ワイパーアームがリアガラスに強くあたると、リアガラスが破損するおそれがあります。

タイヤを点検する

タイヤの点検について

タイヤの点検は法律で義務付けられています。
点検要領については別冊のメンテナンスノートを参照してください。
タイヤは、正しい動作、安全、燃費向上のため、適正空気圧を維持し、積載制限を守ってください。

⚠ 警告

指定サイズ以外のタイヤを使用しない。また、異なる種類のタイヤを混ぜて使用しない。
走行安定性が損なわれ、思わぬ事故につながるおそれがあります。また、法令違反になる場合があります。
運転席ドアを開けたボディー側にあるラベルに記載されているサイズのタイヤを使用してください。また、4 輪ともに同一種類のタイヤを使用してください。

⚠ 注意

タイヤ、ホイール、ホイールナットは、純正品以外は使用しないでください。破損や故障により思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤ空気圧を点検する

⚠ 警告

タイヤの空気圧が不足したままで走行しない。
タイヤの空気圧が不足していると車両の安定性を損なうばかりでなく、タイヤの偏摩耗の原因となります。また、タイヤの空気圧が不足したままで高速走行すると、タイヤがバースト (破裂) するなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

タイヤバルブキャップは純正品を使用する。
タイヤバルブキャップは純正品以外を使用しないでください。純正品以外を使用するとバルブの損傷により、適正空気圧にならないおそれがあります。そのまま走行すると空気圧が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。

き裂、損傷の点検をする

⚠ 警告

異常があるタイヤを装着すると、次の状況が起こることがあり、思わぬ事故につながったり、故障の原因になったりするおそれがあるため、正常なタイヤと交換する。

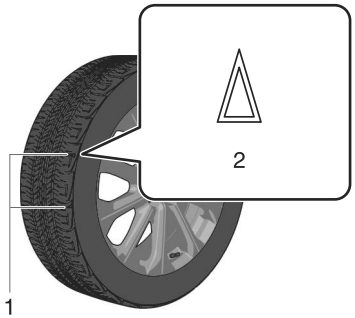
- 走行中にハンドルがとられる
- 異常な振動を感じる
- パンクやバースト (破裂) する
- 車の性能 (燃費・走行安定性・制動距離など) が十分に発揮できない
- 部品に悪影響を与える

溝の深さ、異常摩耗を点検する

摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。

⚠ 警告

タイヤの溝の深さが少ないタイヤや摩耗限界表示 (ウェアインジケーター) が現れているタイヤを使用しない。
そのまま使用すると、制動距離が長くなったり、雨の日にハイドロプレーニング現象により、ハンドル操作ができなくなったり、タイヤがバースト (破裂) するなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。摩耗限界表示が現れたらすみやかに正常なタイヤと交換してください。



1 摩耗限界表示
2 摩耗限界表示の位置を示すマークの例

知識

摩耗限界表示は、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が 1.6 mm だけ浅くなっています。

タイヤの位置交換 (タイヤローテーション) をする

タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約 5,000 km 走行ごとにタイヤの位置を交換してください。
タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 警告

タイヤを交換するときは指定されたサイズや種類のタイヤを装着する。
指定されたサイズや種類以外のタイヤを装着すると走行安定性が損なわれるため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

定期的にタイヤの位置交換を行なう。
異常なタイヤ摩耗は危険です。操舵・制動を良好に保てるよう摩耗を均一にするため、定期的に、偏摩耗が現れた場合はできるだけ早くタイヤの位置交換を行なってください。

⚠ 注意

サイドウォールに回転方向指示のあるタイヤは、左右の位置交換は行なわず、前後のみ位置交換してください。左右で位置交換すると車両の性能が損なわれます。

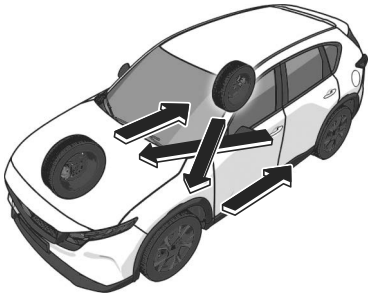
知識

タイヤの位置交換を行なう前にタイヤの空気圧、摩耗を点検してください。
→9-13 ページ「タイヤを点検する」

タイヤの位置交換を行なった後はタイヤの空気圧を規定値に調整してください。
→10-6 ページ「タイヤ空気圧」

お客さまのお車にはスペアタイヤ、ジャッキが標準で搭載されていないため、お客さま自身ではタイヤの位置交換を行なうことができません。タイヤの位置交換を行なうときはマツダ販売店にご相談ください。

タイヤ位置交換のしかた



また、偏摩耗や損傷がないか点検してください。異常な摩耗には、通常次のような原因があります。

・タイヤ空気圧が適正でない。
・アライメントが適正でない。
・ホイールバランスが適正でない。
・ブレーキが強すぎる。

タイヤパンク応急修理キットを点検する

タイヤパンク応急修理キットの点検は定期的に行なってください。

・修理剤の有効期限の確認
・コンプレッサーの作動の確認

知識

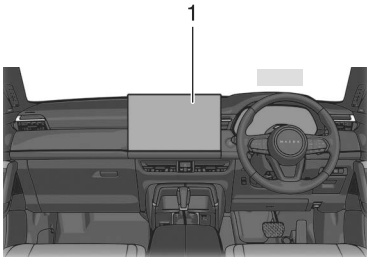
修理剤には有効期限があります。有効期限が切れたものは使用できませんので、ボトルのラベルに記載されている有効期限を確認し、有効期限が切れる前にマツダ販売店で新しい修理剤をお求めください。

電球 (バルブ) を交換する

電球 (バルブ) はすべて LED タイプのため交換できません。交換については、マツダ販売店へご相談ください。

車室内の点検

点検項目と点検箇所を確認する

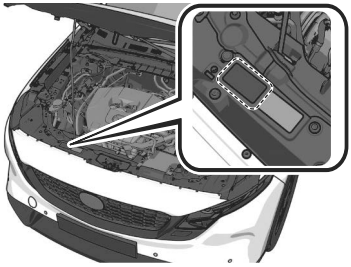


1 エアコン

エアコンをお手入れする

エアコンを使用する前に

エアコンの冷媒 (エアコンガス) が不足していると冷房性能が低下します。冷媒の仕様はエンジンルームに貼られたラベルに記載してあります。違った種類の冷媒を使用すると、エアコンの重大な故障につながる可能性があります。エアコンのメンテナンスには特別な装置が必要ですので、点検や修理は政府認定の専門修理業者にご相談ください。詳しくは専門の修理業者にご相談ください(マツダ販売店をお勧めします)。



エアフィルターについて

花粉やほこりなどの集じん機能を持った、エアフィルターを装備しています。快適にお使いいただくために、エアフィルターを定期的に交換してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

知識

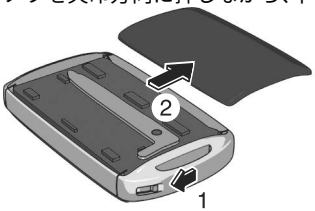
エアコンの風量が著しく減少したときは、エアフィルターの目詰まりが考えられます。エアフィルターを交換してください。

大都市・寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区の場合は、エアフィルターの寿命が短くなり、早めの交換が必要になることがあります。

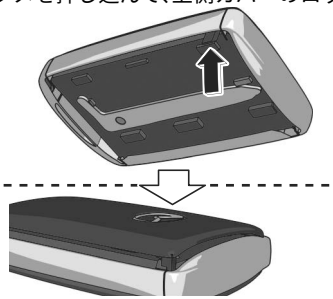
キーの点検

キーの電池交換のしかた

電池の規格: リチウム電池 CR2032
キーが使用できなくなる前に、新しい電池に交換してください。
1. ノブを矢印方向に押しながら、下側カバーを取りはずす。



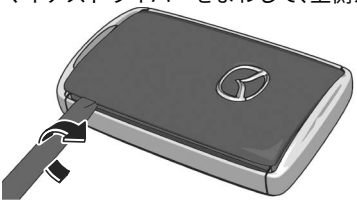
2. ツメを押し込んで、上側カバーのロックを解除する。



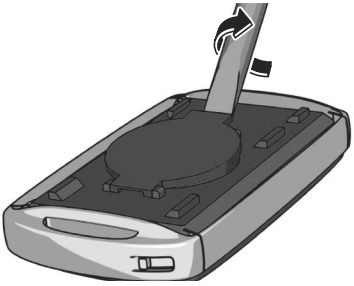
3. 保護テープを巻いたマイナスドライバーをすき間に差し込み、マイナスドライバーをスライドさせる。



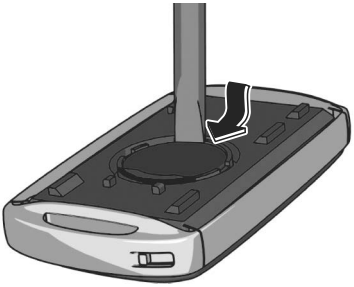
4. マイナスドライバーをまわして、上側カバーを取りはずす。



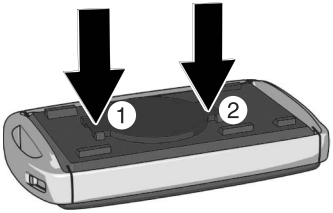
5. 保護テープを巻いたマイナスドライバーを使って、キャップを取りはずす。



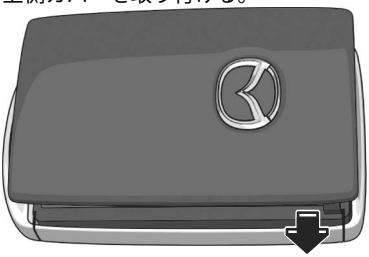
6. 保護テープを巻いたマイナスドライバーを使って、電池を取りはずす。



7. 電池の+側が上になるように、キーに新しい電池をはめ込む。
8. キャップを取り付ける。



9. 上側カバーを取り付ける。



10. キーのスロットに下側カバーのツメを差し込むように、下側カバーを取り付ける。



外装のお手入れ

外装をお手入れする

⚠ 警告

洗車後はブレーキの効きを確認する。
ブレーキパッドがぬれていると、ブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方のブレーキだけが効いて、ハンドルをとられるおそれがあり危険です。ブレーキの効きが悪いときは、低速で走りながら、効きが回復するまでアクセルペダルを離してブレーキペダルを軽く数回踏んでブレーキを乾かしてください。

⚠ 注意

次のようなときは、早めに洗車などのお手入れを行なってください。そのまま放置しておくと、塗装の変色や車体の腐食の原因となります。

- 海岸地帯や、凍結防止剤を散布した雪道を走行したとき。
- ばい煙や粉じん、砂じん、鉄粉、コールタール、塗料、化学物質などが付着したとき。

⚠ 注意

➢ 鳥のふん、虫の死骸、樹液、果実などが付着したとき。

ワイパーを立てるときは、正しい手順で行なってください。正しい手順で行なわないと、ワイパーブレード、ワイパーアーム、またはボンネットに傷がつくおそれがあります。ワイパーを立てる手順については 9-23 ページをお読みください。

ワイパーを下ろすときはワイパーアームに手を添えながらゆっくりともどしてください。勢いよくもどすとワイパーブレードやワイパーアームが損傷したり、フロントガラスに傷や割れが生じたりするおそれがあります。

車両の電源が ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のとき、次のような場合はワイパーが自動で作動することがあります。

➢ フロントガラスのレインセンサー上部に触れたり、布などでふいたりしたとき。
➢ フロントガラスや車内のレインセンサー部に衝撃が加わったとき。

車両の電源が ON で、ワイパーレバーが AUTO の位置のときは、フロントガラスやワイパーに触れないでください。ワイパーが自動で作動し、指を挟まれたり、フロントガラスに傷がついたりするおそれがあります。
氷や雪を除去したり、フロントガラスを清掃したりするときは、ワイパーレバーが OFF の位置にあることを確認してから行なってください。

フューエルフィラーリッドが閉まっていることを確認し、ドアを施錠してください。水圧などでフューエルリッドが勢いよく開き、車体に傷がついたり、フューエルリッドが損傷したりするおそれがあります。

エンジンルーム内に水をかけないでください。エンジンの始動不良や電気部品の故障につながるおそれがあります。

洗車やワックスがけを行なうときは、車体のルーフ部の一点に強い力をかけないようにしてください。強い力をかけると、万一の場合、車体がへこむことがあります。

ガラス、ミラーのお手入れをするときは、熱線を損傷するおそれがあるため、熱線に沿ってふいてください。ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。

お手入れには、コンパウンド入りワックス、ガソリン、ベンジンなどの有機溶剤、アルコール類、酸性・アルカリ性溶剤、漂白剤などは使用しないでください。

外装にガソリンなどの有機溶剤、オイル、冷却水、バッテリー液などが付着した場合はすぐにふき取ってください。

クロムメッキまたは陽極酸化アルミニウム部品には、スチールウール、研磨剤入りクリーナー、またはアルカリ性または腐食性の強い物質を含む強力な洗剤を使用しないでください。保護コーティングが損傷する可能性があります。また、クリーナーや洗剤によって塗装が変色したり劣化したりする可能性があります。

(ハンズフリー機能つきリアゲート装備車)
洗車やワックスがけをするときは、マツダコネクトを使用してハンズフリー機能をオフにしてください。また、キーをリアゲートに近づけないでください。リアゲートが予期せず開いて事故につながるおそれがあります。

自動洗車機を使用するとき

⚠ 注意

ドアミラーを格納してください。

自動洗車機を使用すると、ブラシにより傷がつき塗装の光沢が失われたり、劣化が早まったりすることがあります。

スポイラー装備車は、洗車機の一部がスポイラーに引っかかり洗車できなかったり、スポイラーが損傷したりするおそれがあります。

(ベルトコンベヤー型の自動洗車機を使用するとき)
次の操作を行なってください。

- 左右どちらかのタイヤをベルトコンベヤーに載せて車両を動かすタイプの自動洗車機などは、パーキングブレーキを解除してシフトポジションを N にする必要があります。
- 洗車中はブレーキを踏まないでください。脱輪するおそれがあります。
- i-ACTIVSENSE のすべてのシステムを OFF にしてください。誤作動するおそれがあります。
  →5-76 ページ「アクティブセーフティ技術について」
  →5-77 ページ「プリクラッシュセーフティ技術について」
- 電動パーキングブレーキ (EPB) の自動作動を停止してください。
  →5-44 ページ「電動パーキングブレーキ (EPB) の便利な使いかた」

高圧洗車機を使用するとき

⚠ 注意

洗車機は機種によっては高温、高圧のものがあります。洗車ノズルを近づけすぎると、モールなど樹脂部分やシール材などが変形、損傷したり、室内に水が入ったりするおそれがありますので、洗車ノズルと車体との距離は十分に離してください (30 cm 以上)。また、同じ場所を連続して洗浄しないでください。ドアのすき間や窓ガラスまわりは、特に注意して行なってください。

ホイールをお手入れする

⚠ 注意

ホイールに海水や凍結防止剤を付着させたままにしておくと、腐食するおそれがあります。できるだけ早く洗い流してください。

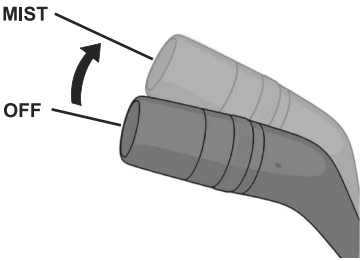
中性洗剤以外は使用しないでください。ご使用の際には成分をご確認ください。変色･シミの原因となります。

フロントワイパーを立てる

洗車時、降雪時、フロントワイパーブレードゴムの交換時などに、フロントワイパーを立ててください。

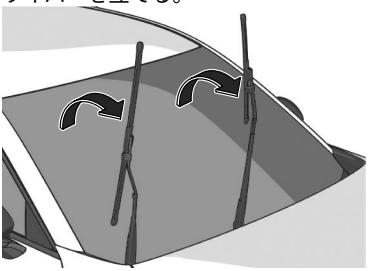
フロントワイパーを立てる

1. 車両の電源を ON にする。
2. 車両の電源を OFF にする。
3. 車両の電源を OFF にしてから 30 秒以内に、ワイパースイッチを MIST の位置まで 2 回押し上げる。



ワイパーが作動し、サービスポジションで止まります。

4. ワイパーを立てる。



⚠ 注意

ワイパーアームを立てるときはワイパーアームを持って立ててください。ワイパーブレードの先端を持つと、部品が変形して、ふき取り性能が低下するおそれがあります。

フロントワイパーをもとの位置にもどす

1. ワイパーをフロントガラスにゆっくり下ろす。

⚠ 注意

ワイパーはゆっくり下ろしてください。ワイパーがフロントガラスに強くあたると、フロントガラスが破損するおそれがあります。

2. 車両の電源を ON にする。
3. ワイパースイッチを MIST の位置まで 2 回押し上げる。
   ワイパーが作動し、もとの位置にもどります。

内装のお手入れ

内装をお手入れする

⚠ 警告

室内に水をかけない。
オーディオ、スイッチなどの電気部品に水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

⚠ 注意

樹脂部品のお手入れにはつや出し剤を使用しないでください。
含まれる成分によっては変色、シミ、ひび割れ、塗装はがれの原因になります。

ガラスの内側をふくときは、水やぬるま湯でぬらしたやわらかい布で、軽くふいてください。
熱線を損傷するおそれがあるため、熱線に沿ってふいてください。
また、ガラスクリーナーなどを使用すると、熱線をいためるおそれがあります。

内装に芳香剤などの液体をこぼしたときは、すぐにふき取ってください。

お手入れには、コンパウンド入りワックス、ガソリン、ベンジンなどの有機溶剤、アルコール類、酸性・アルカリ性溶剤、漂白剤などは使用しないでください。

光沢のあるパネル、メッキ部分は乾いた布などでこすらないでください。また、メーターレンズはやわらかい布 (めがねふきなど) でふき、強くこすらないでください。すり傷がつくことがあります。

インストルメントパネル上面 (ソフトパッド部) をお手入れする

特に汚れが気になるときのインストルメントパネルのお手入れ方法

1. 水で薄めた中性洗剤をやわらかい布に含ませて汚れをふき取る。
2. 水をひたした布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る。

布張り、合成皮革部分をお手入れする

⚠ 注意

布張り、合成皮革部分に汚れがついたときは、早めに手入れを行なってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、シミや変色を生じたりすることがあります。

布張り

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取る。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取る。

合成皮革

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除く。
2. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れた部分をふき取る。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取る。

革張り部分をお手入れする

1. 掃除機などでほこりや砂を取り除く。
2. 純正専用クリーナーまたは水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る。
3. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取る。
4. 乾いたやわらかい布で水分を取り、風通しのよい日陰で乾燥させる。雨などでぬれたときも早めに水分をふき取り、乾燥させる。

知識

天然素材のため、シボ (本革表面の凹凸) の不均一や牛革本来の傷がわかる場合があります。

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

次のような場合は、早めに手入れを行なってください。そのまま放置しておくと早く摩耗したり、カビやシミなどの原因になったりします。

・砂、ほこりなどが付いたとき
・ハンドクリームなどの油分が付いたとき
・化粧品、整髪料などのアルコール類が付いたとき

革張り部分がぬれたときはすぐに乾いた布で水分をふき取ってください。表面に水分が残っていると硬化、収縮など変質の原因になります。

直射日光に長時間さらすと、変質、縮みなどの原因になります。長時間駐車するときは、サンシェード (日除け) を使用するなどして直射日光をさえぎってください。

ビニール製品を長時間、革張り部分の上に置かないでください。変質、変色の原因になります。室内が高温になっているとビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。

アクティブ･ドライビング･ディスプレイをお手入れする

注意

防塵シートの手入れには、洗剤などを使用しないでください。また、防塵シートに薬剤などがついたときはすぐにふき取ってください。コーティングが傷つく場合があります。

1. メガネふきのような、きめの細かい、やわらかい布でふく。

シートベルトをお手入れする

⚠ 警告

シートベルトにほつれ、すり傷などの異常があるときは、マツダ販売店で交換する。
そのままの状態で使用すると、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

シートベルトの汚れを取るときは、中性洗剤を使用する。
有機溶剤を使用したり、染色、漂白したりするとベルトの強度が低下し、万一の場合シートベルトの効果が十分に発揮できないため、重大な傷害につながるおそれがあります。

1. 水で薄めた中性洗剤 (約 5 %) をやわらかい布に含ませ、軽くたたくようにして汚れた部分をふき取る。
2. きれいな水にひたした布を固くしぼり、残った洗剤をふき取る。
3. 手入れのため引き出したシートベルトを巻き取らせるときは、十分に乾燥させ、水分が残っていないことを確認する。

知識

汚れがあるときはこまめにふき取ってください。汚れたままにしておくと、汚れが落ちにくくなったり、ベルトの巻き取りが悪くなったりすることがあります。

10 仕様

車両スペック..... 10-2
M ハイブリッド用バッテリー 10-2
12 V バッテリー..... 10-2
スパークプラグ..... 10-2
燃料..... 10-2
エンジンオイル/エンジンオイルフィルター..... 10-3
冷却水..... 10-4
オートマチックトランスミッションフルード..... 10-4
ディファレンシャルオイル 10-4
トランスファーオイル..... 10-5
ウォッシャー液..... 10-5
ブレーキ液..... 10-5
電球 (バルブ)..... 10-5
タイヤ/ホイールサイズ..... 10-5
タイヤ空気圧..... 10-6
ホイールナットの締め付けトルク..... 10-7
ブレーキディスクの摩耗限度情報 10-7
ブレーキペダル..... 10-7
補機ベルト..... 10-7
エアクリーナーエレメント 10-7

車両スペック

M ハイブリッド用バッテリー

項目	サービスデータ
タイプ	リチウムイオン電池
温度範囲	作動保証温度: −35 °C ～ 60 °C 保存保証温度: −40 °C ～ 90 °C

12 V バッテリー

エンジン	型式*1
e-SKYACTIV G	55D23L、55 Ah

*1　車両に取り付けられた 12 V バッテリーを確認の上、同等以上の性能のバッテリーを使用してください。ただし、同一型式の中でも性能が異なる場合がありますので、交換する際はマツダ販売店にご相談ください。

スパークプラグ

エンジン	型式	
e-SKYACTIV G	NGK	ILKAR7X11*1

*1　e-SKYACTIV-G の最適な性能を発揮するためのスパークプラグです。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

⚠ 注意

イリジウムプラグを使用しておりますので、ワイヤーブラシなどによる清掃は行なわないでください。イリジウム合金チップおよび白金チップの微粒子膜が損傷または脱落するおそれがあります。

燃料

使用燃料

使用燃料については、5-75 ページ「給油のしかた」もあわせてお読みください。

エンジン	使用燃料
e-SKYACTIV G	無鉛レギュラーガソリン 無鉛レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22) *1

*1　エタノールの混合率 10%以下、または ETBE の混合率 22%以下を使用することができます。

燃料タンク容量

駆動	燃料タンク容量 (参考値)
FWD 車	56 L
AWD 車	58 L

エンジンオイル/エンジンオイルフィルター

エンジンオイル/オイルフィルター交換時期

交換時期は走行 km または年月のどちらか早い方で交換してください。車両の使用状況により、レンチ表示/表示灯が点灯することがあります。その場合は、エンジンオイルとエンジンオイルフィルターを交換してください。シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

エンジン	標準	シビアコンディション
e-SKYACTIV G	15,000 km または 1 年ごと	7,500 km または 6 か月ごと

エンジンオイルの規格/銘柄

表に記載されたエンジンオイルを使用してください。

エンジン	指定規格	推奨銘柄
e-SKYACTIV G	API SN 以上 (SAE 0W-20、SAE 5W-30)	純正モーターオイル ゴールデン ECO 7 PLUS (0W-20)、 純正モーターオイル ゴールデン ECO 7 (0W-20)、 純正モーターオイル ゴールデン SP (5W-30)

エンジンオイル/オイルフィルター交換時のオイル容量

エンジン	エンジンオイル容量
e-SKYACTIV G	4.5 L

使用温度範囲

エンジンオイルは外気温に応じた粘度のものを次の表に基づき使用してください。



冷却水

推奨銘柄と交換時期

ラジエーターキャップまたはその付近に FL22 のマークがある場合は、純正ロングライフクーラント (ゴールデン) を使用してください。詳しくはマツダ販売店にご相談ください。

推奨銘柄	交換時期
純正ロングライフクーラント (ゴールデン)	100,000 km 走行または 4 年ごと (初回は 180,000 km 走行または 9 年)

冷却水容量

エンジン	エンジン冷却水容量 (参考値)
e-SKYACTIV G	8.2 L

オートマチックトランスミッションフルード

エンジン	推奨フルード	容量 (参考値)
e-SKYACTIV G	純正 ATF A7	7.1 L

ディファレンシャルオイル

推奨オイルとディファレンシャルオイル容量

ディファレンシャルオイル	サービスデータ
推奨オイル	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1
容量 (参考値)	0.35 L

トランスファーオイル

エンジン	推奨銘柄	容量 (参考値)
e-SKYACTIV G	マツダロングライフハイポイドギヤオイル SG1	0.4 L

ウォッシャー液

液量の確認は、レベルゲージで行なってください。

ウォッシャー液	タンク容量 (参考値)
ヘッドランプウォッシャー非装備車	2.2 L
ヘッドランプウォッシャー装備車	4.2 L

ブレーキ液

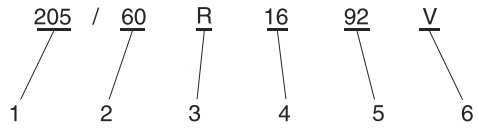
項目	サービスデータ
交換時期	2 年ごと (初回は 3 年)
推奨液	純正ブレーキフルード BF-3 (DOT-3)、 純正ブレーキフルード B7 (DOT-3)

電球 (バルブ)

この車両に装備されている電球は、すべて LED タイプです。LED タイプの電球は交換できません。交換については、マツダ販売店にご相談ください。

タイヤ/ホイールサイズ

タイヤサイズ表示 (一例) の見方



1 タイヤ幅の呼称 (mm)
2 偏平率 (%)
3 ラジアル構造
4 リム径の呼称 (インチ)
5 ロードインデックス (LI)
6 速度記号

速度記号の見方

次の速度記号情報で、車両の適切なタイヤを選んでください。

速度記号	最高速度
L	120 km/h まで
N	140 km/h まで
Q	160 km/h まで
R	170 km/h まで
S	180 km/h まで
T	190 km/h まで
U	200 km/h まで
H	210 km/h まで
V	240 km/h まで
W	270 km/h まで

標準タイヤ

タイヤサイズは、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	ホイールサイズ	ピッチサークル直径
225/65 R17 102V	17×7J 45	114.3 mm
225/55 R19 99V	19×7J 45	

タイヤ空気圧

適正空気圧は、運転席ドアを開けたボディー側に貼付されているラベルで確認してください。

タイヤサイズ	前輪	後輪
225/65 R17 102V	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)
225/55 R19 99V	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)	250 kPa (2.5 kgf/cm^2)

ホイールナットの締め付けトルク

タイヤを取り付けるときは、次のトルクでホイールナットを締め付けてください。
127.5 N·m (13 kgf·m)

ブレーキディスクの摩耗限度情報

ブレーキディスクの使用限度値とその測定方法に関する情報が必要な場合は、マツダ販売店にご相談ください。

ブレーキペダル

エンジン	遊び	フロアマットとのすき間 (踏力 147 N {15 kgf})
e-SKYACTIV G	4 mm 以下	73 mm 以上

補機ベルト

補機ベルトは、自動調整式です。点検や交換については、マツダ販売店へご相談ください。

エアクリーナーエレメント

車の使われかた	交換時期
標準	50,000 km 走行ごと
シビアコンディション*1	25,000 km 走行ごと

*1　シビアコンディションの条件については、別冊のメンテナンスノートに記載しています。

MEMO

11 さくいん

A

ABS.....5-65
ALH.....5-99
AT 誤発進抑制制御
　概要.....5-192
　使いかた.....5-194
AWD.....5-72

B

BSM.....5-107

C

CTS.....5-145

D

DAA.....5-120
DEA.....5-220
DSC.....5-67

E

ELK.....5-167
EPB.....5-42
ESS.....5-50

F

FCTA.....5-129

H

HBC.....5-97
HLA.....5-49

I

i-ACTIVSENSE
　AT 誤発進抑制制御.....5-192
　i-ACTIVSENSE 警告灯.....8-37
　i-ACTIVSENSE 表示.....5-30
　i-ACTIVSENSE ミュートスイッチ.....5-81
　アクティブセーフティ技術.....5-76
　アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH).....5-99
　概要.....5-76
　緊急時車線維持支援 (ELK).....5-167
　クルージング&トラフィック･サポート (CTS).....5-145
　警報･リスク回避支援表示.....5-78
　後側方接近車両検知 (RCTA).....5-133
　交通標識認識システム (TSR).....5-117
　車線逸脱警報システム.....5-104
　衝突二次被害軽減システム.....5-226
　スマート･ブレーキ･サポート (SBS).....5-181
　前側方接近車両検知 (FCTA).....5-129
　超音波センサー.....5-91
　ドライバー･アテンション･アラート (DAA).....5-120
　ドライバー･モニタリング.....5-122
　ドライバー･モニタリングカメラ.....5-96
　ドライバー･モニタリング検知性能低下表示灯.....8-41
　ドライバー異常時対応システム (DEA).....5-220
　ハイ･ビーム･コントロールシステム (HBC).....5-97
　発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機).....5-136
　ビューカメラ.....5-94
　フロントカメラヘッド.....5-82
　ブラインド･スポット･モニタリング (BSM).....5-107
　プリクラッシュセーフティ技術.....5-77
　マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC).....5-137
　レーダーセンサー.....5-85
　360° ビュー･モニター.....5-198
i-ACTIV AWD.....5-72
i-DM.....5-30
i-stop
　i-stop 警告灯 (橙).....8-34
　概要.....5-19
　使いかた.....5-19

M

Mi-Drive.....5-70
MRCC.....5-137

Q

Qi
　ワイヤレス充電 (Qi).....7-30

R

RCTA.....5-133

S

SBS.....5-181
SOS ボタン..... 7-15

T

TCS.....5-66
TSC.....5-68
TSR.....5-117

U

USB 電源ソケット
概要..... 7-29
使いかた..... 7-30

あ

アームレスト..... 3-30
アクティブ･ドライビング･ディスプレイ... 5-32
お手入れ..... 9-25
作動しないとき..... 8-30
アクティブドライビングサウンド
概要..... 5-68
アシストグリップ..... 7-35
アダプティブ･LED･ヘッドライト (ALH)
概要..... 5-99
使いかた..... 5-102
アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム..... 4-10
概要..... 4-9
アンチロックブレーキシステム..... 5-65
アンビエントライト
使いかた..... 7-27

い

イモビライザーシステム
概要..... 4-35
セキュリティ表示灯..... 8-36
使いかた..... 4-35
イルミネーテッドエントリーシステム
概要..... 7-22
使いかた..... 7-23
インテリジェント･ドライブ･マスター (i-DM)
概要..... 5-30
使いかた..... 5-31

う

ウインドーワイパーデアイサー..... 5-64
概要..... 5-64
使いかた..... 5-64
ウォッシャー
ウォッシャー液残量警告灯..... 8-39
ウォッシャー液補充.....9-5
フロントウォッシャースイッチ概要... 5-57
フロントウォッシャースイッチ使いかた 5-59
噴射しないとき..... 8-30
容量..... 10-5
リアウォッシャースイッチ..... 5-61
ウォッシャー液
スペック..... 10-5

え

エアクリーナーエレメント
スペック..... 10-7
エアコン
お手入れ..... 9-17
フルオートエアコン概要.....6-5
フルオートエアコン使いかた..... 6-9
エアバッグ
エアバッグ/シートベルトプリテンショナー警告灯.....8-35
概要..... 3-2
作動について.....3-9
エマージェンシーシグナルシステム..... 5-50
エンジン
i-stop 警告灯 (橙)..... 8-34
エアクリーナーエレメント..... 10-7
エンジンオイル点検.....9-4
エンジンオイルレベル警告灯..... 8-37
エンジンオイル/フィルター.....10-3
エンジンが停止できないとき..... 8-17
エンジン警告灯..... 8-34
エンジンを強制的に停止する..... 8-17
オーバーヒート..... 8-20
オイル警告灯.....8-31
スパークプラグ..... 10-2
電池切れしたキーでエンジンを始動する 8-13
プッシュボタンスタート.....5-13
12 V バッテリーあがりを処置する..... 8-15
エンジンオイル/フィルター
スペック..... 10-3

お

オートホールド
概要 5-46
使いかた 5-48
オートマチックトランスミッション
AT 誤発進抑制制御 5-192
オートマチックトランスミッション警告灯 8-34
オートマチックトランスミッションフルード 10-4
シフトロック装置を解除する 8-19
ステアリングシフトスイッチ 5-39
セレクトレバー 5-35
オートマチックトランスミッションフルード
スペック 10-4
オーバーヘッドコンソール 7-20

か

カップホルダー
使いかた 7-17
カメラ
ドライバー・モニタリングカメラ 5-96
ビューカメラ 5-94
フロントカメラヘッド 5-82

き

キー
KEY 警告灯 (赤) 8-35
KEY 表示灯 (緑) (点滅) 8-40
アドバンストキーレスエントリー & プッシュボタンスタートシステム 4-9
概要 4-4
キー車外持ち出し警報チャイム 8-42
キー車内閉じ込み警報チャイム 8-42
キーの一時停止機能を解除する 8-12
使いかた 4-6
電池切れしたキーでエンジンを始動する 8-13
電池交換 9-18
補助キー 8-12
ラゲッジルーム内キー閉じ込み警報チャイム 8-42
給油 5-75
緊急
ウインドーが操作できないとき 8-29
エンジンを強制的に停止する 8-17
オーバーヒート 8-20
冠水や浸水しているとき 8-4
キーの一時停止機能を解除する 8-12
警告灯が点灯したとき 8-30
けん引してもらう 8-7
けん引フック 8-9
サンルーフが操作できないとき 8-29
事故に対処する 8-4
スタックしたとき 8-7
タイヤパンク応急修理キット 8-21
電池切れしたキーでエンジンを始動する 8-13
発炎筒 7-36
パンクやバースト (破裂) に対処する 8-21
非常点滅表示灯 5-64
踏切内で動けなくなったとき 8-6
補助キー 8-12
マツダエマージェンシーコール 8-4
リアゲートを車内から開ける 8-28
路上で動けなくなったとき 8-5
12 V バッテリーあがりを処置する 8-15
緊急時車線維持支援 (ELK)
概要 5-167
使いかた 5-169

く

クルージング&トラフィック・サポート (CTS)
概要 5-145
使いかた 5-148
クルーズコントロール
概要 5-227
使いかた 5-228
グローブボックス 7-18

け

警告灯が点灯したとき 8-30

こ

コートフック 7-20
コインボックス 7-18
後側方接近車両検知 (RCTA)
概要 5-133
使いかた 5-133
交通標識認識システム (TSR)
使いかた 5-117
概要 5-117
故障診断コネクター 7-36
コンソール 7-19

さ

サンバイザー
使いかた....7-21
サンルーフ
概要....4-32
初期設定....8-29
使いかた....4-33

し

シート
シートヒーター概要....6-14
シートヒーター使いかた....6-15
シートベンチレーション概要....6-20
シートベンチレーション使いかた....6-21
チャイルドシート....3-33
チャイルドシート選択の目安表....3-39
チャイルドシートの種類....3-36
チャイルドシートの取り付けかた....3-41
ドライバー・パーソナライゼーション・システム....6-23
ドライビングポジションメモリー機能....3-22
フロントシート....3-19
ヘッドレスト....3-30
リアシート....3-27
リアシートアラート警告灯....8-39
シートベルト....3-12
シートベルト警告灯 (フロントシート)....8-38
シートベルト警告灯 (リアシート) (赤)....8-38
シートベルトのお手入れ....9-26
使いかた....3-15
車線逸脱警報システム
概要....5-104
使いかた....5-104
収納
オーバーヘッドコンソール....7-20
グローブボックス....7-18
コインボックス....7-18
コンソール....7-19
衝突二次被害軽減システム
概要....5-226
使いかた....5-226
照明
アンビエントライト....7-27
イルミネーテッドエントリーシステム....7-22
ドアランプ....7-26
マップランプ....7-25
ラゲッジルームランプ....7-26
ルームランプ....7-23
事故
エンジンを強制的に停止する....8-17
冠水や浸水しているとき....8-4
警告灯が点灯したとき....8-30
けん引してもらう....8-7
けん引フック....8-9
事故に対処する....8-4
スタックしたとき....8-7
タイヤパンク応急修理キット....8-21
発炎筒....7-36
パンクやバースト (破裂) に対処する...8-21
非常点滅表示灯....5-64
踏切内で動けなくなったとき....8-6
マツダエマージェンシーコール....8-4
路上で動けなくなったとき....8-5
ジャッキ....7-37
充電
USB 電源ソケット....7-29
電源ソケット....7-27
ワイヤレス充電 (Qi)....7-30

す

スイッチ
i-ACTIVSENSE ミュートスイッチ....5-81
SOS ボタン....7-15
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) スイッチ....5-102
オーディオリモートコントロールスイッチ....7-8
クルージング&トラフィック・サポート (CTS) スイッチ....5-148
クルーズコントロールスイッチ....5-228
シートヒータースイッチ....6-15
シートベンチレーションスイッチ....6-21
ステアリングシフトスイッチ....5-39
ステアリングヒータースイッチ....6-19
ダイナミック・スタビリティ・コントロールオフスイッチ....5-67
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) スイッチ....5-98
パーキングセンサー OFF スイッチ....5-230
非常点滅表示灯....5-64
ヒルディセントコントロールスイッチ....5-69
フロントウォッシャースイッチ....5-59
フロントワイパースイッチ....5-59

マツダ･レーダー･クルーズ･コントロール (MRCC) スイッチ....5-138
ランプスイッチ....5-51
リアウインドーデフォッガースイッチ....5-63
リアウォッシャースイッチ....5-61
360°ビュー･モニタースイッチ....5-204
ステアリング
シフトスイッチ....5-39
ステアリングヒーター概要....6-18
ステアリングヒーター使いかた....6-19
調節....3-33
電動ハンドルロック警告チャイム....8-43
電動パワーステアリング警告灯....8-32
パワーステアリング....5-73
スパークプラグ
スペック....10-2
スマート･ブレーキ･サポート (SBS)
概要....5-181
使いかた....5-184

せ

セレクトレバー....5-35
センサー
超音波センサー....5-91
レーダーセンサー....5-85
前側方接近車両検知 (FCTA)
概要....5-129
使いかた....5-129

た

タイヤ
スノータイヤ....5-235
タイヤ空気圧....10-6
タイヤチェーン....5-235
タイヤパンク応急修理キット....8-21
タイヤパンク応急修理キットの点検...9-16
タイヤ/ホイールサイズ....10-5
点検....9-13
パンクやバースト (破裂) に対処する...8-21
ホイールナットの締め付けトルク....10-7
ローテーション....9-15
タイヤ空気圧
スペック....10-6
タイヤ/ホイールサイズ
スペック....10-5
ダイナミック･スタビリティ･コントロール
概要....5-67
使いかた....5-67

ち

チャイルドシート....3-41
概要....3-33
種類....3-36
選択の目安表....3-39
超音波センサー....5-91

て

ディファレンシャルオイル
スペック....10-4
電源
電源オフ忘れ警告チャイム....8-42
電源ソケット....7-27
電源ソケット
概要....7-27
使いかた....7-28
電動パーキングブレーキ
概要....5-42
使いかた....5-43

と

盗難防止システム
イモビライザーシステム概要....4-35
イモビライザーシステム使いかた....4-35
セキュリティ表示灯....8-36
バーグラアラームシステム概要....4-35
バーグラアラームシステム使いかた...4-36
トラクションコントロールシステム
概要....5-66
使いかた....5-66
トランスファーオイル
スペック....10-5
トレーラー･スタビリティ･コントロール
概要....5-68
使いかた....5-68
ドア....4-12
ドアランプ....7-26
ドアロック不作動警告チャイム....8-43
半ドア警告灯....8-39
ドアミラー....5-9
ドアランプ
使いかた....7-26
ドライバー･アテンション･アラート (DAA)
概要....5-120
使いかた....5-121
ドライバー･パーソナライゼーション･システム
使いかた....6-24

ドライバー・モニタリング
概要..... 5-122
使いかた..... 5-124
ドライバー・モニタリングカメラ..... 5-96
ドライバー異常時対応システム (DEA)
概要..... 5-220
使いかた..... 5-222
ドライビングポジションメモリー機能.....3-23

に

荷室
ラゲッジルーム..... 7-20
ラゲッジルームランプ.....7-26

ね

燃料
給油..... 5-75
スペック..... 10-2
燃料残量警告灯..... 8-37

は

ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC)
概要..... 5-97
使いかた..... 5-98
ハイブリッドシステム
M ハイブリッド概要.....5-16
M ハイブリッド使いかた..... 5-18
発炎筒..... 7-36
発進報知機能 (先行車)/発進報知機能 (信号機)
概要..... 5-136
使いかた..... 5-136
バーグラアラームシステム
概要..... 4-35
セキュリティ表示灯..... 8-36
使いかた..... 4-36
バッテリー
M ハイブリッド用バッテリー..... 10-2
スペック..... 10-2
12 V バッテリー..... 10-2
12 V バッテリーあがりを処置する..... 8-15
12 V バッテリー充電警告灯..... 8-31
12 V バッテリー充電量低下チャイム... 8-44
12 V バッテリー点検..... 9-5
バニティミラー.....7-22
バルブ
スペック..... 10-5
パーキングセンサー
概要..... 5-230
使いかた..... 5-230
パネルライトコントロール
概要..... 5-27
使いかた..... 5-27
パワーウインドー
概要..... 4-28
自動開閉機構を復帰する.....8-29
使いかた..... 4-29
はさみ込み防止機構を解除する..... 8-29
パワーリアゲート
概要..... 4-19
使いかた..... 4-21

ひ

非常点滅表示灯
概要..... 5-64
使いかた..... 5-64
ヒューズ
点検..... 9-5
ヒル・ローンチ・アシスト..... 5-49
ヒルディセントコントロール
概要..... 5-68
使いかた..... 5-69

ふ

フロントカメラヘッド.....5-82
フロントシート..... 3-19
ドライビングポジションメモリー機能 3-22
ヘッドレスト.....3-30
ブラインド・スポット・モニタリング (BSM)
概要..... 5-107
使いかた..... 5-108
ブレーキ
ABS 警告灯..... 8-32
TCS/DSC 作動表示/表示灯..... 8-35
アンチロックブレーキシステム..... 5-65
エマージェンシーシグナルシステム... 5-50
オートホールド..... 5-46
オートホールドが解除できないとき... 8-18
スマート・ブレーキ・サポート (SBS).. 5-181
電動パーキングブレーキ.....5-42
電動パーキングブレーキ (EPB) 警告チャイム..... 8-43
電動パーキングブレーキ (EPB) 表示灯 8-33
ヒル・ローンチ・アシスト.....5-49
ブレーキ・オーバーライド・システム... 5-46
ブレーキ液..... 10-5

ブレーキ警告灯 8-30
ブレーキコントロールシステム警告灯 8-33
ブレーキシステム警告チャイム 8-43
ブレーキシステム (フットブレーキ) が故障したとき 8-18
ブレーキディスクの摩耗限度情報 10-7
ブレーキペダル 10-7
ブレーキ・オーバーライド・システム 5-46
ブレーキ液
スペック 10-5
ブレーキディスクの摩耗限度情報
スペック 10-7
ブレーキペダル
スペック 10-7
プッシュボタンスタート
概要 5-13
使いかた 5-15

へ

ヘッドランプ
アダプティブ・LED・ヘッドライト (ALH) 5-99
アダプティブ・LED・ヘッドランプ (ALH) 警告灯 (橙) 8-36
エクステリアランプ警告灯 8-37
電球 (バルブ) について 10-5
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 5-97
ハイ・ビーム・コントロールシステム (HBC) 警告灯 (橙) 8-36
ランプ消し忘れ防止チャイム 8-41
ランプスイッチ 5-50
ヘッドレスト
概要 3-30
使いかた 3-31

ほ

ホーン 5-65
ホイール 9-22
ホイールナットの締め付けトルク
スペック 10-7
方向指示器 5-56
補機ベルト
スペック 10-7
ボトルホルダー 7-18
ボンネット 4-27
ボンネット開警告灯 8-39

ま

マツダ・レーダー・クルーズ・コントロール (MRCC)
概要 5-137
使いかた 5-138
マツダエマージェンシーコール 8-4
概要 7-14
使いかた 7-15
マツダコネクト
概要 7-4
使いかた 7-8
マツダ インテリジェント ドライブ セレクト
概要 5-70
使いかた 5-71
マップランプ 7-25

み

ミラー
曇り取り 5-63
ドアミラー 5-9
バニティミラー 7-22
ルームミラー 5-11

め

メーター
i-ACTIVSENSE 表示 5-30
アクティブ・ドライビング・ディスプレイ 5-32
アクティブ・ドライビング・ディスプレイが作動しないとき 8-30
インテリジェント・ドライブ・マスター (i-DM) 5-30
オドメーター 5-25
外気温表示 5-28
概要 5-21
水温計 5-26
スピードメーター 5-24
走行可能距離表示 5-28
タコメーター 5-25
トリップメーター 5-25
燃料計 5-26
パネルライトコントロール 5-27
平均燃費表示 5-29
メッセージ表示 5-30
メンテナンス
アクティブ・ドライビング・ディスプレイのお手入れ 9-25
インストルメントパネルのお手入れ 9-24

ウォッシャー液補充.....9-5
エアコン.....9-17
エンジンオイル.....9-4
エンジンルームの点検.....9-4
革張り部分のお手入れ.....9-25
外装のお手入れ.....9-20
キーの電池交換.....9-18
シートベルトのお手入れ.....9-26
車室内の点検.....9-17
車両外観の点検.....9-6
タイヤの点検.....9-13
タイヤパンク応急修理キットの点検...9-16
タイヤローテーション.....9-15
電球 (バルブ) の交換.....9-17
内装のお手入れ.....9-24
日常点検.....9-2
布張り、合成皮革部分のお手入れ.....9-24
ヒューズ.....9-5
ホイールのお手入れ.....9-22
レンチ表示灯.....8-40
ワイパーブレードゴムを交換する.....9-7
12 V バッテリー.....9-5

ら

ラゲッジルーム
概要.....7-20
使いかた.....7-21
ラゲッジルームランプ.....7-26
ランプスイッチ
概要.....5-50
使いかた.....5-51

り

リアウインドーデフォッガー
概要.....5-62
使いかた.....5-63
リアゲート.....4-18
車内から開ける.....8-28
ドアロック不作動警告チャイム.....8-43
パワーリアゲート.....4-19
パワーリアゲート警告チャイム.....8-43
リアゲート開警告灯.....8-39
リアシート.....3-27
アームレスト.....3-30
ヘッドレスト.....3-30
リアシートアラート概要.....4-38
リアシートアラート使いかた.....4-38
リアフォグランプ.....5-55

る

ルームミラー.....5-11
ルームランプ.....7-23

れ

レーダーセンサー.....5-85
冷却水
スペック.....10-4

わ

ワイパー
ウインドーワイパーデアイサー.....5-64
高速作動するとき.....8-30
フロントワイパースイッチ概要.....5-57
フロントワイパースイッチ使いかた...5-59
メンテナンス.....9-7
リアワイパースイッチ.....5-61
ワイヤレス充電 (Qi)
概要.....7-30
使いかた.....7-32

0〜9

12 V バッテリー
スペック.....10-2
360° ビュー・モニター
概要.....5-198
使いかた.....5-204